

二 森林調査

三 收穫豫定

四 造林豫定

五 施業案説明書ノ調製

六 林木形數表、枝條百分率表、實積係數表及材積收穫表ノ調製

第五條 施業案ハ十年毎ニ檢訂ヲ行フモノトス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ期限ニ達セサルモ檢訂ヲ行フコトヲ得

第六條 檢訂トハ森林ノ現況ト施業案實行ノ成績トヲ觀察シ將來ニ對スル該案ノ適否ヲ審查シテ之ヲ訂正シ又ハ改定スルコトヲ謂フ

第二章 森林區劃

第七條 森林ヲ區劃シテ事業區、林班及小班ヲ設クヘシ

第八條 森林配置ノ狀況ニ依リ一小林區ヲ一箇事業區トシ若クハ數箇ノ事業區ニ區劃スヘシ但シ施業上已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ小

林區ニ屬スル森林ヲ包含シテ一事業區ヲ設クルコトヲ得

一事業區ハ將來獨立ノ經濟ヲ維持シ得ヘキモノタルヲ要ス

第九條 事業區ノ名稱ハ地名ノ番號ハ羅馬數字ヲ用ヒ一小林區ヲ通シテ順次ニ之ヲ附スヘシ

第十條 各林分ノ位置ヲ明ニシ其ノ配置ヲ整フル爲メ區劃線ニ依リ一事業區ノ森林ヲ若干數ニ區分シテ林班ヲ設クヘシ

各林班ノ面積ハ一事業區内ニ於テハ可成同一ナラシムルコトヲ要ス

第十一條 林班ノ大サハ一事業區ノ總面積、木材運搬ノ便否、地勢、地位、作業種、樹種及輪伐齡ヲ參酌シ左ノ標準ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

一 平地又ハ低丘地ノ森林ニ於テハ面積二十町歩乃至三十町歩ヲ適度トシ五十町歩ヲ超過スルコトヲ得ス但シ點在スル森林ニ於テハ此ノ限

ニアラス

二 山地ノ森林ニ於テハ面積五十町歩乃至百町歩ヲ適度トシ務メテ其ノ過大ナルコトヲ避クヘシ

第十二條 區劃線ハ可成天然境界(道路、河川、峰、谷等)ニ依リテ之ヲ設ク其ノ天然境界ニ依リ難キ場合ニ限り人工區劃線ヲ設クヘシ

第十三條 區劃線ハ主線及副線ニ分ツヘシ

平地又ハ低丘地ニ於ケル區劃線ニ在リテハ主線ハ可成伐採方向、並行セシメ副線ハ可成主線ニ直角ナラシムヘシ

山地ニ於ケル區劃線ニ在リテハ主線及副線ノ位置ハ主トシテ地勢ニ依ラシムヘシ

第十四條 天然區劃線ニ在リテハ防火線ニ代用スヘキ場合ヲ除クノ外伐開キヲ行ハス

人工區劃線ニ在リテハ伐開キヲ行ヒ其ノ主線ニ在リテハ幅五間副線ニ在リテハ幅二間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ防火線ニ代用スヘキ場合ニ於

テハ此ノ限ニアラス

第十五條 人工區劃線ト爲ス場所ニ於テ現ニ壯齡以上ノ立木アルトキハ前條第二項ノ規定ニ拘ラス伐期ニ至ル迄其ノ伐開キヲ猶豫シ單ニ視察

線ヲ設クルコトヲ得

第十六條 林班ノ境界ニハ保存ニ耐フヘキ標識ヲ設ケ隣接各林班ノ番號ヲ記載シテ之ヲ標示スヘシ

第十七條 林班ノ形狀ハ平地又ハ低丘地ノ森林ニ在リテハ可成長方形ト爲シ其ノ長邊ヲシテ區劃主線ニ並行セシムルコトヲ要ス

第十八條 林班ノ番號ハ亞刺比亞數字ヲ用ヒ一事業區ヲ通シテ之ヲ附スヘシ

平地又ハ低丘地ノ森林ニ於ケル番號ハ東北隅ヨリ始メ南北ノ方向ニ順チ追ヒ西南隅ニ終ハラシムヘシ

山林ノ森林ニ於ケル番號ハ可成前項規定ノ順序ニ依ルヘシ

第十九條 一林班中樹種、林齡、林位、地位等ニ著シキ差異アリテ彼此同時ニ更新ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ一林班ヲ若干數ニ區分シテ小

班ヲ設クヘシ但シ其ノ面積ノ最小限ハ五段歩ヲ以テ標準ト爲スヘシ

施業上已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ一林班中ニ他ノ作業種ニ屬スル小班ト雖之ヲ包含セシムルコトヲ得

第二十條 喬木ニ在リテハ一林班中林齡ヲ異ニスルモ其ノ差二十年未滿ナルモノハ小班ニ區分スルコトヲ要セス

樹種混淆シ或ハ樹齡ヲ異ニシテ其ノ區域ヲ分割シ難キ林分ハ之ヲ一小班ト爲スヘシ

第二十一條 小班ノ境界ニハ標識ヲ設クルコトヲ要セス但シ必要ト認ムルトキハ立木又ハ土壘等ニ依リテ之ヲ標示スヘシ

第二十二條 小班ノ記號ハ一林班毎ニ羅馬字(abc)ヲ用ヒ第十八條第二項及第三項ノ規定ニ準シ順次ニ之ヲ附スヘシ但シ一林班中ニ包含

セラルル餘地ニハ最尾ノ記號ヲ附スヘシ

一 事業區ノ境界

二 區劃線

三 林班ノ境界

四 小班ノ境界

五 林業上ノ生産地ト林業上ノ除地(道路、河川、池沼、溝渠、防火線、區劃線、土場、貯木場、不毛地、官舎敷地、年期貸下地、賣拂地、約地等)トノ境界

第三編 國有林野ノ經營

六 普通施業地ト施業制限地(地上權及地役權ノ承役地砂防法ニ依ル砂防設備地、保安林、部分林、入會地等)トノ境界

七 高低曲線

第二十四條 前條第一號乃至第三號、第五號及第六號ニ掲ケタル境界ノ測量ハ可成精密ナル測法ニ依リ第四號ニ掲ケタル境界ノ測量及第七號

ニ掲ケタル高低曲線ノ測量ハ簡易ナル測法ニ依ルヘシ

第二十五條 林班、小班及除地ハ適宜ノ方法ニ依リ面積ヲ計算スヘシ但シ町ノ單位トシ歩位マテ示スヘシ

第二十六條 面積計算ヲ終ハリタルトキハ第一號樣式ニ依リ森林面積簿ヲ調製スヘシ

第二十七條 第二十三條ノ測量ヲ終ハリタルトキハ境界圖ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ

第二十八條 基本圖ヲ分圖ト爲ス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ位置圖ヲ調製スヘシ

第二十九條 森林調査ノ事項左ノ如シ

一 地況ノ調査

二 林況ノ調査

三 將來施業ノ見込ノ調査

四 既往ノ收入及支出ノ調査

五 參考事項ノ調査

前項第一號乃至第三號ノ調査成績ハ第二號樣式ノ森林調査簿ニ記載スヘシ

第一節 地況ノ調査

第三十條 地況ハ氣候、地勢、土地及地位ニ付調査スヘシ但シ氣候及地勢ノ概要ハ一事業區其ノ他ハ林班若クハ小班ニ付調査スヘシ

第三十一條 氣候ハ可成簡易ナル方法ニ依リ溫度、雨量、常風及暴風ノ方向並其ノ季節ニ付調査スヘシ

第三十二條 地勢ハ全部及局部ニ區別シテ調査スヘシ

第三十三條 全部地勢ハ海面上ノ高サ、海岸ヨリノ直距離並低原、高原、丘陵、山、高山等ノ區別及其ノ狀況ニ付調査スヘシ

第三十四條 局部地勢ハ比隣ノ狀況、方位及傾斜ニ付調査スヘシ

傾斜ハ左ノ階級ニ依ル

平坦 五度未満

緩斜 十五度未満

急斜 三十度未満

峻峭 三十度以上

第三十五條 土地ハ基岩ノ種類及其ノ成立時代並土壤ノ種類及性質ニ付調査スヘシ

第三十六條 土壤ノ性質ニ關シテハ土壤ノ深淺、結合及濕度ヲ調査スヘシ

深淺ハ左ノ區別ニ依ル

最深 一尺未満

淺 二尺未満

深 三尺未満

最深 三尺以上

結合ハ堅、軟、鬆ノ三種ニ濕度ハ乾、適、濕ノ三種ニ區別ス

第三十七條 地位ハ五級ニ分チ最上級チ1トシ最下級チ5トシ氣候及土地ノ狀態略同一ナル地方ヲ通シテ之ヲ定ムヘシ但シ擇伐喬林ニ在リテハ上中下ノ三級ニ分ツコトヲ得

前項ノ地位ハ當分一事業區毎ニ定ムルコトヲ得

第三十八條 地位ハ其ノ地ニ適當ノ樹種及作業種ニ依リ林分ノ法正ナル狀態ニ在ルトキヲ想定シテ之ヲ調査スヘシ

收穫表ヲ調製シタル場合ニ於テハ之ヲ標準トシテ地位ヲ定ムヘシ

第二節 林況ノ調査

第三十九條 林況ハ各小班ニ付樹種、作業種、疎密度、林齡、齡級、成立、材積、平均生長量及林位ヲ調査スヘシ

第四十條 一小班ニシテ二種以上ヲ以テ林分ヲ組成スルモノハ材積、面積又ハ本數ノ比例ニ依リ樹種混淆ノ部合ヲ調査シ十分率ヲ以テ之ヲ示ス但シ貴重樹種ヲ除クノ外混淆ノ部合十分ノ一二達セザルトキハ他ノ樹種ニ併算スルコトヲ得

中林ニ在リテハ上木、下木各別ニ其ノ樹種混淆ノ部合ヲ調査スヘシ

樹種ノ混淆シタルモノハ其ノ混生ノ狀況ニ從ヒ群生、列生又點生ノ三種ニ區別スヘシ

第四十一條 作業種ハ左ノ五種ニ分ツ

一 皆伐喬林作業

第三編 國有林野ノ經營

- 二 前更喬林作業
- 三 擇伐喬林作業
- 四 矮林作業
- 五 中林作業

第四十二條 皆伐喬林作業トハ一作業級中ノ一區域若ハ數區域ツツ皆伐シ主トシテ人工播種ニ依リ更新ヲ爲ス作業ヲ謂フ
 第四十三條 前更喬林作業トハ一作業級中ノ一區域若ハ數區域ツツ一更新期間ニ數回擇伐シ主トシテ天然下種ニ依リ更新ヲ爲ス作業ヲ謂フ
 第四十四條 擇伐喬林作業トハ一回齡年毎ニ全作業級ノ熟木、被害木及生長不良木ヲ擇伐シ主トシテ天然下種ニ依リ更新ヲ爲ス作業ヲ謂フ
 第四十五條 矮林作業トハ一作業級中ノ一區域若ハ數區域ツツ皆伐シ萌芽ニ依リテ更新ヲ爲ス作業ヲ謂フ
 第四十六條 中林作業トハ同一區域内ニ於テ上下二段ノ林木ヲ仕立テ上木ハ喬林作業ニ依リ下木ハ矮林作業ニ依ル作業ヲ謂フ
 第四十七條 疎密度ハ林分ノ樹種、作業種及林齡ニ應ジテ法正ナル樹冠ノ閉鎖ヲ標準トシテ調査シ十分率ヲ以テ之ヲ示ス但シ中林上木ノ疎密度ハ之ヲ調査スルコトヲ要セス

擇伐高林ノ疎密度ハ疎、中、密ノ三級ニ分ツコトヲ得

貴重ナル樹木及中林ノ上木ハ一町歩ニ對スル本數ヲ調査スヘシ

第四十八條 疎密度十分ノ三未満ナルモノハ之ヲ散生地ト稱シ全部立木ナキモノハ之ヲ未立木地ト稱ス

第四十九條 林齡ハ主林木ニ付調査スヘシ

第五十條 一小班中ノ樹齡著シク差異アルモノハ材積胸高圓面積、面積若ハ本數ノ比例ニ依リ其ノ平均齡ヲ算出シテ林齡ト爲スヘシ

第五十一條 中林ノ上木ハ別ニ其ノ年齡ヲ調査スヘシ

前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ年齡ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

擇伐喬林ニ於ケル林分ノ年齡ハ其ノ老幼ノ範圍ヲ調査スヘシ

第五十二條 一齡級ハ二十年ト定ム

齡級ハ羅馬數字ヲ以テ之ヲ示シI乃至VIIノ八級ニ分チ一年乃至二十年ヲIトシ百四十一年以上ヲVIIIトス

第五十三條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ齡級ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

第五十四條 中林ノ上木及擇伐喬林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス散生地ニ在リテモ亦同シ

第五十五條 每齡級ニ於ケル現在總面積ト法正面積トノ過不足ヲ檢スルカ爲メ第三號様式ノ齡級表ヲ調製スヘシ

第五十六條 森林ノ成立ニ關シテハ記録、傳説及現況ニ依リ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況並作業上ノ諸事ヲ調査スヘシ

第五十七條 材積ハ左ノ方法ニ依リ調査スヘシ但シ既往ノ伐採材積又ハ測樹ノ成績明確ニシテ直ニ之ヲ採用シ若ハ之ニ依リテ推算スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ本條ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

一 喬林又ハ中林上木ニシテ第一施業期前半期間ニ伐採スヘキ林木ハ毎木調査又ハ標準地調査

二 輪伐齡ノ半數ヲ超エタル林木ハ標準地調査

三 輪伐齡ノ半數ヲ超エサル林木ハ收穫表ニ依リ算出シ又ハ目測或ハ比較調査

第五十八條 標準地ハ一小班内中層ノ生長及疎密度ヲ有スル場所ニ付選定スヘシ

面積廣大ナルトキ又ハ生長若ハ疎密度ニ著シキ差異アルトキハ二箇以上ノ標準地ヲ選定スヘシ

標準地調査ノ成績ハ類似ノ林相ニシテ特ニ標準地調査ノ必要ナシト認ムル他ノ小班ニ適用スルコトヲ得

第五十九條 標準地ノ面積ハ全面積ノ百分ノ二以上百分ノ五以下トス但シ一標準地ノ面積ハ喬林ニ在リテハ一段歩以上一町歩以下矮林ニ在リテハ一段歩以上一段歩以下トス

第六十條 標準地ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第四號様式ニ依リ調査スヘシ

一 各立木ニ付輪尺ヲ以テ胸高(地上四尺三寸)直徑ヲ測定スヘシ但シ四拾五入ヲ以テ寸位ニ止ムヘシ

二 各直徑ニ付胸高圓面積ヲ算出スヘシ

三 標準木ノ數ハ標準地全木數ノ凡ソ百分ノ一トス

四 「ドラウト」氏法ニ依リ標準木ヲ選定シ其ノ材積ヲ測定スヘシ

五 全標準木ノ胸高圓面積ヲ以テ標準地全立木ノ胸高圓面積ヲ除シ之ニ全標準木ノ材積ヲ乘シテ標準地ノ總材積ヲ求ムヘシ

薪炭産出目的トスル矮林ニ在リテハ標準地ノ立木ヲ皆伐シテ層積ト爲シ材積ヲ測定スルコトヲ得

第六十一條 標準木ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第五號様式ニ依リ調査スヘシ

一 標準木ヲ根際ニテ伐採シ之ヲ一間若ハ二間毎ノ距離ニ區分シ其ノ各部ノ中央直徑ヲ測定シテ之ヲ圓面積ヲ算出シ各長サヲ乘シテ之ヲ合計シテ其ノ材積トス但シ直徑ハ樹皮ヲモ包含スルモノトス

二 用材タルヘキ樹木ノ枝條ニシテ測定ノ必要アリト認メタルモノ及薪炭材タルヘキ樹木ハ層積ト爲シ實積係數ヲ乘スルカ又ハ「キシロメ

ートル」ニテ測定シテ其材積ヲ求ムヘシ

第六十二條 傾斜地ニ於ケル立木ノ胸高ヲ定ムルニハ立木ノ中心ト傾斜面トノ交會點ヲ以テ其ノ基點ト爲スヘシ
第六十三條 毎木調査ニ在リテハ全高ト胸高直徑トヲ測リ幹材形數ヲ用ヒテ之ヲ算出スヘシ但シ枝條ヲ測ルノ必要アルモノハ全木形數若ハ枝條百分率ヲ用フヘシ

第六十四條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付材積ヲ調査スヘシ但シ施業上必要ナキトキハ各樹種ノ材積ヲ合算スルコトヲ得

第六十五條 中林ニ在リテハ上木ト下木トニ付前更喬林ニ在リテハ老級ト幼級トニ付各別ニ其ノ材積ヲ調査スヘシ

第六十六條 材積ノ單位ハ尺ベチ用ヒ單位未滿ノ小數ハ四捨五入スヘシ

第六十七條 平均生長量ハ現在一町歩ノ材積ヲ林齡ニテ除シ小數二位マテ示スヘシ但シ擇伐喬林ニ在リテハ平均生長量ヲ算出スルコトヲ要セ

第六十八條 各小班ノ現在材積ヲ總計シ作業級毎ニ之ヲ法正蓄積ト比較シテ其ノ過不足ヲ檢スヘシ

第六十九條 林位ノ階級ニ關シテハ第三十七條ノ規定ヲ適用ス

第七十條 林位ハ其ノ林分ノ現在材積ヲ各地位ニ付相當林齡ニ於テ想定シタル法正材積ト比較シテ之ヲ定ムヘシ但シ幼林ニ在リテハ樹高生長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

中林ノ林位ハ下木ノミニ付之ヲ調査スヘシ

收穫表ヲ調製シタル場合ニ於テハ之ヲ標準トシテ林位ヲ定ムヘシ

第七十一條 林況調査ヲ終ハリタルトキハ其ノ成績ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ

第三節 將來施業ノ見込ノ調査

第七十二條 將來施業ノ見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ左ニ掲グル事項ヲ調査スヘシ

- 一 變更又ハ増減スヘキ樹種
- 二 選定スヘキ作業種、輪伐齡、回歸年及更新期
- 三 熟期ヲ過キ及熟期ニ達シタル林木ノ伐採ノ遲速若ハ熟期ニ達セサル林木ノ伐採又ハ難伐等總テ主伐ニ關スルコト
- 四 間伐施行ノ區域時期及伐採量
- 五 更新方法、補植、下木植附等總テ森林仕立ニ關スルコト
- 六 下刈、枝打、焼切等總テ手入ニ關スルコト
- 七 被害ノ保護ニ關スルコト

- 八 砂防工事、排水工事、林道築設、河川疏通、防火線設置等總テ森林土工ニ關スルコト
- 九 餘地ノ取扱ニ關スルコト
- 十 其ノ他施業上必要ナルコト

第四節 既往ノ收入及支出ノ調査

第七十三條 既往ノ收入及支出ハ林區署設置以降關係諸帳簿ニ付左ノ區別ニ依リ調査スヘシ

甲 收入

一 主產物(伐採面積、材積及金額)

二 副產物

三 貸地

乙 支出

一 管理費

二 事業費

イ 播種費

ロ 手入費

ハ 土工費

ニ 官行伐木造材及運材費

第五節 參考事項ノ調査

第七十四條 參考事項ニ付テハ記錄、傳説及現況ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ調査スヘシ

甲 森林行政ニ關スルコト

一 維新前ノ林制

二 所有及所管上ノ沿革

三 森林及治水ニ關スル法律施行ノ影響

四 境界及接續地ノ狀況

五 森林ニ對スル民情及地元人民山稼ノ狀況

第三編 國有林野ノ經營

乙 森林保護ニ關スルコト

- 一 森林犯罪其ノ他ノ被害
- 二 社寺保管林
- 三 市町村委託林

丙 森林經濟ニ關スルコト

- 一 地方木材ノ需用供給
- 二 交通ニ關スル狀況
- 三 木材代用品ノ影響
- 四 農業、鑛業、工業等トノ關係
- 五 主副産物販賣上ノ慣習特ニ地元人民ニ特賣ノ慣行
- 六 主副産物ノ價格
- 七 勞力者ノ需用、供給、賃金及技能
- 八 他ノ林業トノ關係

丁 森林施業ニ關スルコト

- 一 施業ノ沿革
- 二 官行事業

戊 施業制限ニ關スルコト

- 一 地上權及地役權ノ承役地
- 二 砂防法ニ依ル砂防設備地
- 三 保安林
- 四 部分林
- 五 入會地

第四章 收穫豫定

第七十五條 收穫豫定ノ事項左ノ如シ

- 一 作業級及伐採列區ノ設置
- 二 輪伐節、回歸年及更新期ノ選定
- 三 施業期編入
- 四 伐採量ノ算定
- 五 伐採順序ノ確定
- 六 施業基案ノ編成
- 七 年伐案ノ編成

第一節 作業級及伐採列區ノ設置

第七十六條 一事業區中ノ森林ニシテ同一ノ作業種ニ屬シ同一ノ輪伐節ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ集團ヲ作業級ト謂フ

現在ノ林況ニ在リテ作業種ヲ異ニスルモ將來之ヲ變更スルノ必要アルモノハ之ヲ變更スヘキ見込ノ作業級ニ編入スヘシ

第七十七條 一作業級ノ面積ハ連年作業ヲ施シ得ヘキ大サ以上タルコトヲ要ス但シ一事業區中獨立ノ作業級ヲ設クルニ足ラサル小面積ノモノト雖別箇ノ作業種ヲ選定スヘキ特別ノ事由アルトキハ之ヲ隔年作業林ト爲スコトヲ得

第七十八條 作業級ノ番號ハ一事業區ヲ通シテ左ニ掲グル作業種ノ順序ニ依リ之ヲ附シ一作業種中ニ數箇ノ作業級アル場合ニ於テハ其記號ハ(イロハ)ヲ以テ輪伐節ノ長キモノヨリ短キモノニ順次之ヲ附スヘシ

- 第一 皆伐喬林作業
 - 第二 前更喬林作業
 - 第三 擇伐喬林作業
 - 第四 矮林作業
 - 第五 中林作業
- 各作業種中缺クルモノアルトキハ作業級ノ番號ハ順次之ヲ繰上クヘシ
- 隔年作業林ノ記號ハ本條第一項ノ規定ニ拘ラス各作業種中ノ最尾ニ置クヘシ
- 第七十九條 一作業級中ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ目的トシ一林班若ハ二林班以上ヲ以テ伐採列區ヲ設クヘシ
- 一 齡級配置ヲ整理シ將來ノ伐採順序ヲ規正スルコト

第三編 國有林野ノ經營

- 二 伐採ノ緩急ヲ計ルコト
- 三 風害・蟲害及火災ヲ豫防スルコト
- 四 木材ノ供給ヲ普及セシムルコト

第八十條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ羅馬數字ヲ用ヒテ之ヲ附スヘシ

第二節 輪伐期、回歸年及更新期ノ選定

第八十一條 用材產出ヲ目的トスル森林ノ輪伐期ハ林利ハ各年ノ總收入ヨリ各年ノ造林費及管理費ヲ差引キタルモノノ最大ナル時期ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ但シ管理費ハ當分ノ算入セサルコトヲ得

第八十二條 薪炭材產出ヲ目的トスル森林ノ輪伐期ハ材積收穫ノ最大ナル時期ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

第八十三條 特種ノ用材及薪炭材又ハ巨材ヲ產出スル目的ノ森林ニ在リテハ之ニ適應スル輪伐期ヲ選定スルコトヲ得

第八十四條 喬林ノ輪伐期ハ十ノ倍數トシ矮林ノ輪伐期ハ五ノ倍數トスヘシ

第八十五條 中林上木ノ輪伐期ハ下木輪伐期ノ倍數トスヘシ

第八十六條 擇伐喬林ノ回歸年ハ其ノ輪伐期ノ整分トスヘシ

第八十七條 前更新喬林ノ更新期ハ二十年以内トスヘシ

第三節 施業期編入

第八十八條 一施業期ハ二十年トシ第一施業期ハ更ニ前後兩半期ニ分ツヘシ

第八十九條 施業期ノ番號ハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ以テ之ヲ附スヘシ

第九十條 各伐採列區中ノ林班ヲ適當ノ施業期ニ編入シ第二輪伐期ニ於ケル齡級配置ノ整理ヲ計ルヘシ但シ施業上已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ一林班ヲ二施業期以上ニ編入スルコトヲ得

第九十一條 左ノ各號ニ該當スルモノハ可成第一施業期前半期ニ編入スヘシ

一 既ニ輪伐期ニ達シタルモノ及今後十年間ニ輪伐期ニ達スヘキモノ

二 今後十年間ニ輪伐期ニ達セサルモノ林相及齡級配置ヲ整理スル爲伐採スヘキモノ

三 區劃線及防火線設置、防風準備其ノ他施業上已ムコトヲ得ス伐採スヘキモノ

第九十二條 第一施業期後半期ニ編入スヘキモノハ其ノ期間ノ林況ヲ豫想シテ之ヲ定ムヘシ

第九十三條 伐採順序ヲ整理スル爲第一施業期ノ始ニ於テ伐採直ニ造林ヲ得ヘキモノハ再ヒ第一輪伐期ノ最終施業期ニ編入スヘシ

第九十四條 一作業級中ノ散生地若ハ未立木地ニシテ矮林ニ在リテ五年以内喬林ニ在リテ十年以内ニ造林ヲ得ヘキモノハ第一輪伐期ノ最終施業期ニ編入スヘシ

第九十五條 一作業級中樹種變更ノ爲造林ニ重キヲ置クモノニ在リテハ造林豫定ニ一致スヘキ施業期ニ編入スヘシ

第九十六條 伐採量ヲ定ムルニハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ニ略均一ノ伐採面積ヲ分配スヘシ

第九十七條 第一施業期ニ屬スル分ハ更ニ前後兩半期ニ分配シ第二施業期以後ニ屬スル分ハ各期ニ分配スルコトヲ要セス

第九十八條 第一施業期ノ各半期ニ屬スル面積ノ標準ハ皆伐喬林及前更新喬林ニ在リテハ總面積ヲ輪伐期ニテ除シタル年伐面ノ十倍、擇伐喬林ニ在リテハ立木地合計面積ヲ回歸年ニテ除シタル商ノ十倍又中林ノ下木及矮林ニ在リテハ總面積ヲ輪伐期ニテ除シタル年伐面ノ十倍又ハ五倍トス

第九十九條 喬林ニ於テ第一施業期前後兩半期ニ編入セル合計面積前條ノ標準面積ニ比シ過不足アルトキハ現在齡級面積ト法正齡級面積トヲ對照シ老幼木ノ割合ヲ參酌シ適當ノ林分ヲ第二施業期以後ニ繰下ケ又ハ第二施業期以後ヨリ繰上ケヘシ

第一百條 第一施業期ノ採得但シ第九十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第一百一條 更新ヲ要スル場合ニ於ケル伐採ヨリ生スル收穫、防風準備ノ爲ニ行フ離伐ノ收穫及地種組替ノ爲ニ生スル收穫ヲ主伐收穫ト謂フ

第一百二條 更新ヲ要セサル場合ニ於ケル伐採ヨリ生スル收穫ヲ間伐收穫ト謂フ

第一百三條 第一施業期前半期ニ於テハ現在林齡ニ五年ヲ加ヘタルモノ後半期ニ於テハ現在林齡二十五(輪伐期十五年ノ森林ニ在リテハ十二年半)ヲ加ヘタルモノヲ以テ平均伐期算出スヘシ

第一百四條 擇伐喬林ニ在リテハ法正ノ狀態ヲ標準トシ老幼ノ配置並疎密度ヲ適當ナラシムルヲ目的トシ前後兩半期ニ伐採スヘキ主伐材積ヲ算出スヘシ

中林ノ上木ニ在リテハ法正ノ狀態ヲ標準トシ前項ノ如ク主伐材積ヲ算出スヘシ

第一百四條 間伐ニ在リテハ其ノ伐採區域ノ全面積及材積ヲ算出スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第一百五條 第一施業期ニ於テ伐採スヘキ散生地ニ在リテハ其ノ材積ノミチ平分スヘシ
第一百六條 一作業級ノ平均材積ニシテ未ダ輪伐期ノ半ニ達セサルトキハ其ノ達スルマテ主伐ヲ行ハサルモノトス

第五節 伐採順序ノ確定

第一百七條 各伐採列區ニ於テハ矮林及中林ハ十年以内、喬林ハ二十年以内ノ隔年作業ヲ行フモノトス
第一百八條 各伐採列區内ニ於ケル伐採順序ハ第七十九條ノ規定ニ依ルノ外造林及運河ノ便ヲ計リ之ヲ定ムヘシ
第一百九條 各伐採列區ニ於テハ暴風ノ方向ニ反對シ其ノ風下ヨリ伐採ヲ行フモノトス
第一百十條 豫定區域ノ立木伐採ノ爲其ノ鄰接區域ノ立木ニ風害ヲ及ホスノ虞アリト思料スルトキハ一施業期或ハ半施業期前ニ於テ適宜ノ廣サニ離伐ヲ行フモノトス

第六節 施業基案ノ編成

第一百十一條 施業基案ハ一事業區毎ニ第七十六條乃至第一百十條ノ調査ニ基キ第六號様式ヲ用ヒ左ノ記載法ニ依リ之ヲ編成スヘシ
一 一事業區ニシテ二箇以上ノ作業種アルトキハ第七十八條ノ規定スル順序ニ依リテ記入シ作業級毎ニ收穫ヲ豫定シ最終ニ至リ其ノ總計ヲ附スヘシ

二 本案第一行ニハ當該作業級ノ林種、作業種、單純混清ノ別及輪伐期ヲ掲ケ前更作業ニ在リテハ輪伐期ノ次ニ更新期ノ年數、擇伐作業ニ在リテハ輪伐期ノ前ニ同隔年ヲ掲ケ中林作業ニ在リテハ上木及下木ニ付二段ニ輪伐期ヲ記入スヘシ
三 面積ハ森林面積ヨリ轉載シ四捨五入ヲ以テ單位以下二位ニ止ムヘシ
四 皆伐喬林、前更喬林、矮林及中林ニ在リテハ第一施業期前中期面積合計ノ次行ニ年伐面(全面積ヲ輪伐期ニテ除シタル商)及其ノ十倍ノ面積、擇伐喬林ニ在リテハ同隔年ヲ以テ立木地合計面積ヲ除シタル商並其ノ十倍ノ面積ヲ記入スヘシ
五 地位ハ第三十七條及第三十八條ノ規定ニ依リ定メタル等級ヲ記入シ其ノ摘要欄ニハ第三十三條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ調査シタルモノヲ記載スヘシ

六 樹種名ハ片假名ヲ用ヒ第四十條ノ規定ニ依リ調査シタル混清部合ヲ記入スヘシ
中林ニ在リテハ上木ト下木トナ二段ニ分記スヘシ
七 疎密度ハ第四十七條及第四十八條ノ規定ニ依リ調査シタルモノヲ記入シ一町歩ニ對スル立木本數ヲ記入シタルトキハ之ニ括弧ヲ附スヘシ
八 林位ハ第六十九條及第七十條ノ規定ニ依リ定メタル等級ヲ記入スヘシ

九 林木摘要欄ニハ生長及混清ノ狀況、更新ノ方法等ヲ簡明ニ記載スヘシ

十 林齡、材積及平均生長ハ第四十九條乃至第五十一條及第五十七條乃至第六十七條ノ規定ニ依リ調査シタルモノヲ記入スヘシ

十一 將來施業要略欄ニハ今後十年間ニ於ケル伐採及造林ニ關シ施業上ノ要件ヲ簡明ニ記載スヘシ

十二 伐採種欄ニハ主伐ニ在リテハ豫備伐、下種伐、受光伐、殿伐、皆伐、離伐等、間伐ニ在リテハ除伐、洗伐等ノ區別ヲ記載スヘシ

十三 平均伐期ハ第九十二條ノ規定ニ依リ調査シタルモノヲ記入スヘシ

十四 最近連年生長量ハ既往五年間ニ於ケル連年生長量ヲ平均シタルモノヲ掲ケヘシ但シ矮林及中林下木ニ付テハ第六十七條ノ規定ニ依リ調査シタル平均生長量ヲ記入スヘシ

十五 既ニ輪伐期ヲ過キタルモノ及擇伐喬林ニ付テハ最近連年生長量ヲ記入スルコトヲ要セス

十六 各林班編入施業期欄ニハ第九十條乃至第九十五條ノ規定ニ依リ定メタル施業期ヲ記入スヘシ

十七 收穫豫定欄中主伐面積ノ部ニハ將來施業要略欄ニ記載セル事項ヲ參酌シ相當林分ヲ編入シ間伐面積ノ部ニハ前同欄ノ記載スル所ニ依リ間伐區域ノ全面積ヲ記入スヘシ

十八 第一施業期前後兩半期ニ編入スヘキ各合計面積ハ第九十七條ノ規定ニ依ルヘシ

十九 第九十八條ノ規定ニ依リ繰上ケ又ハ繰下ケテ爲シタルトキハ原面積ニ赤色消線ヲ施シ編入セシ欄ニ向ヒテ箭形ヲ記スヘシ其ノ幾部ヲ送リタルトキハ殘量ヲ其ノ上位ニ書スヘシ

二十 第一施業期ノ前中期材積欄ニハ第九十八條ノ規定ニ依リ確定シタル林分ノ平均伐期節ニ依リ算出セル材積ヲ記入スヘシ但シ既ニ輪伐期ヲ過キタルモノ及擇伐喬林ニ在リテハ直ニ現在材積ヲ記入スヘシ

二十一 中林ニ在リテハ上木及下木ニ付其ノ材積ヲ二段ニ記入シ其ノ下木ニ在リテハ確定面積中ノ全材積ヲ記入スヘシ

二十二 第二施業期以後ハ各施業期ニ分記セス面積ノミチ一欄ニ記入スヘシ

二十三 備考欄ニハ第九十一條ノ規定ニ依リ編入シタル理由第九十八條ノ規定ニ依リ繰上ケ又ハ繰下ケタル理由其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第七節 年伐案ノ編成

第一百十二條 年伐案ハ施業基案ニ基キ施業上ノ緩急ト木材市場ノ狀況トヲ計リ連年ノ伐採箇所、面積及材積ヲ定メ第七號様式ヲ用ヒ左ノ記載法ニ依リ之ヲ編成スヘシ

一 本案左面第一行ニハ施業基案第一施業期前中期所定ノ十分一額ヲ記入シ次ニ本條ノ規定ニ依リ定メタル初年ノ箇所、面積及材積ヲ記入

第三編 國有林野ノ經營

第三編 國有林野ノ經營

七九一

- シ右面ニ其ノ實行ヲ記入スヘシ
- 初年度ノ終リニハ計ヲ附シ直ニ次年度ノ豫定ヲ記入スルコト前項ノ如クスヘシ
- 二 豫定外收穫ハ第一施業期ニ屬スルモノト第二施業期以後ニ屬スルモノトナ區別スヘシ右面實行中豫定ノ分ニ對シテハ第八號様式ニ依リ豫定外主伐實行細別簿ヲ調製スヘシ
- 三 伐採種欄ニハ施業基案ノ記載法ニ準シ記入スヘシ
- 四 小班ノ全部又ハ一部ノ伐採ハ(全或ハ内)欄ニ(全)又ハ(殘)ヲ記入スヘシ
- 五 本案ニ粗案、根株又ハ幹材ト共ニ積算セサル枝條等ヲ掲グルノ必要アルトキハ備考ニ其ノ數量ヲ記入スヘシ
- 六 左面備考欄ニハ伐採ノ方向、緩急並施業基案豫定量ニ對シ差異ヲ生シタル理由其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ洗伐及除伐ニ在リテハ伐採區域内ノ材積ニ對スル百分率ヲ記入スヘシ但シ百分率ヲ示スノ必要ナキ場合ニ於テハ本數ヲ記入スルモ妨ケナシ
- 右面備考欄ニハ豫定ト實行トノ比較上増減ヲ生シタル理由ヲ記載スヘシ
- 第百十三條 年伐面積ハ可成施業基案第一施業期前半期所定十分一額ニ一致セシムヘシ但シ施業又ハ市場ノ狀況ニ依リ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ百分ノ二十以内増減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前半期ノ滿了スルマテニ漸次其ノ増減ヲ平均セシムヘシ
- 第百十四條 本案右面ノ實行ニ基キ照査簿ヲ調製スヘシ照査簿ハ第九號様式ノ主伐照査簿及第十號様式ノ間伐照査簿ノ二種トス
- 第百十五條 主伐照査簿實行欄ニ於テハ豫定内外チ二段ニ記入シ上段ヲ豫定内トシ下段ヲ豫定外トス但シ第二施業期以後ノ林分ニ屬スル豫定外ノ分ハ總括シテ最尾ニ掲ケヘシ
- 第五章 造林豫定
 - 第百十六條 造林豫定ノ事項左ノ如シ
 - 一 造林基案ノ編成
 - 二 連年造林案ノ編成
 - 第一節 造林基案ノ編成
 - 第百十七條 造林基案ハ施業基案ニ基キ一事業區毎ニ第一施業期間前半期ニ對シ第十一號様式ヲ用ヒ左ノ記載法ニ依リ之ヲ編成スヘシ但シ施業基案ヲ編成セサル場合ニ於テハ森林調査ノ成績ニ依ルヘシ
 - 一 造林面積欄更新ノ部ニハ前期ノ最終年度ニ伐採セル面積及施業基案ニ依リ本期ニ更新スヘキ面積ヲ記入スヘシ但シ本期ノ最終年度ニ伐採スヘキ面積ハ之ヲ除クヘシ

- 同欄補植ノ部ニハ補植スヘキ區域ノ累計面積ヲ記入スヘシ
- 同欄手入ノ部ニハ手入ヲ爲ス年數ニ相當スル累計面積ヲ記入スヘシ但シ新植地ノ手入ハ本期ノ中央ニ於テ新植スルモノト看做シテ其ノ面積ノ累計ヲ記入スヘシ
- 二 摘要欄ニハ一町歩ニ對スル播種量若ハ苗木本數ヲ記入スヘシ
- 三 防火線欄ニハ防火線ノ幅及延長間數ヲ記入スヘシ
- 四 備考欄ニハ造林時期ノ緩急、樹種選定ノ理由、造林ノ方法、造林費ノ概定額其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 第百十八條 造林基案ハ施業基案既成ノ森林及施業基案ヲ編成セサル散生地又ハ未立木地ニ付之ヲ編成スルモノトス
- 第百十九條 廣大ナル未立木地ノ造林ハ將來一箇以上ノ作業級トナスノ目的ヲ以テ之ヲ設計スヘシ
- 第百二十條 林地保護ノ設備ニ付テハ施業上必要ナルトキハ砂防植栽又ハ排水工事ヲ爲スヘシ
- 第二節 連年造林案ノ編成
 - 第百二十一條 連年造林案ハ造林基案ニ基キ第十二號様式ヲ用ヒ左ノ記載法ニ依リ之ヲ編成スヘシ
 - 一 本案左面第一行ニハ造林基案ニ豫定セル第一施業期前半期總額ヲ掲ケ次ニ連年豫定セル箇所數量、面積等ヲ記入シ右面ニ其ノ實行ヲ記入スヘシ
 - 二 小班ノ全部又ハ一部ノ造林ハ(全或ハ内)欄内ニ(全)又ハ(殘)ヲ記入スヘシ
 - 三 左面備考欄ニハ更新及手入ノ方法、刈拂及補植ノ回數、防火線ノ設置法ヲ記載スヘシ
 - 右面備考欄ニハ實行ニ付テノ備考ヲ記載スヘシ
- 第六章 施業案說明書ノ調製
 - 第百二十三條 施業案說明書ハ一事業區毎ニ左ノ各項ニ付記述スヘシ
 - 第一總論
 - 第二地況
 - 第三林況
 - 第四既往ノ收入及支出
 - 第五參考事項

第六 森林區劃

- 一 事業區ノ總面積、林班數、林班ノ各面積並區劃設計ノ理由
- 二 林班ノ伐採列區トノ關係
- 三 小班ノ數及其平均面積
- 第七 將來ノ施業見込
- 第八 將來ノ收支見込
- 第九 收穫豫定ノ方法及其ノ量
- 第十 造林豫定ノ方法、造林面積及造林費概定額
- 第十一 施業案編成ノ功程及經費
- 第十二 其ノ他必要ナル事項
- 第十三 結 論

施業案說明書ニハ森林ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添附スヘシ

第七章 林木形數表、枝條百分率表、實積係數表及材積收穫表ノ調製

第二百二十四條 標準地調査ノ結果其ノ他隨時ノ實驗ニ依リ可成多數ノ材料ヲ蒐集シテ林木形數表、枝條百分率表、實積係數表及材積收穫表ヲ調製スヘシ

第二百二十五條 林木形數表ハ一事業區毎ニ第十四號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二百二十六條 林木形數ハ幹材形數ト全木形數トニ區別スヘシ幹材形數ハ幹材ノミニ付全木形數ハ幹材及枝材ノ合計ニ付算出スルモノトス

第二百二十七條 枝條百分率表ハ一事業區毎ニ第十五號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二百二十八條 實積係數表ハ一事業區毎ニ左ノ階級ニ分テ第十六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 一級 元口直徑五寸以上ニシテ風曲少ナク枝節ナキモノ
- 二級 元口直徑五寸以上ニシテ風曲及枝節アルモノ
- 三級 元口直徑二寸五分以上五寸未滿ニシテ風曲及枝節少ナキモノ
- 四級 元口直徑二寸五分以上ニシテ風曲及枝節多キモノ及元口直徑一寸以上二寸五分未滿ニシテ枝節少ナキモノ
- 五級 元口直徑一寸以上二寸五分未滿ニシテ枝節多キモノ

六級 元口直徑一寸未滿ノモノ

前項係數ト共ニ一測ノ材積及重量ヲ算出シ表中ニ記入スヘシ

第二百二十九條 材積收穫表ハ氣候及土地ノ狀況略同一ナル地方ヲ通シ第十七號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 材積收穫表ヲ調製スルニハ主要ノ單純林ニ付可成各階級及各地位ニ於テ調査シタル材料ヲ用フヘシ

第八章 雜 則

第三百一十一條 巨材ヲ仕立ツルニハ中林又ハ中林ニアラサル二段以上ノ林形ヲ有スル作業ニ依ルヘシ

第三百一十二條 中林ニアラサル二段以上ノ林形ヲ有スル作業ノ森林ニ付テハ輪伐術ニ關スル規定ヲ除クノ外中林ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百一十三條 前更喬林ニアラサル老幼ノ二級ニ屬スル林木ヲ有スル林分ニ付テハ前更喬林ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百一十四條 一事業區ニシテ現在未立木地又ハ散生地多ク全面積ヲ通シ伐採ノ事業ヲ行フ能ハサルモノニ在リテハ施業基案ヲ編成スルコトヲ要セス

第三百一十五條 當該官廳ニハ一事業區毎ニ施業沿革史ヲ備ヘ置キ口取ヲ設ケ施業案實行ノ結果ヲ詳記シ及施業案說明書記載ノ事項ニ關シ訂正

又ハ追補ヲ要スルトキハ之ヲ詳記シ且當該官廳ノ意見ヲ附記シ置カヘシ

第三百一十六條 施業案ハ曲尺ニテ堅一尺三寸横二尺ノ厚質膠水引美濃紙若ハ之ニ類似ノ料紙ヲ以テ中央ニ一寸ノ線代ヲ明ケ之ヲ編綴スヘシ但

シ第三號乃至第五號及第十四號乃至第十七號様式ノ簿表ハ本條ニ規定スル大サノ凡二分ノ一ヲ標準ト爲スヘシ

第三百一十七條 圖面ハ別ニ定ムル所ノ森林圖式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三百一十八條 一事業區ノ施業案ヲ編成シタルトキハ左記ノ案、簿表、附屬書類及圖面ヲ本省ニ進達スヘシ

- 一 森林面積簿
- 二 森林調査簿(標準地材積調査表及標準木材積調査表共)
- 三 齡級表
- 四 施業基案
- 五 造林基案
- 六 施業案說明書及附屬地圖
- 七 基本圖
- 八 林相圖

第三編 國有林野ノ經營

九 位置圖

左記ノ諸表ヲ調製シタルトキハ其ノ都度之ヲ本省ニ進達スヘシ但シ調製ノ用ニ供シタル材料ハ總テ之ヲ添附スヘシ

一 林木形數表

二 枝條百分率表

三 實積係數表

四 材積收穫表

第三百二十九條 部分林ノ施業案ハ本規程ニ準シ編成スルコトヲ得

附 則

第四百十條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年本省訓令第十七號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四百十一條 本規程施行前認可ヲ得テ實施セル施業案ニ關シテハ其ノ檢訂期ニ至ルマテ第四百十二條乃至第四百二十二條及第三百三十五條ノ規定ノミテ適用ス

(樣式略ス)

發第六十九號

林野整理局長
山林局長

通牒(明治三十二年
九月二十一日)

林野整理支局長
大林區署長

明治二十四年本省訓令第十七號ニ依リ編成シタル施業案ニ關シテハ左ノ通御取扱相成度依命此段及御通牒候也

- 一 施業案編成濟箇所ニシテ明治三十二年本省訓令第四十二號國有林施業案編成規程第八條ニ基キ一事業區トナスニ足ラサルモノハ本省ヘ進達ノ濟否ヲ問ハス此際他ノ森林ヲ以テ之ニ補足シ事業區ヲ設ケ施業案ヲ改定スル事
- 一 施業案進達濟ノ箇所ニシテ一事業區ト爲スニ足ルモノト雖モ檢訂期ニ達シタルモノ又ハ其ノ期ニ達セサルモノ面積、林相、生長等ニ著シキ異動ヲ生シキ異動ヲ生シ實行シ難シト認ムルモノハ此際其ノ施業案ヲ改定スル事
- 一 本省ヘ進達未濟ノ施業案又ハ進達濟ナルモ照會往復中ニ係ル施業案ニシテ其ノ調査數年前ニ係リ面積、林相、生長等ニ著シキ異動ヲ生シ實行シ難シト認ムルモノハ其ノ箇所一事業區ト爲スニ足ルモノト雖モ此際其ノ施業案ヲ改定スル事
- 一 既成ノ施業案ニシテ前數項ニ依リ此際改定ヲ要スルモノハ豫メ改定スヘキ理由ヲ詳悉シタル報告ヲ爲ス事
- 一 既成ノ施業案ヲ改定スルニ當リテハ可成既往調査ノ成績ヲ利用スル事

一 本省ヘ進達未濟ノ施業案ニシテ前各項ニ依リ之ヲ改定スルノ要ナキモノハ此際進達ニ進達スル事

同年十一月ニ至リ前記規定ノ適用ヲ誤ラシメサラムコトヲ期シ記載例ヲ定メテ各大林區署ニ送付シ之ニ準據シテ諸簿表ヲ調製セシムルコトトセリ尙新ニ制定セラレタル施業案編成規程第三十七條ニ於テハ圖面ノ調製ハ別ニ定ムル森林圖式ニ依ルヘキ旨ヲ規定セルモ容易ニ其ノ制定ヲ見ル能ハサリシ爲三十二年四月次ノ通牒ヲ發シテ二十四年訓令第十七號ノ製圖式規定ヲ準用セシムルニ至レリ

整第九七一號

山林局長
林野整理局長

通牒(明治三十三年
四月三十日)

大林區署長
林野整理支局長

明治三十二年本省訓令第四十二號國有林施業案編成規程第四十條第二項ニ依リ明治二十四年本省訓令第十七號ハ廢止セラレ候ニ付テハ該訓令ニ伴ヒ山林局長ヨリ及送付候製圖モ自然廢止セラレタル義ニ候得共追テ森林圖式制定發布相成候迄當分右製圖式ノ規定ヲ準用シ別紙心得ニ依リ製圖セラレ度依命此段及通牒候也

追テ從來ノ圖式ハ印刷ノ誤謬不少候ニ付今回二三ノ増補ヲナシ改刷致候ニ付出來次第御送付ニ及フヘク此段申添候也

(別 紙)

製圖心得

- 一 從來北針ヲ圖原ト平行セシメ子午線ニ依ラサル尙有之爾後ハ必子午線ニ依ルヘシ
 - 二 林班ノ境界標ハ墨線ニテ顯ハスヘシ小班ノ境界標ハ圖示スルコトヲ要セス
 - 三 基本圖中ニハ國有林字名ヲ記入スヘシ
 - 四 施業制限地ハ基本圖ニアリテハ左記上段ノ名稱、林相圖ニアリテハ胡粉ヲ以テ下段ノ一字ヲ記入ヘシ但未タ保安林ニ編入セサルモ將來編入ノ見込アルモノハ圖式ニ示ス所ニ依リ著色ヲナスニ止メ置クヘシ
- 社寺保管林
市町村委託林
部分林
入會地
保安林
- 管 委 部 會 保

第三編 國有林野ノ經營

- 禁伐保安林
- 砂防設備林
- 承役地
- 承砂
- 五 區劃線ノ切開カサルモノハ點線ヲ以テ其幅ノ大サニ示スヘシ
- 六 圖面ノ表題ハ官林ヲ國有林ト改メ事業區名ヲ冠セシムヘシ
- 七 針澗混濁ノ林分ニアリテハ中林ニ準シテ小樹形ヲ記入スヘシ
- 八 分圖ハ可成林班界ヲ以テ區分スヘシ
- 九 圖解凡例ハ每圖必之ヲ設クヘシ
- 十 高低曲線ハ墨線ヲ以テ高サ五間毎ニ之ヲ顯ハシ且其線ハ二十五間毎ニ稍太クスヘシ
- 十一 林相圖ニ於テ區劃線ニ附スル弧線ハ上縁ヲ距ル十米突ノ點ヲ中心トナシ二十米突ノ半徑ニ畫クヘシ
- 十二 林相圖中喬林第七及第八齡級ハ第六齡級ノ著色ニ依ル但小班記號ノ右下部ニVII若クハVIIIヲ附記シテ之ヲ區別スヘシ
- 十三 林相圖中矮林及中林ニアリテハ齡級ニ依ラス五年毎ニ著色ヲ區分スヘシ
- 十四 林相圖ハ縮尺二萬分ノ一ニ製スルモノナルモ圖中ニ示ス點線其他各種ノ物體ニ限リ舊製圖式中尺度ノ規程アルモノハ總テ縮尺五千分ノ一ヲ用フ

明治三十四年七月施業案編成官吏ノ心得ヲ定メタルモ當時偶々施業案編成業務ヲ山林局ノ直轄ニ移セシ際ナリシニ依リ同心得モ亦之ニ適合スルカ如ク制定セラレタリ然ルニ明治三十五年度ヨリ再ヒ之ヲ林區署ノ業務ニ移付セルカ爲自然業務ノ執行上其ノ趣ヲ異ニスル點少カラサルノミナラス尙他ニ改正ヲ要スル點多クアリシカ爲三十五年十二月國有林施業案ノ編成及整理手續ヲ定メ是ト同時ニ從來ノ心得ヲ廢止シタリ今其ノ兩者ヲ比較スレハ次ノ如シ

林發第四五一號 山林局長 達(明治三十四年七月十日)

林業課

施業案編成官吏心得別紙ノ通相定ム

- 第一條 施業案ハ技師一人技手四人ヲ標準トシテ一組ヲ組織シ其編成ノ業務ニ從事スルモノトス但一組ニ助手二人ヲ附屬セシム
- 技師ハ其組員ヲ指揮シテ業務ノ進捗ヲ期スヘシ
- 第二條 組員ハ山林局長ノ指定シタル國有林ニ付左ノ順序ニ依リ從事スヘシ但業務ノ都合上之ヲ變更スルコトヲ得
- 一 實測圖面ノ謄寫
- 二 年期貸付主副產物ノ年期賣却副產物ノ年期無料採取部分豫約賣拂其他總テ林野ニ附帶スル義務ノ有無ノ調査
- 三 森林大體ノ視察並ニ存廢區別ノ模檢
- 四 事業區ノ選定
- 五 森林區劃
- 六 林況及地況ノ調査
- 七 林種及作業種ノ選定
- 八 林道ノ設計
- 九 收穫豫定
- 十 參考事項及其他ノ調査
- 第四號第五號第七號及第八號ニ付テハ受命ノ當該官吏ト協議ノ上決定スヘシ
- 第三條 組員ハ組毎ニ左ノ帳簿ヲ作り各事項ヲ遺漏ナク記載スヘシ
- 一 日誌(第一號書式)
- 二 物品會計簿(第二號書式)
- 三 經費會計簿(第三號書式)
- 四 內部測量野帳(第四號書式)
- 第四條 組員ハ其著手ノ國有林名及宿泊所ヲ山林局長ニ届出テ且當該大小林區署ニ通知スヘシ
- 第五條 內業ハ可成雨雪等ノ日ヲ利用スヘシ
- 第六條 當日ノ外業ニ係ル測量ノ計算ハ可成即日ニ之ヲ完了スヘシ
- 第七條 下圖ハ測定ノ進行ニ伴ヒ之ヲ調製スヘシ
- 第八條 器械類ハ總テ其取扱ヲ鄭重ニスルハ勿論時々之ヲ檢査シテ其正確ヲ期スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

- 第九條 材積調査に立木ノ伐採ヲ要スルトキハ豫メ當該大林區署長ニ協議シ伐採ヲナシタル後其樹種本數直徑材積ノ調査ヲ添付シ直ニ同小林區署長ニ通知スヘシ
- 第十條 施業案編成上林區署員ノ立會ヲ必要ト認ムルトキハ其事由ヲ記シ當該林區署長ニ請求スルコトヲ得
- 第十一條 參考事項其他必要ナル事項ノ調査上府縣廳及郡衛等ニ照會セントスル場合ハ當該大林區署長ニ依頼スヘシ
- 第十二條 技師ハ別紙第五號様式ノ功程表ヲ作り翌月七日マテニ山林局長ニ報告スヘシ
- 第十三條 組員出張中病氣ニ依リ缺勤一週間ニ及フトキハ診斷書ヲ添ヘ其旨農商務大臣ニ届出テ其以上ニ涉ルトキハ以後二週間毎ニ前段ノ手續ヲナスヘシ
- 但技師以下ハ技師ノ認印ヲ受ケ差出スヘシ
- 第十四條 組員ハ特命アル官吏又ハ監督官吏ヨリ第四條ニ列記シタル諸帳簿ノ閱覽ヲ求メラレタルトキハ直チニ之ヲ差出シ其認印ヲ受ケヘシ
- 第十五條 一事業區ノ施業案ノ編成ヲ完了シタルトキハ直チニ山林局長ニ差出スヘシ
- 第十六條 組員出張期間内ニ歸郷ヲ要スル事項生シタルトキハ山林局長ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第十七條 組員歸郷ノ見込日取ニ異動ヲ生シタルトキハ其旨山林局長ニ届出ヘシ
- 第十八條 施業成績報告ハ明治三十三年四月訓令第一四號統計報告調製手續ヲ適用ス
- 第十九條 公文書類ハ一會計年度毎ニ一括トシ山林局長ニ差出スヘシ
- 但事業上尙必要ノモノハ其完了後差出スコトヲ得

林發第一五九三號内訓 (明治三十五年十月)

山林局 大林區署

- 施業案ノ編成及整理手續
- 第一條 國有林施業案ノ編成ハ林業經營上重要ト認ムル箇所ヨリ順次之ヲ行フモノトス
- 第二條 施業案編成ニ從事スル官吏ハ之ヲ組ニ分チ一組毎ニ技師一名ヲ主査トシ技師若干名ヲ副査トシ之ニ雇員若干名ヲ附屬セシムルモノトス但シ主査ハ都合ニヨリ技師ヲ以テ之ニ代ラシムルコトヲ得
- 第三條 主査ハ編成ニ關スル全般ノ業務ニ任シ副査及雇員ニ其ノ業務ノ分擔ヲ命ス
- 主査及副査ハ成績ノ擧否ニ付各自直接其ノ責任ス

- 第四條 毎年度配付スヘキ編成組數ハ其ノ年度ノ初メニ於テ山林局長ヨリ大林區署長ニ之ヲ通知ス
- 第五條 主査及副査ハ經何ノ上大林區署長ノ任命ス
- 第六條 大林區署長ハ毎組ニ係ル左記ノ事項ニ付其ノ都度報告スヘシ
 - 一 組員ヲ定メ若ハ之ヲ異動セシメタルトキハ其ノ官氏名
 - 二 編成著手ノ國有林名
 - 三 外業者手配了月日
- 第七條 編成業務ノ實行ニ關シ執業ノ狀況並物品及經費ノ受拂ヲ明瞭ナラシムル爲メ毎組ニハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ
 - 一 事業日誌
 - 二 物品受拂簿
 - 三 經費受拂簿
- 第八條 主査ハ其ノ組毎月ノ功程及經費受拂ヲ第一號及第二號様式ニ依リ大林區署長ニ報告スヘシ
- 第九條 主査ハ一事業區ノ森林調査ヲ終了シタルトキハ其ノ成績ニ依リ施業ノ方針ニ關シ左ノ事項ヲ調査シ大林區署長ニ差出スヘシ
 - 一 事業區ノ面積及設定ノ理由
 - 二 地況及林況ノ概要
 - 三 事業區並林班ノ位置及大小ヲ示シタル略圖
 - 四 國有林施業案編成規程第一號様式ニ準シ各小班ノ面積、普通施業地、施業制限地及除地ノ面積ヲ示シタル面積簿
 - 五 事業區ニ關係アル地方經濟ノ概況
 - 六 樹種、更新法、輪伐齡、更新期、回歸年及整理期ノ選定
 - 七 伐採順序
 - 八 伐採量ノ概定
 - 九 運搬ノ便否、計畫及其ノ實行ノ難易
 - 十 其ノ他必要ト認メタル事項
- 第十條 大林區署長ハ林業課長ヲ委員長トシ林務課長、當該事業區ノ主査、當該方面ノ監督官吏、當該小林區署長及必要ト認メタルトキハ隣接事業區ノ主査並隣接事業區主管小林區署長若ハ他ノ官吏二名以内ヲ委員トシ前條ノ調査ニ基キ委員會ヲ開キ施業ノ方針ヲ審議セシムヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第十一條 大林區署長ハ前條委員官審議ヲ經テ施業ノ方針ヲ決定シタルトキハ直ニ之ヲ報告シ且主査ヲシテ此ノ方針ニ基キ編成業務ヲ續行セシムヘシ

委員會ト大林區署長ト重要ナル事項ニ關シ意見ヲ異ニスル場合並各委員中著シキ意見アリタルトキハ其ノ要點ニ同意者ノ官氏名ヲ附記シ報告スヘシ

第十二條 前條ノ施業方針ヲ變更スルノ必要ヲ生ジタルトキハ第十條ノ手續ニ依リ更ニ委員會ヲ開キ前條ニ準シ其ノ結果ヲ報告スヘシ

第十三條 一事業區ノ施業案編成ヲ完了シタルトキハ大林區署長ヨリ直ニ之ニ關スル圖案簿表ヲ進達スヘシ

第十四條 施業案ニ依リ確定シタル斫伐及造林ヲ相當年度事業豫定案ニ編入スルコト能ハスト認メタル場合ニ於テハ豫メ其ノ事由ヲ具シ經伺スヘシ

第十五條 天災其ノ他ノ事由ニ因リ地況又ハ林況ニ異狀ヲ呈シタル爲施業案ノ臨時檢訂ヲ行フノ必要ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ具シ經伺スヘシ

第十六條 施業案ノ檢訂ニ際シ左ノ各項ニ異動ヲ及ホス場合ニ於テハ豫メ意見ヲ具シ報告スヘシ

一 事業區及林班ノ區劃

二 樹種、作業種、輪伐齡、更新期、回歸年及整理期

三 伐採列區

四 伐採順序

五 伐採採量

六 造林ノ計畫

第十七條 檢訂ノ爲實地調査ヲ爲スノ必要アルトキハ一事業區毎ニ豫メ之カ實査ノ豫定期間ヲ報告スヘシ

第十八條 一事業區ニ於ケル施業案ノ檢訂ヲ完了シタルトキハ大林區署長ヨリ之ニ關ヘル圖案簿表ヲ進達スヘシ

第十九條 大林區署長ハ小林區署長ヲシテ事業區毎ニ國有林施業案編成規程第八十八條乃至第九十一條ノ規定ニ基キ斫伐照査簿、造林照査簿、異動記載簿及施業沿革史ヲ記帳セシムヘシ

第二十條 施業業務ノ統一及進捗ヲ期スルカ爲山林局施業課事務主任官吏若ハ其ノ他特命ノ官吏ヲ隨時實地ニ派遣シ施業業務ヲ監査セシメ且技術不適當ト認メタル場合ニハ輕易ナル事項ニ限リ直接之カ指示改訂ヲナサシム

第二十一條 第十三條ノ圖案簿表、第十六條ノ異動事項及第十八條ノ圖案簿表ハ山林局施業課事務主任官吏及其ノ他三名以内ノ特命官吏ヲシテ檢査セシメ許否ノ決定ヲ與ルモノトス

(樣式略ス)

即チ同手續ニ於テ規定セル主要ナル事項ヲ舉クレハ施業案編成ニ著手スヘキ順序編成主査及副査ノ命免施業方針ノ決定施業案ノ不實行施業案ノ檢訂等ニ關スルモノニシテ業務ノ統一及其ノ進捗ヲ目的トシテ之ヲ定メタルモノナリ

施業案編成規程ハ三十二年ニ制定セラレタル以來之ニ依リテ實施シツツアリシモ既ニ述ヘタルカ如ク我國森林ノ狀況ニ對シテハ細密ニ過キタルト諸般ノ設備ニ缺クル所アリシカ爲功程豫期ノ如ク舉ラスシテ本業務ノ前途ニ付憂慮スヘキモノアリシヲ以テ明治三十五年四月農商務省訓令第六號ヲ以テ之カ改正ヲ爲スニ至レリ今其ノ改正規程ヲ舉クレハ次ノ如シ

農商務省訓令第六號 (明治三十五年)

(四月十八日)

大林區署

明治三十二年九月當省訓令第四十二號國有林施業案編成規程左ノ通り改正ス

國有林施業案編成規程

第一章 總 則

第一條 本規程ノ定ムル所ニ依リ事業區ヲ設クルニ足ルヘキ國有林ニ就キ施業案ヲ編成スヘシ

第二條 施業案ハ森林ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保續スルノ目的ヲ以テ之ヲ編成スヘシ

第三條 施業案編成ニ關スル業務左ノ如シ

- 一 森林區劃
- 二 森林調査
- 三 收穫豫定
- 四 造林豫定
- 五 施業案說明書ノ調製

第三編 國有林野ノ經營

六 施業案ノ檢訂

第二章 森林區劃

- 第四條 森林ヲ區劃シテ事業區、林班及小班ヲ設クヘシ
- 第五條 森林配置ノ狀況ヲ查察シ獨立ノ經營ヲ爲スニ適當ナル區域ヲ選擇シテ一事業區ヲ設定スヘシ
- 第六條 事業區ノ名稱ハ地名ニ依ルヘシ
- 第七條 森林ノ狀況及施業上ノ關係ヲ查察シテ一事業區ヲ若干ノ林班ニ區劃スヘシ
- 第八條 林班ノ大サハ一事業區ノ總面積、木材運搬ノ便否、地勢、作業種及輪伐節等ヲ參酌シ平地又ハ低丘地ノ森林ニ在リテハ面積二十町歩乃至五十町歩、山地ノ森林ニ在リテハ面積三十町歩乃至百町歩ヲ標準トシテ之ヲ定メ力メテ其ノ過大ナルコトヲ避クヘシ
- 第九條 區劃線ハ可成天然境界(道路、河川、峰、谷等)ニ依リテ之ヲ設ケ其ノ天然境界ニ依リ難キ場合ニ限り人工區劃線ヲ設クヘシ
- 第十條 天然區劃線ニ在リテハ徑路、搬路若ハ防火線ニ兼用スヘキ場合ヲ除ク外伐開キヲ行ハス
- 第十一條 人工區劃線ニ在リテハ伐開キヲ行ヒ其ノ幅ハ主線ニ在リテハ五間、副線ニ在リテハ二間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ防火線、搬路等ニ兼用スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
- 第十二條 人工區劃線ヲ設クル場合ニ於テ現ニ壯齡以上ノ立木アルトキハ前條第二項ノ規定ニ拘ハラズ伐期ニ至ルマテ其ノ伐開キヲ猶豫シ早ニ視透線ヲ設クルコトヲ得
- 第十三條 林班境界ノ要所ニハ保存ニ耐ユヘキ標識ヲ設ケ隣接各林班ノ番號ヲ記載シテ之ヲ標示スヘシ
- 第十四條 林班番號ハ亞刺比亞數字ヲ用ヒ可成伐採方向ニ從ヒ順次之ヲ附スヘシ
- 第十五條 現在ノ地況及林況ヲ參酌シテ一林班ヲ若干ノ小班ニ區分スヘシ
- 第十六條 施業制限地ニ在リテハ前項ノ外制限ニ關スル事項ヲ查察シテ小班ノ區分ヲ爲スヘシ
- 第十七條 小班ノ記號ハ一林班毎ニ平假名(いろは)ヲ用ヒ第十三條ニ準シ之ヲ附スヘシ但シ林班中ニ包容セラレ除地アリヨルトキハ之ニ最尾ノ記號ヲ附スヘシ
- 第十八條 森林區劃ノ設計ニ依リ左ノ測定ヲ爲スヘシ
 - 一 事業區ノ境界及面積
 - 二 林班ノ境界及面積
 - 三 小班ノ境界及面積

- 四 林地ト除地(道路、河川、池沼、溝渠、固定防火線、區劃線、土場、貯木場、不毛地、家屋敷地、苗圃、農業地等)トノ境界及面積
- 五 普通施業地ト施業制限地(地上權及地役權ノ承役地、砂防法ニ依リ砂防設備地、各種保安林、部分林等)トノ境界及面積
- 第十六條 面積ハ町チ單位トシ歩位マテ示スヘシ
- 第十七條 面積計算ヲ終リタルトキハ第一樣式ニ依リ森林面積源ヲ調製スヘシ
- 第十八條 第十六條ノ測量ヲ終リタルトキハ境界圖ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ
- 第十九條 基本圖ヲ分圖ト爲ス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ縮圖ヲ調製スヘシ
- 第二十一條 第三章 森林調査
 - 一 地況ノ調査
 - 二 林況ノ調査
 - 三 將來施業見込ノ調査
 - 四 參考事項ノ調査

- 前項ノ調査成績ハ第二樣式ノ森林調査簿及施業案説明書ニ記載スヘシ
- 第一節 地況ノ調査
- 第二十二條 地況ハ氣候、地勢、土地及地位ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ但シ地位ハ小班毎ニ調査スルヲ要ス
- 第二十三條 地位ハ五級ニ分チ最上級チIトシ最下級チVトシ氣候及土地ノ狀態略同一ナル地方ヲ通シテ之ヲ定ム可シ但シ場合ニ依リ上中下ノ三級ニ分ツコトヲ得

- 前項ノ地位ハ一事業區内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第二十四條 局部地勢ニ關シ比鄰ノ狀況、方位及傾斜ヲ調査シタル場合ニ於テハ傾斜ハ平坦(五度未滿)緩斜(二十度未滿)急斜(三十五度未滿)峻嶺(四十五度未滿)絶嶺(四十五度以上)ノ五種ニ區別スヘシ
- 土壤ノ性質ニ就テ調査シタルトキハ其ノ深淺ハ淺、中、深ノ三種ニ、結合ハ堅、軟、鬆ノ三種ニ、溫度ハ乾、潤、濕ノ三種ニ區別スヘシ
- 第二節 林況ノ調査
- 第二十五條 林況ハ各小班ニ付樹種、作業種、疎密度、林齡、齡級、成立、材積、平均生長量及林位ヲ調査スヘシ
- 第二十六條 一小班ニシテ二樹種以上ヨリ林分ヲ組成スル場合ニ於テ之カ混淆部合ヲ示スニハ十分率ヲ以テスヘシ

第三編 國有林野ノ經營

中林ニ在リテハ上木、下木ニ付各別ニ其ノ混淆部合ヲ示スヘシ

第二十七條 作業種ハ左ノ六種ニ分ツ

- 一 皆伐喬林作業
- 二 前更喬林作業
- 三 擇伐喬林作業
- 四 矮林作業
- 五 中林作業
- 六 竹林作業

第二十八條 疎密度ハ十分率ヲ用ヒ又ハ單ニ疎、中、密ノ三ニ分テテ之ヲ示スヘシ

高齡樹及中林ノ上木ハ一町歩ニ對スル本數、竹林ハ一畝歩ニ對スル本數ヲ示スヘシ

第二十九條 疎密度十分ノ三未滿ナルモノハ之ヲ散生地トシ全部立木ナキモノ又ハ立木アルモ之カ爲メ新植面積ノ減セサルモノハ之ヲ立木地トス

第三十條 林齡ハ主林木ニ付其ノ平均齡ヲ示スヘシ但シ樹齡ニ著シク差異アルトキハ單ニ其ノ範圍ヲ示スヘシ

第三十一條 中林ニ在リテハ上木ト下木、前更期間ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ林齡ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

擇伐喬林及竹林ノ年齡ニ在リテハ其ノ範圍ヲ示スヘシ

第三十二條 一齡級ハ喬林ニ在リテハ二十年、矮林及中林ニ在リテハ五年トス

擇伐喬林、中林ノ上木及竹林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス

齡級ハ羅馬數字ヲ以テ示シ最幼級ヲ1トス

第三十三條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ齡級ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

第三十四條 森林ノ成立ニ關シテハ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況並作業上ノ沿革等ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第三十五條 材積ハ左ノ方法ニ依リ調査スヘシ但シ既往ノ伐採材積又ハ測樹ノ成績明確ニシテ直ニ之ヲ採用シ又ハ之ニ依リテ推算スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ本條ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

一 喬林又ハ中林ノ上木ニシテ第一施業期ニ伐採スヘキ林木ハ毎木調査但シ林相稍々均一ナルモノニ在リテハ標準地調査

二 喬林又ハ中林ノ上木ニシテ第二施業期以後ニ伐採スヘキ林木、矮林、中林ノ下木及竹林ニ在リテハ適宜ノ方法

第三十六條 一標準地ノ面積ハ一段歩以上トス但シ竹林ニアリテハ一畝歩以上トス

第三十七條 標準地ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第三號様式ニ依リ調査スヘシ

一 立木ノ直徑ハ胸高(地上四尺)ニ於テ測定スヘシ但シ四拾五入ヲ以テ寸位ニ止ムヘシ

二 標準地ノ總材積ハ全標準木ノ胸高圓面積ヲ以テ標準地全立木ノ胸高圓面積ヲ除シ之ニ全標準木ノ材積ヲ乘スヘシ

薪炭材產出ノ目的トスル矮林ニ在リテハ標準地内一部ノ立木ヲ皆伐シテ層積トナシ材積ヲ測定スルコトヲ得

第三十八條 竹林ニ於ケル標準地ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第四號様式ニ依リ調査スヘシ

一 各本ニ付胸高周圍ヲ測定スヘシ但シ四拾五入ヲ以テ寸位ニ止ムヘシ

二 一寸毎ニ周圍級ヲ設ケ各級ノ本數ヲ調査スヘシ

第三十九條 標準木ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第五號様式ニ依リ調査スヘシ

一 標準木ヲ根際ニテ伐採シ之ヲ一間若ハ二間毎ノ距離ニ區分シ各部ノ中央直徑ニ依リテ其ノ材積ヲ算出スヘシ但シ直徑ハ樹皮ヲモ包含スルモノトス

二 用材タルヘキ樹木ノ枝條ニシテ測定ノ必要アリト認メタルモノ及薪炭材タルヘキ樹木ハ適宜ノ方法ニ依リ其材積ヲ求ムヘシ

第四十條 傾斜地ニ於ケル立木ノ胸高ヲ定ムルニハ上方ヨリ測定スヘシ

第四十一條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付材積ヲ調査スヘシ但シ施業上其必要ナキトキハ各樹種ノ材積ヲ合算スルコトヲ得

第四十二條 中林ニ在リテハ上木ト下木トニ付、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トニ付各別ニ其ノ材積ヲ調査スヘシ

第四十三條 材積ノ單位ハ尺ノチ用ヒ竹林ニ在リテハ束ヲ用フ

單位未滿ノ少數ハ四拾五入スヘシ

竹林ノ束數ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

胸高周圍二寸 一束ノ本數七十本

胸高周圍三寸 一束ノ本數三十本

胸高周圍四寸 一束ノ本數十二本

胸高周圍五寸 一束ノ本數八本

胸高周圍六寸 一束ノ本數六本

- 胸高周圍七寸 一束ノ本數四本
- 胸高周圍八寸 一束ノ本數二本
- 胸高周圍九寸 一束ノ本數一本五分
- 胸高周圍一尺 一束ノ本數一本
- 胸高周圍一尺一寸 一束ノ本數八分
- 胸高周圍一尺二寸 一束ノ本數七分
- 胸高周圍一尺三寸 一束ノ本數五分

第四十四條 平均生長量ハ現在一町歩ノ材積ナ林齡ニテ除シ小數二位マテ示スヘシ

竹林ノ平均生長量ハ一畝歩ニ對スル毎年度新竹ノ發生束數トス但シ四拾五入ヲ以テ束位ニ止ムヘシ

第四十五條 作業級ノ法正蓄積ヲ算定シ得ル場合ニ於テハ之ヲ其ノ現在材積ト比較シテ過不足ヲ檢スヘシ

第四十六條 林位ヲ定ムル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第四十七條 林況調査ヲ終リタルトキハ其ノ成績ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ

第三節 將來施業見込ノ調査

第四十八條 將來施業ノ見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ小班毎ニ左ニ掲クル事項ノ概要ヲ調査スヘシ

- 一 斫伐ニ關スルコト
- 二 手入保護ニ關スルコト
- 三 播種ニ關スルコト
- 四 其ノ他施業上必要ナルコト

本條調査ノ結果ニ基キ一事業區ニ對スル將來施業ノ方針ヲ定ムヘシ

第四節 參考事項ノ調査

- 第四十九條 參考事項ハ左ニ掲クル事項ニ付必要ナリト認ムルモノヲ調査スヘシ
 - 一 森林行政ニ關スルコト
 - 二 森林保護ニ關スルコト
 - 三 森林經濟ニ關スルコト

- 四 森林施業ニ關スルコト
- 五 既往ノ收支ニ關スルコト
- 六 施業制限ニ關スルコト
- 七 其ノ他參考上必要ナルコト

第四章 收穫豫定

- 第五十條 收穫豫定ノ事項左ノ如シ
 - 一 作業級及伐採列區ノ設置
 - 二 輪伐齡、回歸年、更新期及整理期ノ確定
 - 三 施業期編入
 - 四 伐採量ノ算定
 - 五 伐採順序ノ確定
 - 六 施業基案ノ調製
 - 七 初期斫伐案ノ調製

第一節 作業級及伐採列區ノ設置

第五十一條 一事業區中同一ノ作業級及同一ノ輪伐齡ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ作業級ヲ設クヘシ但シ施業制限地ニ在リテハ其ノ種類ヲ異ニスル毎ニ作業級ヲ設クヘシ

第五十二條 一作業級ノ面積ハ連年作業ヲ施シ得ヘキ大サ以上タルコトヲ要ス但シ一事業區中獨立ノ作業級ヲ設置スルニ足ラサル小面積ノモ

ノト雖別箇ノ作業種ヲ設クヘキ特別ノ事由アルトキハ隔年作業ヲ營ムコトヲ得

第五十三條 作業級ノ順序ハ左ニ掲クル作業種ノ順序ニ依リ之ヲ定メ同一作業種中ニ數箇ノ作業級アル場合ニ於テハ輪伐齡ノ長キモノヨリ順

- 次記號(イロハ)ヲ附スヘシ
 - 第一 皆伐喬林作業
 - 第二 前更喬林作業
 - 第三 擇伐喬林作業
 - 第四 矮林作業

第三編 國有林野ノ經營

第五 中林作業

第六 竹林作業

凡テ隔年作業ニ依ルモノハ各作業種中ノ最尾ニ置クヘシ
前項ノ順序ハ普通施業地ト施業制限地トニ區別シ施業制限地ニ在リテハ更ニ其ノ種類毎ニ區別スヘシ

第五十四條 一作業級中ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ目的トシ若干ノ伐採列區ヲ設クヘシ

一 階級配置ヲ整理シ將來ノ伐採順序ヲ規正スルコト

二 伐採ノ緩急ヲ計ルコト

三 一箇所ニ於ケル伐採面積ノ過大ヲ避ケルコト

四 木材需要供給ノ關係ヲ適合セシムルコト

五 風害、蟲害及火災ヲ豫防スルコト

第五十五條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ伐採方向ニ從ヒ羅馬數字ヲ用ヒテ之ヲ附スヘシ

第二節 輪伐期、同歸年、更新期及整理期ノ確定

第五十六條 輪伐期ハ利用ヲ保障シ國ノ需要ニ適スル材種ヲ多量ニ生産シ且最多ノ純益ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十七條 喬林ノ輪伐期ハ十(又ハ五)ノ倍數トシ矮林及中林下木ノ輪伐期ハ五ノ倍數トスヘシ

第五十八條 中林上木ノ輪伐期ハ下木輪伐期ノ倍數トスヘシ

第五十九條 擇伐喬林ノ同歸年ハ其ノ輪伐期ノ半分トスヘシ

第六十條 前更喬林ノ更新期ハ二十年以内トスヘシ

第六十一條 林相ノ改良ヲ要スル森林ニ在リテハ特ニ整理期ヲ定ムヘシ

前項ノ整理期ヲ定ムル場合ニ在リテハ其ノ整理後收穫ノ中斷セサルコトヲ力ムヘシ

第三節 施業期編入

第六十二條 一施業期ハ十年トス

第六十三條 施業期ノ番號ハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ以テ之ヲ附スヘシ

第六十四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ可成第一施業期ニ編入スヘシ

一 既ニ輪伐期ニ達シタルモノ及今後一施業期間ニ輪伐期ニ達スヘキモノ

二 林相及階級配置ヲ整理スル爲メ伐採スヘキモノ

第三節 區劃線及防火線設置、防風豫備其ノ他施業上已ムコトヲ得ス伐採スヘキモノ

第六十五條 伐採順序ヲ整理スル爲メ第一施業期間内ニ伐採シ直ニ植栽シタルトキハ之ヲ第一輪伐期ニ編入スヘシ

第四節 伐採量ノ算定

第六十六條 伐採量ヲ定ムルニハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ニ略均一ノ伐採面積ヲ分配スヘシ

第六十七條 一施業期ニ屬スル面積ノ標準ハ普通年伐面積ノ總面積ヲ輪伐期若ハ整理期ニテ除シタル商ノ十倍トシ輪伐期若ハ整理期ノ終ニ於テ五年ノ端數ヲ生スル場合ニ限リ年伐面積ノ五倍トス

擇伐喬林ニ在リテハ立木地合計面積ヲ同歸年ニテ除シタル商ノ十倍トス

第六十八條 各施業期ニ編入セル合計面積ノ前條ノ標準面積ニ比シ著シキ過不足アルトキハ適當ノ林分ヲ後施業期ニ繰下ケ又ハ前施業期ニ繰上ケ標準面積ニ近カラシムヘシ但シ老熟木多キ場合ニ於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヨリ多カラサル面積ヲ増加シ幼樹木多キ場合ニ於テハ同一部合ノ面積ヲ減少スルコトヲ得

第六十九條 第一施業期ノ伐採量ハ主伐ト間伐トニ區スヘシ

第七十條 第一施業期ニ於ケル現在林齡ニ五年ヲ加ヘタルモノ、第二施業期ニ於テハ十五年ノ輪伐期十五年ノ森林ニ在リテハ十二年半ヲ加ヘタルモノヲ以テ平均伐期階級トシ主伐材積ヲ算定スヘシ但シ擇伐喬林及中林ノ上木ニ在リテハ現在材積ヲ以テ主伐材積ト見做スコトヲ得

第七十一條 更新ヲ目的トスル場合ニ於ケル伐採ヨリ生スル收穫防風豫備ノ爲メニ行フ離伐 區劃線、防火線、林道、潰地ニ阻害及開墾等ノ爲メニ行フ伐採ヨリ生スル收穫ヲ主伐收穫トス

第七十二條 手入及保護等ヲ目的トシ更新ヲ要セサル場合ニ於テ爲ス伐採ヨリ生スル收穫ヲ間伐收穫トス

第七十三條 間伐ニ在リテハ其ノ伐採區域ノ全面積及材積ヲ算出スヘシ

第七十四條 第一施業期ニ於テ伐採スヘキ散生地ニアリテハ其ノ面積ノ加入ヲ要セス

第七十五條 各伐採列區ニ於テハ矮林及中林ハ十年以内ノ喬林ハ二十年以内ノ隔年作業ヲ行フモノトス

第七十六條 各伐採列區内ニ於ケル伐採順序ハ第五十四條ノ規定ニ依ルノ外遺材及運材ノ便ヲ計リ可成暴風方向ニ反對シテ之ヲ定ムヘシ

第七十七條 豫定區域ノ立木伐採ノ爲メ其ノ隣接區域ノ立木ニ風害ヲ及ボスノ虞アリト思料スルトキハ豫メ適宜ノ廣サニ離伐ヲ行フモノトス

第六節 施業基案ノ調製

第三編 國有林野ノ經營

第七十八條 施業基案ハ一事業區毎ニ第五十一條乃至第七十七條ノ調査ニ基キ第六號様式ヲ用ヒ之ヲ調製スヘシ但シ竹林ニ在リテハ之ヲ調製スルコトヲ要セス

第七十九條 一事業區ニシテ未立木地又ハ散生地多ク全面積ヲ通シ主伐ヲ行フ能ハサルモノニ在リテハ施業基案ヲ調製スルコトヲ要セス

第七節 初期研伐案ノ調製

第八十條 初期研伐案ハ施業基案ニ基キ施業上ノ緩急ト材木市場ノ情況トヲ計リ第一施業期間ニ於ケル連平ノ伐採箇所、面積及材積ヲ定メ第七號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ竹林ニ在リテハ之ヲ調製スルコトヲ要セス

第八十一條 年伐面積ハ可成施業基案第一施業期處分ノ十分一額ニ等シカラシムヘシ但シ施業又ハ市場ノ情況其ノ他ノ都合ニヨリ百分ノ二十以內ニ於テ之ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一施業期ノ滿了スルマテニ漸次其ノ増減ヲ平均スヘシ

第八十二條 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐齡ニテ除シタル商ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ模樣ヲ參酌シテ定メ之ヲ施業案說明書ニ記載シテ事業豫定案編成ノ資ニ供スヘシ

第五章 造林豫定

第八十三條 初期造林案ハ初期研伐案ニ基キ森林調査ノ成績ヲ參酌シ一事業區毎ニ第一施業期ニ於ケル毎年ノ造林箇所ヲ定メ第八號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ施業基案ヲ調製セサル散生地又ハ未立木地ニ在リテハ森林調査ノ成績ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八十四條 森林經營上必要ナルトキハ防火線、林道、砂防植栽又ハ排水工事ニ付大體ノ設計ヲ爲スヘシ

第六章 施業案說明書ノ調製

第八十五條 施業案說明書ハ一事業區毎ニ左ノ各項ニ付記述シテ之ヲ調製スヘシ

第一 總論

第二 地況、林況及參考事項ノ概要

第三 森林區劃

一 事業區ノ總面積、林班數、林班ノ各面積並區劃設計ノ理

二 林班ト伐採列區トノ關係

三 小班ノ數及其ノ平均面積

第四 森林調査ノ方法

第五 將來ノ施業方針

第六 收穫豫定ノ方法及收穫量
第七 造林豫定ノ方法、造林面積及造林費概定額
第八 將來ノ收支見込
第九 施業案實行ニ關スル意見
第十 施業案編成ノ功程及經費
第十一 其ノ他必要ナル事項
施業案說明書ニハ森林ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添付スヘシ

第七章 施業案ノ檢訂

第八十六條 施業案ノ檢訂ハ十年毎ニ之ヲ行フモノトス但シ特別ノ事由アルトキハ臨時之ヲ行フコトヲ得

第八十七條 檢訂期ニ際シテハ研伐照査簿及造林照査簿ニヨリ施業案實行ノ程度及其適否ヲ檢シ異動記載簿及施業沿革史ヲ參酌シテ森林面積簿、森林調査簿、基本圖及林相圖ヲ訂正スヘシ

前項ノ結果ニ依リ施業基案、初期研伐案及初期造林案ヲ新ニ調製シ施業案說明書ヲ訂正追補スヘシ

第八十八條 研伐照査簿ハ第九號様式ニ依リ之ヲ調製シ初期研伐案實行ノ結果ヲ記入スヘシ

初期研伐案ノ實行ニ關シテハ第八十一條ノ範圍內ニ於テ處定面積ヲ増減スルコトヲ得既定箇所ニ不實行ヲ生シタル場合ニ於テハ可成之ヲ次年度ニ繰越スヘシ

第八十九條 造林照査簿ハ第十號様式ニ依リ之ヲ調製シ初期造林案實行ノ結果ヲ記入スヘシ

第九十條 異動記載簿ハ第十一號様式ニ依リ之ヲ調製シ面積及林況ノ異動ヲ記入スヘシ

第九十一條 施業沿革史ハ一事業區毎ニ之ヲ備ヘ口取ヲ設ケ施業案實行ノ結果並施業案說明書記載ノ事項ニ關シ訂正又ハ追補ヲ要スル事項其

他施業案ノ檢訂上必要ナル事項ヲ詳記シ且其ノ意見ヲ附スヘシ

第八章 雜則

第九十二條 事業區內ニ編入スルヲ便利ナリト認ムル保安林ノ施業案ハ明治三十三年十月本省訓令第三十七號保安林取扱心得、部分林ノ施業案ハ當該部分林設定契約ノ條件ニ基キ本規程ニ依リ之ヲ編成スヘシ

第九十三條 初期研伐案並初期造林案ニ關係ノ林分ハ適宜ノ方法ニヨリテ特ニ其ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第九十四條 圖面ハ別ニ定ムル所ノ森林圖式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(様式略ス)

右規程ノ改正ニ依リ稍功程ヲ進ムルコトヲ得タルモ未タ所期ノ成績ヲ舉クルニ至ラス而シテ森林ノ状態ヲ觀察スルニ經濟上比較的優位ノ位置ニ在ル天然林ハ勿論假令利便ノ位置ニアルモ林相單純ナルモノノ如キハ尙一層調査ヲ簡約ニスルモ施業上敢テ支障ナキヲ認メタルヲ以テ明治二十六年七月訓令及内訓ヲ發シテ國有林施業案編成規程並施業案ノ編成及整理手續ニ左ノ追加シ經濟上比較的優位ナラス若ハ施業上綿密ナル調査ヲ要セスト認メタル事業區ニ在リテハ簡易施業案ヲ編成シ得ルコトトセリ

農商務省訓令第七號

(明治三十六年七月三十一日)

大林區署

明治三十五年四月當省訓令第六號國有林施業案編成規程中左ノ追加ス

第九章 補則

第九十五條 經濟上比較的優位ナラス若クハ施業上綿密ナル調査ヲ要セスト認メタル事業區ニ在リテハ左記各號ニ依リ簡易施業案ヲ編成スルコトヲ得

- 一 面積調査ニ在リテハ四捨五入ヲ以テ町位ニ止ムヘシ
- 二 面積簿ノ調製ヲ要セス
- 三 森林調査ニ在リテハ地位、土壤性質、作業種、疎密度、林齡、成立、材積、平均生長量及林位ノ調査ヲ要セス
- 四 森林調査簿ニ在リテハ前號ノ結果ニ依リ第六欄(地位)第九欄(疎密度)第十欄(林齡)第十二欄(林位)第十三欄及第十四欄(材積)並第十五欄(平均生長量)ノ記入ヲ要セス
- 五 簡易ナル方法ニ依リ一作業級ヲ通シテ齡級別ニ現在材積ヲ調査シ之ヲ森林調査簿ノ末尾ニ記載スヘシ
- 六 小班所在ノ國郡(市)村(町)大字及字名ハ別冊トシテ之ヲ森林調査簿ニ添付スヘシ
- 七 林相複雜ナラサル場合ニ在リテハ林相圖ノ調製ヲ省略スルコトヲ得
- 八 伐採ニ關シテハ第七十五條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 九 標準地材積調査表及標準木材積調査表ノ調製ヲ要セス

- 十 施業基案ニ在リテハ第十一欄(地位)第十三欄(疎密度)第十四欄(林位)第十五欄(林齡)第十六欄及第十七欄(材積)第十八欄(平均生長量)第十九欄(平均伐期齡)第二十欄(伐期平均生長量)第二十三欄及第二十五欄(材積)並第二十七欄(材積)ノ記入ヲ要セス
- 十一 簡易ナル方法ニ依リテ第一期二期ニ編入シタル林分ニ付伐採スヘキ現在材積ヲ測定シ之ヲ初切研究案ノ材積欄ニ記入スヘシ

林發第一七〇五號内訓

(明治三十六年七月三十一日)

山林局、大林區署

明治三十五年十二月當省內訓林發第一五九三號施業案ノ編成及整理手續中左ノ追加ス

第二十二條 國有林施業案編成規程第九十五條ニ依リ簡易施業案ヲ編成セムトスルキハ本手續第六條ニ依ル報告書ニ其ノ事由ヲ詳記スヘシ
前述ノ如ク屢次規程並手續ヲ改正シテ施業案編成業務ノ成績ヲ舉クルニ努メタルモ明治三十六年度末迄ニ漸ク十八萬餘町歩ノ編成ヲ了シタルニ過キカリシヲ以テ國有林野ノ大部分ハ明治二十七年戊第一五二號内訓官林主產物收額豫算簿調製内規ニ據リ消極的ニ植伐ヲ試ムルノ外途ナク森林ノ利用ヲ開發シ合理ノ施業ヲ營ムニ付遺憾少ナカラス依テ明治三十七年四月左ノ内訓ヲ發シテ是等施業案編成未済林ノ取扱ヲ定メラレ先ツ豫定基案ヲ調製シテ植伐ノ準備トナシ之ニ依リ年々ノ收額豫定案ヲ編成セシムルコトトセリ

林發第二〇九號内訓

(明治三十七年四月二十八日)

山林局、大林區署

施業案編成未済林取扱準則左ノ通り相定ム

施業案編成未済林取扱準則

- 第一條 施業案編成未済ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案ヲ調製セムトスルキハ豫メ此ノ準則ニ據リ調査ヲ爲スヘシ
- 第二條 主產物處分ノ豫定ハ連年研究ヲ施行シ利用ヲ永遠ニ保障シ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルヘキ森林ヲ包容スル區域ヲ以テ豫定事業區ト爲シ之ヲ行フヘシ
- 豫定事業區ノ面積ハ小ニ失スルコトヲ避クヘシ
- 第三條 豫定事業區内ノ森林ニ對シ調査スヘキ事項概テ左ノ如シ
- 一 森林ノ配置

第三編 國有林野ノ經營

二 地勢
三 見込面積
イ、立木地見込面積但シ著大ナル散生地又ハ施業制限地アルトキ若クハ第六號ニ依リ材積ノ區分ヲ要スルトキハ各其ノ見込面積
ロ、著大ナル未立木地若ハ除地ノ各見込面積

四 主要樹種

五 輪伐齡 (ロ)

六 現在見込材積

イ、取扱ヲ異ニスヘキ主要樹種ノ單純林アルトキハ之カ各見込材積

ロ、混清林若クハ合同施業ヲ便利トスル異樹種單純林ニ在リテハ全樹種ノ合併見込材積但シ區分ノ必要アル樹種ニ付テハ十分率ヲ以テ
其ノ材積ノ部合ヲ見積ルヘシ

ハ、混清林ニ於テ特殊ノ取扱ヲ要スル樹種ニ對シテハ之カ見込

七 現在林齡ノ關係但シ前號ノ區分ニ依リ各見込面積ニ對シ輪伐齡ノ半數ヲ超エタル林分見込面積ノ十分率ヲ必ス算出スヘシ

八 伐木及運搬上ノ關係

九 產物ノ賣行其ノ他經濟上ノ關係

十 從來ノ慣行並將來ニ於ケル管理上ノ關係

十一 將來ニ於ケル作業方針ノ大要

第四條 一 豫察事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐齡ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ豫察作業級ヲ設ク
ヘシ但シ取扱ヲ異ニスヘキ主要樹種ノ單純林ニ附テハ別ニ作業級ヲ設クヘシ

第五條 作業種ヲ別テ左ノ四種トス

一 皆伐喬林作業

二 擇伐喬林作業 (不集約ノ森林内ヨリ有價樹種ノ)
ミナ選伐スル方法ヲモ包含ス)

三 矮林作業

四 中林作業

第六條 輪伐齡ハ主トシテ現在立木ニ基キテ定ムヘキモ將來ニ於ケル作業方針ノ著シク異ナルヘキ場合ニ於テハ之カ見込伐期ヲモ參酌スルヲ

要ス

第七條 擇伐喬林作業ニ在リテハ第三條調査ノ結果ヲ參酌シ適當ナル回歸年 (イ) ナ定ムヘシ但シ有價樹種ノミナ選伐スル場合ニ在リテハ回歸
年ヲ定メス之ニ代ユルニ伐採期間ノ年數 (ロ) ナリテスヘシ

第八條 作業級年伐面積 (イ) ノ算定ハ左記ノ標準ニ依ルヘシ但シ施業上ノ必要其ノ他止ムヲ得サル場合ニ限り百分ノ三十以内ニ於テ之ヲ増減
スルコトヲ得

一、皆伐喬林作業矮林作業及中林作業ニ在リテハ輪伐齡 (中林作業ニ在リテハ下木ノ輪伐齡) ナリテ立木地面積 (F) ナ除シタル商トス其ノ算
式左ノ如シ

$$\frac{F}{P} = \frac{F}{P}$$

輪伐齡ノ半數ヲ超エタル林分面積カ立木地面積ニ對シ5/10以下 (其ノ十分率ヲPトス) ナルトキハ前式ノ商ニP/5ヲ乘スヘシ其ノ算式左
ノ如シ

$$\frac{F}{P} = \frac{F}{P}$$

二、擇伐喬林作業ニ在リテハ回歸年又ハ伐採期間ノ年數ヲ以テ立木地面積ヲ除シタル商トス其ノ算式左ノ如シ

$$\frac{F}{P} = \frac{F}{P}$$

隔年作業ノ場合ニ在リテハ前二號ノ算式ニ隔年數ヲ乘スヘシ

第九條 立木地面積中著大ナル散生地若ハ施業制限地アルトキハ其ノ面積ヲ控除シテ前條ノ年伐面積ヲ算定スヘシ

施業制限地ノ立木ニシテ斫伐シ得ヘキモノ並散生地ノ立木ハ伐採順序上適當ナル時期ニ於テ斫伐スヘシ

第十條 擇伐喬林作業ニ於テ年伐區域中斫伐スヘキ材積ハ更新ノ便宜ヲ旨トシ年々大差ナカラシムル様注意スヘシ

有價樹種ノミナ選伐スル擇伐喬林作業ニ在リテハ前項ニ依ルヲ要セス

第十一條 過熟ノ林分大部ヲ占メ若ハ更新ノ速成ヲ利アリト認ムル作業級ニ在リテハ他ノ作業級ノ狀況ヲ酌シ輪伐齡ノ半數以內短縮シタル
年數ヲ以テ其ノ年伐面積ヲ算定スルコトヲ得

第十二條 國土保安上危害ノ虞アリ若ハ地勢、樹種、賣行其ノ他ノ關係ニ因リ一箇所ニ於テ廣大ナル面積ノ斫伐ヲ不利ナリト認ムル場合ノ外

各作業級ノ年伐箇所ハ可成接續若ハ接近セシムルヲ要ス

第十三條 年伐價例ノ存スル森林ニシテ施業上ノ都合若ハ需用者ノ關係等ニ基キ此ノ準則ニ據ル調査ノ結果ヲ直チニ實行シ能ハサル場合ニ於

テハ可成漸次之ヲ修正スルノ方針ヲ採ルヘシ

第十四條 第二條乃至第十三條ノ結果ニ基キ豫察事業區毎ニ主產物處分豫定基案(別紙様式)説明書並見取林況圖ヲ調製スヘシ

説明書ニハ左記ノ事項ヲ簡明ニ記載スヘシ

- 一、豫察事業區設定ノ理由
 - 二、森林配置ノ狀況並地勢
 - 三、著大ナル未立木地、散生地、施業制限地若ハ除地ノ關係
 - 四、森林ノ成立、樹種及林相ノ大要並現在林齡ノ關係
 - 五、主要樹種ノ用途
 - 六、輪伐齡並回歸年選定ノ理由
 - 七、伐木及運搬上ノ關係
 - 八、豫察作業紙設定ノ理由
 - 九、年伐額並收入ノ見込
 - 十、產物ノ實行其ノ他經濟上ノ關係
 - 十一、從來ノ慣行並將來ニ於ケル管理上ノ關係
 - 十二、將來ニ於ケル作業上ノ方針
- 見取林況圖ニハ左記ノ事項ヲ表示スヘシ
- 一、國有林ノ位置並交通運搬其ノ他森林經營上ニ關係アル附近ノ狀況
 - 二、作業級ノ區分(適宜色分ケヲ爲スヘシ)
 - 三、著大ナル未立木地、散生地、施業制限地及除地ノ區分(同上)
 - 四、主產物處分豫定基案調製ノ年ヨリ向十ヶ年間ニ於ケル年度別所伐見込箇所ノ區分
- 第十五條 本調査ノ檢訂ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ行フモノトス
- 第十六條 此ノ準則ノ規定ハ國有原野ノ主產物處分豫定基案ニ之ヲ準用ス

附 則

第十七條 此ノ準則ハ明治三十九年度事業豫定基案ニ係ル分ヨリ施行ス

第十八條 施業上ノ基礎ヲ定ムル目的ヲ以テ既ニ調査ヲ終了シタル森林ニ在リテハ此ノ準則ニ照シ不備ト認ムル點ニ附キ漸次之ヲ補修スヘシ

第十九條 明治二十七年戊辰第一五二號內訓官林主產物收買豫算調製内規ハ此ノ準則施行ト同時ニ廢止ス

(様式略ス)

施業案編成業務ノ大體ヲ終了セシ場合ニハ大林區署ニ於テ施業ノ方針審議ノ爲委員會ヲ開クコトニ規定セラ
ルルモ其ノ成案ニ付尙山林局施業案擔任官吏トノ間ニ意見ノ一致セサルコトアリ照會往復ニ日時ヲ費シ業務
ノ進捗ヲ妨クルコト少ナカラサリシニ付三十七年九月通牒ヲ發シテ委員會開會ノ節ハ可成山林局員ヲ列席セ
シメ親シク審議ヲ悉サシムルコトトセリ

右通牒ノ趣旨ヲ勵行スルコト數年ニ及ヒ各大林區署ニ於テ施業計畫ヲ立ツルニ付一定ノ標準ヲ會得スルニ至
リタレハ四十一年十二月山發一、〇六七號ヲ以テ前記ノ通牒ヲ廢止シ林區署ニ於テ施業計畫ヲ立ツルニ付疑
義ノ點アル場合ニ限り山林局員ノ列席ヲ要求スルコトニ改メタリ

是ヨリ先施業案編成ニ著手スヘキ順序及一事業區ニ編入スヘキ國有林野ノ箇所等ニ就キテ屢當ヲ得サルモノ
アリ整理並經營上不利ヲ招クノ虞アリシヲ以テ明治三十八年七月通牒ヲ發シ次年度以降ニ於テ施業案ヲ編成
スヘキ事業區ヲ豫察シテ其ノ著手順序ヲ報告セシムルコトトシ本業務ノ大部分ヲ終了セル後之ヲ廢止シタリ
從來粗漫ノ取扱ニ慣レタル林業經營ノ任ニ當レル官吏ハ施業案ノ編成セラルルニ從ヒ一定ノ規矩ニ則リ植伐
ヲ拘束セラルルニ至リシヲ以テ實行上頗ル不便ヲ感シ殊ニ收入ノ充實ヲ計ルニ際シテ從來ノ如ク任意ノ箇所
分量ヲ處分シ得サルハ最苦痛トセシ所ナルヘシ從テ官民之ヲ忌ムモノ甚タ多ク實際ニ適セサル一ノ理想案ト
斷定シ遂ニ施業案勵行ノ尙早說ヲ唱フルモノアリシニ見ルモ亦以テ此ノ間ノ消息ヲ窺知スルニ足ルヘシ明治

三十八年十一月施業案實行上特殊取扱ニ關シテ左ノ達ヲ發セラルルニ至リシハ蓋シ右情勢ノ上下ニ彌漫シタル結果ナルヘシ爾來本取扱ハ取纏メ處分ト唱ヘラレ國有林施業ノ危機ヲ想到スルノ記念トシテ永ク記憶セラ

林發第三一八號達

(明治三十八年十一月十四日)

大林區署

明治四十八年度迄ニ檢訂期ニ到達スヘキ施業案ノ實行ニ關シ產物處分上比較的有利ナリト認メタル場合ニ於テハ更新ニ支障ナク且國土保安上危害ノ虞ナキ場所ニ限リ左記各號ニ據リ取扱フヘシ
但シ第一號及第二號ノ場合ハ經伺ノ上處分スヘシ
一、初期研伐案所定箇所ノ伐採ハ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得
二、年伐面積及材積ニ關シテハ初期研伐案年伐標準額ノ五倍ニ達スルマテ取纏メ實行スルコトヲ得
三、初期研伐案ノ不實行箇所ハ前號ノ制限ニ據ラズ便宜取纏メ實行スルコトヲ得
四、前各號ニ基キ初期研伐案所定額ノ全部ヲ實行シタル結果第一施業期間ノ年度ヲ剩シタル場合ニ於テハ檢訂期ヲ繰上グルコトヲ得
五、本達ハ國有林施業案編成規程其ノ他ノ定規成例ニ因リ制限ヲ受クルコトナキモノトス

該通牒ハ即チ其ノ適用ヲ明治四十八年度迄ニ檢訂期ニ到達スヘキ施業案ニ限リタルハ一見特殊ノ事業區ノミニ制限セルカ如キ觀アルモ該通牒ヲ發シタル三十八年度ノ翌年即チ三十九年度ニ案ノ實行ニ著手セル事業區ヲモ包含スルニ至ルヲ以テ施業案已済ノモノハ勿論尙當時編成中ノモノヲモ全部之ニ據リ得ルコトナリ極言スレハ一面ニ於テ孜孜々施業ノ計畫ヲ立テシメ他面ニ於テ之ヲ破壞スルノ特例ヲ設ケタルモノト云フヲ得ヘシ然レトモ該通牒ヲ實際ニ適用シテ收入ノ増加ヲ計リシハ青森、長野兩大林區署管内ノ一部ニ止マリシヲ以テ其ノ弊害比較的少ナカリシハ國有林ノ經營上不幸中ノ幸ナリト云フヲ得ヘキカ
明治三十六年簡易施業案ヲ編成シ得ルコトニ規程ヲ改正シタル以來大部分ノ森林ハ之レニ據リテ施業案ヲ調

製セシト雖特別經營事業開始以來三十八年度ノ終ニ至ル迄七ヶ年ヲ費シテ漸ク五十六萬餘町歩ノ編成ヲ了シタルニ過キサレハ計畫ノ期間ニ於テ豫定ノ面積ヲ完了スルカ爲ニハ一層ノ努力ヲ要スルヲ認メタルト共ニ綿密ナル調査ヲ爲シテ集約ナル施業ヲ要スヘキ優位ノ森林ハ既ニ業ニ其ノ大部分ヲ終了シタルカ故ニ更ニ編成規程ノ一部ヲ改正シテ功程ノ進捗ヲ期スルノ必要ヲ認メ三十九年四月左ノ訓令ヲ發スルニ至レリ

農商務省訓令第七號

(明治三十八年四月)

大林區署

明治三十五年農商務省訓令第六號國有林施業案編成規程中左ノ通改正ス
第五條中狀況ヲ查察シノ下ニ「連年ノ收入ニ依リ」ノ八字ヲ加フ
第八條ヲ削ル
第十條第二項中主線ニ在リテハ五間、副線ニ在リテハ十六字ヲ削ル
第十一條中壯齡以上ノ五字ヲ削ル
第十六條第五號ヲ左ノ通改ム
普通施業地ト施業制限地(地上權ノ存スル地、地役權ノ承役地、砂防法ニ依ル砂防設備地、各種保安林、部分林、風致又ハ保安等ノ關係ニ依リ施業ノ制限ヲ要スヘキ林分等)トノ境界及面積
第十九條中境界圖ニ依リノ下ニ「普通五千分一ノ縮尺ヲ以テ」ノ十二字ヲ加フ
第二十七條第六號ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項各號ニ屬セサル作業種ハ便宜之ト類似ノ作業種ト見做シ取扱フヘシ
第三十五條ヲ左ノ通改ム
材積ハ可成簡易ナル方法ニ依リ調査スヘシ但シ第一施業期ニ伐採スヘキ林分ニ限リ特ニ精細ナル方法ニ依リ調査スヘシ
第三十六條乃至第四十條ヲ削ル
第四十一條ヲ左ノ通改ム
樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ但シ施業案實行上其ノ必要ナキトキハ數樹種ノ材積ヲ合算スルコトヲ得
第四十二條ヲ左ノ通改ム

中林ニ在リテハ上木ト下木ト各別ニ前更替林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ノミニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ
第四十三條ヲ左ノ通改ム

材積ノ單位ハ尺ノヲ用フ但シ竹林ニ在リテハ束ヲ用フ

第四十五條ヲ削ル

第四十七條中成積ニ依リノ下ニ「普通ニ二分一ノ縮尺ヲ以テ」ノ十二字ヲ加フ

第五十條第七號ヲ削ル

第五十二條ヲ左ノ通改ム

一、作業級ニ於テハ可成連年作業ヲ施スモノトス

第五十三條第二項ヲ削ル

第五十四條ヲ左ノ通改ム

伐採列區ハ產物搬出ノ便否並地勢ニ鑑ミ施業若ハ利用上特ニ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ設クヘシ

第六十一條ヲ左ノ通改ム

林相ノ改良ヲ要スル爲輪伐期ヲ以テ取扱フヲ不得策トスル森林ニ在リテハ特ニ整理期ニ依リ施業スヘシ

前項ノ整理期ハ現在林ノ整理後收穫ノ中斷セサル範圍内ニ於テ更新上並經濟上最も有利ナルコトヲ期シ之ヲ定ムヘシ

第六十五條ヲ左ノ通改ム

伐採順序若ハ林相改良ノ必要ニ依リ一輪伐期(若ハ整理期)ノ始ニ於テ伐採シ同期間ニ於テ再ヒ伐採スヘキモノハ更ニ之ヲ相當應業期ニ編入
スヘシ

第六十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十七條ノ二 第六十五條ニ依リ一輪伐期(若ハ整理期)ニ面積ノ重出スヘキモノハ其ノ重出面積ヲ加算シ一輪伐期(若ハ整理期)ニ

伐採シ能ハサル著大ナル未立木地、幼齡林分又ハ未利用區域ハ其ノ面積ヲ控除シテ前條標準面積ノ算定ヲナスヘシ

第六十八條但書ヲ左ノ通改ム

但シ施業又ハ利用上ノ都合ニ依リ必要ナル場合ニ於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヨリ多カラサル面積ヲ増減スルコトヲ得

第六十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十八條ノ二 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐期ニテ除シタル商ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ模範ヲ參酌シテ

定メ之ヲ施業案説明書ニ記載シテ事業豫定案編成ノ資ニ供スヘシ

第七十條但書中中林ノ上木ノ下ニ「並老熟ノ喬林」ノ六字ヲ加フ

第七十四條及第七十五條ヲ削ル

第七十六條ヲ左ノ通改ム

伐採ノ順序ハ施業、利用並運搬上ノ便ヲ計リ可成暴風方向ニ反對シテ之ヲ定ムヘシ

第七十七條及第七十九條ヲ削ル

第八十條乃至第八十二條ヲ削ル

第八十三條ヲ左ノ通改ム

造林基案ハ施業基案並森林調査ノ成績ニ依リ一作業級毎ニ第一施業期ニ於ケル造林事業ヲ定メ第八號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八十四條中林道ヲ「運輸機關」ニ改メ排水工事ノ下ニ「等」ノ一字ヲ加フ

第八十七條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ結果ニ依リ施業基案並造林基案ヲ新ニ調製シ施業案説明書ヲ訂正追補スヘシ

第八十八條ヲ左ノ通改ム

斫伐照査簿ハ第九號様式ニ依リ之ヲ調製シ第一施業期ニ於ケル斫伐實行ノ結果ヲ記入スヘシ

第一施業期ニ於ケル斫伐實行ニ關シテハ其ノ年伐面積ハ連年作業ニ在リテハ可成施業基案第一施業期所定ノ十分一額、隔年作業ニ在リテハ

可成之ニ隔年數ヲ乘シタル額ニ等シカラシムヘシ但シ施業又ハ利用其ノ他ノ都合ニ依リ百分ノ三十以内ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ第一施業期ノ滿了スルマテニ漸次其ノ増減ヲ平均スヘシ

第八十九條中初期造林案ヲ「第一施業期ニ於ケル造林」ニ改ム

第九十三條中初期斫伐案並初期造林案ヲ「第一施業期ニ於ケル斫伐並造林」ニ改ム

第九十四條中森林ノ二字ヲ削ル

第九十五條ノ各號ヲ左ノ通改ム

一、林班界線ノ測定ハ主要ナルモノヲ除クノ外携帶圖板測法ニ依ルヘシ

二、小班ノ區劃ハ第一施業期編入ノ箇所ニ限り第十四條ノ規定ニ依リ其ノ他ノ箇所ニ在リテハ林班内ニ於テ別箇作業級ノ區分上必要ナル箇

所並面積平方上影響ヲ及ボスヘキ未立木地ノ外之ヲ行ハス

- 三、小班界線ノ測定ハ第一施業期編入ノ箇所ニ限リ之ヲ行ヒ携帶圖板ニ可成簡易ナル測距法ヲ併用スルモノトス
 - 四、面積ハ四捨五入ヲ以テ町以下二位ニ止ムヘシ
 - 五、森林面積簿ノ調製ヲ要セス
 - 六、森林調査ニ在リテハ地位、土壤ノ性質、作業種、疎密度林齡、成立、平均生長量及林位ノ調査ヲ要セス
 - 七、森林調査簿ハ第三號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 - 八、第一施業期編入ノ箇所ニ限リ小班毎ニ比較者ハ標準地調査又ハ目測ニ依リ主要樹種別材積ヲ調査シ其ノ他ノ箇所ニ在リテハ小班毎ニ主要樹種名及カ混清部合ヲ調査スヘシ
 - 九、簡易ナル方法ニ依リ各作業級ノ現在材積並主要樹種ノ混清部合ヲ調査シ之ヲ森林調査簿ノ末尾ニ掲載スヘシ
 - 十、施業基案ハ第七號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 右改正ノ主要ナル諸點ヲ擧クレハ材積調査ノ方法ヲ林區署ノ任意トナセルコト伐採列區ノ設定ヲ寧ろ特殊ノ場合ニ限リシコト初期所伐並造林案ノ調製ヲ廢止セルコト等ニシテ之ト殆ト同時ニ林發第一一六號達ヲ以テ多年ノ懸案タリシ國有林野圖式ヲ制定シ修飾ノ爲圖面ノ實質ニ對シテ不必要ナル勞費ヲ投スルノ弊ヲ除キ施業案關係ノ圖面ヲ始メトシ境界査定周圍測量其ノ他事業ノ豫定及成績等ニ要スル圖面ハ凡テ本圖式ニ據ラシメテ之カ統一ヲ計レリ
- 施業案ノ編成及整理手續ハ明治三十五年林發第一五九三號內訓ヲ以テ制定セラレシ以來屢小修正ヲ試ミ時宜ニ適應スルノ措置ヲ怠ラサリシモ前述セル規程ノ改正ニ關聯シテ更ニ之カ變更ヲ要スル點アリシノミナラス既性數年ノ經驗ニ徴シテ根本的改正ヲ要スル點少ナカラサリシニ付是亦左記內訓ヲ以テ其ノ改正ヲ決行スルニ至レリ

林發第九一號內訓 (明治三十九年 四月十一日)

山林局、大林區署

明治三十五年十二月林發第一五九三號內訓國有林施業案ノ編成及整理手續左ノ通改正ス

- 第一條 國有林施業案ノ編成ハ周圍測量ヲ完了シ林業經營上要急ト認ムル箇所ヨリ順次之ヲ行フモノトス
- 第二條 毎年度配付スヘキ編成豫定ハ其ノ年度ノ初メニ於テ山林局長ヨリ大林區署長ニ之ヲ通知ス
- 第三條 大林區署長ハ左記ノ事項ニ付其ノ都度報告スヘシ
 - 一、編成員ヲ定メ若ハ之ヲ異動セシメタルトキハ其ノ官氏名
 - 二、編成着手ノ國有林名
 - 三、外業着手並結了月日
- 第四條 編成業務ノ實行ニ關シ執業ノ狀況並物品及經費ノ受拂ヲ明瞭ナラシムル爲編成員ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ但シ數人連帶就業ノ場合ハ共通ノ各帳簿ヲ用フルモノトス
 - 一、事業 日誌
 - 二、物品受拂簿
 - 三、經費受拂簿
- 第五條 編成員ハ毎月ノ功程及經費受拂ヲ第一號及第二號様式ニ依リ大林區署ニ報告スヘシ
- 第六條 編成員ハ一事業區ノ施業方針ニ關シ左ノ事項ヲ豫察シ大林區署長ニ差出シ施業要領ニ付指揮ヲ受クヘシ
 - 一、事業區ノ面積及設定ノ理由並施業案ノ編成程度
 - 二、地況及林況ノ概要
 - 三、事業區並林班區劃ノ計畫ヲ示シタル略圖
 - 四、事業區ニ關係アル地方經濟ノ概況
 - 五、樹種、更新法、輪伐齡、更新期、回歸年及整理期
 - 六、伐採順序
 - 七、伐採量
 - 八、運搬ノ便否、計畫及其ノ實行ノ難易
 - 九、其ノ他必要ト認メタル事項
- 第七條 大林區署長ハ其ノ署各課長、當該事業區ノ上席編成員、當該小林區署長及必要ト認メタルトキハ隣接事業區ノ上席編成員並隣接事業區主管小林區署長若ハ其ノ他ノ官吏若干名ヲ會シ編成員ノ豫察シタル前條ノ事項ニ就キ審議セシムヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第八條 大林區署長ハ前條ノ審議ヲ經テ施業ノ方針ヲ決定シタルトキハ直ニ之ヲ報告シ之ト同時ニ編成員ナシテ其ノ方針ニ基キ編成業務ヲ履行セシムヘシ

第九條 前條ノ施業方針ヲ變更スルノ必要ナ生シタルトキハ第七條ノ手續ニ依リ更ニ審議ノ上前條ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第十條 一事業區ノ施業案編成ヲ完了シタルトキハ大林區署長ヨリ直ニ之ニ關スル圖案簿表ヲ進達スヘシ

第十一條 施業案ニ依リ確定シタル第一施業期ノ斫伐及造林ヲ當該期間ノ事業決定案ニ編入セサルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ經伺スヘシ

第十二條 天災其ノ他ノ事由ニ因リ地況又ハ林況ニ異狀ヲ呈シタル爲若ハ斫伐年度ヲ繰上ケタル爲施業案ノ臨時檢訂ヲ行フノ必要ナ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ經伺スヘシ

第十三條 施業案ノ檢訂ニ際シ左ノ各項ニ異動ヲ及ホス場合ニ於テハ豫メ意見ヲ具シ報告スヘシ

一、事業區及林班ノ區劃

二、樹種、作業種、輪伐節、更新期、回齡年及整理期

三、伐採列區

四、伐採順序

五、伐採量

六、造林ノ計畫

第十四條 檢訂ノ爲實地調査ヲ爲スノ必要アルトキハ一事業區毎ニ豫メ之カ實査ノ豫定期間ヲ報告スヘシ

第十五條 一事業區ニ於ケル施業案ノ檢訂ヲ完了シタルトキハ大林區署長ヨリ之ニ關スル圖案簿表ヲ進達スヘシ

第十六條 大林區署長ハ小林區署長ヲシテ事業區毎ニ國有林施業案編成規程第八十八條乃至第九十一條ノ規程ニ基キ斫伐照査簿、造林照査簿、異動記載簿及施業沿革史ヲ記載セシムヘシ

以上規程並手續ノ改正ト共ニ其ノ趣旨ヲ明ニシ實行上選算ナラシムルカ爲左ノ通牒ヲ發シテ各大林區署長ノ注意ヲ促セリ

林發第九〇號山林局長通牒 (明治三十九年四月十一日)

今般國有林施業案編成規程並國有林施業案ノ編成及整理手續改正相成候處右ハ現在ノ林況ニ對シ其施業並利用上ニ鑑ミ從來ニ比シ更ニ簡易ナ

ル方法ニ依リテ最便宜ナリト認メ且編成業務ノ功程ニモ一段ノ進歩ヲ期セラレタル次第ニ有之從テ三十九年度ニ於ケル豫定功程ノ如キモ著シク増賦相成タル儀ニ付此際編成業務ニ關シ細大共ニ一層御留意相成尙左記ノ事項御了知ノ上豫定及實行共ニ適切ナル施業案ヲ編成シ優ニ配付以上ノ功程ヲ舉グルコトヲ期セラレ度此段及進牒候也

記

一、施業案編成規程ハ森林ノ狀況ニ應ジ便宜ニ調査ノ程度ヲ斟酌シ得ル機規定シアルカ故ニ能ク其精神ヲ酌ミ可成候意ノ解釋ヲ避ケカメテ實行上ノ利便ヲ得ル機編成セラレ度

二、自今編成スヘキ施業案ハ別段ノ必要ナキニ於テハ簡易式ニ依ル機致度

三、從來伐採列區ハ主トシテ技術的考案ヲ以テ設置シ來リタル傾アリシモ今般編成規程第五十四條改正ノ主旨ハ力メテ伐採箇所ノ散點スルヲ避ケルニ在リテ從前ニ比シ大ニ其設定方針ヲ異ニシタルカ故ニ此點ニ付テハ特ニ御注意相成度

四、編成規程第五十二條改正ノ意義ニ依リ作業級ハ止ムヲ得サル場合ニ於テハ隔年作業ヲ施シ得ルニ至リタリ而シテ一般ニ更新上又ハ利用上ノ關係ニ依リ特ニ短期間ニ伐採スルヲ要スヘキ森林ニ向テハ可成整理期ヲ短縮シテ取扱フ機致度

五、外業多數ノ時日ヲ要スルハ森林區劃ナルヲ以テ今般改正ノ簡易施業案ニ於テハ第一施業期編入以外ノ箇所ニハ可成小班區分ノ煩ヲ避ケルヲ以テ方針トセラレタリ從テ第一期內ノ箇所ト雖モ地況並林況ノ小差ニ拘泥シテ徒ニ過多ノ小班ニ區分セサル機且區劃測量並材積調査ニ於テモ寧ろ簡約ニシテ正鵠ヲ失セサルヲ期シ以テ時日ト經費トヲ節約スル機致度

六、内業ニ於テモ亦力メテ進捗ヲ期シ殊ニ製圖法ノ過密過飾ヲ避ケル機致度

七、説明書ニ關シテハ施業上直接必要ナル事項(例之ハ將來ノ施業方針、收穫豫定、植栽豫定、運輸計畫及施業案ノ實行ニ關スル意見等)ニ重キヲ措キ其然ラサル事項(例之ハ參考事項等)ニ關シテハ可成簡單ニ之ヲ摘記スルニ止メ徒ニ説明書ノ冗長ニ亘ルヲ避ケルハ勿論他事業區ノ說明事項ト同一ナルモノハ便宜之ヲ省略スルカ若ハ必要ニヨリ引照スルニ止メラルル機致度

八、是迄編成員ヲ組ニ分チ普通一組編成員七人トシテ其連帶ノ功程ヲ課シ配付相成居候處三十九年度ヨリハ單ニ何官何人トシテ配付セラレルニ付高等官、判任官及雇員ヲ通シ一人ノ平均豫定功程ハ約三千町歩以上ト爲シタリ是レ蓋シ一面編成規程ノ簡約トナリタルト一面已往ノ成績ニ微シ優ニ右ノ功程ヲ舉ゲ得ヘキヲ信セラレタルトニヨル次第ニ付開地數又ハ點在ノ狀況並利用上ノ關係ヲ查察シ且地況及林況ニ鑑ミ或ハ編成員中適當ト認ムヘキ人員ヲ連帶就業セシメ或ハ單ニ一員ニテ調査ニ從事セシムル等編成員使用上最利便ニシテ可及の功程ヲ舉グルヲ旨トシ總念融合能ク其當ヲ得候機致度

九、明治三十七年五月林發第二〇九號內訓施業案編成未済林取扱規則ニ依リ今後新ニ豫定基案ノ調製ニ着手スヘキモノハ實測未済ノ國有林ニ

限ルコトトシ今般改正相成タル簡易式編成法ハ一面實測已済ノ國有林ニシテ施業ヲ急テ部分ニ施行シ一面實測既済國有林ニシテ既ニ右取扱準則ニ依リ豫定基案ヲ編成シタル箇所ニ對シ更ニ施行スルモノトノ二種ト御了知相成度

十、施業案編成ニ關シテハ是迄林業課長ヲ委員長トシ委員會ニ於テ施業方針ヲ審查セシムルコトニ相成居候モ今般施業案ノ編成及整理手續改正ノ結果從前ト其趣ヲ異ニシ編成員ハ施業上必要ナル事項豫察ノ結果ヲ大林區署長ニ復命シ右ニ基キ署長ハ審議ノ上施業方針上重要ナル事項ヲ決定指示シ編成員ハ之ニ遵由シテ具體的ノ成案ト爲スニ在リテ要ハ可成實行上圓滿ナル施業案ヲ得ルヲ期スル儀ニ候ハ爲ト御了知相成度

此ノ如ク明治三十九年ハ施業案編成ニ關スル諸規程ヲ改メ益本業務ノ進捗ヲ期シタル革新ノ時代ト稱スルヲ得ヘク編成官吏ノ技術漸ク熟スルノ時期ニ達セルト相埃テ俄ニ功程ノ激増ヲ見ルニ至リ茲ニ始メテ計畫ノ數量ヲ豫定ノ期間ニ終了スルノ自信ヲ得ルニ至レリ

國有林施業沿革史上ノ一汚點トモ稱スヘキ施業案實行上ノ特殊取扱モ亦規程改正ノ結果左記ノ如ク一部ノ修正ヲ試ミラレタルモ實地ニ於ケル適用ハ殆ント皆無ニシテ明治四十一年終ニ林發第三九八號ヲ以テ之ヲ廢止セラレタリ

林發第二〇〇號達 (明治三十九年六月二十六日)

大林區署

明治三十八年十一月林發第三一八號達中左記ノ通り改正ス

- 記
- 一、本文但書中第一號及ノ四字ヲ削ル
 - 一、第一號ヲ削ル
 - 一、第二號中初期研伐案年伐標準額ノ五倍トアルヲ施業案第一施業期所定ノ二分ノ一額ト改ム
 - 一、第三號初期研伐案トアルヲ施業案第一施業期ニ於ケル研伐ト改ム
 - 一、第四號ヲ左ノ通改ム
- 前各號ニ基キ施業案第一施業期所定額ノ全部ヲ實行シタル結果其期間ノ年度ヲ剩シタル場合ニ於テハ檢訂期手續上ケルコトヲ得

明治三十九年以降ハ編成業務ノ進捗ニ付苦慮セシ時代ヲ過キ實行ノ良果ヲ收ムルニ全力ヲ注クヘキ時期ニ移レルモノト謂フヲ得ヘク或ハ造林ニ關スル施業案ノ運用方法ヲ示シ或ハ豫定ト實行トノ對照表ヲ提出セシメテ檢訂施業案審查ノ資トナシ或ハ各種ノ事業ト施業案編成業務トノ連絡ヲ圓滑ナラシムルニ付注意ヲ促セル等左ニ列記セル通牒ヲ一覽セハ當時ノ情勢ヲ察スルニ難カラサルヘシ

山發第一〇八八號山林局長通牒 (明治三十九年十二月二十七日)

施業案ニ定メタル諸事項ハ將來ニ對スル施業上大體ノ準備ヲ示シタルニ過キサル儀ナレハ其實行ニ當リテハ頗ル考慮ヲ要スヘキモノ多ク特ニ造林ニ關スル樹種選定ノ如キハ最實地ニ適合シ且最經濟的ナラサルヘカラサル儀ニシテ深ク稽查ヲ要スルモノト存候從テ是迄トテ施業案ニ基キ植伐ヲ爲ス事業區ニ向テハ此邊充分ナル審查ヲ經行セラレシヨト信シ候モ往々當初ニ定メタル條件ヲ比較的利便シト認メラルルニ拘ハラス細大共ニ既定ノ方法ニ據リ勵行セラレ實際運用上ノ妙ヲ缺クモノナキヤノ部分ナシトセシ是レ誠ニ遺憾ノ次ニシテ施業案ノ好果ヲ收ムルニ就テ將來ニ影響スルモノ多大ナルヘシ殊ニ先般來造林樹種ヲ著シク増加シタル爲メ施業案ヲ實行セル部分ニ對スル造林樹種モ勢多少ノ變動ヲ受クヘク此ノ場合ニ於テ施業案所定ノ樹種ナリトシテ一概ニ之ニ依ルコトナラハ結局樹種増殖ノ趣旨ニ恰當セサル譯ナレハ向後ハ施業案ノ主眼點ヲ傷ケサル限度ニ於テ單ニ從來所定セル小數ナル樹種ニ止メテ増殖方實行相成度此ノ場合ニ於テ最注意ヲ要スヘキハ作業級組上ノ關係ナレハ全然其ノ變更ヲ必要トスル場合ノ如キハ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ適當ナル處置ヲ爲スハ勿論徒ニ點々造林シタル爲メ施業案ヲ複雜ナラシメ得失相償ハサルカ如キ取扱ハ素ヨリ避クヘキ次第ニ有之候際此儀ハ充分御留意ノ上前陳ノ要旨ヲ貫徹候部下ヲ督勵セラレ尙ホ右ノ趣意ハ向後新ニ施業案ヲ編成スルモノニ對シテハ當然遺漏ナク豫定セラレ後日其實行ヲ最モ有利圓滿ナラシムル標致度此段及通牒候也

山發第二七八號山林局長通牒 (明治四十年三月二十七日)

檢訂ニ關シ國有林施業案ノ編成及整理手續第十五條ニヨリ其圖案簿表ヲ進達スル場合ハ爾後別紙甲號及乙號樣式ヲ用ヒ研伐並造林ノ豫定並實行ノ對照表ヲ調製シ添付相成度此段及通牒候也

(別紙省略)

山發第三八七〇號山林局長通牒 (明治四十年四月二十七日)

施業案編成ノ業務タル森林經營ニ關スル計畫全般ノ基礎ヲ建ツルニアルコト今更申迄モ無之從テ從來ト雖モ存廢區分調査、利用並更新ニ關ス

第三編 國有林野ノ經營

ル事業林道ノ築設等ハ勿論境界査定、周圍測量等施業案編成ノ著手順序ニ關係アル業務モ亦普ク查察シテ編成業務トノ連絡ヲ遺漏ナク保衛セラルタル次第ト信シ候モ過般施業案編成主任技師ノ陳述ニヨレハ其ノ邊ノ連絡充分ナラサル向モ有之ニ存セラレ從テ境界査定ハ周圍測量ノ著手順序ト施業案編成要領ノ順序トノ一致セラルモノアルカ如キ或ハ存廢ノ處分カ事業區設定上ニ就キ遺漏アルカ如キ或ハ將ニ施業案ヲ編成セントスル個所ニ對シ漫然造林事業ヲ開始セルカ爲メ案ノ編成セラレルニ際シ再ヒ其ノ方針ノ變更ヲ要スルモノアルカ如キ等諸種ナル障礙ヲ惹起セルモノモ有之候趣新クテハ林業ノ基礎常ニ動搖シテ定マル所ナク誠ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ナレハ此ノ際各種ノ業務共相互ノ連絡ヲ密接ナラシムル機一層ノ御留意ヲ煩度殊ニ計畫者タル施業案編成員ト實行者タル小林區署員ト材積調査ノ方法ヲ異ニセルカ爲メ其ノ材積ニ不合ヲ來タスカ如キハ其ノ連絡ノ不充分ナルヲ證スルモノニテ施業案上ニ及ホス障害モ尠カラサル儀ト存候ニ就テハ斯ノ如キ不都合有之候向ハ亟急其ノ調査方法ヲ統一テ計リ以テ前陳ノ如キ弊無キナ期セラレ度此段及通牒候也

爾後國有林施業案ノ編成及整理手續ニ對シテハ明治四十年五月林發第一一四號及同四十一年十二月林發第一二九號內訓ヲ以テ小改正ヲ行ヒ施業案編成規程ニ對シテハ四十二年五月農商務省訓令第十三號ヲ以テ一部ノ修正ヲ試ミタルモ其ノ大綱ニ付テハ何等ノ變更ヲ見サリキ

保安林ニ對スル施業案ハ明治三十三年十月本省訓令第三十七號保安林取扱心得ニ基キ明治三十五年ニ制定セラレタル國有林施業案編成規程ニ依リ之ヲ編成スルコトニ定メラレ爾來著々其ノ實行ニ努メタルモ往々地方廳トノ連絡ニ關シテ遺憾ノ點アリシヲ以テ四十二年三月山發第一四五號通牒ヲ發シテ大林區署ノ注意ヲ促シ尙明治四十三年八月關東地方ヲ中心トシテ各地ニ起リタル大水害ノ爲山林ト治水トノ關係ニ付世人ノ注意ヲ惹クコト漸ク盛ナルニ至リシヲ以テ左ノ通牒ヲ發シ國有林ノ經營ニ付テモ遺憾ナキヲ期シタリ

林第二八九二號山林局長通牒 (明治四十四年六月十九日)

政府ハ治水上必要ナル諸般ノ計畫ヲ立テ今後十八ヶ年ナ期シ治山ノ實ヲ舉ケ依テ國土ノ安寧ヲ維持シ水災ノ慘害ヲ除カント期シツツアルヲ以テ國有林野ノ經營ニ付テモ深ク留意スヘキ儀先般會同ノ際訓示相成リタルヲ以テ既ニ夫々改善ノ方法ヲ策シ相當計畫セラレツツアルコトト信シ候得共尙特ニ左ノ事項ニ關シテハ周到ナル注意ヲ拂ヒ國土保安上弊ノ遺漏ナキヲ期セラレ度右依命通牒ス

記

- 一、施業案編成ニ際シテハ保安林ナルト否トニ拘ラス治水其他國土保安ノ關係ヲ稽查シ最モ適切ナル方針ヲ定メラレ度
 - 二、施業案編成未済林ノ斫伐及處分ニ付テハ豫定基案ニ往々不備ノ點アルヘキヲ以テ特ニ注意シ治水及國土保安ノ關係ヲ深ク顧慮相成度
 - 三、連年接續シテ廣大ナル面積ヲ皆伐セルカ爲往々國土ノ保安ヲ害スヘキ虞アル箇所ナシトセサルヲ以テ可成大面積ノ斫伐跡地ヲ現出セシメサル様注意シ且木材集積搬出ニ當リテハ豫メ地盤ノ崩壞ヲ防止スルノ方法ヲ講セラレ度
 - 四、施業案編成済箇所ト雖モ治水上必要ナルトキハ施業案ノ許ス範圍ニ於テ其實行ヲ加減シ尙案ノ一部ヲ變更スルニ非レハ保安的施業ヲ爲スニ適セサルモノハ相當調査ノ上適切ナル措置ヲ講セラレ度
 - 五、伐採跡地並未立木地ノ造林ハ可成速ニ完了スヘク特ニ伐採跡地ニ付テハ搬出後直ニ造林ヲ實施シ得ル様計畫相成度
 - 六、砂防設備ハ一層完成ヲ期シ特ニ治水ノ關係アルモノハ調査ノ上適當ノ施設相成度
 - 七、森林土木事業上路線ノ選定ハ勿論法面ノ保護排水ノ設備不要ト砂防取除ノ適否ハ直ニ治水上其他國土ノ保安ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノニ付特ニ注意相成度
 - 八、存廢區別ニ關シテハ治水上林業經營ヲ必須トスル地域ハ可成民有ニ歸屬セシメサル様留意相成度
 - 九、森林法第二十五條及第二十六條ハ國有林ニ適用ナキモ右ハ勿論同一主旨ヲ以テ經營スヘキ筈ナルニ付其旨ヲ體シ取扱相成度
 - 十、國有林野ニ於ケル開墾ハ一般ニ禁止又ハ制限ヲ爲ササルコトニ取扱ハレ居ルモ事業上開墾ヲ要スル場合ニハ特ニ治水其他國土保安ノ關係ヲ顧ミ必要ト認メタルトキハ適當ナル地盤保護工事ヲ施ス様處理相成度
 - 十一、林野ノ貸付使用並豫約開墾ニ關シテハ保安林タルト否トニ拘ラス治水ノ關係ヲ調査シ支障ナキ場合ニ限り處分スル様取扱ハレ度
- 明治三十九年度以後ニ於テハ施業案編成業務ノ功程著シク進捗シ終ニ要存置林野ノ全部ニ對シテ編成スルノ計畫ヲ立テタルコトハ前述セルカ如クニシテ大正二年度迄ニハ三百八十七萬餘町歩ノ施業案ヲ編成シ僅ニ琉球列島、薩南諸島及各地ニ散在セル小面積ノ森林ヲ殘スニ過キササルニ至リ即チ施業案編成業務ニ付大觀スレハ大正二年度ヲ以テ一段落ヲ告ケ大正三年度ヨリハ更ニ檢訂ノ時代ニ入りタルモノト稱スルヲ得ヘシ然ルニ從來ノ施業案編成規程ハ檢訂ニ關スル事項ニ付未タ悉ササルモノアルノミナラス其ノ他ノ事項ニ付テモ既往十數年間實行ノ經驗ニ鑑ミ修正ヲ必要トスル點頗ル多キヲ認メ尙又簡易式ニ依リ編成セラレタルモノノ如キ

ハ第一次ノ施業案トシテハ當ヲ得タルモノナルヘキモ經營ノ方法ヲ漸次集約ニ進ムルニ付テハ不備ノ點多キヲ以テ是ヲ廢止シ一層周到ナル調査ヲ遂ケ時勢ノ進運ニ應スルノ要アリ其ノ他施業案ニ關スル規程ハ已ニ序述セルカ如ク訓令、内訓、達、通牒等多種多様ニ互ルヲ以テ之カ統一ヲ計ルノ妥當ナルヲ認メ大正三年八月農商省訓令第九號ヲ以テ國有林施業案規程ヲ改定シテ同時ニ從來ノ諸規程ヲ廢止セリ獨リ圖式ハ施業案以外ノ業務ニモ關聯セルカ爲之ヲ統一スルコト能ハサリシモ是又適用ノ範圍、製圖用紙ノ規定、演彩色線及記號等ニ付改正ヲ要スルモノアリシニ依リ大正三年林第二九八三號達ヲ以テ其ノ改正ヲ了セリ

國有林施業案規程

(大正三年八月二十二日 農商省訓令第九號)

大林区署

第一章 總則

- 第一條 要存置國有林ニ付テハ之ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保護シ國土ノ保安其他公益ヲ保持スルノ趣旨ヲ以テ本規程ニ依リテ施業ヲ編成スヘシ
- 第二條 施業案ハ一施業期ノ最終年度ノ前年度ニ於テ之ヲ檢訂スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ臨時之ヲ行フコトヲ得
- 第三條 本規程ニ於テ除地ト稱スルハ道路、河川、池沼、溝渠、固定防火線、土場、貯木場、不毛地、建物敷地、苗圃、貸付地、實地運約地、採草放牧專用等國有林木育成ノ用ニ供セザル土地ヲ謂フ
- 第四條 本規程ニ於テ施業制限地ト稱スルハ保安林、砂防法第二條ニ依リ指定地、部分林、混牧又ハ混農ノ林業法等法令、契約又ハ慣行ニ依リ施業上ノ制限アル土地ヲ謂フ
- 第五條 本規程ニ於テ準施業制限地ト稱スルハ施業制限地及除地ヲ除クノ外特設試驗林、參考林及國土ノ保安其ノ他公益ノ爲施業ノ制限ヲ要スル土地ヲ謂フ
- 第六條 面積ハ町チ單位トシテ步位迄ヲ示スヘシ
- 第七條 材積ハ實積ニ依リ四捨五入シテ單位ニ止ムヘシ
- 第八條 本規程ニ於テ主伐ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル伐採ヲ謂フ
 - 一、更新ノ爲行フ伐採
 - 二、林地チ林木育成以外ノ用ニ供スル爲行フ伐採
 - 三、被害ニ基ク伐採ニシテ跡地ニ造林ヲ要スルモノ

- 第九條 本規程ニ於テ間伐ト稱スルハ主伐以外ノ伐採ヲ謂フ
- 第十條 施業案編成ノ豫業ニ屬スル業務左ノ如シ
 - 一、森林ノ區劃
 - 二、地況ノ調査
 - 三、林況ノ調査
 - 四、將來施業見込ノ調査
 - 五、其ノ他施業關係事項ノ調査

第二章 施業案ノ編成

- 第十一條 事業區ハ森林配置ノ狀況、產物利用ノ程度、交通ノ便否及產物搬出ノ關係等ニ鑑ミ森林經營上適當ナル區域ニ依リ之ヲ設クヘシ
- 第十二條 事業區ノ名稱ハ地名ニ依ルヘシ
- 第十三條 事業區ハ森林ノ狀況及施業上ノ關係ニ鑑ミ之ヲ若干ノ林班ニ區劃スヘシ
- 第十四條 區劃線ハ成ルヘク均等ナラシムルヲ旨トシ其ノ過大ニ失スルヲ避クヘシ
- 第十五條 前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ人工ニ依リ之ヲ設クヘシ
- 第十六條 前條第一項ノ區劃線ニ在リテハ道路又ハ防火線等ニ兼用スヘキ場合ヲ除クノ外伐開チ行ハサルモノトス
- 第十七條 前項ノ伐開ハ當該林分ノ伐期ニ至ル迄視察線ヲ設ケテ之ニ代フルコトヲ得
- 第十八條 林班境界ノ要所ニハ保存ニ耐エヘキ標識ヲ設ケ第二號樣式ニ依リ隣接各林班ノ番號ヲ表示スヘシ
- 第十九條 林班番號ハ亞刺比亞數字ヲ用キ成ルヘク伐採方向ニ從ヒ順次之ヲ附スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第十八條 一林班内ニ於テ施業上取扱ヲ異ニスヘキ部分アルトキハ各之ヲ小班ニ區劃スヘシ但シ固定防火線、河川及伐開ヲ爲セル區劃線等ハ

小班ヲ設クスシテ別ニ其ノ區域ヲ劃スヘシ

第十九條 小班ノ記號ハ林班毎ニ平假名ヲ用キ第十七號ニ準シ先ツ林地ヨリ之ヲ附シ次ニ除地ニ及フヘシ但シ小班ニ孕在又ハ隣接セル小面積

ノ小班ニテ將來施業上ノ取扱ヲ同一ニ爲シ得ル見込ノモノハ主タル小班ノ記號ニ亞刻比亞數字ヲ附記シテ(い、い、い、等)其ノ記號ト爲ス

ヘシ

小班ノ境界明確ナラサルモノハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ表示スヘシ

第二十條 事業區、林班、小班及小班ト爲ササル除地ハ其ノ境界及面積ヲ測定スヘシ

第二十一條 前條ノ測定ヲ終リタルトキハ周圍測量圖ニ基キ第三號様式ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ

第二十二條 基本圖ヲ分圖トナス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ縮圖ヲ調製スヘシ但シ林相圖ニ依リ全事業區ヲ通

覽シ得ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二款 地況ノ調査

第二十三條 地況ハ氣象、地勢、土地及地位ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第二十四條 氣象ハ一事業區ヲ通シ氣温、湿度、雨量、霜雪、常風及暴風等ニ付調査スヘシ

第二十五條 地勢ハ一事業區ヲ通シ位置、海面高、海岸ヨリノ距離、山脈ノ走向、傾斜ノ概要、河川ノ狀態及比隣ノ狀況ニ付調査スヘシ

傾斜ハ平坦(五度未満)緩斜(二十度未満)急斜(三十五度未満)險阻(四十五度未満)絶險(四十五度以上)ノ五種ニ分ツヘシ

第二十六條 土地ハ一事業區ヲ通シ基岩ニ付調査シ小班毎ニ土質、深度(淺、中、深)結合度(堅、軟、鬆)及湿度(乾、潤、過)ニ付調査スヘシ

第二十七條 地位ハ氣象及土地ノ狀態略圖一ナル地方ヲ通シ五級(第一級乃至第五級)ニ分ナテ之ヲ定ムヘシ但シ場合ニ依リ上中下ノ三級ニ分

ツコトヲ得

前項ノ地位ハ一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムルコトヲ得地位ハ小班毎ニ之ヲ調査スヘシ

第三款 林況ノ調査

第二十八條 林況ハ小班毎ニ樹種、作業種、疎密度、林齡、齡級、成立、材積、平均生長量及林位ニ付調査スヘシ

第二十九條 疎密度ハ十分率ヲ用キ之ヲ示スヘシ但シ疎、中、密ノ三分チテ之ヲ示スコトヲ得

前項ニ依リ適切ニ疎密度ヲ表ハスコト能ハサルトキハ一町歩當ノ本數ヲ示スヘシ

第三十條 疎密度十分ノ三未満ナルモノハ之ヲ散生地トシ全部立木ナキモノ又立木アルモノ之カ爲造林上影響ナキモノハ之ヲ未立木地トス

第二十一條 異齡林ノ林齡ハ平均數ヲ以テ之ヲ示スヘシ此ノ場合ニ於テハ樹齡ノ範圍ヲ明示スヘシ

樹齡ニ著シキ差異アルトキハ其ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第三十二條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ林齡ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

擇伐喬林及竹林ニ在リテハ其ノ樹齡ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第三十三條 一齡級ハ喬林ニ在リテハ二十年、矮林及中林ニ在リテハ五年トス

齡級ハ羅馬數字ヲ用キ最幼級ヲ一トス

數段喬林及中林ノ上木、擇伐喬林並竹林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス

第三十四條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ト老木トノ齡級ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

第三十五條 森林ノ成立ニ關シテハ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況並作業ノ沿革等ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第三十六條 材積ハ林相及利用程度ニ鑑ミ適當ノ方法ニ依リ之ヲ調査シ第一施業期ニ伐採スヘキ林分ハ特ニ精細ナル方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ但シ施業案實行上其ノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木ト各別ニ、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ノミニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ

第三十九條 平均生長量ハ一町歩ノ現在材積ヲ林齡ニテ除シタル商ヲ以テ之ヲ示シ四捨五入シテ單位以下二位ニ止ムヘシ但シ樹齡ノ範圍ノ

ヲ示セルモノ、生長ノ休止セルモノ又ハ休止ニ近キモノニ付テハ生長量ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

竹林ノ平均生長量ハ既往ニ於ケル一年平均發生ノ新竹束數ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第四十條 第二十七條ノ規定ハ林位ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 林況調査ヲ終リタルトキハ其ノ成績ニ基キ第四號様式ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ

第四十二條 將來ノ施業見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ小班毎ニ左ニ掲グル事項ノ概要ヲ調査シ一事業區ニ對スル將來ノ施業方針ヲ定ム

ヘシ

第四款 將來施業見込ノ調査

第一、斫伐ニ關スルコト

第三編 國有林野ノ經營

- 二、播種ニ關スルコト
- 三、手入及撫育ニ關スルコト
- 四、保護ニ關スルコト
- 五、其ノ他施業上必要ナルコト

第五款 施業關係事項ノ調査

第四十三條 施業關係事項ノ調査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ爲スヘシ

- 一、森林行政ニ關スルコト
- 二、土地所有ノ沿革ニ關スルコト
- 三、境界及接續地ノ狀況ニ關スルコト
- 四、森林ニ對スル民情及山祿ノ狀況ニ關スルコト
- 五、森林保護ニ關スルコト
- 六、林産物ノ需要供給ニ關スルコト
- 七、國有林以外ノ林業及他ノ産業トノ關係ニ關スルコト
- 八、交通及運搬ニ關スルコト
- 九、勞働者ノ需要供給、賃金及技能ニ關スルコト
- 十、林産物ノ價格及其ノ販賣上ノ慣習ニ關スルコト
- 十一、森林ノ作業ニ關スルコト
- 十二、施業制限ニ關スルコト
- 十三、既往ノ收支ニ關スルコト
- 十四、存廢區別變更ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ニ關シ必要ナルコト
- 十五、其他参考上必要ナルコト

第二節 本業

第四十四條 施業案編成ノ本業ニ屬スル業務左ノ如シ

- 一、樹種及作業種ノ確定
- 二、作業級及伐採列區ノ設置
- 三、輪伐期、回歸年、更新期及整理期ノ確定
- 四、施業期編入
- 五、伐採量ノ算出
- 六、伐採順序ノ確定
- 七、造林方法ノ確定
- 八、施業上必要ナル施設ノ計畫
- 九、收穫及造林基案ノ調製
- 十、施業案説明書ノ調製

第一款 樹種及作業種ノ確定

第四十五條 樹種ハ地況及林況ノ現狀、第四十二條及第四十三條調査ノ結果並左ノ各號ニ付考量ノ上之ヲ定ムヘシ

- 一、當該地方又ハ類似ノ土地氣候ヲ有スル他ノ地方ニ於ケル造林ノ成績及天然生ノ生長狀態
- 二、材積生長及價格生長ノ良否
- 三、造林及保護ノ難易
- 四、作業級設置ノ關係

第四十六條 作業種ハ左ノ七種ニ分ツ

- 一、皆伐喬林作業
- 二、數段喬林作業
- 三、前更喬林作業
- 四、擇伐喬林作業
- 五、矮林作業
- 六、中林作業
- 七、竹林作業

前項各號ニ屬セサル作業種ハ便宜之ト類似ノ作業種ト看做シ取扱フヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第四十七條 作業種ハ地況及林況ノ現狀、第四十五條ニ依リ確定シタル樹種、林業ノ集約度並施業制限ノ事項等ニ鑑ミ之ヲ定ムヘシ

第二 款 作業級及伐採列區ノ設置

第四十八條 作業級ハ一事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐期ニ依リ施業シ得ヘキ林分ヲ集合シテ之ヲ設クヘシ但シ作業級組成ノ要素ニ大差アル數種ノ林分交互錯綜セルモノ又ハ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコト能ハサルカ如キ小面積ノ林分ニ付テハ各別ニ作業級ヲ設クルコトヲ要ス

施業制限地及準施業制限地ニ於ケル作業級ハ森林法施行手續第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ設クヘシ

第四十九條 伐採列區ハ齡級配置ノ整理、木材ノ需要供給、產物搬出ノ關係及森林間接ノ效用等ニ鑑ミ之ヲ設クヘシ

第五十條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ羅馬數字ヲ用キテ之ヲ附スヘシ

第三 款 輪伐期、同歸年及整理期ノ確定

第五十一條 輪伐期ハ最多ノ純益ヲ得ルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ但シ特ニ國ニ必要ナル材種ノ生産及間接ノ效用ヲ目的トスル森林ニ付テハ之ニ適應スル輪伐期ヲ選定スヘシ

第五十二條 數段喬林及中林ノ上木ノ輪伐期ハ下木輪伐期ノ整數倍トスヘシ

第五十三條 擇伐喬林ノ同歸年ハ其ノ輪伐期ノ整數トスヘシ

第五十四條 林相ノ改良ヲ要スル爲輪伐期ヲ以テ取扱フヲ不得策トスル森林ニ在リテハ特ニ整理期ニ依リ施業スヘシ

前項ノ整理期ハ現在林ノ整理後收穫ノ中斷セサル範圍内ニ於テ更新上及經濟上有利ナルコトヲ期シ之ヲ定ムヘシ

第四 款 施業期編入

第五十五條 一施業期ハ十年トシ各施業期ニハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ用キテ番號ヲ附スヘシ

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當フル林分ハ成ルヘク第一期施業期ニ編入スヘシ

一、既ニ輪伐期ニ達シタルモノ及今後一施業期間ニ輪伐期ニ達スヘキモノ

二、林相及齡級配置ヲ整理スル爲速ニ伐採スヘキモノ

三、區劃線及防火線設置、防風準備其ノ他施業ノ必要ニ依リ速ニ伐採スヘキモノ

第五十七條 伐採順序又ハ林相改良ノ必要ニ依リ一輪伐期又ハ整理期ノ始ニ於テ伐採シ同期間ニ於テ更ニ伐採スヘキ林分ハ之ヲ相當施業期ニ編入スヘシ

第五十八條 一輪伐期間又ハ整理期間ニ伐採スルヲ不利ト認ムル林分ハ當該期間ノ施業期ニ編入スヘカラス

第五 款 伐採量ノ算定

第五十九條 伐採量ハ第一期施業期ニ限リ主伐ト間伐トニ區別スヘシ

第六十條 主伐ニ係ル伐採量ハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ノ收入ニ大差ナカラシムルヲ期シ之ヲ定ムヘシ

施業上特別ノ事由アル場合ニ於テハ材積ヲ標準トシ其ノ伐採量ヲ定ムルコトヲ得

第六十一條 一施業期ノ面積ハ當該作業級各施業期編入面積合計ヲ輪伐期、同歸年又ハ整理期ニテ除シタル商ノ十倍ヲ標準トスヘシ但シ輪伐期同歸年又ハ整理期ニシテ十年未滿ノ端數アル場合ニ於テハ最終ノ施業期ノ面積ハ此ノ商ノ端數倍ヲ標準トスヘシ

大面積ノ散生地ハ之ヲ控除シテ前項標準面積ヲ算定スヘシ

第六十二條 第六十條第二項ニ依リ材積ヲ標準トシテ伐採量ヲ定ムル場合ニ於テハ第一期施業期ノ主伐材積ハ當該作業級總材積ヲ輪伐期又ハ整理期ニテ除シタル商ニ其ノ最近連年生長量ノ半數ヲ加ヘタルモノノ十倍ヲ標準トスヘシ

第六十七條ニ依リ調査セル臨時伐採量ニシテ材積平分以上著シキ影響アリト認ムルトキハ當該作業級ニ屬スル相當分量ヲ前項ノ標準量ヨリ控除スヘシ

第六十三條 各施業期ニ編入セル合計面積カ第六十一條ノ標準面積ニ比シ著シキ過不足アルトキハ適當ノ林分ヲ後施業期ニ繰下ケ又ハ前施業期ニ繰上ケ標準面積ニ近カラシムヘシ但シ施業上必要アル場合ニ於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヲ超エサル面積ヲ増減スルコトヲ得

前項ノ規定ハ材積ヲ標準トスル場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐期ニテ除シタル商ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ狀況ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第六十五條 第一及第二期施業期ニ編入セル林分ノ主伐材積ハ平均伐期齡ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ第三十九條第一項但書ニ依リ平均生長量ノ計算ヲ省略セル林分ニ在リテハ現在材積ヲ以テ主伐材積ト看做スヘシ

第六十六條 間伐ニ係ル伐採量ハ第四十二條第一號第三號及第四號ノ調査ニ基キ第一期施業期ニ於テ其ノ實行ヲ要スヘキ林分ヲ調査シテ之ヲ定メ其ノ面積ハ實行區域ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第六十七條 第一期施業期ニ於ケル豫見シ難キ臨時ノ伐採量ハ既往ニ於ケル平均年額ノ十倍ヲ標準トシ一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムヘシ

第六 款 伐採順序ノ確定

第六十八條 伐採ノ順序ハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ定ムヘシ

一、齡級配置ノ整理

第三編 國有林野ノ經營

- 二、斫伐及運材事業ノ便益
- 三、造林上ノ便益
- 四、各種危害ノ豫防

第七款 造林方法ノ確定

第六十九條 造林方法ハ左ノ事項ヲ調査シ作業級毎ニ之ヲ定ムヘシ

- 一、種苗供給ニ關スルコト
- 二、地拵ニ關スルコト
- 三、播種ニ關スルコト
- 四、補植ニ關スルコト
- 五、手入及撫育ニ關スルコト

第八款 施業上必要ナル施設ノ計畫

第七十條 左ノ事項ニ關スル設備又ハ工事ニシテ第一施業期ニ施設ノ必要アルモノハ其ノ大體ノ計畫ヲ立ツヘシ

- 一、管理及保護ニ關スルコト
- 二、造林ニ關スルコト
- 三、利用ニ關スルコト
- 四、國土保安及治水ニ關スルコト
- 五、其ノ他施業上必要ナルコト

第七十一條 前條第三號ニ關スル計畫ハ左ノ各號ニ付概略ノ調査ヲ爲シ全般ニ關スル計畫ヲ豫定シタル後第一施業期ニ實行ヲ要スル分ニ付之ヲ爲スヘシ

- 一、利用區域内ニ於ケル林地ノ面積、年伐量及材種別搬出量(貯木場ニ付テハ材種別貯木量)
- 二、事業ノ種類、程度、數量及經費
- 三、森林利用上ニ及ボス影響
- 四、損益計算
- 五、事業種類選定ノ理由

第九款 收穫及造林基案ノ調製

第七十二條 收穫基案ハ第四十五條乃至第六十八條ノ調査ニ基キ第五號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七十三條 造林基案ハ森林調査簿收穫基案及第六十九條ノ調査ニ基キ作業級毎ニ第一施業期ニ於ケル造林事業ヲ定メ第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十款 施業案說明書ノ調製

第七十四條 施業案說明書ニ於テハ左ノ各項ニ付記述スヘシ

- 一、地況及林況並其ノ調査ノ方法
- 二、施業關係事項
- 三、森林區畫
 - (イ)事業區ノ面積、林班數、林班ノ各面積及區劃設計ノ理由
 - (ロ)伐採列區設定ノ理由
 - (ハ)小班ノ數及其ノ平均面積
 - 四、將來ノ施業計畫
 - (イ)樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期選定ノ理由
 - (ロ)伐採量及其ノ算定ノ方法
 - (ハ)伐採順序確定ノ理由
 - (ニ)造林方法及其ノ確定、造林面積並造林費概定額
 - (ホ)通路、搬路、貯木場、防火線、苗圃、砂防植栽其ノ他施業上必要ナル施設ノ計畫
 - (ヘ)將來ノ收支見込
 - (ト)施業案實行ニ關スル意見
 - (チ)其ノ他必要ナル事項
- 五、施業案編成ノ功程及經費

施業案說明書ニハ事業區ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添付スヘシ

第三章 施業案實行ノ照査

第三編 國有林野ノ經營

第七十五條 斫伐及造林實行ノ結果ハ第七號及第八號様式ニ依リ照査簿ヲ調製シテ之ヲ記入シ事業豫定案編成及施業案檢訂ノ資料ト爲スヘシ
 第七十六條 施業案實行ノ結果施業案説明書記載ノ事項ニ關シ訂正又ハ追補ヲ要スル事項及其ノ他施業案ノ檢訂上必要ナル事項ハ第九號様式ニ依リ施業沿革史ヲ調製シ之ヲ記入スヘシ
 第七十七條 斫伐照査簿、造林照査簿及施業沿革史ハ事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ

第四章 施業案ノ檢訂

第七十八條 施業案ノ檢訂ニ關シ本章ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス
 第七十九條 施業案ノ檢訂ニ付テハ斫伐照査簿、造林照査簿、施業沿革史、豫定案實行簿其ノ他必要ナル參考資料ニ依リ當該施業期間ニ於ケル斫伐、造林及第七十條ニ依リ施設ニ關スル計畫ノ實行狀況ヲ調査シ施業案ノ適否ヲ審査スヘシ
 第八十條 森林區劃及基本圖ノ補修方法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、森林區劃ニ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ部分ニ對シ區劃設計ヲ爲シ之カ測定ヲ爲スヘシ
 二、林班中分割シタルモノノ番號ハ原番號ノ支番號(支番)ヲ附シ刪除シタルモノハ缺番號トシ追加増設シタルモノハ終尾ノ次番號ヨリ順次ニ之ヲ附スヘシ但シ全般ニ亘リテ補修ヲ要スルトキハ總テ林班番號ノ改訂ヲ爲スヘシ

三、基本圖ハ森林區劃中小部分ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ部分ニ對シ之ヲ補修シ大部分ノ變更ヲ爲シタルトキハ新ニ之ヲ調製スヘシ
 第八十一條 檢訂ニ關スル事項ノ調査ヲ終リタルトキハ新ニ森林調査簿、林相圖、收穫基案及造林基案ヲ調製スヘシ
 第八十二條 施業案説明書ニハ從前ノ記載事項中異動アリタルモノ及變更又ハ追補シタルモノヲ記載スヘシ

第五章 雜則

第八十三條 大林區署長ハ施業案ノ編成ニ關スル業務實行ニ付其ノ署員中ヨリ編成員ヲ選定シ施業案ニ關スル業務ヲ處理スヘシ
 第八十四條 大林區署長ハ各課長及造林、利用並土木業務擔任ノ各上司官吏ヲシテ其ノ擔任業務ニ關スル事項ニ付施業案編成ニ參與セシムヘシ

大林區署長ハ前項ノ官吏ヲ施業案編成審議員ニ命ジ施業案編成ニ關スル事項ヲ審議セシムヘシ
 第八十五條 大林區署長ハ施業案編成員ヲシテ事業區毎ニ豫メ左ノ事項ヲ概査セシメ施業計畫ニ付指揮ヲ受ケシムヘシ

- 一、事業區ノ面積及設定理由
- 二、地況及林況
- 三、事業區ノ位置及林班區劃

四、施業關係事項

- 五、樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期
- 六、第一施業期編入見込ノ箇所、面積及材積
- 七、伐採順序
- 八、造林計畫
- 九、施業上必要ナル施設ノ企畫
- 十、收支關係
- 十一、其ノ他施業案編成上必要ナル事項

第八十六條 大林區署長ハ施業案編成審議員ヲシテ施業案編成員ノ概査シタル前條ノ事項ニ付審議セシメ施業ノ方針ヲ決定スヘシ
 大林區署長ハ當該事業區ノ上司編成員、當該小林區署長及其ノ他必要ト認ムル官吏ヲシテ前項ノ審議ニ參與セシムヘシ

第八十七條 大林區署長前條ニ依リ施業ノ方針ヲ決定シタルトキハ直ニ之ヲ報告シ編成員ヲシテ其ノ方針ニ基キ編成ノ業務ヲ續行セシムヘシ
 第八十八條 前二條ノ規定ハ施業案編成中施業方針ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 一事業區ノ施業案編成ヲ終リタルトキハ大林區署長ハ直ニ之ニ關スル圖案簿表(基本圖ヲ除ク)ノ謄本ヲ進達シ認可ヲ受ケヘシ
 大林區署長前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ圖案簿表ノ謄本ヲ小林區署長ニ交付スヘシ

第九十條 大林區署長ハ施業案ノ檢訂ニ從事スル官吏ヲシテ左ノ各號ニ付補修又ハ變更ノ要否及其ノ結果ニ基キ伐採量ノ増減ヲ調査シ指揮ヲ受ケシムヘシ

- 一、事業區及林班ノ區劃
 - 二、樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期
 - 三、伐採順序
 - 四、伐採順序
 - 五、造林ノ方法
 - 六、施業上必要ナル施設ノ企畫
- 第九十一條 第八十三條、第八十四條及第八十六條乃至第八十九條ノ規定ハ施業案ノ檢訂ニ之ヲ準用ス但前條各號ノ事項ニ異動ナキ場合ニ於テハ第八十七條ノ規定ニ依リ報告ヲ要セス

第三編 國有林野ノ經營

第九十二條 斫伐照査簿造林照査簿及施業沿革史ノ記載ハ小林區署長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
 第九十三條 施業案ノ臨時檢訂ヲ行ハムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第十號様式ニ準シタル事業豫定表ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ
 第九十四條 施業案ノ實行上一部ノ修正ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ修正ヲ要スル事由ヲ具シ修正圖案簿表ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 一、收穫豫定案ノ不實行箇所ヲ後施業期ニ繰下ケムトスルトキ
 二、施業案實行ノ都合ニ依リ第七十條各號ノ計畫ヲ變更セムトスルトキ
 三、施業案ノ實行ニ必要ナル注意事項ヲ追補セムトスルトキ
 四、國有林野事業規程第五條各號ノ一ニ該當スルトキ
 前項第三號ノ場合ニ於テハ其ノ都度追補シタル注意事項ヲ報告スヘシ
 第九十五條 毎年度施行スヘキ施業案ノ編成及檢訂業務ノ豫定ハ第十號様式ニ依リ前年度十二月末日迄ニ之ヲ報告スヘシ
 第九十六條 施業案編成及檢訂業務ノ成績ハ第十一號様式ニ依リ一年度分ヲ取纏メ翌年度六月末日迄ニ之ヲ報告スヘシ

附 則

第九十七條 本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第九十八條 明治三十五年四月訓令第六號、明治三十九年四月内訓令第九十一號及明治四十三年六月達林第二千八百十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(様式省ス)

規程ノ改廢ハ前記ノ二件ヲ以テ最終トシ今日ニ至リシモ原生林又ハ之ニ準スヘキ森林中學術上ノ考證トシテ必要ナルモノ著名ナル勝景地及名所舊蹟ノ風致ヲ保持助長スル森林、高山植物ノ生育セル區域等一度之ヲ荒廢セシムルトキハ人力ヲ以テ恢復シ難キモノニ對スル保護ハ施業案規程ノミニテハ未タ其ノ目的ヲ達スルニ十分ナラサルモノアルヲ認メ大正四年六月左記通牒ヲ發シテ各大林區署長ノ注意ヲ促スコトナレリ

林第一四四號山林局長通牒 (大正四年六月九日)

左記各號ニ該當スル森林又ハ特種ノ產物ニ對シ特別ノ保護ヲ加フルハ國有林ノ經營其ノ他公共ノ利益増進上必要ト認ムル儀ニ付施業案ノ編成又ハ檢訂ニ際シテ周到ナル稽査ヲ爲スハ勿論當時管理經營上ニ於テモ遺漏ナク注意ヲ加ヘラレ別紙保護林設定ニ關スル注意事項參照ノ上之カ設定計畫ニ付遺憾ナキヲ期セラレ度尤保安林ニ編入スルヲ至當トスルカ如キ程度ノモノハ左記各號ニ包含セサル儀ト了知相成度右依命及通牒候也

造テ第一號第六號及第七號ニ該當スルモノニ付テハ施業案ノ編成又ハ檢訂ヲ待タズ此ノ際管内ニ涉リ一應調査ノ上別紙様式ニ依リ豫メ本官ヘ打合相成度

記

- 一、原生林又ハ之ニ準スヘキ林相ヲ有スル森林若ハ其ノ他ノ箇所ニシテ學術又ハ森林施業上ノ考證トシテ必要ナルモノ
 - 二、汽車汽船其ノ他主要ナル道路又ハ地點ヨリ望見シ得ル林分ニシテ著名ナル勝景地ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ
 - 三、名所舊蹟ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ
 - 四、公衆ノ享樂地又ハ將來公衆ノ享樂地トナルヘキ見込充分ナル箇所ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ
 - 五、舊記傳説ニ依ル名木及未タ人口ニ膾炙セサルモ其ノ形態大サ樹齡又ハ樹種等ニ於テ名木ニ準スヘキモノニシテ風教又ハ學術ノ考證上必要ナルモノ
 - 六、高山植物ノ生育セル區域ニシテ學術ノ研究上必要ナルモノ
 - 七、學術研究又ハ其ノ他ノ目的ニ依リ保護ヲ要スル鳥獸ノ蕃殖上必要ナルモノ
 - 八、醫藥又ハ工業用ノ特種ノ植物及學術又ハ經濟上最必要ナル土石ノ保存若ハ淡水生動物養殖上必要ナルモノ
- (注意事項並様式省略ス)

(二) 施業案編成業務實行員ノ組織及施業案確定ノ順序

施業案編成ノ業務ハ明治三十二年特別經營事業開始當時ニ在リテハ勅令第百十五號林野整理局官制ニ依リ同局ノ管掌ニ屬シ業務ノ分量及編成ノ緩急ニ鑑ミ各林野整理支局ニ適當ナル組數ヲ配置セラレタリ而シテ一組ノ人員ハ四名ニシテ技師一人技手二人雇一人ヲ以テ組織シ經濟上優位ニシテ然モ林業經營上最施業案編成ノ

急ヲ要スル國有林野ヨリ著手シ其ノ内外業務ヲ終レハ一切ノ圖簿ヲ林野整理支局長ニ提出シ支局長ハ其ノ當否ヲ審査シテ之ヲ農商務大臣ニ進達シ農商務大臣ハ更ニ林野整理支局長ヲシテ之ヲ檢査セシメ實行上支障ナシト認メタルモノニ對シテ認可ヲ與ヘ既ニ認可確定セル施業案ハ林野整理局及同支局ヨリ國有林野經營ノ常備機關タル山林局及大林區署ニ送付シテ直ニ之ヲ實行セシメタリ

明治三十三年九月勅令第三八五號ヲ以テ林野整理局官制廢止セラレ之ト同時ニ特別經營ニ屬スル業務ハ山林局及大林區署ニ分屬セシメラレタルヲ以テ施業案編成ノ事業モ亦以上局署ノ管掌ニ移レリ

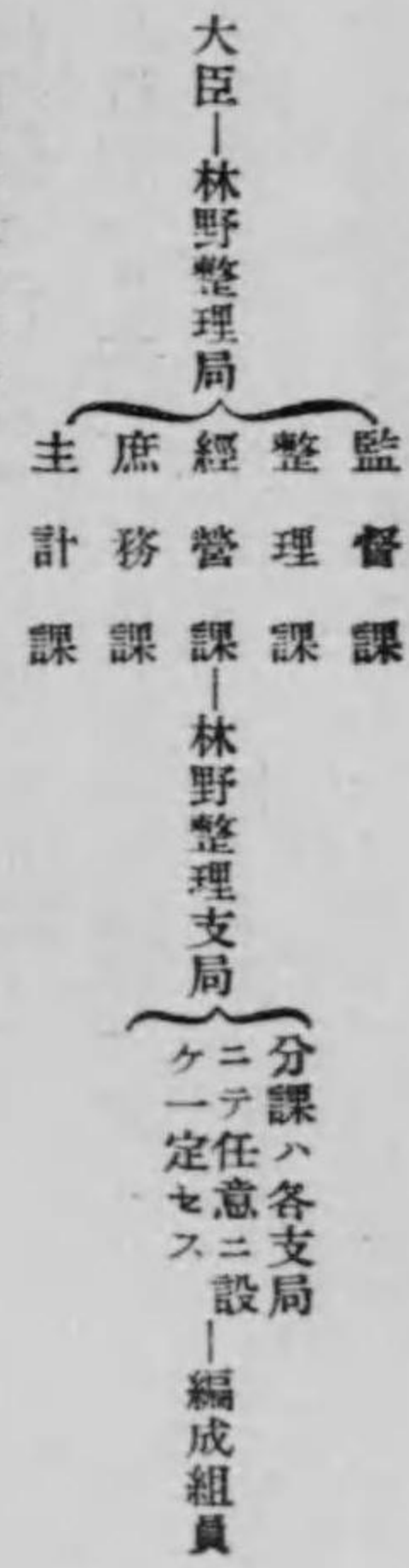
明治三十四年四月一日ニ至リ從來各大林區署ニ屬セル施業案編成業務ヲ山林局ノ直營ニ移セリ是レ業務ノ統一ト監督ノ周密及著手順序ノ適切トヲ期セムカ爲ニシテ赤坂區溜池大日本山林會ノ一部ヲ賃借シ内業ニ從事セシメタリ然レトモ本制度ハ照會往復ノ爲徒ニ多數ノ日子ヲ費シ其ノ效果豫定ノ如ク擧ラサリシヲ以テ明治三十五年度ヨリ再ヒ大林區署ニ歸屬セシメ組ノ編成ヲ變更シ編成員ハ技師一人技師四人助手(雇)二人ヲ以テ一組トナシ製圖員一人ヲ以テ一組トナセル外尙必要ニ應シ收穫表其ノ他諸表調製業務實行ノ爲技師一人技師二人ヲ一組トナセルモノアリ

三十五年十二月内訓林發第一五九三號ヲ以テ施業案ノ編成及整理手續ヲ定メラルルニ及ヒ是等ノ組織ヲ定メ一組毎ニ技師一名ヲ主査トシ主査ハ都合ニ依リ技師ヲ以テ之ニ代ラシムルコトヲ得技師若干名ヲ副査トシ之ニ雇員若干名ヲ附屬セシムルコトトセリ而シテ主査ハ一事業區ノ森林調査ヲ終了セシトキハ其ノ成績ニ依リ施業ノ方針ニ關スル事項ノ大體ヲ調査シ之ヲ大林區署長ニ提出シ大林區署長ハ林業課長ヲ委員長トシ林務課長、當該事業區ノ主査、當該方面ノ監督官吏當該小林區署長及必要ト認ムルトキハ隣接事業區ノ主査並其ノ主管小林區署長若ハ他ノ官吏二名

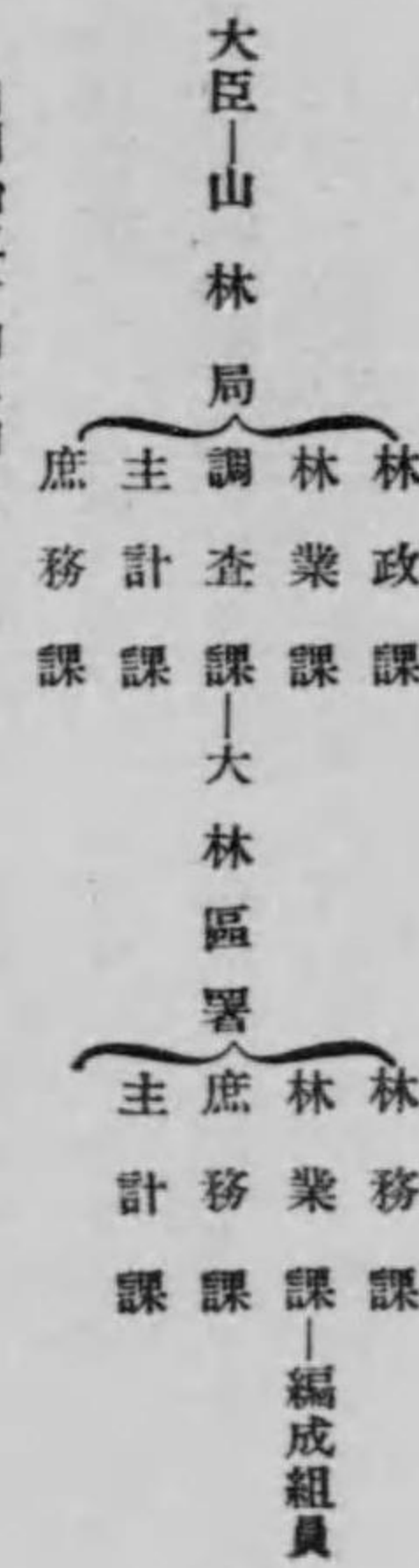
以內ヲ委員トセル委員會ヲ開キテ前記事項ノ適否ヲ審議セシメ其ノ決議事項ヲ至當ト認ムルトキハ之ヲ農商務大臣ニ報告シ一面ニ於テハ編成員ヲシテ同業務ヲ續行セシム既ニ一事業區ノ圖案簿製ヲ調製シ終レハ之ヲ農商務大臣ニ進達シテ其ノ認可ヲ受ケ然ル後其ノ謄本ヲ小林區署ニ交付シテ之カ實行ニ當ラシメタリ農商務大臣ハ委員會ニ於テ決議セル事項ノ報告ヲ受ケタルトキハ山林局長ヲシテ之ヲ審査セシメ尙シ不備ノ點アル場合ニ於テハ可成圖案簿表ノ完成セサルニ先チ適當ナル注意ヲ與ヘ以テ業務進捗上ノ障害ヲ少クスルニ力メ尙完成案進達ニ際シテモ山林局長ヲシテ更ニ念査ヲ重ネシメ實行上支障ナシト認メタルモノニ對シテ認可ノ指令ヲ爲スコトトセリ

明治三十七八年戰役以來政府ハ財政ノ緊縮ニ努メ特別經營事業ノ如キモ著シク縮少セラレ三十八年度ニ於テハ各林區署共ニ技師一名ヲ配布セシニ止マリ事實上從來ノ編成員組織ヲ破壞セラレタル觀アリシカ三十九年四月内訓林發第九一號ヲ出シテ編成及整理手續ヲ改メ組ノ制度ヲ廢止スルニ至レリ爾來今日ニ至ル迄組織ニ付テハ別ニ變更セシコトナキモ行政及財政ノ整理ニ伴ヒ四十五年度以後ニ於テハ編成面積ノ多少ニ拘ラス各大林區署ニ技師一名ツツヲ限リテ配置セラルルコトトナリタルヲ以テ上席編成員タル技師ハ其ノ他ノ編成員ノ指導監督ニ忙殺セラレ親シク巨細ノ業務ヲ見ルコトヲ得サルニ至レリ斯ル組織ニ於テ生シ易キ弊害ヲ防遏スル目的ニテ大正三年八月施業案規程ヲ定メラルルニ際シ從來ノ編成及整理手續ニ依ル施業方針委員會ノ制度ニ改善ヲ加ヘ造林土木及利用ノ業務ヲ擔任スル上席官吏ヲ施業案編成業務ニ參與セシメ此等各部トノ連絡ニ付一層遺算ナキヲ期セラレタリ然レトモ進達認可等ノ手續ニ至リテハ敢テ從前ト異ナル所ナシ今三十二年以降ニ於ケル施業案ノ編成ヨリ認可ニ至ル迄ノ系統ヲ示セハ左ノ如シ

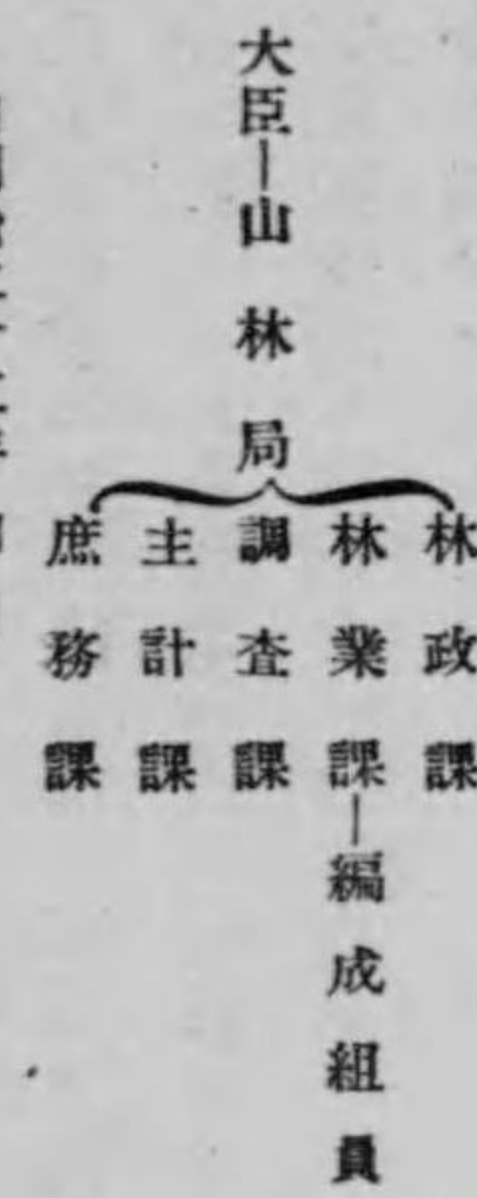
自明治三十二年四月
至同三十三年十月



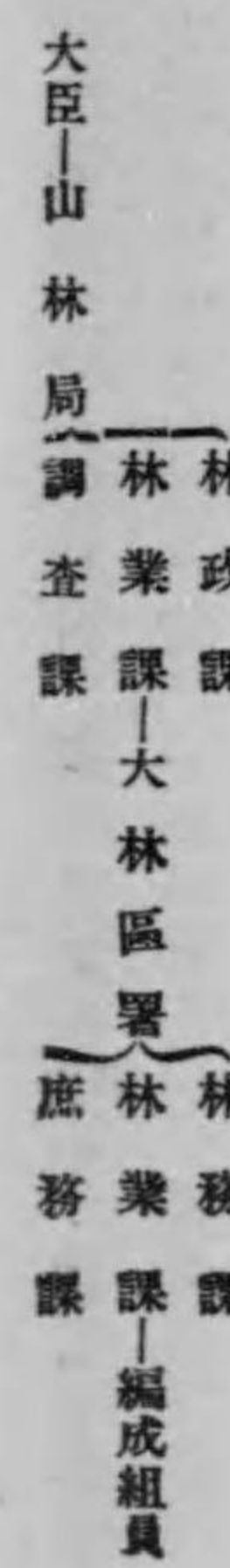
自明治三十三年十月
至同三十四年三月



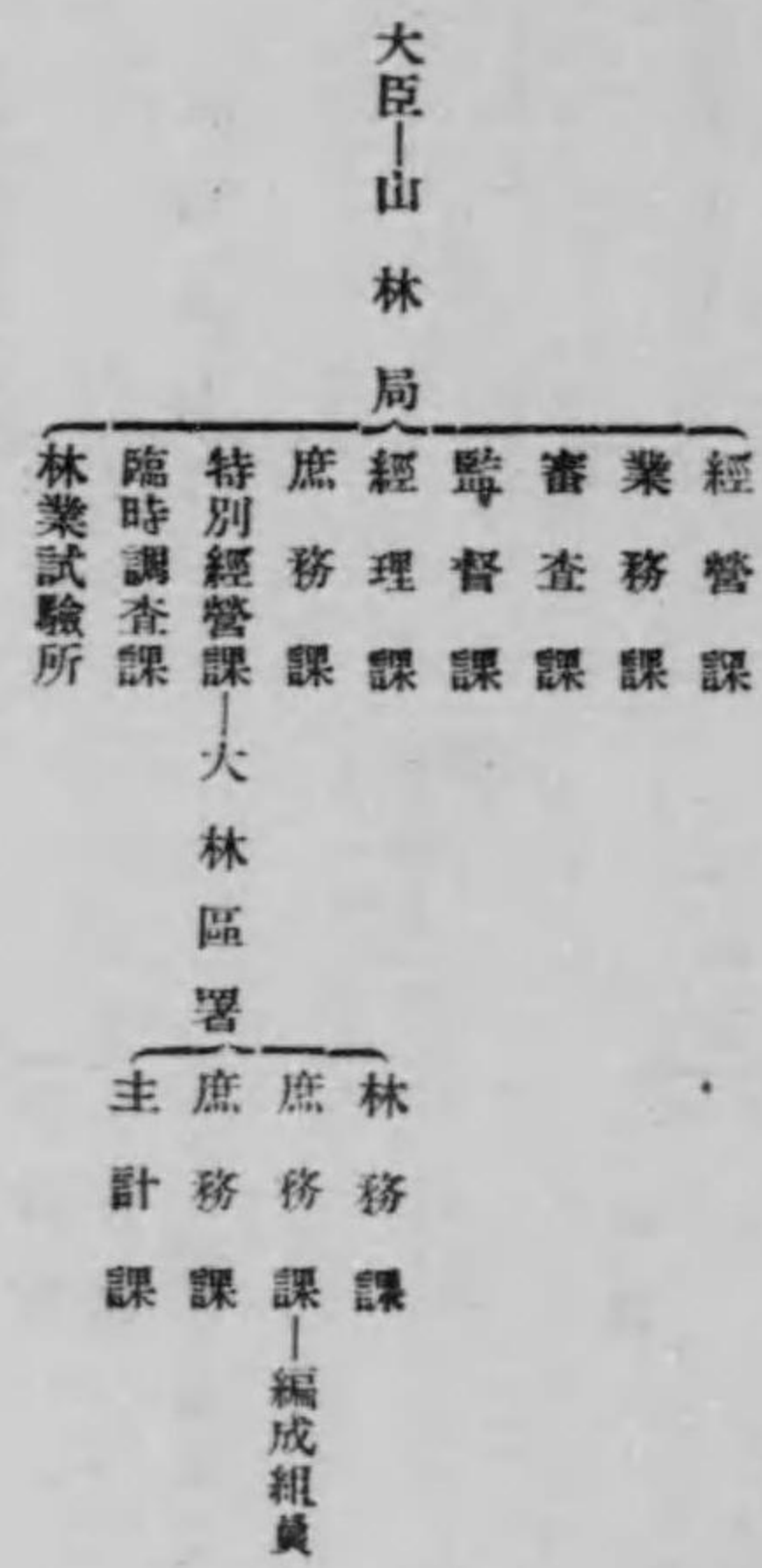
自明治三十四年四月
至同三十五年三月



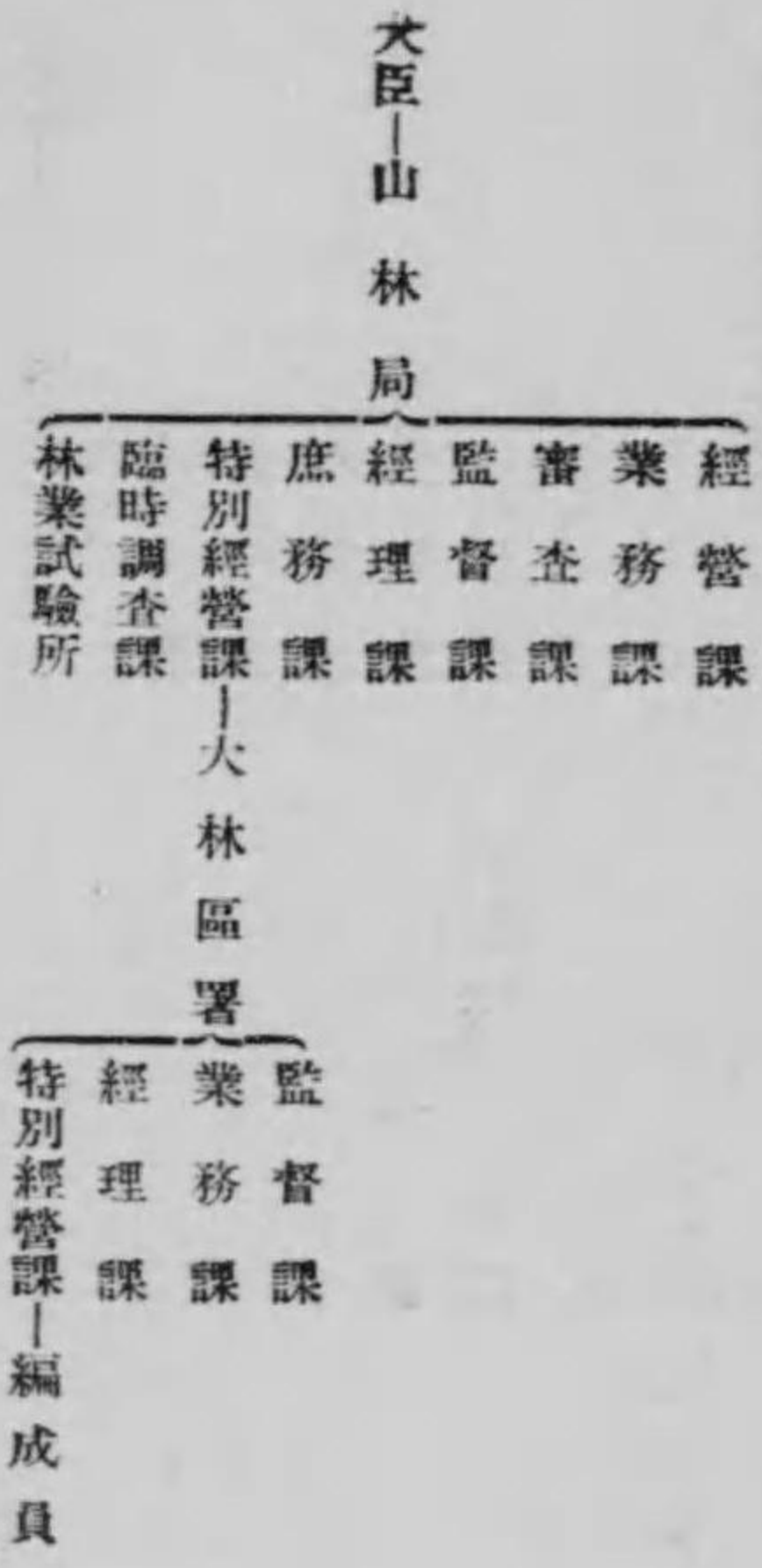
自明治三十五年四月
至同三十八年十一月



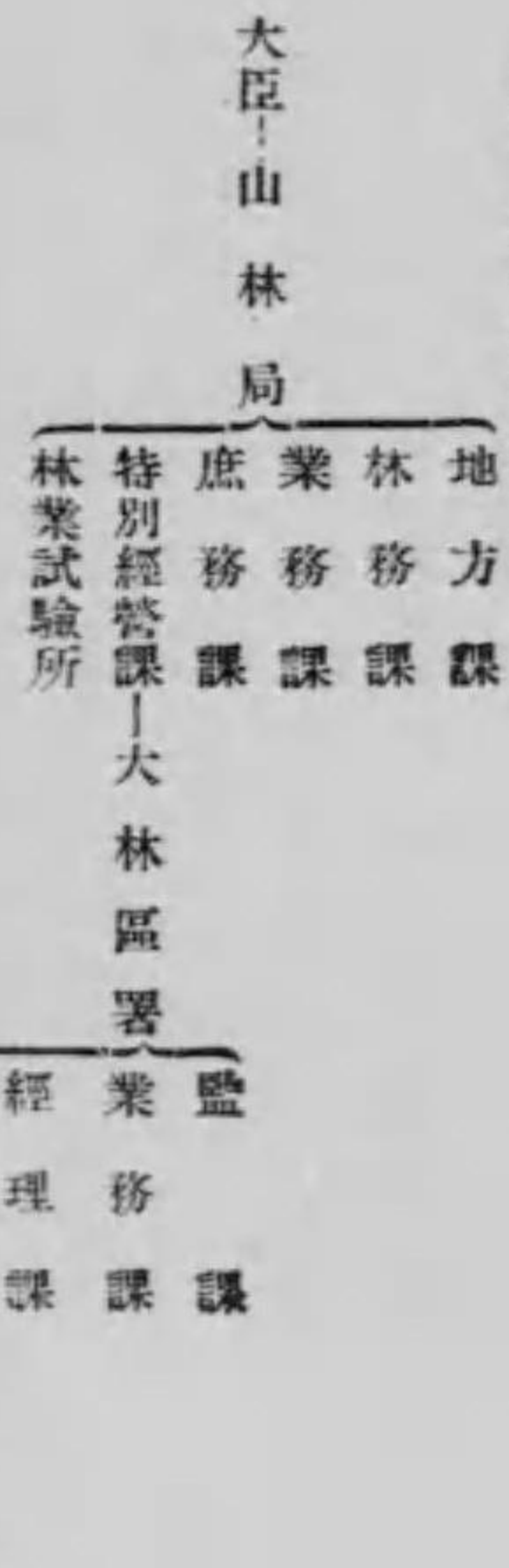
自明治三十八年十一月
至同三十九年三月



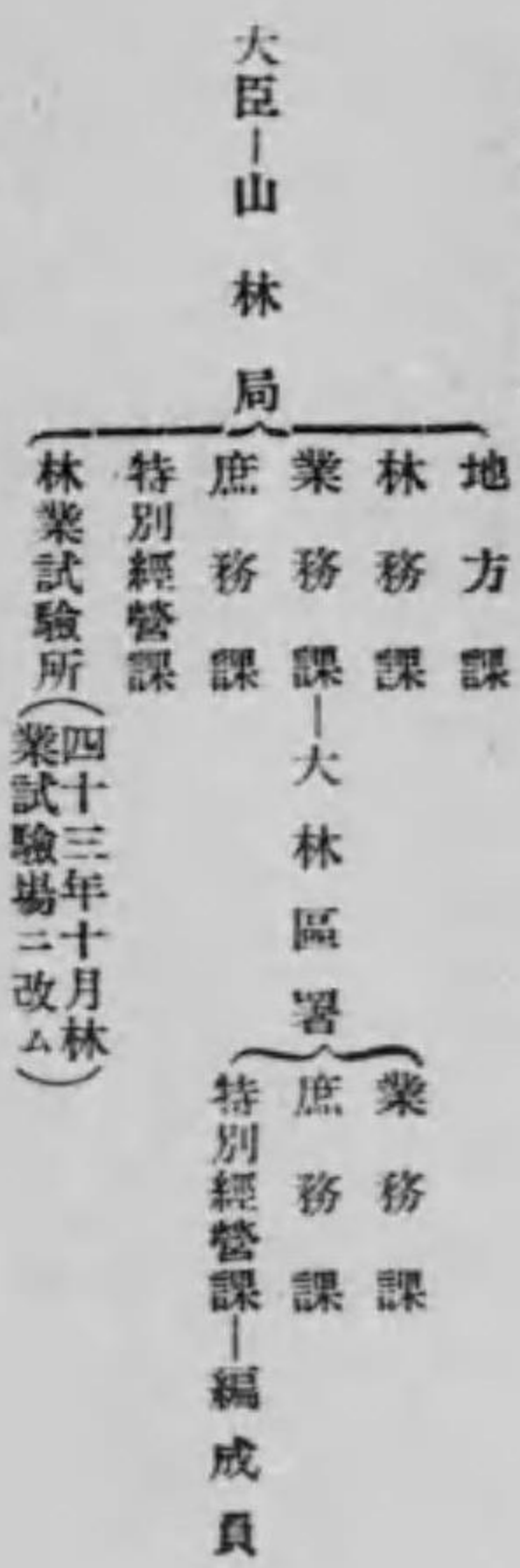
自明治三十九年三月
至同四十一年十二月



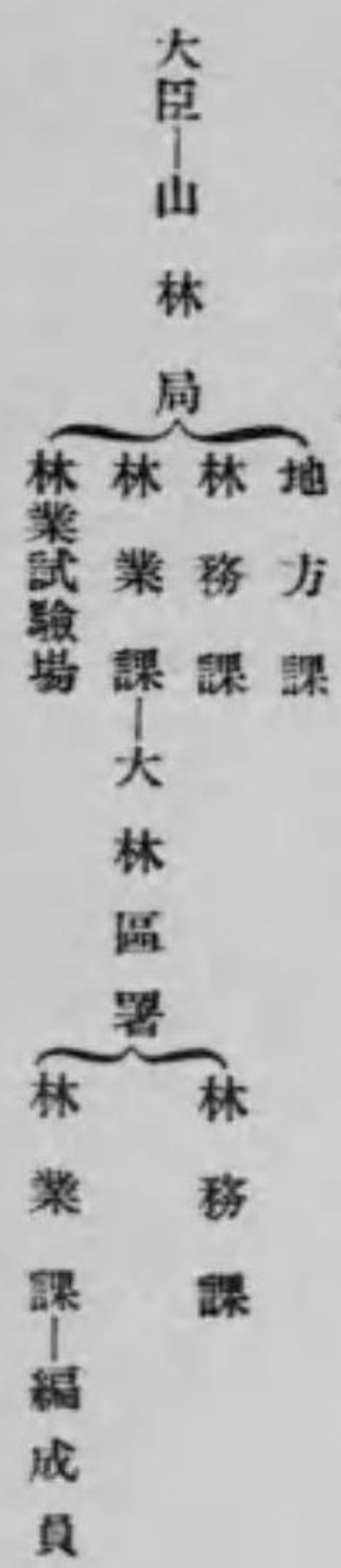
自明治四十一年十二月
至同四十二年五月



自明治四十二年五月
至大正二年六月



大正二年六月以降



(ホ) 施業案編成ノ成績

施業案編成業務實行ノ狀況ハ已ニ述ヘタルカ如クニシテ特別經營事業開始當時ニ在リテハ編成規程ノ精細ニ

過キタルト技術者ノ業務ニ習熟セサルトニ由リ功程極メテ遅々トシテ擧ラス殊ニ明治三十二年度ノ如キハ施業案編成員ヲシテ特別經營事業ノ計畫ニ關スル調査ヲ補助セシメタル爲其ノ進捗ヲ阻害シ十六組ノ編成員ヲ配付セシニ拘ラス僅ニ六百二十六町歩餘ノ施業案ヲ結了セシニ過キス三十五年ニ至リ施業案編成規程ヲ改正シ三十六年更ニ簡易施業案編成ニ關スル條文ヲ追加シテ本事業進行ヲ計リシ結果幾分ノ進境ヲ示シタレトモ其ノ後三十七八年戰役ニ會シ定員ヲ減少セラレシ爲茲ニ小頓挫ヲ來セリ

夫ヨリ三十九年ニ及ヒ施業案編成ニ關スル規程、手續及製圖式等ヲ改メテ功程ヲ進メタルト編成員モ亦數年來ノ經驗ヲ積ミ業務練熟シタルトニ依リ常ニ豫定以上ノ成績ヲ收ムルニ至リ明治四十二年度迄ニ編成ヲ終ヘタル面積ハ計畫ノ全數二百一十一萬二千町歩ヲ超過スルコト數萬町歩ニ達セリ然レトモ時勢ノ進展ニ伴ヒ當初計畫以外ノ國有林ニ就テモ尙施業編成ノ必要ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ四十三年度以降ニ於テモ其編成ヲ繼續シ大正元年度末迄ニ三百八十萬町歩餘ニ對スル施業案ノ調製ヲ完成シ同年八月施業案規程ヲ定メラルルニ及ヒ要存置國有林ハ凡テ施業案ヲ編成スヘキコトニ改メラレタリ尙左ニ明治三十二年度以降ノ成績ヲ掲ケ以テ本事業進捗ノ狀況ヲ明ニス

年度別施業案編成成績表

年度	實行員數			事業區數	編成面積	檢訂面積	經費
	組	技師	技手				
三二	一六			一	三,七二〇		二五,五五〇・九〇〇
三三	二六			一	二,五〇九・六二〇		五〇,九五〇・三〇〇
三四	一五			一	二六,七九六・四〇九		七三,一四四・四〇一

第三編 國有林野ノ經營

計	五	四	三	二	大正元	四	四	四	四	一〇	三	三	三	三	三	三	五
合	104,112	116,883	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841	118,841
計	26	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

四 國有林經營方針ノ變遷

明治四年民部省達第二二號ノ官林規則ハ主トシテ撫育増殖ヲ勸メ濫伐ヲ戒メ被害木ノ處分方法、用材利用上ノ注意、特種樹種ノ培養、行道樹ノ保護、水源涵養林ノ措置等ニ關スル事項ヲ指示セルモノニシテ全ク營林ニ對スル通義ヲ述ヘタルニ過キスシテ經營ノ方針ヲ示セルモノト稱シ難ク降りテ九年三月内務卿決議ヲ經テ官林調査假條例ヲ定メラレタルモ是亦主トシテ調査ニ關スル事項ヲ規定シ唯僅ニ經營方針ニ觸レタル事項ハ

保護培養ヲ要スル森林ノ種類ヲ指示セルニ止マレリ

爾來明治二十四年ニ至ル迄經營ノ方針ニ關シテハ特説スヘキモノナク同年四月農商務省訓令第十七號ヲ以テ施業案編成心得ヲ定メ其ノ第一條ニ於テ次ノ如ク施業案編成ノ方針ヲ指示セリ

第一條 森林ヲ保護シ之ヲ永遠ニ保續センカ爲常ニ左ノ三項ニ注意スヘシ

- 一、常ニ完全ノ林相ヲ維持シ力メテ將來最多ノ材積ヲ産出セシムルコト
 - 二、適實ナル植伐法ヲ施行シ力メテ風火災及蟲害ヲ豫防スルコト
 - 三、前項ノ被害若クハ其ノ他ノ關係ニ據ル收額ノ減少ヲ豫想シ之カ豫備ヲナスコト
- 乃チ當時ノ國有林經營ノ方針ハ多量得材主義ニシテ尙收穫ノ保續ヲ安固ナラシムル爲豫備林ノ設定ニ努メタルコトヲ知り得ヘシ次テ三十二年國有林野特別經營事業ノ開始セラルルニ方リ先ツ國有林經營ノ大方針ヲ確定スルノ必要ヲ認メ閣裁ヲ經テ大林區署長及林野整理支局長ニ對シテ次ノ方針ヲ示セリ

明治三十二年五月發第二十六號通牒 (大林區署長及林野整理支局長)

去十六日諮問會開會ノ際大臣演說中ニ述ヘラレタル國有林經營並整理ニ關スル方針ハ閣裁ヲ經テ決定相成候モノニ付必ス右ニ據リ計畫可相成此段依命別紙相添及通牒候也 (別紙第二章第三節參照)

本方針ハ民林ニ於テ生産ニ適セサル巨材ハ之ヲ國有林ニテ産出スルニ努メ普通ノ經濟林ニテハ多量得材主義又ハ純益最多主義ニ依リ經營スヘキコトヲ示シ更ニ進ンテ特種用材林ノ輪伐齡、森林保護ノ方法及部分林ノ設定並貸付ノ事項ニ迄言及シ且國有林ノ經營ハ總テ確實ナル施業案ニ依ルヘキコトヲ明示セリ又同年九月農商務省訓令第四十二號ヲ以テ制定セラレタル國有林施業案編成規程ノ第八十一條乃至第八十三條ニ於テ「用材産出ヲ目的トスル森林ノ輪伐齡ハ林利(各年ノ總收入ヨリ各年ノ造林費及管理費ヲ差引キタルモノ)ノ最大ナル時期ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

但シ管理費ハ當分之ヲ算入セサルコトヲ得「薪炭材產出ヲ目的トスル森林ノ輪伐齡ハ材積收穫ノ最大ナル時期ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ」特種ノ用材及薪炭材又ハ巨材ヲ產出スル目的ノ森林ニ在リテハ之ニ適應スル輪伐齡ヲ選定スルコトヲ得」ト規定セルカ如キハ何レモ前記ノ方針ニ則リ之ヲ敷衍シタルモノニシテ單ニ多量得材ヲ主義トセル方針ニ比スレハ頗ル複雑トナリタルノ觀アリ

明治三十五年四月農商務省訓令第六號ヲ以テ國有林施業案編成規程ヲ改正セラルルニ及ヒ其第五十六條ニ於テ「輪伐齡ハ利用ヲ保續シ國ノ需要ニ適スル材種ヲ多量ニ生産シ且最多ノ純益ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ定ムヘシ」ト規定セラレ用材材林ト薪炭材トニ依リ設制ノ主義ヲ區別セサルコトナリ主トシテ最多純益主義ニ依リシコトヲ窺知スルニ足ルヘシ蓋シ薪炭材ニ於テ常ニ材積收穫最多ノ輪伐期ヲ用ユルカ如キハ經濟上必スシモ得策ナラサルハ明瞭ナルコトナレハ舊規程ノ主義ヲ改正セシナラント思考スルモ該規程ノ方針ハ特種用材ノ輪伐期ニ對シ除外例ヲ設ケサリシカ爲此ノ點ニ付テハ却テ舊規程ニ遜色アリト云フヲ憚ラス

大正三年八月農商務省訓令第九號ヲ以テ國有林施業案規程ヲ定メラルルヤ前記ノ兩規程ノ長短ヲ取捨シ其第五十一條ニ於テ「輪伐期ハ最多ノ純益ヲ得ルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ但シ特ニ國ニ必要ナル材種ノ生産及間接ノ效用ヲ目的トスル森林ニ付テハ之ニ適應スル輪伐期ヲ選定スヘシ」ト規定セラレタリ依テ普通經濟林設制ノ原則トシテ最多純益主義ヲ採用シ特殊材ノ生産及國土保安及治水等ノ目的ヲ完フスルカ爲施業ノ制限ヲ要スル森林ニ在リハ各之ニ適應スル輪伐期ヲ用フルノ方針ニシテ之ヲ三十二年閣議ヲ經テ決定セル方針ニ比較スルニ彼ニアリテハ經濟林ニ對シテ純益最多主義及材積最多主義ヲ採用セシカ是ニアリテハ純益最多主義ヲ採用セシコト明治三十五年改正ノ規程ト同シキ點ニ在リ而シテ斯ノ如キ變遷ヲ來シタル主因ハ施業ノ集

約ヲ期シ計畫ヲ立ツルノ必要益切實ナルモノアルカ爲ニシテ要スルニ時勢ノ進運ニ伴ヒ前記方針ノ適用ニ變化ヲ來シタルモノト解スルヲ得ヘシ

第五節 林產物ノ處分

藩政時代ニ於ケル林產物ノ處分ニ付テハ各藩其ノ制ヲ異ニスト雖大體ニ於テ木材ハ城廓及諸建築堤防橋梁等ノ需用ニ供スルヲ主眼トシタルモノニシテ斫伐ヲ爲スニ方リテハ必ス藩吏實地ヲ檢分シ區域ヲ定メテ之ヲ伐採セシメタリ又治下ノ人民ニシテ風水震火ノ災ニ罹リタルトキハ無代ニテ小屋掛材ヲ給シ若ハ劣作凶荒等ニハ無役ニテ立木ノ伐採ヲ許シタリ

藩林ノ中ニテ立枯風折根倒等ノ損木アルトキハ藩吏ハ其ノ木數大小ヲ調査シテ極印ヲ鉗捺シ入札ニ依リテ賣却シ其ノ落札人ヲシテ之ヲ伐採セシメ薪炭林ハ多ク立木ノ儘之カ拂下ヲ行ヒタリ
其ノ他根柴枯枝ノ類ハ山下人民ニ隨意伐採採取スルヲ許シ路筋蕨竹萱ノ類ハ地元ニ限りテ採取セシメ或ハ入山ノ期ヲ定メ其ノ期限中ハ藩吏出張シテ一々鑑札ヲ渡シ各自ノ荷數ヲ點檢シテ代價ヲ徵收セシムル等各藩ノ取扱必スシモ一様ナラザリキ

維新以降明治三年ノ項ニ至ル迄ハ大體舊慣ニ依リ處分セルカ如ク三年三月民部省達第二五四號（第三編第二章第四節參照）ヲ以テ伐木ノ儀ハ都テ見込相立伺ノ上取計フヘキ旨布達セルニ見ルモ今日ノ如キ複雑セル取扱ヲ爲ササリシヲ知ラルヘシ翌四年七月官林規則ヲ定メラルルヤ立枯風折等住來ヲ妨ケ田園良木ヲ害スルカ爲止ムヲ得スシテ伐採スヘキ樹木ハ其ノ木品寸間ヲ改メ價ノ當否ヲ正シ伐採セシメ又鐵道船艦官舎水路橋梁

堤防用ノ木竹ハ民政部ヨリ當該官吏ヲ派遣シ又ハ地方廳官吏ヲシテ點檢伐採セシムルコトトセリ
 明治七年一月内務省ニ地理寮ヲ置キ森林ノ植伐ニ關スル事務ヲ主管セシメ次テ山林定額ヲ議シ作業費政務費
 ノ二類ニ分テ漸次官林保護ト利用トヲ併行セシムルニ努メタリ然ルニ十年一月地理寮ヲ廢シテ地理局ヲ置
 キ同局内ニ山林課ヲ設ケラルルニ及ヒ大ニ經費ヲ節減セラレテ事業ノ縮少ヲ見タリ十一年五月内務卿ヨリ太
 政官へ上請セシ山林作業費ノ件ヲ裁決セラレシカ其ノ上請ノ大意ハ維新後官林ニ放火シ官木ヲ盜伐スルモノ
 多キカ上ニ工事日ニ興リテ官林ノ伐採セラルルモノ亦多ク從テ明治九年度ニ於ケル官林ノ植栽本數ト斫伐本
 數トヲ比較スルニ斫伐ノ數遙ニ多大ナルヲ知ラルル依テ速ニ改良ヲ講セサレハ全國山林髡禿セン故ニ今日ノ急
 務ハ壯樹ヲ保護シテ老樹ヲ洗伐シ新植林ヲ増殖スルニ在リ之カ資金トシテ年來手入伐木ヲナシテ木曾、秋田、
 青森、門桁山四ヶ所ニ貯ヘタル木材ヲ發賣シ右代金ヲ一旦大藏省へ納付シタル上十一年度ヨリ金十萬圓ヲ別
 途ニ受ケ作業費ノ法ヲ以テ五ヶ年限之ヲ運用シテ監守巡規ヲ配置シ盜伐焚燒ニ備ヘ壯樹ヲ保護シ稚樹ヲ増殖
 シ而シテ木曾、飛彈、美濃、秋田、青森、高知六ヶ所ニ於ケル官林ノ老樹ヲ伐採シテ之ヲ發賣シ右收入ヲ以
 テ其ノ費ニ供シ後五ヶ年ニ至リ更ニ見込ヲ立テ之ヲ稟議セント云フニ在リキ
 山林作業費ハ前記六ヶ所ノ老樹洗伐ニ依ル收入ヲ充ツルノ筈ナリシモ同年六月内務卿ノ決議ヲ以テ其ノ他ノ
 府縣ト雖モ伐木季節ヲ過キタル老樹ハ時宜ニヨリ同様ニ取計フコトトナリタリ當時伐木ヲ三様ニ區別シ伐木
 掛ヲ派出シテ伐木スルヲ一等伐木ト稱シ主トシテ舊藩ノ制度ニ準據セル主伐ニ對シテ實施セラレ殖樹掛ヲシ
 テ一時伐木掛ヲ兼ネ伐木セシムルヲ二等伐木ト唱ヘ主トシテ老樹密林ノ手入ニ對シテ施行セラレ尙立木ノ儘
 請願人へ拂下ケ請願人ヲシテ伐木セシムルヲ三等伐木ト呼ヒタリ

十二年五月内務省ニ山林局ヲ設ケ局中ニ作業課ヲ置キテ益作業ヲ擴張セシカ其ノ翌六月作業課ヲ廢シテ更ニ
 殖樹、伐木、運材、運般、出納ノ五課ヲ置キテ事務ヲ進捗ヲ圖レリ斯クテ山林作業ヲ實行シ官林一切ノ用度ハ
 該經費ヲ以テ支辨スルコト二ヶ年ニ及ヒ十二年ノ如キハ森林定額ハ三萬五千九百圓餘ニシテ外ニ作業豫算額
 ハ四十萬四千五百二十九圓ニ上リシカ十三年ニ至リ其ノ政策宜シキヲ得サルモノトシ官林作業法ヲ廢シ定額
 ニ轉管ノ件ニ付同年七月内務省ヨリ太政官へ伺出テタル結果其ノ聽許スル處トナリ定額費ノ義ハ六月三十日
 達ノ通心得ヘキ旨指令アリタリ而シテ右作業法廢止ノ結果經費ハ金二十萬圓ニ削減セラレ林政ハ再ヒ保護ノ
 一點ニ傾キ山林作業ニ關スル殖樹以下ノ五課ヲモ廢セラレテ其ノ事務ハ官林課ニ移レリ
 明治十四年四月農商務省新置セラレ山林局ハ同省ニ移リテ官私有林ノ保善栽培伐木等山林ニ關スル一切ノ事
 務ヲ管掌スルニ至レリ當時山林局ノ定額ハ漸次遞減シテ十五年度ハ約十七萬八千餘圓ナリシカ十六年度ニ至
 リ近時山林ノ荒廢甚シキヲ以テ之レカ救済ヲ爲スノ要アリトシ巨額ノ經費ヲ國庫ニ仰カントシタレトモ刻下
 國費多端ノ際ナレハ先ツ定額費ヨリ一萬三千餘圓ノ金額ヲ流用シテ資金トシ別途事業ヲ企劃シ盜伐末木及枯
 損惡木ノ拂下ヲ爲シテ收入豫算定額外ニ收入金十四萬八千百圓ヲ舉ケ此ノ收入ヲ翌年度即チ十七年度ノ經費
 定額ニ加ヘテ十七年度ニ於ケル別途事業收入(此ノ内一部分ハ國庫ニ殘ス豫定ナリ)ヲ更ニ翌年度ノ經費定額ニ加ヘ次第二運轉シテ
 二十二年度ヲ期シテ事業ヲ整頓シ經費金六十萬三千八百餘圓ヲ以テ據置ノ計畫ヲ立テ十七年五月二十日農商
 務省ヨリ太政官ニ稟議セシニ同年六月二十四日稟議ノ趣ハ先以十七年度限開屆候條金額ハ十六年ニ於テ納受
 シ十七年度へ繰越支辨可致事但十八年度以降ノ分ハ其ノ節々詮議ニ及候儀ト心得ヘシトノ指令ヲ太政官ヨリ
 受ケタリ

此ノ方法ハ十八年度迄繼續施行セラレシカ十九年ニ至リテ同年度以降ハ一般ノ會計法ニ依リ一切ノ經費ハ定額金ノミヲ以テ支辨セサルヘカラサルヲ以テ從來計畫ノ事業ヲ繼續施業スルコト能ハサルカ故ニ茲ニ施設ノ方針ヲ改メ漸次林區ヲ設置シテ營林ノ基礎ヲ鞏固ニセントシ之ニ必要ナル資金ハ別ニ増額ヲ仰カンコトヲ期シ先ツ十九年度ノ費額ハ標準ヲ十七年度收入ニ採リテ金三十二萬五千圓ト定メ初年若干ノ林區ヲ設置シテ其ノ收入ヲ増加シ如此前年度ニ於テ増加セシ收入ハ翌年度直ニ増置林區ノ經費ト爲シテ國庫經營ノ定額費ヲ仰カス全ク森林經濟上ヨリ生スル收入ヲ以テ一切ノ經費ヲ處辨シ逐年之ヲ増加スルノ策ヲ立テ尙又林業經營ノ時期ヲ三期ニ分チ(一期ヲ十^年トス)第一期即チ明治二十七年年度ニ至リテ林區普設ノ目的ヲ達シ同年度ノ經費百二十六萬千九百三十圓ヲ以テ百六十六萬六千圓ノ收入ヲ得其ノ差四十萬四千七十圓ヲ國庫ニ殘スヘク第二期中ハ營林事業ヲ盛ナラシメテ官林一町歩ノ收入平均金一圓ヲ得ルヲ期シ第三期ニハ更ニ進ミテ林道開通ノ事業ヲ興シ三十ヶ年ノ後ハ一町歩ノ收入五圓以上ヲ得ヘキ方案ヲ樹テ之カ裁可ヲ得更ニ進テ國庫中ニ森林資金部ヲ設ケ森林ノ收入ハ他ノ金筋ト區別シテ此ノ資金部ニ收納シ其ノ部内ヨリ毎年ノ支出額ヲ定メ殘額ハ翌年度資金部ニ繰越スコトナレリ

二十三年二月勅令第六十九號ヲ以テ官有森林原野及產物特別處分規則ヲ發布セラレ其ノ中ニ農商務大臣ハ官有森林原野及其ノ產物ヲ競争ニ付セス隨意契約ヲ以テ貸渡シ又ハ賣却スル場合ヲ規定セラレ翌二十四年度ニ及ヒ收額表ノ可成正確ナルヲ期センカ爲同年四月訓令第十七號ヲ以テ森林施業ニ要スル諸案簿表附録ヲ定メ以テ森林利用ノ基準ヲ制定セラルルニ至レリ

以上記述スルカ如ク森林利用ノ方途ハ漸次發展ノ機運ニ向ヒ三十八年度ニ於テハ官行ニ依リテ主產物ノ伐採

ヲ爲シ必要ノ場所ニハ鋸機ヲ据エテ製材ヲ行フ等國有林產物ノ利用ニ對シ最有利ノ作業ヲ試行スル爲臨時事業トシテ經費金二十八萬三千九百七十六圓ヲ以テ俸給旅費及直接事業費ヲ支辨スルコトナリシモ三十九年度ニ於テハ該事業ハ均シク國有林經營事業ノ一部ニ過キササルヲ以テ森林經營ノ統一上歲出經常部林區署ノ款ヲ森林費ノ款ニ改メ國有林作業費中製材裝置ニ屬スル分以外ノ事業費ヲ併算シ製材裝置ニ係ルモノハ臨時部營繕費ノ款ニ移サレタリ其ノ森林費中ニ併算セラルヘキ事業費ハ森林費ノ款中事業費ノ項斫伐作業費ノ目ニ併算シ其ノ俸給ハ俸給及諸給ノ項ニ併算セラレタリ而シテ森林費ノ款全體ニ於テ約八十五萬圓事業費ノ項ニ於テ約七十萬圓ノ増加ヲ見タルカ四十一年度以降益進展シテ今日ニ及ヘリ以下更ニ產物處分ニ關スル主ナル事項ニ付分記セン

一 立木處分

主產物處分ノ方法ハ上述ノ如ク維新後官行ヲ以テ伐採處分セルモノト立木ノ儘處分セルモノトノ二様アリシモ明治十三年山林作業廢止以後ハ主トシテ立木處分ニ依リシモノノ如ク其ノ間唯幾分經費ヲ流用シ官ニ於テ伐採處分ヲ實行セシモ三十二年度ニ至リ之ヲ縮少シテ盜伐防止地元勞働者救濟等ノ爲ニ必要ナル程度ニ止メタリ然ルニ三十八年度ニ至リ聊カ其ノ度ヲ高メ森林更新上竝財政上官行伐採處分ヲ爲スヘシトノ說多數ヲ占ムルニ至リ遂ニ之カ實行ヲ見ルニ至レリ

今明治十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル主產物處分金額ヲ舉クレハ次ノ如シ

年 度	主產物處分下代	製材所製品處分下代	計
明治 一三	五二、五七〇	五二、五七〇	
同 一四	七八、七九一	七八、七九一	

明治	一五	六八、七一六	六八、七一六
同	一六	一八七、二一一	一八七、二一一
同	一七	二九五、一二三	二九五、一二三
同	一八	二三七、一九一	二三七、一九一
同	一九	三七六、一三六	三七六、一三六
同	二〇	五一三、四三一	五一三、四三一
同	二一	七五四、四四六	七五四、四四六
同	二二	五〇〇、二〇一	五〇〇、二〇一
同	二三	四九五、一九六	四九五、一九六
同	二四	五四〇、二五七	五四〇、二五七
同	二五	六二二、五九六	六二二、五九六
同	二六	八三六、五四三	八三六、五四三
同	二七	六三七、二七七	六三七、二七七
同	二八	八七五、七八八	八七五、七八八
同	二九	九六一、三七二	九六一、三七二
同	三〇	一、一四〇、〇五九	一、一四〇、〇五九
同	三一	一、一六八、八四五	一、一六八、八四五
同	三二	一、五一三、三四五	一、五一三、三四五
同	三三	一、七四八、〇七一	一、七四八、〇七一
同	三四	一、八六二、三六八	一、八六二、三六八
同	三五	二、二五〇、〇八一	二、二五〇、〇八一
同	三六	一、七四六、〇八二	一、七四六、〇八二
同	三七	二、五八〇、九八七	二、五八〇、九八七
同	三八	二、五三三、三三四	二、五三三、三三四
同		四〇〇、一八〇	四〇〇、一八〇

次ニ明治三十三年度ヨリ大正五年度ニ至ル斫伐面積ヲ掲クレハ左ノ如シ

同	三九	三、七七五、一五四	一、〇五四、五三五	四、八二九、六八九
同	四〇	四、三三八、七一一	二、九〇四、〇七八	七、二四二、七九一
同	四一	三、九六〇、四一六	四、四〇五、六〇六	八、三六六、〇二二
同	四二	七、三九六、八二二	一、一九四、四二七	八、五一一、二四九
同	四三	七、七一八、五五九	一、五四八、七三〇	九、二六七、二八九
同	四四	七、七九六、四四〇	一、五三六、五八一	九、三三九、〇〇九
大正	元	七、七五八、三二五	同	九、四〇六、五六一
同	二	十五四九、一一九	同	九、〇九七、九八五
同	三	八、〇五〇、五四〇	木工所	八、九九二、七六二
同	四	九、〇一八、九五二	同	九、六四五、七三九
同	五	三、五〇一、一三二	木工所	九、九二一、七五〇
同	斫伐	五、六〇九、三一六	八一一、三〇二	
同	木竹	三、五〇一、一三二	一四七	

斫伐面積表 (町未満切捨)

年 度	主 伐		間 伐		合 計	
	立木賣	官行斫伐	立木賣	官行斫伐	立木賣	官行斫伐
明治三三	三、六六七	町	一、五〇六	町	三、四、一八三	町
同三四	三、七、四六四	町	一、三、五五五	町	三、八、八一九	町
同三五	三、七、七二四	町	三、九五一	町	四〇、六、七五	町
同三六	三、五、九五五	町	四、一、二〇〇	町	四〇、七、七五	町
計	三、六六七	町	一、五〇六	町	三、四、一八三	町
計	三、七、四六四	町	一、三、五五五	町	三、八、八一九	町
計	三、七、七二四	町	三、九五一	町	四〇、六、七五	町
計	三、五、九五五	町	四、一、二〇〇	町	四〇、七、七五	町

第三編 國有林野ノ經營

年 度	區 別	材 質	積 量	立 木 處 分	官 行 斫 伐 資 材
明治三七	同	薪用材	四,三二一	—	四,三二一
同 三八	同	薪用材	四,一五五	—	四,一五五
同 三九	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
同 四〇	同	薪用材	四,七三三	—	四,七三三
同 四一	同	薪用材	四,四八二	—	四,四八二
同 四二	同	薪用材	四,三六六	—	四,三六六
同 四三	同	薪用材	四,七九七	—	四,七九七
同 四四	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
大正 元	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
同 二	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
同 三	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
同 四	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三
同 五	同	薪用材	四,八三三	—	四,八三三

備考
大正二年以後間伐面積ノ急ニ増加セルハ造林木ノ間伐域ニ達セシト經木構寸其ノ他ノ原料木ヲ全林内ヨリ選伐セシニヨル又表中括弧ヲ付シタルハ散生地面積ナリ

既往伐採量及立木處分ト官行斫伐資材トノ關係ハ左表ノ如シ

年 度	區 別	材 質	積 量	立 木 處 分	官 行 斫 伐 資 材
明治二四	同	薪用材	七五四、五四七、 二七八、九一八、 マナ	一〇〇%	—
同 二五	同	薪用材	一、〇〇〇、一三〇	一〇〇	—
同 二六	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 二七	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 二八	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 二九	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三〇	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三一	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三二	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三三	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三四	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—
同 三五	同	薪用材	一、一七八、六三四	一〇〇	—

第三編 國有林野ノ經營

明治三六	薪用	材材	二、〇三五、七二三	一〇〇	
同 三七	同 同	同 同	七、四三三、七一七	一〇〇	
同 三八	同 同	同 同	一、〇四八、九六八	九八、八三	一三、七%
同 三九	同 同	同 同	三、〇七七、八一九	九七、三、八	二六、二
同 四〇	同 同	同 同	一、五五二、六四六	九七、三、八	〇、二
同 四一	同 同	同 同	一、二八六、八八四	九六、一、〇	三九、〇
同 四二	同 同	同 同	一、一八四、一九八	九三、二、四	四六、六
同 四三	同 同	同 同	一、〇六八、七二一	九三、二、四	四六、六
同 四四	同 同	同 同	一、二〇九、三三〇	九四、七、三	五三、〇
大正 元	同 同	同 同	一、四九一、八四七	九四、七、三	五三、〇
同 二	同 同	同 同	一、五〇三、一七八	九四、九、一	五〇、三
同 三	同 同	同 同	一、二八七、一七八	九四、八、九	五一、九
同 四	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 五	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 六	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 七	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 八	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 九	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九
同 一〇	同 同	同 同	一、四二七、五二五	九四、九、九	五一、九

二、官行斫伐事業

官林ノ樹木ヲ處分スルニ官行斫伐事業ヲ行ヒタルハ已ニ述ヘタルカ如ク明治ノ初頭ヨリ一部ニ實施セラレタルカ如キモ稍組織的ニ之カ實行ヲ試ミタルハ明治十一年以降ニシテ同年六月内務省地理局内ニ官林作業ノ爲ニ特ニ官林作業課ヲ置キ官林ノ作業一切ヲ處理セシムルコトトセリ當時ノ作業機關及事務分掌ノ狀況ハ左記官林作業概規ヲ一覽セハ自ラ明瞭ナルヘシ

地理局官林作業概規 (明治十一年六月六日九裁)

官林作業ノ爲メニ特ニ官林作業課ヲ置キ更ニ課中ヲ分テ四掛トス其規程左ノ如シ

第一章 官林作業課

當課ハ官林作業一切ノ事ヲ總理スルモノトス其事務ハ左ノ如シ

第一條 官林ニ樹木ヲ繁殖セシムル事

第二條 官林ヲ伐斫スル事

第三條 官林ヲ發賣スル事

第四條 官林作業費ヲ出納スル事

第二章 殖樹掛

當掛ハ官林保護樹藝長兼履監守巡視等ノ事ヲ掌管スル者トス其事務ハ左ノ如シ

第一條 官林ノ經界ヲ正ス事

第二條 官林ノ多寡官木ノ増減ヲ調フル事

第三條 官林ヲ保護シ監守人巡視人ヲ配置監督スル事

第四條 官林繁殖ヲ謀リ新種新苗ヲ播種スル事

第五條 官林輪伐洗伐ノ見込ヲ立漸次之ヲ陳スル事

第六條 官林不時伐ノ時ニ當リ命ヲ承テ見込ヲ陳スル事

第三編 國有林野ノ經營

- 第七條 官林伐木ノ時ニ當リ林木ヲ伐木掛ヘ渡シ又ハ受取り及之ヲ檢スル事
- 第八條 伐木ノ際時々林中ヲ監視スル事
- 第九條 立枯風折盡付根返燒木等處分ノ事
- 第十條 官林中ノ動植物拂下取計フヘキ者アレハ見込ヲ具シテ申立ル事
- 第十一條 部分林處分ノ事
- 第十二條 各出張先ノ木材相場ヲ調フル事

第三章 伐木掛

當掛ハ官林伐斫ノ事ヲ掌管スル者トス其ノ事務左ノ如シ

- 第一條 一等伐木ノ時ニ當リ伐木費豫算ヲ立ル事
- 第二條 二等伐木三等伐木ノ時ニ當リテ當否ヲ考慮シ意見ヲ陳スル事
- 第三條 一等伐木ノ時ニ當リ其林木ヲ植樹掛ヨリ受取例規ニ從ヒ之ヲ伐木スル事
- 第四條 一等伐木ノ時ニ當リ例規ニ從ヒ植樹掛ヨリ受取例規ニ從ヒ之ヲ伐木スル事
- 第五條 伐木セル木材ヲ網場又ハ貯木場ヘ渡ス事
- 第六條 伐木ノ際契約ヲ爲シタル銀行ニ照會シテ植樹掛其他ノ給料等ヲ渡サシムル事

第四章 運材掛

當掛ハ官材運輸及發賣ノ事ヲ掌管スルモノトス其事務ハ左ノ如シ

- 第一條 伐木掛ヨリ木材ヲ受取ル事
- 第二條 伐木掛ヨリ受取りタル木材ヲ仕分ケ收藏スル事
- 第三條 木材定價ヲ伺ヒ定メ及時價ノ高低ニヨリ伺定メタル定價ヲ伺改ムル事
- 第四條 時宜見込木材ヲ入札又ハ相當拂ニスル事
- 第五條 木材發賣ノ上ハ出納掛ヘ照會シ代金ヲ受取ラシムル事
- 第六條 伺ノ上木材ヲ運搬スル事
- 第七條 月々各貯木木材増減表ヲ作ル事
- 第八條 各所木材相場ヲ調ヘ表ヲ作ル事

第九條 木材價乏ノ見込アル時ハ不時伐木ヲ申立ル事

第五章 出納掛

當掛ハ官林作業一切出納ノ事ヲ掌管スル者トス其事務ハ左ノ如シ

- 第一條 取細ノ事件タリトモ局長ノ檢印ナキ金錢ヲ出納スヘカラサル事
- 第二條 各掛ヨリ合評アル事件ハ速ニ査閱處分スヘキ事
- 第三條 會計局ニ照會シ金錢ヲ授受納拂スル事
- 第四條 興業營業ヲ分明ニ仕分ケ簿表ヲ精理スル事
- 第五條 定期アル日繰月繰簿表報告等ハ遲滞ナク差出スヘキ事

即チ官林作業課ハ更ニ殖樹、伐木、運材、出納ノ四掛ニ分レ今日ノ所謂官林斫伐事業ハ伐木運材ノ兩掛ニテ擔當セシヲ知ラルヘシ而シテ之ヲ伐木ノ種類ヨリ見レハ一二等伐木ハ即チ之ニ屬シ十一年度ニ於テハ羽後陸奥飛驒信濃土佐等ノ諸國ニ於テ十ヶ所木數五萬九百二十二本ノ一等伐木ヲ行ヒ伊豆陸奥讀岐諸國ノ九ヶ所ニ於テ八萬五千四百本及小木枝葉四十萬束炭五萬俵ノ二等伐木ヲ爲シ三等伐木ハ武藏國外二十ヶ國二百四十四個所ニ於テ木數百二十七萬七千七百九十七本小木枝葉二萬八千三十一束ニ上レリ當時ニ於ケル事業實行ノ順序ハ凡テ十一年六月允裁セラレタル伐木規則ニ明ナレハ之ヲ左ニ轉載スヘシ

伐木規則 (明治十一年六月二十八日允裁)

第一章

第一條 凡ソ官林ハ輪伐(樹ノ多寡木ノ生長ヲ謀リ林ヲ割シ年度ヲ分テ輪次ニ之ヲ伐ルヲ云フ俗ニ稱スル番切りナリ)洗伐(老樹又ハ密林ヲ洗スルヲ云フ俗ニ稱スル手入伐木ナリ)臨時伐(官省ノ依頼人民ノ請願又ハ燒枯損傷等ニテ伐斫スルヲ云フ俗ニ稱スル不時伐木ナリ)等別ノアリ右ヲ再別スレハ猶用材伐木薪炭伐木等ノ別アリト雖ヘトモ大要ヲ分テ左ノ三種トス

第三編 國有林野ノ經營

- 一 一等伐木
- 二 二等伐木
- 三 三等伐木

第二條 凡ソ伐木ハ伐木掛ニテ之ヲ擔當スルモノトス然レトモ木數寡少又ハ木種貴重ナラスシテ伐木掛ヲ派出スルヲ要セサル場合ニ於テハ
 殖樹掛官吏チシテ一時材木掛ヲ兼務著手セシムルコトアリ木數益寡少木種益貴重ナラスシテ殖樹掛チシテ兼務著手セシムルニ足ラサル時ハ
 立木ノ儘人民ニ拂下ケ伐木セシムルコトナシトナサス故ニ前條ノ如ク之ヲ定メタリ今詳ニ之ヲ區別スヘシ

一等伐木トハ故サラニ伐木掛ヲ派出シテ伐木スルチ云フ
 二等伐木トハ殖樹掛チシテ一時伐木掛ヲ兼務伐木セシムルチ云フ
 三等伐木トハ立木ノ儘願人ハ拂下ケ請願人チシテ伐木セシムルチ云フ

第二章 一等伐木

第三條 局長ヨリ一等伐木ヲ命セラレタル時ハ伐木掛ニ於テ事業ノ大小運搬ノ便否諸備ノ給料及ヒ其他ノ諸入費等ヲ詳明ニ計算シ書式ニ照
 シ伐木費見込簿表ヲ作り出納掛ニ合評シ局長ノ閱覽ヲ經テ内務卿ノ許可ヲ請フヘシ

第四條 右簿表ヲ許可セラルル時ハ伐木掛ニ出張シ殖樹掛ヨリ伐木スヘキ官林ヲ受取り木數ヲ改メ總印シ書式ニ照シ原木表三通ヲ作り二通
 ハ各自ニ配藏シ一通ハ本局ニ差出スヘシ

第五條 伐木場出張ノ上ハ袖日履木挽等ヲ備入レ袖頭日履頭木挽頭等ヲ其内ニテ任選スヘシ但シ右ノ給料ハ場所ト時ト米價ノ高低等トニヨ
 リ差酌ヲ要セサルヲ得サルヘシトイヘトモ左ニ記シタル額ヲ以テ目的トシ米味等トイヘトモヘテ定メラレタル銀行ヨリ渡スヘシ最袖木
 挽ハ履代ニテ備フヘシ履代ハ入山ノ上五日或ハ十日間工事ヲ執ラシタメル上之ヲ定ル者トス

職名	賃給	白米	味噌	鹽
袖日履頭	貳拾五錢	九	合	三十三文目
袖日履代人	拾八錢	九	合	三十三文目
袖日履中廻	拾貳錢五厘	九	合	三十三文目
木鼻	拾貳錢五厘	九	合	三十三文目
木尻	拾貳錢	九	合	三十三文目
小通重取	拾壹錢五厘	九	合	三十三文目

袖木挽	履代	拾錢ヨリ多カラス	九	合	二十三文目
日備	參錢ヨリ少カラス	九	合	三十三文目	
桴乗手役	拾四錢	九	合	三十三文目	
桴乗手格	拾參錢五厘	九	合	三十三文目	
鴨乘手役	拾貳錢五厘	九	合	三十三文目	
鴨乘手格	拾貳錢	九	合	三十三文目	
病氣	休	不	給	三十三文目	
雨降怪我	休	不	給	三十三文目	
但病氣怪我休三日限リ與ヘサルコト		七	合	三十三文目	

第六條 前條ノ場合ニ於テ助手ヲ要スル時ハ適宜備入ルルヲ得ヘシ其給料ハ左ニ記シタル額ヲ以テ目的トスヘシ

一等	參拾五錢	參貳錢	參拾錢	貳拾八錢	貳拾五錢	貳拾貳錢	貳拾錢	拾八錢	拾五錢
四拾錢									

但川狩ノ節ハ滞在一日金拾錢巡回一日金貳拾錢ヲ給ス

第七條 袖日履等編伍ノ法ハ從前ノ慣習ヲ酌量シ務メテ嚴整ヲ要シ不動爲病等ノ弊ヲ嚴防スヘシ

第八條 伐木委員ハ常ニ助手以下袖日履及備夫ノ勤惰正否ヲ監視シ之ヲ黜陟スルヲ得ヘシ

第九條 日暮ノ長短ニヨリ課工ノ時間ヲ増減シ其勞逸チシテ偏重ナカラシムルヲ要ス

第十條 雨天其他疾病事故アルトキハ袖日履ニ休暇ヲ與フルコトアルヘシト雖モ休暇中ハ總テ賃金ヲ給セサルヘシ但半途停業又ハ遲參早退
 スルトキハ其時間ノ長短ニ應シ其賃金ヲ差引ヘシ右等ノ場合ニテハ書式ニ照シ領上ニ明記スヘシ

第十一條 袖取ノ間ハ毎日其木材間尺ヲ改メ書式ニ照シ毎日問知簿ニ登記シ造材日締表十日毎ニ本局ヘ差出造材清總計簿表ヲ作り同様差出ス
 ヘシ

第十二條 伐木出張所及袖日履小屋等ハ何定ノ豫算ニ照シ適宜建設スルヲ得ヘシ

第十三條 小屋掛用材其他炬火薪炭材等ハ可成惡雜木ヲ用ヒ注意シテ良木ヲ用ヒサルヘシ

第十四條 定メラレタル銀行出張人及ヒ出張人ヨリ袖日履等ニ拂ヒ渡スヘキノ米味噌等ハ出所近傍ニ小家掛ヲ作リテ貸與ヘ同所ニ差シ置ク

但右出來上ラサルカ又ハ右小屋ニ差置キ難キ物品アリ一時民家ヲ借り上ル節ハ一ヶ月十五圓未滿ハ目途金ノ内ニテ仕拂拾五圓以上ハ何出

第十五條 土地ノ便宜ニヨリ已ムコトヲ得ス民有地ニ小屋掛ヲ取建ルカ或ハ木材運送ノ爲メ耕地ヲ踏荒シ其他私有立木等ヲ損害スルトキハ該

地主ニ示談シテ之ヲ處分シ右手當ノ爲附與スヘキ金額貳拾圓未滿ハ目途金ノ内ニテ適宜仕拂貳拾圓以上ハ何ヒ出ヘシ

第十六條 鍋釜風呂桶等袖所ノ必需品ハ適宜買取ルヲ得ヘシ

第十七條 木材切判及ヒ伐木所ノ印章其他袖日履等ノ印章ハ離形ノ通制用スルヲ得ヘシ

第十八條 官員並御備月給ハ本局ヨリ送致スヘシトイヘトモ旅費ハ翌月三日迄申仕切精算書ヲ本局ヘ差出本局ヨリ該地銀行出張人ヘ渡方違濟

ノ上請取ナラスヘシ但月末銀行出張人ヘ照會シテ假請取ヲ得ヘシト雖前借ヲ爲スコトヲ得ヘカラス

第十九條 助手袖日履其他ノ給料ハ毎月十日ニ銀行出張人ニ照會シテ之ヲ拂フヘシ但袖日履等前金借用ヲ請求スルトキハ銀行出張人ニ照會シテ

一時十日以内ノ分ヲ貸渡シ月末ニ至リ精算勘定セシムヘシ

第二十條 伐木著手前日履木挽等已ムコトヲ得サル事情アリテ前金借用ヲ請求スルトキハ金百圓以上ハ相當ノ抵當物差出サセ該所戶長ニ奥印

セシメ銀行出張人ニ照會シテ貸渡サシムヘシ尤抵當物ノ差出方差聞事實不得已場合ニ於テハ篤ト途調査時宜見計身元儘ナル保證人ヲ立テサ

スカ又ハ該所戶長ノ保證ヲ以テ同斷ノ手續ヲ爲スヘシ但證書ハ總テ書式ニ從フヘシ

第二十一條 始メテ入山ノ節及山神祭祝日等ニハ夫々慰勞手當ヲ與フルヲ得ヘシ

第二十二條 備夫給料及米鹽贈其他必需品ハ出張官吏捺印セル切符ヲ本人ヘ相渡銀行出張人ニ於テ現品ト交換下ケ渡スヘシ

第二十三條 袖日履木挽等事業ノ爲傷疾死亡等ヲ爲シ右手當或ハ埋葬料等ヲ要スルトキハ八年太政官第五十四號達ニ照準一時見込ヲ以テ銀行出

張人ニ照會シ貸渡ヲ爲サシメ追テ何ノ上本手順ニ取計フヘシ

第二十四條 伐木中ハ注意シテ鏈印外ノ木ヲ伐リ又ハ損傷シ及ヒ肥土ヲ潰崩セス良苗ヲ傷害セサル様注意スヘシ

第二十五條 伐木跡ハ現材ト伐株トヲ對照點檢シ書式ニ從ヒ現材伐株對照簿表ヲ作り跡地ハ殖樹掛ニ返付スヘシ

第二十六條 伐採セル木材ハ豫メ其員數寸間木種ヲ取調簿表ヲ作り局長ヨリ命セラレタル網場又ハ貯木所官吏ニ通知シ木材ト共ニ引渡スヘシ但

其場合ニ於テハ雙方立會相改メ某ケ所著材檢知簿表ニ通テ作り雙方連印シ一通ハ貯木所ニ藏シ一通ヲ携ヘ歸リ局長ニ復命スヘシ

第二十七條 前諸條ニ記シタル金錢出納ハ總テ書式ニ照シ日締表月締簿表ヲ作り日締表ハ毎月十日月締簿表ハ毎翌月初五日迄ニ差出スヘシ

第二十八條 伐木一體ノ事業整頓セハ書式ニ照シ報告書ヲ作り差出スヘシ

第三章 二等伐木

第二十九條 局長ヨリ二等伐木ヲ命セラレタル者ハ第三條ノ手續ニテ伐木費見込簿表ヲ作り伐木掛ニ差出シ同掛ニ於テ精査ヲ爲シ不都合ナシト

認ル時ハ出納掛ニ合評シテ局長ニ出スヘシ

第三十條 局長ヨリ右簿表ヲ許可セラレル時ハ第四條ノ手續ニテ鏈印シ原木表ヲ作ルヘシ

第三十一條 局長ヨリ右簿表ヲ許可セラレル時ハ其額ヲ以テ留メ札トナシ伐木ノ受負入札ヲ爲サシメ若シ受負入札ヲ爲スモノ無クハ右留メ札ノ

額ニテ受負者ト契約シテ伐木セシムヘシ右場合ニ於テハ書式ニ照シ契約書ヲ取置クヘシ

第三十二條 前條ノ場合ニ於テハ常ニ監守人巡視人ヲ巡回セシメ不都合ヲ豫防スヘシ

第三十三條 伐木竣功ノ上ハ原木表ト現材トヲ對照點檢シ書式ニ照シ原木現材對照表ヲ作り更ニ伐木ケ所ニ於テ原木表ト伐株トヲ調ヘ書式ニ

照シ原木現材對照表ヲ作り局長ニ差出スヘシ

第三十四條 伐木費渡方ハ第十九條ニ照準シテ之ヲ取扱フヘシ

第三十五條 伐木委員ハ伐木セル木材ヲ局長ノ命セラレタル網場貯木所等ニ引渡スヘシ其手續ハ第二十六條ニ照準シテ取扱フヘシ

第三十六條 局長ヨリ特別ノ達ヲ以テ前條ノ木材ヲ發賣セシメラルル時ハ賣材規則ニ照準シテ發賣スヘシ

第四章 三等伐木

第三十七條 立木ヲ人民ニ拂下ケ拂受人ヲシテ三等伐木ニ著手セシメラルル時ハ立合テ樹木ヲ檢シ書式ニ從ヒ樹木引渡表ヲ作り引渡スヘシ但引

渡材薪炭木ニ非ルモノハ一々鏈印スヘシ

第三十八條 前條ノ場合ニ於テハ時々監守人巡視人ヲ相廻シ不都合ナキ様注意スヘシ

本規則ニ依リ伐採セル木材ハ其ノ數量樹種材種等ヲ調査シテ簿表ヲ作り局長ヨリ命セラレタル網場又ハ貯木所官吏ニ通知シ木材ト共ニ引渡サシメタリ今當時ニ於テ最著名ナル木曾川筋ニ於ケル流材ノ取扱規則及綿織網場ニ於ケル官民材ノ取扱並白鳥貯木所取扱規則等ヲ舉クレハ次ノ如シ

木曾川筋流材取扱規則

木曾川筋流材取締方ハ分テ左ノ三區トシ之ヲ分掌ス

- 第一區 木曾谷
- 第二區 中津川村ヨリ内田村マテ
- 第三區 内田村以下白鳥マテ

第一區ハ伐木委員之ヲ管掌ス第二區第三區ハ錦織綱場詰之ヲ管掌ス

但海濱ハ流失ノ節ハ白鳥野木所ニ於テ臨時人夫ヲ雇入レ之ヲ取締ルモノトス

第三條

流材取締人ハ每區一人或ハ數人ヲ置キ鑑札ヲ渡シ一ケ年間手宛トシテ參圓ヨリ五圓マテヲ給ス尤出水使役ノ朝ハ別段一日金五拾錢ヨリ多カラ

第四條

出水流材ノ節ハ出張官員ニ於テ速ニ該地方廳ヘ通知シ夫々取締ノ手配ヲナスヘシ

第五條

前條ノ場合ニ於テハ取締人ハ速ニ人夫ヲ召連レ沿流村村ヘ出張シ取締方ニ從事スヘシ但鑑札所持セザレハ取締人ノ効ナカルヘシ

第六條

蠟燭炬火等ハ豫シメ見込ヲ以テ渡シ置クヘシト雖尙不足アルニ於テハ臨時買入請取證書ヲ以テ追テ精算ノ上請取方申出ヘシ

第七條

取締人出張ノ節其所用ノ燈章及雇夫ノ服章ハ雛形ノ通タルヘシ

第八條

出水ノ節取締人ニ於テ使役ノ夫員ハ流域ノ廣狹ト漂著木ノ多少ニ從ヒ適宜之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第九條

但シ雇夫ハ一日金參拾錢ヨリ多カラ拾五錢ヨリ少カラサレ賃金ヲ支給スヘシ

漂著セル木材ハ其木種寸間員數ヲ點檢シ該村吏ヘ預ケ置精密ナル預證書ヲ受取其旨速カニ該管出張所又ハ白鳥野木所ヘ報知スヘシ但出張官

員ノ最寄便宜ノ地ニ在ルニ會セハ何レノ區ニ拘ハラヌ速ニ該官員ノ出張先ニ報告スヘシ

第十條

各地出張ノ官員ハ流材ノ多少ヲ量リ便宜ノ地ニ出張シ村吏ヨリ差出セシ預リ證書ヲ取纏メ一々檢査ノ上桴組取計白鳥野木所ニ廻送スヘシ尤モ

多敷ノ流材ニシテ手廻リ兼メル場合ニ於テハ必スシモ自己擔當ノ管區ニ拘ハラヌ互ニ往來助力スヘシ

但筏組ハ實地ニ臨時量リ手人ニテ直施スルカ又ハ入札ノ上請負ハシムヘシ

第十一條

沿流各村ニ於テ漂著材ヲ隱匿シ又ハ切割其他不正ノ所業アルニ於テハ速カニ最寄警察所ニ通知シ嚴重之ヲ取糺ス可シ

第十二條

流材取纏卒業ノ上ハ取締人ハ各其使役セシ傭夫ノ勤工簿其他臨時買得ノ物品證書ヲ以テ速カニ其擔當官員出張先ニ出頭スヘシ

第十三條

前條ノ場合ニ於テハ擔當ノ出張官員ハ其勤工簿ノ買品請取證書ヲ檢査シ一時經費金ニテ相當ノ賃金并代金ヲ繰替置キ引續キ書式ニ從テ簿表ヲ

作り本局ニ申立精算スヘシ

錦織綱場官材取扱規則 (明治十一年六月廿九日允裁)

第一條

本綱ノ張渡ハ其年伐木ノ都合ニヨルト雖モ凡ソ十一月一兩月ノ交水勢ノ定マルヲ待テ之ヲ架設シ翌年三月中取頓スルモノトス

但本綱張渡濟ノ上ハ速ニ伐木委員ヘ報知シ本川拂込ノ用意ヲ爲サシムヘシ

第二條

木材著渡スルニ方リテハ出張委員或ハ其代理ヲナスヘキモノ實地ニ在ミ伐木委員ト立合木種木數寸間等ヲ點檢シ書式ニ照シ某ヶ所著材檢知簿

表ニ通テ作り十日目毎取纏メ雙方檢印シテ一通ヲ綱場ニ控ヘ置キ一通ヲ伐木委員ヨリ本局長ヘ差出スヘシ

第三條

桴組及乗下ケハ入札法ヲ以テ請負人ヲ取極置著材次第漸次桴ニ編製セシメ成ヘク其場ニ停滯セザル様川下ケスヘシ

第四條

桴組出來乗下ノ場合ニ臨ミ該桴ニ番號木數乘出地月日ヲ書シ(習慣書ト云フ)桴乘人ヘハ手板(習慣語ナリ)桴組ノ木種木數寸間番號ヲ幅三

第三編 國有林野ノ經營

四寸長二尺許ノ板ニ明細記載セルヲ云フ）並送狀ヲ渡シ發濟セシムヘシ

第五條

桴乗下ノ順次桴發濟元簿ヲ製シ（送狀手板ト同様番號等ヲ明記スルモノ）毎五日目ニ元簿寫ヲ仕向ケ場ノ貯木所ヘ郵便又ハ幸便ヲ以テ送付スヘシ

第六條

桴組並乗下共之ヲ請負シムルニ於テハ別紙様式ニ照シ入札仕様簿ヲ製シ廣ク入札ノ上身元體ナル保證人ヲ立テ請負ハシムヘシ

第七條

梶枕及炬火用木等ハ可成不用損傷木ノ内ヲ選ミ鑄印ノ上之ヲ請負人ヘ渡スヘシ

第八條

實際ノ都合ニヨリ請負不申付手人ヲ以テ直ニ桴下ケ取計ノ節ハ豫テ藤檜曾木其他桴編製必需ノ物品ヲ買入之レカ準備ヲナシ置ヘシ

第九條

暴風雨ノ模様アルニ於テハ速カニ備夫ヲ募リ手安増張其他本網ニ繋著スル木材ハ成ルヘク丈櫓内ニ狩入レ又ハ陸揚シ總テ洪水防禦ノ準備ヲナシ精々其機ヲ失ハサル様注意スヘシ

第十條

河水漲溢流脫材アルカ或ハ殆ント本網斷絶セントスルノ景況ヲ察知セハ早ク助手及備夫ヲ派出シ精々止木セシムルハ勿論仍ホ其旨至急沿川村吏及流材取締人ニ報知シ夫々之レカ取締ヲナサシムヘシ但其他取締ノ手續ハ流材取締規則ニ從フヘシ

第十一條

前條ノ場合ニ於テハ其旨至急白鳥出張官員ヘ通知シ臨時助力ヲ乞フヘシ

第十二條

事務繁劇ノ際ハ臨時助手ヲ擧用スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其旨速カニ本局ヘ上申スヘシ

第十三條

出水ノ節助手以上備夫等ヲ各村ヘ派出セシムル場合ニ於テハ書式ニ照シテ印鑑ヲ下付スヘシ但右印鑑雛形ハ豫テ最寄ノ警察署ニ差出シ置クヘシ

第十四條

本網收領及出水ノ後ハ該所ハ勿論其他各杭所ヲ巡按シ損敗アルアラハ網場詰ノ者ハ速カニ修繕ノ豫算ヲ立役木掛ヘ商議シ出納掛ニ合評シテ本

局ヘ具申スヘシ但該年伐採木ノ内ニ於テ適宜ノ木品ヲ選ビ伐木委員ヘ協議シ兼テ之ヲ網場ニ上ケ置本局ニ届出杭所及桴木鴨木等修補ノ準備ヲナスヘシ右ノ場合ニ於テ伐木委員ハ原木表ニ其由ヲ記入スヘシ

第十五條

前條修繕ノ場合ニ於テハ舊杭其他木材切端等炬火ニ作リ其束數ヲ簿記シ最寄流材取締人ヘ預ケ置キ證書取之支消ノ分ハ都度差引届出シムヘシ

第十六條

本網製造白口藤曼ハ前年降雪以前豫テ近傍官林中ニ就キ其有無良否ヲ點查シ然ル後入札請負書ヲ添其旨本局ニ具申許可ノ上ハ農事閑暇ノ時ヲ計リ之ヲ製索保存シ置クヘシ

第十七條

手安網製造ニ係ル麻及機欄等ハ豫テ最寄地方ノ相場ヲ問ヒ合セ其克ク水ニ耐フルモノヲ購求シ土地農閑ノ時ニ於テ之ヲ製作セシムルヲ要ス

第十八條

綿織杭内砂礫堀浚ハ秋冬ノ交水勢ノ減退スルヲ待チ水葦石ニ合五勾乃至ニ合ヲ定度トスヘシト雖トモ仍ホ其年洲濶ノ多少ニヨリ寫ト實際ヲ考按査定シ入札受負書相添其旨本局ヘ具申シ時機ヲ失ハサル様之レカ準備ヲナスヘシ

錦織網場民材取扱規則

（明治十一年六月廿九日允裁）

第一條

本管川筋材木伐出ニ付該所ニ於テ筈組取計ヒ度モノハ此規則ヲ一覽シ第四條ノ網料ヲ差出サハ許可スヘシ但入山以前此規則ヲ熟覽シ凡木數尺ノ並著材期限等豫テ見込相立書式ニ照シ該地出張掛員ヘ願出ルモノトス

第二條

但現場ノ都合ニ依リ貸渡期限ノ延縮ハ前以テ願主ヘ相違スヘシ

第三條

本網ハ毎年十月十一月ノ交之ヲ施シ翌年三月中之ヲ收ムルヲ定期トナス但場合ニ由リテハ架設收領共之ヲ延縮スルコトアルヘシ

第三編

國有林野ノ經營

綱料ハ本品ノ善惡ヲ論セス尺ノ一本ニ付金參錢ヨリ少カラス五錢ヨリ多カラサル現場相當ノ料額ヲ收入スヘシ

第四條

第四條ノ間知改方及尺ノ仕出方ハ該所著材ノ上掛官員立會左ノ條款ニ照シ間尺寸鉅員數等詳細點檢ノ上書式ニ照シ間知尺ノ明細表ヲ製スヘシ

第五條

第一 長二間一尺角ヲ尺ノ一本ト算ス

第二 六尺以上十尺未満ヲ長一間トス但目戸穴數代トモ之ヲ算入ス

第三 長十尺以上十三尺五寸未満ヲ一丈トス但目戸穴數トモ之ヲ算入ス

第四 長二間以上長半間ニ付正尺三尺ヲ加ヘ延寸ナキモノトス但長三間以上ハ目戸穴數代ハ之ヲ算入セス

第五 樽木割木ハ丸木尺ノト同様ニ付二ツ割ヲ以テ之ヲ算スルモノトス

第六條

出水ノ時ハ材主ハ掛官員ノ指揮ニ從ヒ自費ヲ以テ人夫ヲ差出シ本綱ニ繫著セシ木材ヲ杭所ニ刈込又ハ陸揚スヘシ如シ材主ニテ之ヲ爲ササル時ハ官費ヲ以テ之ヲ爲シ其費用ハ材主ニ拂ハシムヘシ但官藏ノ手安綱豫備綱等櫻欄綱圍川船等ハ無代ニテ貸渡スヘシ

第七條

出水ニテ一時待込又ハ陸揚セシ木材ハ順次筏組ヲ爲シテ速ニ取拂フヘシ

第八條

出水其他一時ノ都合ニヨリ該所ニ引揚ケ姑ク積置キ度旨願出ルモノハ現場ノ都合ニヨリ開屆タルコトアルヘシ但敷地料トシテ毎十日間現木一本ニ付金壹圓宛取立ヘシ

第九條

前以テ出願ナキ材木及ヒ無切判無極印等ノモノ不時出水ノ際該所ニ漂著保安ヲ得ルモノ其材主ノ判然スルニ於テハ二人以上ノ保證人相立之ヲ引渡スヘシ此場合ニ於テハ相當綱料ノ外別ニ該材價十分ノ一ヨリ多カラサル保安料ヲ收入スヘシ若シ出願チナサス怠惰不正ノ所業アル漂著木ノ爲ニ綱及杭等ヲ損傷スル時ハ又其價ヲ徵スヘシ其他ハ總テ本則ニ照準ス但材主ノ判然セサル場合ニ於テハ明治八年第六十六號同第二十九號公布ニ照シ處分スヘシ

第十條

該所附屬杭所ノ中伊岐郡志村字逆卷ニ於テ圍筏致度旨願出ルニ於テハ尺ノ一本ニ付金貳圓宛一枚ニ付金參錢宛ノ割合ヲ以テ取立ヘシ但シ綱取

出立取調費等ノ手續ハ總テ第三條第四條ノ通タルヘシ

第十一條

非常出水ノ際左ノ杭所ニ標著保安ヲ得ルモノ十日以内ニ引取申出ルニ於テハ尺ノ一本ニ付材價十分ノ一ヨリ多カラサル保安料ヲ取立ツヘシ但シ十日ヲ過キ申出ナキモノニハ保安料ノ外仍ホ第八條ノ例ニ從ヒ敷地料ヲ收入スヘシ

細目村字細皆渡杭所 同村字高岩杭所

錦織村字逆卷杭所 伊岐郡志村字逆卷杭所

伊岐郡志村字鹽口杭所 牧野村杭所

土田村字上ノ卷杭所 同村字中ノ卷杭所

土田村字茶碗河戸杭所 同村字下切杭所

第十二條

綱場杭所ニ於テ水揚ナシタル木材ヲ以テ木造又ハ家組下造等チナスハ一切之ヲ禁止スヘシ

第十三條

薪類伐出スモ該所ニ於テ留木取計ヒタキモノハ多少ニ拘ハラズ一日金參拾錢ヨリ多カラサル綱料ヲ取立ツヘシ但該所ニ於テ十日以上積置クコトヲ許サス

第十四條

綱料納方ハ木鼻到著ノ際凡尺ノ高綱料ノ半額ヲ上納シ殘半額ハ梓皆拂ノ前相納ムヘシ若シ納方延滞スルトキハ梓下チ差止ヘシ但梓下差留メ置タル間ハ第八條ニ照シ敷地料ヲ收入シ猶三ヶ月ヲ過キ納付セサルモノハ該材ヲ以テ之ヲ算辦スヘシ

第十五條

民材綱料ハ此規則ニ照シ之ヲ取立其前納ノ半金ハ其都度書式ニ照シ假元簿ニ記載シ追テ木材皆著ノ上實際尺ノヲ精算シ料金全納セシメ料金取立書式ニ照シ精算帳ニ登記スヘシ

第十六條

前條取立タル金員ハ領收セル分ヨリ本局ニテ定メラレタル銀行ヲ經速カニ之ヲ本局ニ送付スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

每一ヶ月料金取立並諸經費仕拂ハ書式ニ照シ請取證相添翌月五日マテニ之本局ニ申告スヘシ

白鳥貯木所取扱規則 (明治十一年六月二十八日九載)

第一條

貯蓄港ノ節ハ在勤ノ官吏實地ニ就キ符乘ヨリ差出セル手板並送狀ト符ノ番號木種員數ヲ參合改濟ノ上請取證ヲ渡スヘシ

第二條

符請取濟ノ上ハ送狀ニ基キ順次著材簿表(送狀ノ通番號記號共記載スヘシ)ヲ製シ毎十日目ニ寫一通ヲ本局ニ送付スヘシ

第三條

著材水揚ノ際更ニ精密ノ間知ヲ達ケ木種寸間材ノ良否ニ據等差例則ニ照シ等級ヲ勘別シ間知簿ニ登記シ間知假元簿ヲ製シ日々間知ノ木種員數寸間ヲ登錄シ毎十日目ニ寫一通ヲ本局ニ送付スヘシ

第四條

間知濟ノ木材ニハ間知簿ニ記載セル木種寸間良否ノ等級ニ應シ左式極印打込區別スヘシ

木種極印

檜 極印ハ徑一寸ヲ法トス

明檜

榎

榎

榎

榎

木材ノ良否等級分ケノ極印

最上

上上

上

中

印チ三ツ打込

印チ二ツ打込

印チ一ツ打込

印チ一ツ打込

下 印チ一ツ打込
下下 印チ二ツ打込

寸尺ノ極印

假令ハ檜ノ二寸ハ木種ノ極印(印)チ二ツ三寸ハ三ツ四寸ハ四ツ五寸ハ五ツ六寸ハ五ヲ省キ一ツ七寸ニツ尺一寸ノ如キモ五ヲ省キ一ツ打込ノ極印ハ他日見易カラシカ爲メ兩端三尺以内ニ打込置テ法トス

第五條

間尺改方ハ

第一 長二間徑一尺ヲ以テ尺一木トス

第二 六尺以上一丈二尺迄ヲ文物ト唱へ現在ノ丈尺ヲ稱用ス
但寸ハ切捨ノ事

第三 一丈三尺ヨリ一丈五尺迄ヲ短二間ト稱ス
但尺ノ積法ハ長一丈三尺以上ノ物ハ二間ニ算用ス只短二間ノ稱呼ヲ以テ本間物ト區別スルノミ

第四 一丈六尺モノハ其實二間半アリト雖トモ舊代三尺ヲ除キ二間モノトス
但一丈六尺以上ハ正三尺毎ニ半間ヲ増シ餘寸ナキヲ法トス

第五 三間以上ノ材木ハ目戸穴數代ハ之ヲ算入セス

第六條

木種等級ハ左ノ例則ニ照シ定ムルモノトス

例則

一丸太材

第一最上 無節直材チ云フ

第二上上 小曲無節及ヒ一方小節五ツヨリ少ナキチ云フ

第三上 大面無節小曲リ一方小節六ツヨリ十迄直材ニシテ一方大節十ヨリ少ナキチ云フ

第四 中 直材二方大節並三方小節チ云フ

第五 下 節曲共兩様アル木チ云フ

第六下 雖木及大曲ニシテ大節アル惡木ヲ云フ
右節曲リ共疊打間内ニアルモノヲ差タル儀ニテ間外ノ分ニハ關係無キモノトス

第七條

木材積立方ハ年々伐出材ノ種類員數尺ノ等伐木委員ヨリ同送簿表ニ基キ種類ノ多少ニヨリ貯木所構内積立場所ヲ廣狹適宜區劃シ木種ノ異同良否ハ勿論寸間ヲモ分チ積立ツヘシ

第八條

但長大ノ良材ニシテ永遠保存ノ見込アル材ハ水圍ニスヘシ
枿皆著間知積立整頓ノ上ハ間知假元簿ト掛積ノ材數トチ突合精査ノ後書式ニ照シ間知簿表ニ通テ製シ一通ハ該所ニ留置一通ハ本局ニ送付スヘシ

第九條

但シ元簿整頓ノ上ハ著材ノ景況具狀上申ノ爲携帶出京セシムルコトアルヘシ
綱場ヨリ枿組發渡ノ通知書ヲ基本トシ枿ノ著否ヲ精査シ發渡以來度外ノ延引ト見認ムルトキハ不著枿ノ記載番號等ヲ詳記シ綱場ヘ報告シ枿乘人詮議ノ手續ヲ照會スヘシ

第十條

良材ハ東京並大阪等ニ運輸ノ積リ取調ヘ書式ニ照シ木種尺ノ長短大小及同送費ヲ調ヘ簿表ヲ作り本局ニ出スヘシト雖トモ其土地ニ相應ノ望人アルニ於テハ其趣ヲ上申スヘシ

第十一條

良材ノ外該地ニテ賣拂フヘキ見込ノ分ハ相當ノ見込定價ヲ付テ書式ニ照シ簿表ヲ作り本局ノ許可ヲ得テ適宜發賣スヘシ簿表ハ番號其他ヲ分明ニ書記シ賣捌ノ度毎之レカ差引ヲナシ明瞭記載スヘシ

第十二條

但拂出ノ時ハ每材必^①ノ檢印ヲ縫記スヘシ
木切レ又ハ木端ハ適宜入札拂ヲナシ明細之ヲ簿表ニ記載スヘシ

第十三條

綱渡其他修繕スヘキ箇所ハ豫メ其見込ヲ立之ヲ本局ニ申稟スヘシ但役所諸費及モ修繕普請等ニ付金五圓以下ニ屬スル定額經費ハ適宜取計翌月

五日迄二月簿表ヲ作り開申スヘシ

第十四條

材木水揚ケ積立等ニ付人夫ヲ備上ルニ於テハ兼テ何定ノ豫算ニ照シ實際相當ノ賃銀ヲ支給スヘシ

第十五條

事務ノ繁閑ニ依テハ一日五拾錢以下ノ助手三人迄ヲ雇入ルヲ得ヘシ右ノ場合ニ於テハ三日以内ニ其旨ヲ申立ツヘシ

第十六條

名古屋材木相場月々取調書式ニ照シ製表ノ上之レヲ本局ニ報告スヘシ

以上諸規則ノ外作業課官吏ノ執務上遺憾ナキヲ期スルカ爲各掛ノ心得ヲ制定シテ之ニ據ラシメタリ

伐木掛心得

第一條

當掛ハ官林伐木一切ノ事及材木刈流シ流材取扱綱場等ノ事ヲ管掌ス局長ヨリ別段ノ達アルニ非レハ殖樹運材出納ノ事ニ關スルヲ得ヘカラス

第二條

一等伐木ノ箇所木數ハ局長ヨリ命セラレル者トス然レトモ別設ノ見込アルトキハ陳述ヲ爲スコトヲ得ヘシ(此心得中單ニ伐木ト唱フル者ハスヘテ一等伐木トス)

第三條

伐木ヲ命セラレタルトキハ委員ノ旅費給與袖日雇木挽給及ヒ伐木一切費用ノ見込ヲ立テ書式ニ照シ伐木費見込簿表ヲ作り出納掛ヘ合評シテ局長ノ閱覽ヲ經テ内務卿ノ許可ヲ請フヘシ

第四條

伐木ノ地ニ出張シタル上ハ伐木スヘキ官林ヲ殖樹掛ヨリ受取り伐木規則ニ從ヒ適宜伐木シ袖日雇等ノ勤惰ヲ監シ備入又ハ解備スルコトヲ得

第五條

伐木ノ節ハ豫メ伐木スヘキ木種ヲ選定縫印シ可成丈他木ヲ障害セス肥土ヲ潰崩セス自然生ノ小苗ヲ害セス母樹ヲ存置シ新苗ヲ續生セシムルヲ注意スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第六條 伐木セル跡ハ原木表ト現伐株トヲ對照檢査シ書式ニ照シ原木現伐株對照表ヲ作り跡地ヲ植樹掛ニ返シ渡スヘシ

第七條 伐木セル木材ハ豫メ其員數寸間木種ヲ取調簿表ヲ作り局長ヨリ命セラレタル網場又ハ貯木所ノ官吏ニ照會シ適宜運出シテ右官吏ニ渡スヘシ但其場合ニ於テハ雙方立會相改メ書式ニ從ヒ某箇所著材檢知表ニ通テ作り雙方連印シ一通ハ貯木所ニ藏シ一通ヲ携ヘ歸リ局長ニ復命スヘシ

第八條 伐木中許可セラレタル柚日履等給料内渡又ハ時宜ニヨリ柚日履等ニ手當給與ノ儀等ハ其員數ヲ明記シ局長ヨリ命セラレタル銀行ニ照會シテ渡サシメ及之ヲ監視スルヲ得ヘシトイヘトモ局長ヨリ特別ノ達アルニ非レハ現金ノ授受ニ關スルコトヲ得ヘカラス

第九條 前條ノ如ク銀行ニ照會セル金員等ハ書式ニ照シ日締表月締簿表ヲ作り日締表ハ每十日月締簿表ハ翌月初五日マテニ局長ニ向ケ差出スヘシ

第十條 事務整頓ノ上ハ書式ニ照シ報告書及最前見込ト實地費用トノ増減比較簿表ヲ作り復命スヘシ

第十一條 二等伐木著手ノ時ハ二等伐木擔當者ヨリ差出セシ伐木費見込簿表ヲ精檢シ出納掛ニ合評シテ局長ニ差出スヘシ

第十二條 三等伐木著手ノ時ハ植樹掛ノ合評ニ對シ見込ヲ陳述スヘシ

第十三條 伐木網場川筋刈流シ流材取扱ノ如キ總テ當掛ノ掌管トナストイヘトモ木曾川ノ如キハ錦織網場マテハ伐木委員ノ擔當トシ網場ヨリ白鳥マテハ錦織網場詰ノ擔當トシ混淆セシメサル者トス

運材掛心得

第一條 當掛ハ木材貯藏運搬及發賣一切ノ事ヲ掌管ス局長ヨリ別段ノ達シアルニ非レハ植樹伐木出納ノ事ニ關スルヲ得ヘカラス

第二條 伐木掛ヨリ木材ヲ運致セハ貯木所ニ於テ伐木掛ト立合之ヲ點檢シ書式ニ從ヒ某箇所著材檢知表ニ通テ作り雙方檢印シ一通ヲ受取り他日ノ公證ニ供スヘシ但網場ヨリ貯木所ニ廻材シ又ハ甲ノ貯木所ヨリ乙ノ貯木所ニ廻材スル時ノ如キモ總テ此手續ヲ用フヘシ

第三條 伐木掛ヨリ受取タル木材ハ其種類及ヒ伐木セシ年度太實ノ善惡縱橫ノ寸間仕向ケ先等ヲ分チ各自ニ仕分チ爲シ書式ニ照シ表面ニ記入シテ貯藏スヘシ

第四條 前條ノ手續相濟シタル上ハ他ニ仕向ケヘキ見込ノ木材ハ適宜廻材ノ見込ヲ立書式ニ照シ廻材費見込簿表ヲ作り出納掛ニ合評シテ局長ニ出スヘシ其處ニテ賣拂フヘキ見込ノ木材ハ賣材規則ニヨリ相當ノ見込價ヲ付ケ簿表ヲ作り植樹掛出納掛ニ合評シ局長ノ閱覽ヲ經テ内務卿ノ許可ヲ請フヘシ

第五條 局長ヨリ相當ノ見込價ヲ定メラレタル上ハ時宜見計入札拂又ハ相當拂ヲ爲スコトヲ得ヘシ但時價騰貴シタル時ハ直ニ上申シテ定價ヲ改ムヘシ若シ等閑ニ經過セハ其責ニ任スヘシ

第六條 斷ヘス市價ニ注意シ伐木ヲ要スルト見込ム時ハ意見ヲ書取出納掛ニ合評シ局長ニ出スヘシ

第七條 木材拂渡ヲ請求スルモノアリテ恰好ノ木材ナキ時ハ植樹材木兩掛ニ協議シタル上請求人ト期限及代價ヲ商議シ見込ヲ立出納掛ニ合評シ局長ニ伺出ヘシ

第八條 各所現材一覽表ハ每一月木材相場一覽表ハ每十五日例規ノ通書式ニ照シ局長ニ出スヘシ

第九條 木材發賣ノ事ハ當掛ノ掌管ナリトイヘトモ現金出納ハ局長ヨリ命セラレタル銀行又ハ郵便爲替局ニ照會シテ之ヲ爲サシメ當掛ハ局長ヨリ別段ノ達アルニアラサレハ之ニ關係スルヲ得サル者トス

第十條 貯木所定額ノ經費ト雖トモ特別ノ許可アリタル事項ノ外何ナク使用スルヲ得ス

第十一條

各貯木所ハ書式ニ照シ賣材日締表月締表及經費日締表月締表ヲ作り日締表ハ毎翌日月締表ハ毎翌月五日マテニ出納掛ニ合評シテ局長ニ出スヘシ

當時ニ於ケル貯木場ハ白鳥ノ外深川、大阪、能代、青森、桑名、大館、田野、前川、廣島等ニ設置セラレ尙地理局ニ於テ伐木造材セル木材ヲ判別スルニ便ナラシムルカ爲メ十一月五月次ノ如キ布達ヲ發セラレタリ

内務省達甲第十二號 (明治十一年五月十三日)

各地官林之内當省地理局ニ於テ伐出シノ木材ハ自今別紙圖ノ通切判イタシ並其伐採年度ヲ査別スル爲メ乙號圖ノ通年々切判相加ヘ候答ニ付此旨布達候事

別紙

將來官材ニ相用候切判形

甲號



官材ヲ證スル爲メ將來相用ユヘキ切判形以下同シ

伐木ノ年度ヲ査別スル爲メ年々相用ユヘキ切判形以下同シ

乙號



明治十一年
同十二年
同十三年



同十四年
同十五年
同十六年
同十七年
同十八年
同十九年
同二十年

但シ明治二十一年ハ尙十一年ノ切判形ヲ用ユ以下做之

明治十二年五月内務省ニ山林局ヲ設ケ局中ニ作業課ヲ置キ置六月更ニ作業課ヲ廢シテ殖樹、伐木、運材、出納ノ五課ヲ設ケ大ニ官行事業ノ擴張ヲ計レリ是ヨリ先キ同年一月白鳥貯木所ヨリ東京大阪ヘ回材ノ爲金額二萬七千圓ノ一時増額ヲ受ケバルク形四百噸ノ西洋形帆船ヲ買入レ右金額ハ年々返濟スルノ計畫ニ付内務卿ヨリ伺出タルニ太政官ノ裁可スル所トナリ六月十二日之カ購入ヲ了シ神倉丸ト稱シ木材運輸ニ使用スルコトトナリ七月三十日内務省達内第四十二號ヲ以テ沿海府縣ニ對シ今般内務省山林局所轄西洋帆船神倉丸ヲ以テ木

材運輸ノ爲別紙圖面ノ旗章揚用諸方航海爲致候ニ府自然管下港内ニ碇泊等ノ節ハ無差支様取計可申旨達セラレタリ斯ノ如ク一時旺盛ヲ極メタル作業課モ先ニ述ヘタルカ如ク政策宜シキヲ得サルモノトシテ十三年六月終ニ之ヲ廢止セラレ此處ニ一大頓挫ヲ爲スニ至レリ今内務省ヨリ右廢止ニ關シテ伺出テタル要旨ヲ摘録スレハ左ノ如シ

備々官林作業ノ實況ヲ案スルニ官林ノ事務ハ定額ヲ以テ處辨スル方最適當ト確認セリ官林作業ノ法ヲ本年六月三十日限り廢止シ七月一日ヨリ定額轉換致度該費ニ當ル金四十一萬八千五百五十八圓三十三錢二厘ハ作業中止ニ付十三年度稅外收入ニ屬スル現在材木代價及其他官林收入合計金四十四萬三千九百圓七十錢六厘ノ内ヲ以テ御支出相成ルトキハ別段國庫ノ増資ヲ要セサル義ニ有之至急御允裁有之度云々

明治十四年四月農商務省ノ新設セラルルニ及ヒ山林ニ關スル一切ノ事務ハ同省山林局ノ主管ニ移リタルモ官行斫伐ニ付テハ新タナル企畫ヲ試ミサリキ皇城建築ニ要スル用材ヲ官林ヨリ伐採スルタ爲メ十三年三月新設セラレタル皇城建築御用材掛ハ山林局移管ニ伴ヒ農商務省ニ移サレタルカ十四年六月之ヲ山林局ヨリ割キテ本省中ニ特設セラシタリ然レトモ其事務漸次ニ整頓シタルヲ以テ十六年六月同掛ヲ廢シ山林局ニ於テ其ノ事務ヲ管掌スルコトナレリ明治十九年大小林區署ノ官制ヲ定メラルルト殆ント前後シテ貯木場及錦織綱場官制ヲ定メラレタルモ其ノ後久シカラスシテ内地ノ山林原野約百六十萬町歩ヲ御料地ニ編入セララルルヤ木曾官林錦織綱場白鳥貯木場等モ亦御料局ノ主管ニ移サレタレハ國有林中官行事業ニ關シテ最重要ナル位置ヲ占メタル部分ヲ失フニ至レリ今當時ノ官制ヲ舉クレハ左ノ如シ

閣令第七號 (明治十九年四月十六日)

三田農具製作所、貯木所、錦織綱場、富岡製絲所、新町紡績所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

貯木所官制

第一條 貯木所ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ須要ノ地方ニ之ヲ設ケ官材ノ貯蓄販賣ノ事ヲ掌ラシム

第二條 貯木所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

第三條 所長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

錦織綱場官制

第一條 錦織綱場ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ木材ノ保安ノ事ヲ掌ル

第二條 錦織綱場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

屬

第三條 場長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

爾後官行斫伐事業ハ各所ニ於テ小規模ニ試ミラレシコト再三ナリシモ多クハ良好ナル成績ヲ舉クルコト能ハス三十二年度以降ニ及ヒ時勢ノ進運ニ伴ヒ本事業モ亦漸次ニ發展ノ徵候ヲ示シ殊ニ國有林施業案ノ編成ヲ了シタル面積次第ニ増加シ其ノ實行ヲ適確ナラシムルノ必要アリシカ爲森林ノ位置林相搬路ノ關係及從來ニ於ケル產物處分ノ難易等ヲ考察シ必要ニ應シ政府自ラ立木ヲ伐採シテ丸太柚角等ニ造材シ若ハ厚板小角等ハ挽材シ之ヲ一定ノ場所ニ搬出シテ販賣シ更ニ進ミテハ適當ノ位置ニ製材所ヲ設置シ加工ヲ爲シテ製材トスルヲ利アリトシ三十八年度ニ於テ組織的ニ斫伐及製材事業ヲ實施スルニ至リ爾來次第ニ發展シテ今日ニ及ヘリ今三十二年度ヨリ三十八年度ニ至ル七ヶ年間毎年官行斫伐事業ニ流用セル金額及三十八年度以降大正四年度ニ至ル本事業ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

官行事業ノ爲經費流用額

年度	金額
三二	八、〇五〇
三三	一一、二〇三
三四	一九、五八三
三五	四一、九七七
三六	七二、一五七
三七	八一、二一五
三八	二五二、七五七

斫伐事業實行收支一覽表

年度	資材		收入		支出		收入超過
	積	當年生産	當年價格	製材原	前年度ヨリ	經費	
薪	用 一、七五、五〇八	用 一、三〇、八二二	九二四、五五六	二二〇、六六五	一九〇、〇〇〇	五八、六六八	三〇七、七三三
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、五三、三三三	用 二、〇〇、〇〇〇	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六

年度	資材		收入		支出		收入超過
	積	當年生産	當年價格	製材原	前年度ヨリ	經費	
薪	用 一、七五、五〇八	用 一、三〇、八二二	九二四、五五六	二二〇、六六五	一九〇、〇〇〇	五八、六六八	三〇七、七三三
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、五三、三三三	用 二、〇〇、〇〇〇	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六
薪	用 二、六〇、二八六	用 一、八〇、八二二	三、三三、七九一	一、四〇、五八二	一、九四〇、三〇四	一、一三五、八二五	二、一八二、九六六

部	一	二	三	四
用	用 三、二五、九七	用 三、四九	用 三、〇七、七五	用 三、〇七、七五
薪	薪 三、四九	薪 三、〇七、七五	薪 三、二五、九七	薪 三、四九
竹	竹 二、四三	竹 二、四三	竹 二、四三	竹 二、四三
炭	炭 一、四九、六六	炭 一、四九、六六	炭 一、四九、六六	炭 一、四九、六六
石	石 二、七五	石 二、七五	石 二、七五	石 二、七五
用	用 一、九三、三六	用 一、九三、三六	用 一、九三、三六	用 一、九三、三六
挽	挽 一、九三、三六	挽 一、九三、三六	挽 一、九三、三六	挽 一、九三、三六
三	三 四、〇七、〇〇	三 四、〇七、〇〇	三 四、〇七、〇〇	三 四、〇七、〇〇
二	二 五、〇九、一三	二 五、〇九、一三	二 五、〇九、一三	二 五、〇九、一三
一	一 一、二四、三七	一 一、二四、三七	一 一、二四、三七	一 一、二四、三七
原	原 三、二五、九七	原 三、二五、九七	原 三、二五、九七	原 三、二五、九七
製	製 三、四九	製 三、四九	製 三、四九	製 三、四九
展	展 二、四三	展 二、四三	展 二、四三	展 二、四三
製	製 一、四九、六六	製 一、四九、六六	製 一、四九、六六	製 一、四九、六六
紙	紙 二、七五	紙 二、七五	紙 二、七五	紙 二、七五
原	原 一、九三、三六	原 一、九三、三六	原 一、九三、三六	原 一、九三、三六
材	材 四、〇七、〇〇	材 四、〇七、〇〇	材 四、〇七、〇〇	材 四、〇七、〇〇
入	入 五、〇九、一三	入 五、〇九、一三	入 五、〇九、一三	入 五、〇九、一三
其	其 一、二四、三七	其 一、二四、三七	其 一、二四、三七	其 一、二四、三七
他	他 三、二五、九七	他 三、二五、九七	他 三、二五、九七	他 三、二五、九七
年	年 三、四九	年 三、四九	年 三、四九	年 三、四九
度	度 二、四三	度 二、四三	度 二、四三	度 二、四三
始	始 一、四九、六六	始 一、四九、六六	始 一、四九、六六	始 一、四九、六六
年	年 二、七五	年 二、七五	年 二、七五	年 二、七五
月	月 一、九三、三六	月 一、九三、三六	月 一、九三、三六	月 一、九三、三六
備	備 四、〇七、〇〇	備 四、〇七、〇〇	備 四、〇七、〇〇	備 四、〇七、〇〇
考	考 五、〇九、一三	考 五、〇九、一三	考 五、〇九、一三	考 五、〇九、一三

三、製材事業

明治三十八年官行斫伐事業ノ擴張ヲ計リシ結果製材ノ官營ヲ必要トスルニ至リ第一ニ製材作業ヲ開始セシハ青森製材所ニシテ明治三十九年一月ノ新設ニ係リ其ノ後次第二増設シテ十二製材所一木工所ヲ見ルニ至レリ今其ノ要領ヲ摘記スレハ左表ノ如シ

製材ノ部

大林区	製材所名	馬方	主要副機	一箇年所要	原料樹種	製品種類	創立年度	作業開始年月	備考
青森	青森	汽力 二、五〇	七	一〇八、〇〇	ギ、ヒ	枕木、板類、角類、小角及板類	三六	三九、一	
同	増川	汽力 一〇〇	三	八、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、二	
同	相内	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、三	
同	大勝	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、四	
同	代野	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、五	
同	明野	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、六	
同	日原	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、七	
同	馬路	同 〇〇	二	三、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、八	
同	杉瀨	汽力 七	一	〇、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、九	
同	一勝地	汽力 七	一	〇、〇〇	バ	枕木、板類、角類、小角及板類	四〇	四一、〇	
同	下赤	同 〇〇	二	八、〇〇	モミ、ツガ	角、枕	四〇	四一、一	
同	山野	同 〇〇	二	八、〇〇	モミ、ツガ	角、枕	四〇	四一、二	
同	山野	同 〇〇	二	八、〇〇	モミ、ツガ	角、枕	四〇	四一、三	
同	萬勝	汽力 一〇〇	二	八、〇〇	モミ、ツガ	角、枕	四〇	四一、四	
同	水碓	汽力 一〇〇	二	八、〇〇	モミ、ツガ	角、枕	四〇	四一、五	
計									

然ルニ四十一年ニ至リ政府ハ民業ノ進歩ト地方ノ状態トニ鑑ミ得策ト認ムル場合ニ於テハ林産物ノ年販賣拂ト關聯シテ製材所ヲ貸付シ若ハ作業ヲ民業ニ移スノ必要アリトシ之レニ關スル勅令及省令ヲ發布シ第二十五議會ニ其ノ豫算ヲ提出シタルモ議會ハ官營ヲ不可トスルノ理由未タ十分判明セサルノミナラス民業ニ移スト

キハ却テ種々ノ弊害ヲ生スヘシトノ見解ヲ以テ之レヲ否決セリ從テ製材所ノ經營ニ付格段ノ改革ヲ見スシテ止ミタリ

勅令第三百十一號 (明治四十一年十二月)

國有林野產物ノ年期賣拂ト共ニ國有製材所ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ賣拂及貸付ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得前項ニ依ル貸付ノ期間ハ十年以内トス

農商務省令第二十一號 (同上)

國有林野產物ノ賣拂ニシテ製材所ノ貸付ト共ニスル場合ハ國有林野主產物年期賣拂規則及國有林野產物製品年期賣拂規則ヲ適用セス

爾來第二十六、第二十七及第二十八議會ニ於テ木材業者ヨリ官營製材事業廢止請願ヲ貴衆兩院ニ提出セシニ衆議院ハ之ヲ參考トシテ政府ニ送付シ貴族院ハ願意採擇スヘキモノト議定セリ

第三十議會ニ於テモ亦之ト同様ノ請願アリシカ貴族院ハ委員會ニ於テ不採擇ニ決シ衆議院ハ參考トシテ政府ニ送付シ同時ニ同一趣旨ノ建議案ヲ可決セリ

第三十一議會ニ於テモ亦官營製材及斫伐事業廢止請願ヲ衆議院ニ提出セシモノアリシカ同院ハ又之レヲ政府ノ參考トシテ送付セリ於是政府ハ之カ存廢ニ付慎重審議ヲ重ネタル後大正三年一月二十一日左ノ五製材所一木工所廢止方針ヲ決定シ遂ニ同年七月二十八日青森、秋田、兩大林區署ニ對シテ之カ賣拂方ヲ通牒セリ

- 青森大林區署管内 青森製材所
- 同 相内製材所
- 同 大鰐製材所

- 秋田大林區署管内 代野製材所
- 東京大林區署管内 明科製材所
- 青森大林區署管内 鍛冶谷澤木工所

而シテ官營製材所存廢決定ノ理由ハ次ノ如シ

元來政府カ製材所ヲ設置經營セルハ國有林ノ利用ヲ促進シ伐採地ノ噴殺ヲ確實ナラシメ併セテ地方林業ノ發達ヲ誘導スルノ目ニ出テタルモノナリ從テ歲月ノ經過ニ伴ヒ自ラ國有林ノ利用圓滑ナルヲ得ルニ至ラハ製材事業ノ如キ煩瑣ナル作業ハ之ヲ避クルヲ可トセン

而シテ製材事業ハ官營ニ適セス國庫ノ收入上益スル所ナク徒ラニ民業ヲ壓迫スルノミナルヲ以テ之ヲ廢止スヘシトハ民間業者ノ唱フル所ナルモノ之ヲ既往ノ經驗ニ徴スルニ必スシモ然リト認ムルヲ得ス現在十四製材所ハ各其事業ヲ異ニシ且國有林ハ利用ノ程度低キカ爲產物ノ處分容易ナラス既定ノ施業計畫ニ依リ植伐ヲ遂行スル能ハサルモノ多ク其ノ不利計ルヘカラサルモノアルヲ以テ民間業者ノ唱フルカ如キ單純ナル理由ニヨリ之カ存廢ヲ決定スル能ハス少クトモ左記特種事情ノ一チ有スル場合ハ尙依然官營製材ヲ繼續スルノ必要アルモノト認ム

一、柚材ノ儘ニテハ買受希望者少ク處分不確實ナルカ若ハ不當ノ低價ヲ以テ賣拂フニアラサレハ處分ノ見込ナキトキ

二、未利用林又ハ未利用木ノ利用ヲ開發増進シ森林更新ノ安全ヲ圖ル必要アルトキ

三、製材事業ヲ民業者ニ委スルトキハ關係國有林ノ產物ヲ一私人ニ獨占セラレル虞アルトキ

以上ノ理由ニ依リ十四製材所(内一ヶ所木工所)ノ狀況ヲ查察シ左記ノ如ク存廢セントス

- 一、官營廢止ノ分(五製材所一木工所)
 - 代野製材所 秋田縣北秋田郡長木村
 - 大鰐製材所 青森縣南津輕郡大鰐村
 - 相内製材所 同 縣北津輕郡相内村
 - 青森製材所 同 縣東津輕郡瀧内村
 - 明科製材所 長野縣東筑摩郡中川手村
 - 鍛冶谷澤木工所 宮城縣玉造郡温泉村

- 増川製材所 青森縣東津輕郡三蔵村
- 日原製材所 島根縣鹿足郡日原村
- 馬路製材所 高知縣安藝郡馬路村
- 杉瀬製材所 同 縣同 郡東川村
- 一勝地製材所 熊本縣玖摩郡一勝地村
- 山野製材所 鹿兒島縣伊佐郡山野村
- 萬膳製材所 同 縣始良郡牧園村
- 下赤製材所 宮崎縣東臼杵郡北川村

廢止製材所處分狀況次ノ如シ

(イ) 青森製材所第一工場大正三年十一月十二日入札ノ結果秋田木材株式會社ニ落札シ同第二工場機械類全部ハ大正四年三月臺灣總督府阿里山作業所ニ保管轉換シ第二工場建物及附屬納屋並乾燥室等全部ハ勅令第九十三號(明治二十三年)ニヨリ大正四年十月安部城嶺山ニ賣拂ヒタリ職員官舎一棟及職工宿泊所一棟ハ他ノ用途ニ移築ス

(ロ) 大勝製材所職工官舎二軒職工宿泊所巡視詰所ハ他ノ用途ニ移築シ其ノ他ハ勅令第九十三號(明治二十三年)ニ依リ大正三年十一月十四日秋田縣大館町中泉喜八ニ特賣セリ

(ハ) 相川製材所職員官舎二軒職工宿泊所巡視詰所ハ他ノ用途ニ移築シ其ノ他ハ勅令第九十三號(明治二十三年)ニ依リ大正五年二月橫濱市青木町川原章次ニ特賣セリ

(ニ) 鍛冶谷澤木工所木工機械類ハ大正四年三月三十日日本省會計課ニ保管轉換ヲ爲シ會計課ハ更ニ商工局ニ委シテ此種民業獎勵ノ爲メ數ヶ所ニ貸與使用セシメタリ其ノ他ノ機械類ハ大正四年三月阿里山作業所ニ保管轉換ヲ爲ス

(ホ) 代野製材所ノ機械類中鋸機汽機各一臺及煙突一基ハ大正四年三月阿里山作業所ニ保管轉換ヲ爲セリ職員官舎四棟職工宿泊所等ハ他ノ用途ニ移築セリ

其ノ他機械類及建物ノ過半ハ數回公特賣ニ依リテ處分シ尙殘部ハ處分方講究中ナリ

(ハ) 明治製材所ハ明治四十二年五月火災ノ爲自然消滅シテ再設セス

職員官舎三棟職工宿舎二棟倉庫二棟ハ他ノ用途ニ移築セリ

今明治三十八年度ヨリ大正四年度ニ至ル間ニ於ケル製材事業ノ成績ヲ擧クレハ次ノ如シ(但シ大正二四兩年度ニ於テハ三年以以降廢止セラレタル製材所ノ殘務整理ニ關スル收支アルモ之ヲ掲ケス)

製材所作業成績表

年度	製材所數	使用原料積	製品生	收		入	
				製品處分	原	製	計
明治三八	一	一、七七一	七三三	三、〇七二	三、五六一	三、六四九	三、六四九
三九	一	八三、九五〇	五、一七二	七、五五二	三、二五七	三、二五七	三、二五七
四〇	四	一六、四〇七	八四、三三三	三九八、四八九	一、七五七	一、七五七	一、七五七
四一	九	二八、九〇八	一三九、〇六三	三三六、四七五	三、八一一	三、八一一	三、八一一
四二	一四	三六、一八〇	二〇、三九九	二九八、二八六	三、〇六九	三、〇六九	三、〇六九
四三	一三	四九、六五五	二七三、八二五	二二〇、七四〇	三、九四七	三、九四七	三、九四七
四四	一三	五九、四三三	三〇九、五二八	二八四、四八二	四、〇八八	四、〇八八	四、〇八八
元	一三	五三、七〇〇	三三、七一一	二〇二、四九七	三、七二七	三、七二七	三、七二七
二	一三	四八、九三三	二五八、六七七	一、七八三	三、八七三	三、八七三	三、八七三
三	八	二五八、五〇〇	一四、五三二	六〇〇、九三二	一、五七二	一、五七二	一、五七二
四	八	二五九、六五五	一四、五〇九	五八三、六九三	一、五七二	一、五七二	一、五七二
大正							
支							
出							
入							
計							
損益(△、損)							

三八	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
三九	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四一	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四二	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四三	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四四	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
元	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
二	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
三	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇
四	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇	三三,〇五二〇

備考 収入ノ部製品處分欄ニ於ケル括弧分ハ原料材ヲ作業第一、二部へ拂戻シタルモノ又支出部前年度ヨリ繰越欄ニ於ケル括弧分ハ製品ノ轉管受入ナリ

四、林産物賣拂ニ關スル規程
(イ) 會計法施行前

林産物ノ賣拂ハ藩制時代ヨリノ慣行ニヨリ地元住民ニ特賣セルモノノ外主トシテ入札拂ノ方法ニ依リシカ如キモ規則及手續ニ付テハ特ニ規定シタルモノナク處分ノ都度伺出ヲ爲シ來タレリ明治十一年官行事業ノ擴張セラルルヤ其ノ斫伐材ノ處分ニ關シ始メテ左記ノ各規則ヲ定ムルニ至レリ

賣材規則 (明治十一年六月二十九日九裁)

第一條 凡ソ木材ヲ發賣スルニ二法アリ

一 入札拂

入札拂トハ前方公告ヲ爲シ期日ニ至リ定メタル場所ニ於テ入札ヲ爲サシメ高札ノ者ニ賣與スルヲ云相當拂トハ二條三條四條ノ手續ヲ以テ時價ヲ參酌シ本局ニテ定メタル價直ヲ以テ請求人ニ賣與スルヲ云フ

第二條

相當拂ハ勿論入札拂トイヘトモ運材掛ニ於テ先ツ見込直段ヲ定メサルヘカラス其直段ハ興業費(貯木所編場等ノ地所家屋器械費ノ類)營業費(課中人員ノ給料旅費及袖日備木挽給料種樹費廻材費賣捌費ノ類)ノ多寡得失ヲ計リ時價ヲ參酌シ種樹掛出納掛ニ合評シ局長ノ許可ヲ請ヒ之ヲ定ル者トス

第三條

前條興業營業ノ兩費トイヘトモ單ニ一箇又ハ一部ノ材木ニ賦スヘキ者ト數箇又ハ數部ノ材木ニ賦スヘキ者トノ別ナクハアルヘカラス故ニ發賣スヘキ材木ニ就キ單賦費即其材木ヲ生長シタル費用(地料種子稚苗ノ代價蒔付費ノ類但事數十年前ニアル者ハ見込ヲ以テ之ヲ算ス)ト其樹木ヲ剪伐シタル費用(伐木委員ノ旅費假小屋借家賃器械袖日雇木挽給料ノ類但編場アル場所又ハ運搬貯藏等ニ付別段ノ費アル者ハ更ニ之ヲ算入スル者トス)トナ合評シ更ニ賦費(本課等内外官員備俸給中費ノ類)幾分ヲ分割配賦シ務メテ至當ナ要スヘキ者トス

第四條

時價ハ供給需用ノ多寡適否ニ由リテ自然ニ生スヘキ者ナリト雖モ僱人爲テ以テ之ヲ上下スルコトアリ平生厚ク注意ヲ爲シ時價高低ヲ生スル時ハ其原因ヲ討求シ其結果ヲ考ヘ見込直段ヲ改ムヘク又ハ改メサルヘカラスト思考スル時ハ直ニ見込ヲ陳シ局長ノ許可ヲ請ヒ之ヲ定メ各貯木所ニ速達スル者トス但直段ヲ下ストキハ特ニ出納掛ニ協議スヘシ

第五條

既伐ノ材價ヲ定ルハ第二條三條四條ノ通タルヘシトイヘトモ時宜ニヨリ官省及ヒ其他ニテ事業者手前直段ヲ定メ買取ランコトヲ請求スル時ハ運材掛ハ種樹掛ニ協議シテ其立木直段ヲ見込伐木掛ニ協議シテ其伐木費ヲ見込ニ第二條三條ニ準擬シ猶代金授受ノ運速ヲ參酌シテ見込立木出納掛ニ合評シテ局長ノ許可ヲ請ヒ之ヲ定ムル者トス

第六條

然レトモ木ハ向キノ適否アリ從テ巨多ノ損益ヲ生スルカ故ニ伐木掛ヨリ木材受取ノ際厚ク注意ヲ爲シ左ノ三類ニ分チ書式ニ從テ簿表ヲ作り局長ノ決ヲ請フ者トス

一 地拂
二 地所廻シ
三 園七置

地拂トハ其場所ニテ入札拂又ハ相當拂ニテ賣拂フヘキ者ナ云フ
他所廻シトハ其場所ニテ賣拂ハス東京大阪又ハ其他各所ニ積廻シ賣拂フヘキ者ナ云フ
園七置トハ容易ニ得ヘカラス又賣買セサル良材ニシテ他日ノ需用又ハ善價ヲ待ツヘキ者ナ云フ

第七條

入札拂ヲ爲ス場合ニ於テハ開札スヘキ場所日限時刻木種員數大小長短ヲ簡記シ運クトモ三十日前ニ於テ隣近諸新聞紙ヲ以テ公告シ當日ニ至リ
第二條ノ見込代價ヲ以テ留メ札トナシ入札セシムヘシ但公告以後木材見置ヲ請ヒタル者ハ木材檢閲セシムヘキハ勿論入札規則ヲ相示シ開入
札ノ見込アリト告ル者ニハ入札紙ヲ拂ヒ渡シ且入札規則拂下ヲ請フ者ニハ之ヲモ拂ヒ渡スヘシハ入札紙ハ入札規則ノ書式ニ照シ豫メ印判シ置
クヘシ右ノ場合ニ於テ開札日ニ至ル時ハ投票人ヨリ入札ヲ受取リ順序ニ從テ番號ヲ記シ時刻ニ至リ公衆ノ目前ニテ開封シ一番二番三番ハ之
ヲ讀上ケ豫定ノ價格以上ニ至ル時ハ之ヲ賣リ至ラサル時ハ賣ラサルヘシ但兩權共直ニ本局ニ電報スヘシ

第八條

相當拂ハ別段ノ契約ニヨル者ナルカ故ニ豫メ一定スヘカラス然レトモ第二條三條四條ノ見込直段ヲ踏ヘ猶代金授受ノ遲速ヲ參酌シ局長ノ決
請ヒ拂ヒ渡ス者トス但木材引渡ト代金受取トハ同時ニ爲スヘシト雖モ買主身元ノ厚薄抵當ノ適否保證人ノ資富ニヨリテハ實地ヲ參酌シ局長ノ
決テ請ヒ緩急處分ヲ爲スコトアルヘシ

第九條

薪炭木又ハ薪炭其他請求ノ切ハ實地相當ノ見込ヲ立テ關係ノ掛ヘ合評シテ局長ノ決テ請フヘシ

第十條

賣材代金ハ定リタル銀行ニ照會シテ相受取リ本局ニ逕致セシムヘシ其場合ニ於テハ銀行預リ證ヲ本局ニ差出ス可シ

第十一條

賣材ハ書式ニ照シ日締月締表ヲ作り翌月五日迄ニ本局ニ差出スヘシ

第十二條

運材ノ事件ハ書式ニ從ヒ運材簿ヲ作り日締月締表ヲ添ヘ日締簿ハ翌月三日迄ニ局長ニ差出スヘシ

貯材入札拂規則 (明治十一年六月二十六日九裁)

第一條

凡ソ入札拂受ヲ爲セントスル者ハ此規則ヲ熟覽シタル上賣材ヲモ熟覽シ甲號書式ニ照準一ト番號限リ一封ニシテ差出ス可キ事
但一ト番號ノ内小買ノ入札ハ不相成事

第二條

同號ノ内各種アルモノハ合金ヲ載セ内譯ニ種類及ヒ代價ヲ記入スヘキ事
但同金額入札二人以上アルトキハ入札差出ノ順番ヲ以前番ノ者ヘ落札申渡候事

第三條

開札ノ上高札ノ金額若シ當局見込ノ價額ヨリ低價ニシテ拂下カタク見認ルトキハ此日ノ開札ハ取消シ更ニ日ヲ期シ再入札ヲ廣告スルコトア
ルヘキ事

第四條

落札ノ申渡ヲ受タル者ハ三日以内ニ乙號書式ニ照準シ落札代價十分ノ一ヲ以テ約定ノ證トシテ直ニ上納シ残り十分ノ九ハ現材引取ノ簡上納ス
ヘキ事

第五條

但右十分ノ一ヲ上納セル上ハ假ニ該材ヲ引渡スヘシトイヘトモ殘金納濟ニ至ラサレハ他ニ運搬スルコトヲ許ササルヘシ尤右假渡ノ材ハ拂受
人ニテ保護スヘキ事

第六條

右約定金ヲ受領スルトキハ丙號書式ノ預書ヲ渡スヘキ事
右約定金ノ上落札人ヨリ違約スルカ又ハ殘金皆納ノ日ニ至リ納金滞ルコトアレハ最初證トシテ納メタル金額ハ悉皆違約價金トシテ沒收シ契約
ハ無効トスヘキ事

第七條

木材引取ノ儀ハ一名尺ノ百圓以下ハ落札申渡ノ日ヨリ十日限一名五百圓以下ハ二十日限一名千圓以下ハ三十日限リ一名千圓ヨリ五千圓迄四十
日限一名五千圓以上一萬圓迄ハ六十日限リタルヘキ事

第三編 國有林野ノ經營

代金上納ト現材引取トハ同時ノ答ニ付暫時タリトモ代金上納前ニ現材引取ヲ許ササル事

但正金上納ニ差支ルモノハ相當ノ公債證書ヲ納メシムルコトアルヘキ事

第九條

入札人ハ現木點檢ノ上現品ニ就テ投票スルモノトス現品引取ノ際木種長寸間等ノ差違アリテ苦情申出ルトモ素ヨリ熟視ノ上入札可致答ニ付一切不取上事

第十條

入札人目前ニ於テ開札ニ付テハ右相濟迄ハ退散不致儀ト可相心得事

第十一條

此規則ハ時宜ニヨリ改正スルコトアルヘキ事
(書式省略ス)

貯材相當拂規則 (明治十一年六月二十八日允裁)

第一條

凡ソ貯材ノ相當拂受ヲ爲サント欲スル者ハ此規則ヲ熟覽シ貯木所ニ申出拂下ラルヘキ木材ヲ熟覽シ甲號書式ニ照シ願書ヲ出スヘキ事

第二條

本局貯木別帖ノ木種木材ハ大小良否既定ノ區分等級ニ應シ賣渡可申候

第三條

官民ヲ不論代價ノ儀ハ契約ノ時請渡可申事

第四條

官民ヲ不問拂請申出ノ前後アリト雖モ代價拂込ノ前後ヲ以テ順序ヲ立テ可申假令ハ甲者數日或ハ數刻前ニ拂請ノ申込有之乙ハ數日或ハ數刻後拂請申込ムトモ乙ハ即時代價拂込ム時ハ甲者へ無報告ニテ直ニ乙者へ拂渡シ甲者ノ申込ハ無效トナシ可申事

第五條

官民ヲ不問買請者ノ都合ニヨリ可買請契約ノ證トシテ代價十分ノ一手付金差入ルトキハ假リニ該材ヲ引渡シ置可申尤代價全納ニ至ラサレハ

該材ヲ他ニ運搬スルヲ許ササルヘキ事

第六條

手付金差入ルト雖モ殘金ハ右契約手付金拂込ノ日ヨリ十五日間ニ拂込ヘキモノトス右日限ヲ經過シ殘金不拂込時ハ手付金ハ買請者ノ損失ト定メ最初ノ契約ハ無效トナシ他ニ拂下可申事

第七條

賣買契約代價授受或ハ契約ノ證トシテ手付金ヲ授受シ該品引渡ノ後非常天災ニテ該品損失セシ時ハ授受ノ金額ハ買請者ノ損失タルヘキ事

第八條

賣買濟ノ木材ハ三十日間ニ該地ヲ引拂ヘシ右日限ヲ過ルトキハ尺ノ一本ニ付一日一風ノ庭錢ヲ買請者ヨリ地理局へ拂渡シ可申事

第九條

材木ハ等級ニ從ヒ豫メ仕分タルニ付該材引渡ノ際積積等ノ都合ニ據リ順次引渡ス答ニ付買請者ニ於テ取捨選取スルヲ許ササルヘキ事

第十條

材木渡方ハ賣買者立會場内便宜ノ場所ニテ引渡可申右費用ハ地理局受持タルヘシト雖モ其引渡セシ場所ヨリ川出樁組等ノ費用ハ買受者持勿論タルヘキ事

但此場合ニ於テ買請者日備等使役ニ困窮スル者ハ其請求ニ應シ地理局ニテ心切ニ同所定日備ニ請負ノ紹介ヲ爲スコトアルヘシ

第十一條

此規則ハ時宜ニヨリ改正スルコトアルヘキ事

而シテ木材相場ノ調査ニ付テモ其方法ヲ一定セサレハ彼此均衡ヲ失スルノ虞アリシヲ以テ木材相場取調規則ヲ定メテ之ニ依ラシムル事トナレリ

木材相場取調規則 (明治十一年六月二十八日允裁)

第一條

木材相場ハ賣材上緊要ノ件ナルカ故ニ主任ヲ定メ遲滯ナク取調ヘシムル者トス

第二條

第三編 國有林野ノ經營

木材相場ハ賣材上緊要ノ件ナリトイヘトモ其影響ニ大小アリ故ニ分テ三等トス

- 一、一等 相場ヶ所
- 二、二等 相場ヶ所
- 三、三等 相場ヶ所

第三條

一等相場ヶ所ハ東京大阪白鳥秋田青森等ノヶ所ナリトス
 二等相場ヶ所ハ各縣廳下又ハ樹木需用多キ大市街ナリトス
 三等相場ヶ所ハ各地ノ名邑等樹木ノ需用アルヶ所ナリトス

第四條

各地ノ相場ハ總テ出張官員ヨリ申告スル者トス然レトモ一等相場ヶ所ハ右ノ外更ニ職員ヲ置テ之ヲ調ヘ每十五日ニ報告セシメ二等相場ヶ所ハ其府縣ニ依頼シテ十一月ニ報告セシムル者トス

第五條

尋常ノ報告ハ第三條ノ通タルヘシトイヘトモ非常ノ高低アル時ハ定期ニ拘ラス特別ニ報告スル者トス尤右ノ報告ハ電信ナキ地ノ外ハスヘテ暗號ヲ定メ置キ電信ニテ報告スル者トス

第六條

右報告書到來セハ賣材掛ハ即時局長ニ呈シ一覽後ハ時日ヲ移サス兼テ備ヘタル木材相場表ニ記入スル者トス

第七條

相場ノ高低ニヨリ各貯木所ニ報告スルヲ緊要ナリト思考セラルル時ハ局長ニ伺ヒ尙時機ヲ謀リ電報又ハ郵便ニテ報知スヘシ

第八條

相場ノ高低ニヨリ豫テ定メラレタル定價ヲ増減セサルヘカラスト思考スル時ハ即時見込ヲ立局長ニ伺出各地ノ貯木所ニ達スヘシ

同年七月内務省ハ大中林區署ヲ設ケ其翌年五月山林局ヲ設置セシ以來山林ニ關スル事務ハ漸次緒ニ就キ超エテ十三年六月林區署ヲ廢シテ官林直轄地方ニ山林局出張所ヲ置キ事務章程ヲ制定シテ執務ノ方針ヲ定メタリ既ニシテ十四年四月ニ至リ農商務省新設セララルルヤ從來内務省ニ隸屬セシ山林局ヲ本省ニ移シ尙前記山林局

出張所ヲ山林事務所ト改稱シ事務章程ヲ廢シテ新ニ處務心得ヲ規定セラレシヨリ山林ニ關スル事務ハ較整頓ノ域ニ向ヒタリ而シテ該心得中ニハ產物賣拂ニ關スル處分權限ヲ「盜伐木及枯損木ノ處分、季節アル副產物ノ拂下及慣習アル柴草ヲ拂下又ハ繼年期ヲ許可スルコト」ハ出張所限リ適宜處分スルコトヲ得其ノ他ノモノハ本局ニ稟申シテ後ニ處分スルコトト規定セラレタルモ其ノ賣拂ノ方法手續ニ至リテハ何等規定シタルモノナシ勿論實際ニ於テハ生立木竹ハ競争入札又ハ糶賣ノ方法ニ依リ處分セシモノ多ク之カ手續ニ關シテハ各山林事務所ニ於テ必要ニ應シテ規則ヲ別定シ隨意ニ處理シ來リタル狀態ナリシモ各地區々ニ涉リ不都合尠カラサリシカハ明治十七年四月ニ至リ之カ統一ヲ圖ラムカ爲始メテ官林產物公賣規則ヲ制定セリ今其ノ主要ナル條項ヲ擧クレハ

一、左ニ記載シタル者ハ入札ニ加入スルコトヲ得ス

(イ) 公賣ニ關係アル官吏郡區町村吏及傭員

(ロ) 官林ノ竹木其ノ他產物ヲ拂受ケ其ノ代金意納中ノ者及官林ニ關スル損害賠償金若クハ違約金等ノ辨償ヲ終ヘサル者

(ハ) 官林ニ對シ罪ヲ犯シタルモノハ其ノ犯罪ニ係ル物件公賣ノ時

二、入札人ハ開札ノ席ニ參會ス可シ若本人又ハ代理人共ニ參會セサル時ハ其ノ入札ハ效ナシトス

三、落札約定金ノ割合ハ左ノ如シ

落札金額五圓未満ノモノハ五十錢同五圓以上ハ五圓マテ毎ニ五十錢ヲ増ス

四、前項約定金ヲ上納スルモ其殘金ヲ十五日以内ニ上納セサルモノハ其ノ落札ヲ取消シ既納ノ約定金ハ之ヲ返付セサルモノトス

五、落札人約定金ヲ上納セサル時ハ其ノ落札ヲ取消シ更ニ再入札ヲ行フカ又ハ二番札ノ者ニ落札ヲ申渡スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ再入札ノ落札金高初度ノ落札金高ヨリ少キ時又ハ二番札ノ者落札ノ時ハ初度ノ落札人其ノ不足金ヲ償フヘシ但ニ二番札ノ者初度ノ落札金高ヲ以テ其ノ落札ヲ請求スル時ハ此ノ限ニ在ラス

六、落札人ニ於テ當初定メタル山出期限内ニ其ノ物件ヲ搬移セサルトキハ其ノ物件ヲ官收シ既納ノ代金ハ之ヲ返付セサルモノトス但延期ノ許可ヲ受ケタル時ハ其ノ延期内一日ニ付當初拂下代價ノ二百分ノ一ヲ借地料トシテ上納スヘシ

然ルニ同年十月ニ至リ右公賣規則中ノ一部ヲ改正シテ出願人ノ便ヲ圖レリ其ノ主タル事項ハ

一代金ノ内約定金ヲ差引キタル殘金ノ納付期間十五日ヲ二十五日ニ延期ス

二、落札人約定金ヲ上納シタル後其ノ落札ノ取消ヲ請求シタルトキハ其ノ落札ヲ取消シ既納ノ約定金ハ返付セサルモノトス

三、落札人約定金ヲ上納セサル時ハ其ノ落札ヲ取消シ更ニ再入札ヲ行ヒタル場合ニ於テ望人ナキトキハ最初落札金額ノ十分ノ一ヲ徵收スヘシ

超エテ明治十九年五月ニ至リ從來ノ山林事務所ヲ廢止シ新ニ大小林區署ヲ設置セラレ之ト同時ニ小林區署長服務條規草案中ニ產物ノ處分ニ關シテ規定スル所アリ即チ其ノ要項ヲ舉クレハ

一、木材ノ賣却ハ左ノ二種ニ據ル

第一 特 賣

第二 公 賣

二、特別ニ小林區署長ニ委任スル特賣ハ左ノ如シ

第一 水火ノ災害ニ因テ生シタル臨時切迫ノ需用ニ應スル用材

第二 林區線内細民需用ノ薪材

第三 袖夫需用ノ作業器具材

第四 蟲害其ノ他保護上ニ關シ採材セシ小圓材

第五 竊取ノ恐レアル倒木若クハ盜伐材

第六 二回公賣ニ付シテ尙相當ノ賣價ヲ得サリシ木材

三、前項第一ヨリ第五ニ至ル特賣ハ買得者一戸一ヶ年ノ買得高五圓ヲ限リトス

四、生材豫算表若クハ大林區署長ノ指揮ニ依テ特賣スルモノヲ除キ其ノ他木材ハ入札若クハ競賣法ヲ以テ公賣ス可シ而シテ公賣ヲ別チ左ノ二種トス

第一 公 賣

第二 普通公賣

制限公賣ハ細民自家需用ノ爲營業者、工業者及富有者ノ加入ヲ制止シテ買得ヲ容易ナラシムルニ在リ此ノ公賣ハ薪材一割ヲ限リ發賣ス可シ但一ヶ月二回ヲ超ユ可カラズ

五、木材ノ公賣ハ豫メ價格ヲ算シ留置段ヲ定メ置キ其留置段以上ニ達シタル最高價ノ者ニ落札若クハ落糶スルモノトス但シ低價ナルモ其ノ減額留置段ヨリ百分ノ二十迄ハ小林區署長ノ職權内ヲ以テ事宜ヲ酌量シ之ヲ賣却スルコトヲ得

六、副產物ノ賣却ヲ別テ公賣特賣ノ二種トス

七、樹實、菌類、雜草類ノ副產物ハ入札若クハ競賣ヲ以テ賣却スルヲ通則トシ代價僅少ニシテ公賣ニ附スルヲ要セス若クハ主產物ノ保護念備

ノ供給困難ノ豫防其ノ他公賣ス可ラサル理由アル副產物ハ特賣法ヲ以テ賣却ス可シ

八、副產物採取者ニ入札鑑札ヲ下附シテ賣得ノ證票ト爲サシムヘシ

尙同年同月從來ノ官林產物公賣規則ハ支障ノ廉尠カラサルノ理由ヲ以テ其ノ一部ヲ改正セラレタリ其ノ要項ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、入札ハ本人又ハ代理人ノ參會ヲ必要條件ト爲シタルヲ郵便ニ附シ又ハ他人ニ委託スルノ途ヲ開ク

二、公賣代金ハ壹圓未満ハ其ノ金額壹圓以上ハ約定金トシテ其ノ金額ノ十分ノ一ヲ納付シ其ノ殘金ハ指定ノ日限内ニ上納セシムルモノトス

三、物件引渡前ニ研伐採取シタル者ハ壹圓以上拾圓以下ノ違約金ヲ徵收セラルルモノトス

四、指定期間日ニ物件ヲ搬出セサルモノハ違約金トシテ公賣代金ノ十分ノ一ヲ徵收セラルルモノトス

但所有權ヲ拋棄シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニハ更ニ其ノ搬出期限ヲ指定ス可シ若シ其ノ期限ヲ過キ尙搬出セサルモノハ其ノ物件ヲ官收ス可シ

(ロ) 會計法施行後

明治二十二年二月法律第四號ヲ以テ發布セラレタル會計法(二十三年四月一日ヨリ施行)ニ於テ政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

ニ關ル事項ヲ規定セリ即チ

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付

セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及因徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

(其ノ他略ス)

尙同法ノ附屬トシテ明治二十二年四月勅令六十號ヲ以テ會計規則ヲ發布セラレ物件ノ賣買ニ關スル方法手續ヲ規定セラレタリ左ニ其ノ主タル條項ヲ擧クレハ

競争契約

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其ノ入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ
第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
入札人又ハ其ノ代理人若シ開札ノ場所ニ出席セザルトキハ其ノ入札ヲ無効トス
第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ依リ豫定ニテ價格ノ制限ニ達セザルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタルモ數名アルトキハ同價ノ入札者ナシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ
再度ノ入札ヲ爲スモ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其ノ契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕様、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其ノ他一切必要ナル條件ヲ掲グヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其ノ委任ヲ受ケタル官吏其ノ契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セザルモノトス

隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ

其ノ後明治二十六年三十三年三十四年及三十五年ニ其ノ一部ヲ改正セラレタリ其ノ主タル事項ヲ擧クレハ

一、物品賣買ノ競争ニ加ハラシトシ若クハ其ノ契約ヲ結ハントスルモノハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納メシメ而シテ其ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣ニ於テ定ムルコトトナレリ

第一 競争ニ加ハラントスルモノハ其ノ事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスルモノハ其ノ事項ノ代金ノ百分ノ十以上

二、左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者及之ヲ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用シタル者ハ爾後二ヶ年間物品賣買ノ競争ニ加ハルコトヲ得サルコトトナレリ

イ、競争ニ際シ漫ニ價格ヲ競上ケ若クハ競下クルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

ロ、競争ノ加入ヲ妨害シ若クハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者

ハ、前各號ニ該當スト認メラレタル後二ヶ年ヲ經過セサルモノヲ物品賣買ニ際シ代理人、支配人、番頭又ハ手代トシテ使用スル者

三、競争ノ落札者賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得ニ定メラル

四、入札公告ハ必ス十五日前ヨリ爲スヘシトアリタルヲ要急ノ場合ニ限り七日迄ニ短縮スルコトヲ得ルコトトナレリ

五、入札人又ハ代理人開札ノ場所ニ出席セサルモ其ノ入札ハ效力アルモノトナル

六、入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得サルコトトナレリ

七、同價ノ入札者數名アルトキハ再度ノ入札ヲ爲サス直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムルコトトナレリ

八、一口千圓未満ノ隨意契約ノ場合ハ契約書ヲ省略シ得ルコトトナレリ

會計法第二十四條ニ基キ國有林野產物ヲ隨意契約ヲ以テ處分シ得ル場合ヲ勅令ニテ規定セラル即チ左ノ如シ

官有森林原野及產物特別處分規則 (明治二十三年四月勅令第六十九號)

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野產物ヲ競争ニ付セス隨意契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得

第三編 國有林野ノ經營

- 一、官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ其ノ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 二、礦業ノ爲メ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ
 - 三、非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 四、從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹、薪炭材、下草、株、小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 五、部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
 - 六、社寺建築營繕ノ爲メ該社寺土地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 七、建築具ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣渡ストキ
 - 八、季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
 - 九、開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル産物ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ
 - 十、林業附帶ノ用ニ供フル爲メ産物ヲ賣渡ストキ
 - 十一、部分方法ニ由リ林産物製造ノ爲メ其ノ原料ヲ受負人ニ賣渡ストキ
 - 十二、見積代價二百圓ヲ超エサル木竹ヲ賣拂フトキ
 - 第十二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得
 - 第十三條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得
 - 第十四條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ無料ニテ採取セムシルコトヲ得
 - 第十五條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得
- 其ノ後二十三年十二月二十四年六月及二十四年十月ニ至リ左記ノ通改正追加セラレタリ
- 第一條 第十二ノ「木竹」トアルヲ「主副産物」ニ改ム
 - 第二條 二次ノ一號ヲ追加ス
 - 第三條 河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ
 - 第四條 農商務大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺土地官林ノ全部又ハ幾分ヲ該社寺ニ委託シ其ノ林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其ノ林地ノ産物ヲ下附スルコトヲ得
 - 第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ無料ニテ採取セムシルコトヲ得
 - 第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得
- 競争入札ニ付スルモ賣拂ヲ了セサル場合ニ於テ隨意契約ヲ爲ス件ニ付左記ノ如ク勅令ヲ發布セラレタリ

明治二十三年九月勅令第一九三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙豫定價格ノ制限ニ達セザルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

明治三十二年三月國有林野法ノ發布セラレタル際國有林野ニ關スル從來ノ法令規則ハ多ク改廢セラレ産物ノ賣拂ニ付テモ其ノ根本法ナル二十三年勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則ヲ廢止シ新ニ三十二年八月勅令第三六三號ヲ以テ國有林野産物ヲ隨意契約ニ依リ賣拂フトコトヲ得ル場合ヲ規定セラル今其ノ主ナル相違ノ點ヲ擧クレハ

- 一、委託林野ノ産物ヲ受託者ニ賣拂ノ途ヲ開キタルコト
- 二、民地官木林ノ産物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂ノ途ヲ設ケタルコト
- 三、見積價格二百圓ヲ超エサル主副産物ヲ賣拂フトキトアリタル價格ヲ三百圓ニ増加セルコト
- 四、部分方法ニ由リ林産物製造ノ爲メ其ノ原料ヲ受負人ニ賣渡ストキ及河海、沼湖、濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキノ二項ヲ削リタルコト

等トス其ノ後産業ノ奨励及森林更新ノ安全ヲ圖ル主旨ヲ以テ三十七年勅令第十八號ニ依リ左ノ二項ヲ追加セラレタリ

- 一、農商務大臣ノ定ムル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フトキ
 - 二、施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競争契約ニ依ルトキハ森林ノ更新ヲ障害スルノ虞アル場合ニ於テ其ノ森林ノ主産物ヲ農商務大臣ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ
- 四十一年勅令第二五六號ヲ以テ見積價格三百圓を超エサル産物ヲ賣拂フトキトアルヲ六百圓ニ増加セラレ尙

大正五年七月勅令第一八九號ヲ以テ重要製産品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フ場合ニ於テ其ノ原料ト併合シテ處分スルニ非サレハ森林ノ更新ヲ障害スルノ虞アル混生木ヲ原料ト共ニ製造業者ニ賣拂ノ途ヲ開キタリ是ヨリ先三十八年二月勅令第三二號ヲ以テ國有林産物品ハ海外輸出ノ目的ヲ以テスル場合ニ限り問屋營業者ニ委託シテ隨意契約ニ依リ賣拂ヲ爲シ得ル途ヲ開カレ四十二年十二月更ニ勅令第三一一號ヲ以テ國有林野産物ノ年期賣拂ト共ニ國有製材所ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ賣拂及貸付ハ隨意契約ニ依ル途ヲ設ケタリ政府ノ工事又ハ物品ノ購入ニシテ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競争ニ付スルコトヲ得ルハ三十三年六月勅令第二八〇號ニ依リ規定セラレタルヲ大正五年五月物件ノ賣拂モ指名競争ニ付スルコトヲ得ルコトニ改正セラレタリ

以上ハ法律及勅令ノ沿革ニシテ尙省令訓令等ノ沿革ヲ述レハ左ノ如シ

- 競争契約又ハ隨意契約ニ依リ物件ノ賣買ヲ爲ス場合ニ於ケル取扱手續ノ要項ハ前記ノ如ク會計規則中ニ規定セラレタル爲從來ノ官林産物公賣規則ハ改正ノ必要ヲ生シ二十三年五月ニ至リ新ニ林産物公賣規程ヲ制定セラル今從來ノ取扱ト異ナル點ヲ擧クレハ
- 一、開札ニ立會ハサルモノノ入札ハ無効トス
- 二、契約保證金ハ落札代金ノ十分ノ一トス
- 三、物件搬出期限内ニ其ノ搬出ヲ終ラサルトキハ更ニ其ノ期限ノ延期ヲ許可シ其ノ期間ニ對シ左ノ割合ヲ以テ借地料ヲ前納セシメムルコトナレリ
- イ、落札代價金百圓以上ノモノハ一日ニ付其ノ千分ノ一

ロ、落札代價金百圓未満ノモノハ一日ニ付金拾錢但シ延期ヲ要スルノ事由天災事變ニ屬スルトキハ右借地料ヲ免除ス

- 四、落札人ニ於テ搬出延期ノ請求ヲ爲サスシテ其ノ期限ヲ經過スルトキハ前項ノ割合ニ二倍スルノ借地料ヲ徴收スルコトナレリ
- 五、落札人右借地料ヲ納付セサルトキハ其ノ搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ之ヲ公賣ニ付シ其代金ヲ以テ借地料及差押公賣其他ノ諸入費ヲ支拂ヒ猶殘金アルトキハ之ヲ還付シ若シ不足スルトキハ更ニ之ヲ要求スルコトナレリ

其ノ後右公賣規程ノ入札保證金ハ豫定價格ノ百分ノ五以上ニ於テ適宜之ヲ定ムヘキ旨ヲ農商務大臣ヨリ示達セラレタリ超エテ二十四年九月ニ至リ告示第八號ヲ以テ官有森林原野及産物特賣規程ヲ制定セラル其ノ主タル事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、賣拂代金五十圓以上ナルトキハ其ノ十分ノ一ニ當ル契約保證金ヲ徴收ス
- 二、契約ノ金額五十圓ニ滿タサルモノハ請書ヲ以テ契約書ト爲スコトヲ得
- 三、買受人ノ怠慢又ハ其ノ請求ニヨリ契約ヲ解除シタルトキハ違約金トシテ契約保證金ヲ沒收ス但賣拂代金五十圓未滿ナルトキハ違約金ヲ徴セサルモノトス
- 四、契約締結後當該官廳止ムヲ得サル事故ニヨリ契約ヲ取消シタルトキハ前項ノ違約金ニ相當スル金額ヲ交付ス
- 五、約定期限内ニ物件ノ搬出ヲ終ラサル時ハ當初定メタル期限ノ半數ヨリ長カラサル期間ノ延期ヲ許可ス

此ノ場合延期々間ニ對シ左ノ割合ヲ以テ借地料ヲ前納セシムルモノトス

イ、賣拂代金百圓以上ノモノハ一日ニ付其ノ千分ノ一

ロ、賣拂代金百圓未満ノモノハ一日ニ付金十錢

但延期ヲ要スル事由天災又ハ不可抗ノ原因ニ依ルトキハ特ニ借地料ヲ免除シ又ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

六、延期日限ニ至リ尙搬出未了ノ物件ニ對スル所有權ハ當該官廳ニ復歸スルモノトス

七、買受人搬出延期ノ請求ヲ爲サス恣ニ約定日限ヲ過キタルトキハ前項ノ二倍ノ借地料ヲ徵收ス

明治三十二年八月ニ至リ二十三年ノ林產物公賣規程及二十四年ノ官有森林原野及產物特賣規定ハ會計法及會計規則ノ實施後間モナク制定セラレタルモノニシテ該法規ノ條文ニ適應セサル廉尠カラス且公賣規程ト特賣規程ニ於テ同一事項ニ付取扱ヲ異ニスルモノアルニヨリ兩規程ヲ合併シ省令第二十六號ヲ以テ國有林野及產物賣拂規則ヲ制定セラル改正ノ主ナル點ヲ擧クレハ

一、入札又ハ契約ノ保證金ヲ公債證書ヲ以テ納付ノ途ヲ開ク

二、入札人開札ニ立會ハサルトキハ入札保證金ハ之ヲ還付セス

三、契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得ル制限ノ五十圓ヲ百圓ニ改ム

四、契約ノ金額五十圓ニ滿タサルモノハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得タリシカ其ノ金額ヲ五百圓迄ニ増加ス

五、物件ノ搬出期間ニ付テハ別段ノ制限ナカリシヲ一ケ年以内ト限定ス

六、物件搬出延期間ニ徵收シタル貸地料ヲ違約金ニ改ム

七、從來ハ一回限り搬出延期ヲ許可シタルヲ今回再ヒ延期ヲ許ス途ヲ開ク但シ違約金ハ初回分ノ二倍ヲ徵收ス

八、買受人搬出期間經過ノ後三十日以内ニ延期又ハ再延期ノ請求ヲ爲ササルトキ及再延期々間内ニ物件ノ搬出ヲ終ラサルトキハ搬出セサル物件ヲ拋棄シタルモノト看做ス

三十四年四月ニ至リ右國有林野及產物賣拂規則中一部ヲ改正セラル即チ

一、特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ契約保證金ヲ納メサルトキハ其ノ許可ハ效力ヲ失シ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十ニ當ル金額ヲ徵收スルコトナレリ

二、特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ請書ヲ差出ササルカ又ハ契約保證金ヲ納メタルモ契約ヲ結ハサルトキハ其ノ許可ハ效力ヲ失ヒ既納ノ保證金ハ之ヲ還付セス又保證金ナキトキハ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十ニ當ル金額ヲ徵收スルコトナレリ

明治三十七年二月ニ至リ三十二年勅令第三六三號ノ一部改正ニ伴ヒ省令第三號ヲ以テ重要製產品ノ製造業者及木材業者ノ資格ヲ定メ其ノ重要製產品ノ種類ヲ明示セリ即チ

一、紙、燐寸、經木、丹寧、鞣、漆器、各其ノ材料、樟腦、樟腦油其ノ他ノ乾留液、椎茸、鐵道枕木、包裝箱及其ノ箱板

二、輸出向ノ木材、板類、樽材、竹材、竹製品、木炭、器具機械及其ノ材料

三十八年十二月ニ至リ國有林野及產物賣拂規則ヲ廢止シ更ニ次ノ諸規程ヲ制定セラレタリ

- 三十八年十二月省令第三四號國有林野產物賣拂規則
- 三十八年十一月省令第二六號國有林野主產物年期賣拂規則
- 三十八年十一月訓令第二一號國有林野主產物年期賣拂手續
- 三十八年十二月省令第三五號國有林野及產物賣拂入札規則
- 三十八年十二月內訓國有林野及產物賣拂入札取扱手續

即チ從來ノ賣拂規則中ヨリ主產物ノ年期賣拂及競争入札ニヨル賣拂ニ關スル手續ヲ別途ニ分離シ規定シタルモノナリ今各規定ニ付從來ノ取扱ト異ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 國有林野產物賣拂規則

- 一、請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得ル金額ノ制限五百圓ヲ千圓ニ増加ス
 - 二、物件搬出又ハ採取期間一ケ年以内ナリシチ主產物ハ二ケ年副產物ハ一ケ年以内ニ延長ス
 - 三、公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フモノナルトキ又ハ年期賣拂ナルトキハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得ルノ途ヲ開ク
 - 四、契約保證金ノ納付、代金ノ納付等期限ニ後ルルトキハ契約ハ無効ニ歸スルノ規定ナリシチ契約ハ單ニ解除シ得ルコトニ變更ス
 - 五、從來副產物ノ賣拂ハ凡テ數量ヲ以テセルモ其ノ採取面積ニヨリテ賣拂ノ途ヲ開ク
- 第二 國有林野主產物年期賣拂規則及同手續
- 主產物ノ年期賣拂ハ從來ニ於テモ施行シ來リタルモ事實處分ヲ爲シタルハ二三件ニ過キス然レトモ(イ)特別ノ設備ヲ施スニ非サレハ森林ノ更新計畫ニ伴フ產物ノ利用ニ困難ナルトキ(ロ)特別設備ヲ施ストキハ著シク產物利用ノ程度ヲ増進シ得ヘキトキニ於テハ年期賣拂ノ方法ヲ執ルチ以テ時宜ニ適シタル措置ヲ認メ新ニ其ノ規則及手續ヲ制定セラレタリ今主ナル事項ヲ舉クレハ
- 一、賣拂ノ年期ハ十ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 二、年期賣拂ノ契約ハ不特定物ノ賣買タルヘシ
 - 三、主產物ノ搬出期間ハ三ケ年以内トス
 - 四、年期賣拂契約ニ依リ生スル權利又ハ搬出未済ノ物件ハ大林區署長ノ認可ナクシテ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
- 第三 國有林野及產物賣拂入札規則及同手續
- 一、郵便入札ノ途ヲ開キタルコト

二、落札人契約ヲ締メサルトキハ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムル方法ヲ廢止ス

三、入札人開札ニ立會ハサルトキハ入札保證金ヲ沒收シタルヲ還付スルコトニ改ム

三十九年一月ニ至リ省令第一號及林發第一號ヲ以テ海外輸出ノ目的ノ爲ニ國有林產物品ノ賣拂ヲ問屋營業者ニ委託スル場合ノ取扱規則及手續ヲ制定セラレ

次テ三十九年九月ニ至リ省令第二五號ヲ以テ從來隨意契約ニ依リ國有林野產物ヲ賣拂フ場合ニハ總テ願書又ハ指令書ヲ調製シタルヲ即時ニ契約ヲ締結スル場合ニハ之ヲ省略スルコトヲ得ル途ヲ開キタリ

又四十年一月ニ及ヒ内訓林發第八號ヲ以テ國有林野產物賣拂手續ヲ制定シ賣拂ニ關スル大小林區署長ノ權限其ノ他四部ニ於ケル取扱手續ヲ定メタリ次ニ丸太、柚角、板、櫃等ノ官行斫伐及製材作業ハ年々擴張セラレ其ノ製品ノ處分著シク増加シタルヲ以テ左記ノ規則及手續等ヲ新ニ制定セラレタリ

- 四十年三月省令第三號國有林野產物製品賣拂規則
 - 四十年三月內訓林發第六二號國有林野產物製品賣拂手續
 - 四十一年五月省令第一〇號國有林野產物製品年期賣拂規則
 - 四十一年五月內訓林發第五四號國有林野產物製品年期賣拂手續
- 然レトモ其ノ主ナル點ハ主產物賣拂ノ場合ト同様ニシテ唯細目ノ點ニ多少相違ヲ見ルニ過キス但シ年期賣拂ハ左記ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキニ限り之ヲ行フコトトセリ
- 一、原動力ヲ用ヒテ爲ス製材業其ノ他木材ヲ材料トスル工業又ハ木材ヲ引續キ多量ニ要スル工業ノ材料ニ充ツル爲ナルトキ
 - 二、公益事業又ハ鑛業ニ必要ナル材料ニ充ツル爲ナルトキ

四十二年六月ニ至リ省令第十六號ヲ以テ國有林野產物賣拂規則中ニ於ケル主產物ノ物件搬出期限二ヶ年以内ト限定セルヲ製炭原木ノ賣拂ニシテ特別ノ事由アルモノハ三ヶ年迄延長スルコトヲ得ルコトニ改メラル
前述ノ如ク三十八年以降國有林野產物ノ賣拂ニ關スル省令、訓令等幾多ノ規定ヲ設ケラレタルモ互ニ重複又ハ援用ヲ反覆シ取扱上不便尠カラサルヲ以テ大正四年七月ニ至リ

- 一 國有林野產物賣拂規則 (三十八年省令第三十四號)
 - 一 國有林野主產物年期賣拂規則 (三十八年省令第二十六號)
 - 一 國有林野及產物賣拂入札規則 (三十八年省令第三十五號)
 - 一 國有林野產物ノ隨意契約ニ依リ拂受クルコトヲ得ル營業者ノ資格ニ關スル件 (三十七年省令第三號)
 - 一 國有林野產物ノ賣拂ニ關シ願書指令ヲ省略シ得ル件 (三十九年省令第二十五號)
 - 一 國有林野產物製品賣拂規則 (四十年省令第三號)
 - 一 國有林野產物製品年期賣拂規則 (四十一年省令第一〇號)
 - 一 國有林野產物及製品賣拂代金延納規則 (四十二年省令第五十五號)
 - 一 國有林野主產物年期賣拂手續 (三十八年訓令第二十一號)
 - 一 國有林野及產物賣拂入札取扱手續 (三十八年内訓林發第三五五號)
 - 一 國有林野產物賣拂手續 (四十年内訓林發第八號)
 - 一 國有林野產物製品賣拂手續 (四十年内訓林發第六二號)
 - 一 國有林野產物製品年期賣拂手續 (四十年内訓林發第五十四號)
- 等各規程ノ要ヲ摘ミ冗ヲ削リ缺ヲ補ヒテ實行上至便ノ方法ヲ定メ之ヲ綜合シテ次ノ二規程ヲ制定セリ

大正四年七月省令第十三號

國有林野產物賣拂規則

大正四年七月林第三二八八號内訓

國有林野產物賣拂手續

而シテ從來ノ規則及手續ニ對シ補缺、變更及新設ヲ爲シタル主ナル點ヲ列記スレハ左ノ如シ

- 一、共同買受者ハ各自連帶シテ其ノ債務ヲ負擔スルコトヲ明定セリ
- 二、重要製產品ノ製造業者ニ隨意契約ヲ以テ國有林產物ヲ處分スルコトヲ得ル規定ノ重要製產品中ニ染料及藥品ヲ追加セリ
- 三、年期賣拂ハ產物利用昂進ノ爲ニ行ハレタルモ針葉樹ニ在リテハ大體其ノ目的ヲ達シタルニヨリ爾後ハ主トシテ濶葉樹ニ限ルコトトシ之ヲ原料トスル工業ヲ助長スルト共ニ濶葉樹利用ノ昂上ヲ計レリ
- 四、買受ノ特定目的ヲ變更シタル際ノ違約金率五割ヲ二割ニ減シ搬出延期違約金ヲ半減シタリ
- 五、樹實、菌蕈、柴草等ノ季節アル副產物ハ採收許可ヲ爲シタル後ニ非サレハ採收スルコトヲ得サリシヲ代金納付ト同時ニ採收許可ヲ爲シタルモノト看做ス便宜法ヲ設ケタリ
- 六、會計規則上契約書ノ省略ヲ爲シ得ルモノニ在リテハ事宜ニ依リ申込承諾ノミニテ請書ヲモ省略シ得ル途ヲ開キタリ又總テ書式ニ拘泥セス買受人ノ便ヲ計レリ
- 七、被害木及屑木等ハ可成取纏メ競争入札又ハ雜賣ノ方法ニ依リ賣拂ノ途ヲ明定セリ
- 八、製品ニシテ一萬圓以上賣拂ノ場合ニハ價格ヲ割引シ得ル途ヲ開キタリ
- 九、隨意契約ノ場合ニ於テ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得ル場合ノ範圍ヲ擴張ス但保證金ナキ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ保證人ヲ立テシムルコトトセリ
- 十、隨意契約ニ依ル賣拂ノ際ニ二人以上ノ希望者アリト認ムル場合ニ於テハ廣ク希望者ヲ募リ申込價額ノ

最高ナル者ニ賣拂フヘキコトヲ定メタリ

賣拂代金ノ延納ニ關シテハ明治三十二年九月勅令第三八四號ヲ以テ國有林野產物ノ賣拂代金一口五百圓以上ナルトキハ國債證券又ハ地方債證券ヲ擔保トシテ提供セシメ一ケ年以内公共團體若ハ社寺ニ對シテハ二ケ年以内ノ延納ヲ許可スルノ途ヲ開ケリ超エテ同年十一月省令第三〇號ヲ以テ國有林野及產物賣拂代金延納規則ヲ制定シ代金延納ノ手續ヲ定メタリ今其ノ主ナル事項ヲ擧クレハ次ノ如シ

一、賣拂代金ハ分割シテ之ヲ數回ニ納付セシムルコトヲ得

二、擔保品ノ價格ハ時價ニ對シ一割ヲ減シテ算定スルコト

三、時價ノ低落ニ依リ擔保ニ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シテ之ヲ追徴スルコト

四、擔保ヲ徵收シタルトキハ物件ノ引渡ヲ爲スコト

夫ヨリ三十七年五月ニ至リ勅令第一四六號ヲ以テ賣拂代金延納ニ關スル三十二年勅令第三八四號ノ規程ヲ改正セラレタリ其ノ要點ハ

擔保トシテ提供シ得ル有價證券ノ範圍ヲ擴張シ且公共團體ニ限リ擔保ヲ免除シ得ルコトトセリ

而シテ前記勅令ノ改正ニ伴ヒ同年六月省令第一號ヲ以テ賣拂代金延納規則ヲ改正セリ其ノ主ナル事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、擔保ニ供スル有價證券ノ種類ヲ定ム

二、契約ニ定メタル期限ニ擔保ヲ提供セサルトキハ其ノ契約ハ效力ヲ失フコトトセリ

三、契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付スルコト能ハサルトキハ最後ノ納期迄ノ間ニ於テ相當期限ヲ定メテ

徵收ヲ猶豫シ得ル途ヲ開ケリ但此ノ場合ニ於テハ猶豫期間ニ對シ法定利息ヲ徵收ス

更ニ明治四十二年十一月勅令第三一八號ヲ以テ賣拂代金延納ニ關スル規定ヲ改正セリ其ノ要點ハ公共團體又ハ社寺ニ限リ一口ノ賣拂代金ヲ三百圓迄ニ低減セルニ在リ

此ノ改正ト同時ニ省令第五十五號ヲ以テ賣拂代金延納規則ヲ改正セラレタルモ重ナル點ハ契約ニ定メタル期間ニ擔保ヲ提供セサルトキハ其ノ契約ハ效力ヲ失フトアリタルヲ契約ハ效力ヲ失ハス只解除スルコトヲ得ルコトニ改メタルノミナリ

超エテ大正四年七月ニ至リ右賣拂代金延納規則ヲ廢止シ國有林野產物賣拂規則中ニ規定セラレタルモ別ニ改正セラレタル事項ナシ

五、事業ノ豫定及實行ニ關スル規程

國有林ノ事業ハ從前ニ於テハ總テ豫算ヲ以テ伺ヒ定メラレタルモノニシテ明治十九年五月ニ至リ初メテ次官達小林區署長服務條規草案ヲ以テ毎年ノ斫伐案造林案築道案副產案書式編成方等ヲ規定セラレタリ而シテ二十二年四月丙第一六四號山林局長通牒ニ由リ森林事業ノ内官行事業ニ係ルモノハ其ノ結果ヲ詳ニスルノ要アリトシ最初伺定ノ豫算ト實施ノ結果トヲ比較シ尙實況ヲ詳記シテ大林區署ヨリ山林局ニ報告セシメ尙同年同月發三二八號山林局長通牒ニ由リ主副產物共ニ最初認可ノ事務豫算ト實地施行ノ結果トノ各比較表ヲ調製報告セシムルコトトナレリ

尋テ二十三年二月丙林第四四號森林事業及森林收入同經費豫算調查順序ニ由リテ斫伐案同明細表竹林斫伐案副產案貸地豫算案造林案ヲ調製シ官行事業ニ係ル斫伐ハ斫伐明細表中備考欄内ニ原料價格ヲ詳記シ又官行事

業ヲ施シテ製造シタル樟腦榘茸等ノ如キハ副産案中備考欄内ヘ其ノ旨ヲ附記シ官行諸製造及築道等ノ事業ハ新規若ハ繼續ニ拘ラス一事業毎ニ其ノ事由ヲ詳述シタル伺書ニ詳細ナル設計書及收支ノ明細表ヲ添付スヘキコトニ規定セラレタルカ其ノ實行ノ記載ニ付テハ二十三年五月丙林第一八八號訓令ヲ以テ森林事業施行ニ係ル主産物收額報告表、副産物收額報告表、貸地收額報告表、主産物處分報告表、副産物處分報告表、貸地處分報告表ノ様式ヲ定メ該様式ニ依リ豫算裁定額ト實行額トノ比較ヲ爲シ毎月本省ニ報告セシムルコトトセリ且二十四年度森林事業豫算案ハ従前ノ例ニヨリ調製進達ノ筈ナリシモ右ノ内斫伐總括表ヲ始メ各總括表ノ分ハ報告表式ニ準據シ樹種代金等ヲ取調ルコトナレリ而シテ森林事業及森林收入同經費豫算調製順序ハ二十三年十一月訓令第六三號森林事業案及森林收入經費概算調製順序ヲ以テ改正セラレ毎年度森林事業案ハ前年度十二月二十八日、毎年度森林收入概算書ハ前年度四月二十日、毎年度森林經費概算書ハ前々度二月二十八日迄ニ本省ニ差出スコトナレリ

二十四年四月訓令第一七號ヲ以テ主産物收額豫算簿、主産物收額總括簿、主産物處分實行簿、副産物收額豫算簿、同總括簿、副産物處分簿、貸地豫算簿、貸地收額總括簿、貸地處分簿、造林豫算簿、第一部造林實行簿、第一部造林豫算簿、第二部造林實行簿、第二部造林豫算總括簿、造林實行報告書等ノ施業ニ關スル諸案簿表ヲ制定シ尙同年同月戊第二一一號ヲ以テ山林局長ヨリ右豫算簿ハ二十六年度ヨリ施行ノ積ヲ以テ十二月二十八日限リ差出スヘキ旨ヲ通達セリ

又森林事業案及森林收入經費概算調製順序ハ三十一年十一月訓令第三六號ヲ以テ改正セラレテ森林事業及收支豫算概定順序トナリ本省ニ進達スヘキ豫算簿書並表ノ種類及其ノ時期ヲ規定セリ簿書ノ種類即チ左ノ如シ

- 造林事業豫算簿
 - 斫伐造林事業豫算簿
 - 歳入豫定計算書
 - 歳入豫定明細書
 - 歳出概算書
 - 歳出概算明細書
 - 主産物收額計算簿
 - 副産物收額計算簿
 - 貸地豫算總括表
- 前年度四月十五日迄ニ差出スコト
- 前年度十月三十日迄ニ差出スコト

本規程ハ更ニ三十三年訓令第一八號ヲ以テ改正セラレ従前ノ名稱タル事業豫算簿表ヲ國有林事業豫定案編成規程制定ニ伴ヒテ事業豫定案ト稱スルニ至レリ

然ルニ従前ノ簿表様式ニアリテハ豫定案ト實行簿トハ別冊ニ調製スルノ手数アリ且對照ニ便ナラサルノミナラス別ニ編成方法ヲ定メス僅ニ様式ニ記載例ヲ示スノミナルヲ以テ各大林区署ノ記載一致セサルニ依リ斯ル缺點ヲ除キ諸表簿ノ統一ヲ期スルカ爲三十二年二月訓令第九號ヲ以テ國有林事業豫定案編成規程ヲ制定シ從來ノ命令ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ都テ消滅シタルモノトセリ即チ左ノ如シ

國有林事業豫定案編成規程

(明治三十二年二月訓令第九號)

林 區 署

第一章 總 則

- 第一條 國有林事業豫定案ヲ別テ左ノ七種トス
- 一 主産物處分豫定案
- 二 副産物處分豫定案

第三編 國有林野ノ經營

三 貸地豫定案

四 造林豫定案

五 官行間伐豫定案

六 官行伐木造材及運材豫定案

七 官行伐竹豫定案

第二條 事業豫定案ハ一小林區毎ニ編製シ一大林區ヲ通シテ別ニ總括表ヲ調製スヘシ

第二章 主産物處分豫定案

第三條 施業案既成ノ分ニシテ其斫伐豫定外ニ避クヘカヲサル原因ニヨリ伐採スルヲ要スル箇所アルトキハ備考欄ニ其理由ヲ詳記スヘシ

第四條 面積ハ皆伐作業ニ在リテハ其伐採區域面積擇伐作業ニ在リテハ其伐採木ノ占領面積ヲ掲クヘシ但間伐ハ其作業ノ如何ニ拘ハラズ

間伐木ノ占領面積ヲ掲クヘシ

第五條 材積中用材ハ尺ノ薪材ハ棚、根株ハ箇、枝條産朶及竹ハ束ヲ以テ單位トス但枝條産朶ハ三尺徑ノトシ竹ノ束ハ地方ノ慣習ニ從フ

材積及數量ハ四捨五入ヲ以テ單位ニ止メ價格ハ同法ニ依リ圓位ニ止ムヘシ

第六條 混清林ニ在リテハ樹種毎ニ其面積、材積、價格ヲ分記スヘシ但面積ハ各樹混清ノ歩合ニヨリ算出スヘシ

第七條 官行伐木造材及運材又ハ官行間伐ヲナストキハ其旨ヲ備考欄ニ記入シ前年度ニ於テ伐木造材又ハ運材シ翌年度ニ於テ處分ヲナス

場合ハ前年度豫定案ニハ其價格ヲ朱書シ翌年度豫定案ニハ其材積ヲ朱書スヘシ但材積ハ官行伐木造材及運材豫定案ノ資材材積、價格ハ同案

ノ造材價格ヲ掲クヘシ

第八條 主伐若クハ主伐ニ附帶シテ生シタル産朶枝條根株等ハ主伐欄中其用途ニヨリ用材又ハ薪材欄ニ掲記スヘシ間伐若ハ附帶シ

テ生シタル産朶、枝條根株モ亦之ニ準ス但立木ト同時ニ處分セサルモノハ總テ間伐欄ニ掲記スヘシ

第九條 備考欄ニハ斫伐ノ事由間伐ノ種類其他要件ヲ記載スヘシ

第十條 最尾ニ作業別並ニ樹種別再掲ヲ設クヘシ但樹種別ハ針葉樹及竹ノ三種ニ概括スルニ止メ別ニ各種類ニ細別スルニ及ハス

第十一條 部分官收木及被害木ノ見積額ハ各別ニ再掲部ニ記入スヘシ但部分木ノ民收ニ屬スル分ハ備考欄ニ記載スヘシ

第十二條 總括表ハ一小林區毎ノ再掲ヲ移記シ最尾ニ區分毎ノ通計ヲナスヘシ

第十三條 副産物種類別シテ左ノ十二類トス

- 第一類 樹皮
- 第二類 樹實
- 第三類 樹葉
- 第四類 樹脂
- 第五類 柴草
- 第六類 蔬菜
- 第七類 菌類
- 第八類 製品
- 第九類 藥料
- 第十類 石類
- 第十一類 土類
- 第十二類 雜類
- 第十三類 數量ハ左ノ稱呼ヲ用ユ
- 第十四類 第一類第三類第五類ニ屬スルモノハ束又ハ貫ヲ以テ算ス但束ハ三尺繩ノトス
- 第十五類 第二類ニ屬スルモノハ石又ハ貫ヲ以テ算ス
- 第十六類 第四類第六類第七類第九類ニ屬スルモノハ貫ヲ以テ算ス但油類ハ石ヲ以テ算ス
- 第十七類 第十類ニ屬セルモノハ切ヲ以テ算ス但轉石ハ箇ヲ以テ算ス
- 第十八類 第十一類ニ屬スルモノハ坪ヲ以テ算ス
- 第十九類 第十二類ニ屬スルモノハ別ニ單位ヲ定メス但竹皮、筒ハ貫、竹枝ハ束ヲ以テ算シ其束ハ三尺繩ノトス
- 第二十類 種目欄ニハ各副産物ノ名稱ヲ記スヘシ
- 第二十一類 面積ハ種目毎ニ其採取區域面積ヲ記載スヘシ
- 第二十二類 年拂下中ノモノハ備考欄ニ其期限ヲ記載スヘシ
- 第二十三類 無料採取及手入料トシテ無代下附スルモノハ其面積及數量ヲ朱書スヘシ
- 第二十四類 總括表一小林區毎ニ各類別ノ合計ヲ掲ケ最尾ニ其合計ヲ附記スヘシ但數量ハ四捨五入ヲ以テ單位ニ止メ價格ハ同法ニヨリ圓位ニ

止ムヘシ

第四章 貸地豫定案

第二十條 貸地ヲ類別シテ左ノ十三類トス

第一類 建物 敷 用途ノ如何ヲ問ハス建物ヲ築設スルモノハ總テ本類ニ屬ス

一、第一種 人ノ居住スル家屋

二、第二種 第一種以外ノ建物ヲ謂フ

第二類 道路及用水敷

第三類 耕地

第四類 樹木栽植地

第五類 物置場及物干場

第六類 造材場及炭竈敷

第七類 學校及社寺用地

第八類 礦業用地

第九類 鑛泉用地

第十類 牧場

第十一類 漁場

第十二類 養漁場

第十三類 雜種

第二十一條 年期貸渡中ノモノハ備考欄ニ其期限ヲ記載スヘシ

第二十二條 無料貸渡ノモノハ其面積ヲ朱書スヘシ

第二十三條 總括表ハ一小林区毎ニ各類別合計ヲ掲ケ最尾ニ計ヲ附スヘシ但料金ハ四捨五入ヲ以テ圓位ニ止ムヘシ

第五章 造林豫定案第一部

第二十四條 造林第一部ヲ類別シテ左ノ項目ニ別ツ

第一項 新植

第一目 伐採跡地

第二目 未立木地

第二項 補植

第一目 人工更新林

第二目 天然更新林

第三項 手入 雜草木刈拂、下枝刈拂、防火線燒切、風倒引起、雪倒引起等

第一目 人工更新林

第二目 天然更新林

第四項 苗圃

第一目 播種 種子採收又ハ購入播種ヨリ第一回床管前マテノ事業ヲ包含ス

第二目 床管 第一回床管ヨリ林地移植前マテノ事業ヲ包含ス挿穂ハ床管ニ準ス

第三目 雜器具器械購入修繕、藩籬溝渠築設修繕、番小屋、肥壺設置、番人、借地料、新規開墾等

第二十五條 樹種混淆ストキノ新植補植及手入ニ於テハ其面積以下各所要種目ヲ樹種毎ニ分記スヘシ

第二十六條 補植及手入ハ樹種及新植年度ノ異ナル毎ニ苗圃播種及床管ハ樹種及播種年度ノ異ナル毎ニ其面積以下各所要種目ヲ分記スヘシ

第二十七條 伐採跡地新植ハ其伐採年月補植及手入ハ其新植年月床管ハ其播種年月ヲ記載スヘシ

第二十八條 補植及手入ノ面積ハ其區域全面積ヲ記載スヘシ

第二十九條 種目ハ種子、苗木、運搬、人足、雜品、肥料、器具、土地家屋ノ九種トシ左ノ單位ヲ用ユ

種子ハ石、苗木ハ木、運搬ハ駄又ハ貫、人足ハ人、雜品ハ杭、竹ハ本、筵、篋、簀、草、繩、藥、貫、束、房、肥料ハ人糞、荷、糞、油糟、灰、

過燐酸石灰等ハ貫、草蓆葉等ハ束又ハ貫、器具ハ筒、挺、木等土地ハ町、家屋ハ棟

第三十條 摘要欄ニハ左ノ要件ヲ記載スヘシ

種子ノ產地

苗木ノ產地及苗齡

運搬ノ里程 一里當リ經費

人足ノ種類 功程

第三編 國有林野ノ經營

雜品肥料器具ノ名稱、雜品ノ用途、器具新調修繕ノ區別、借地ノ地目、借家ノ種類

第三十一條 義務補植 無料手入又ハ雜草木ノ賣却ニヨリ手入ノ目的ヲ達スルモノ等經費ヲ要セサルモノハ備考欄ニ其事由ヲ記載シ又砂防工施行地ニ植栽スルモノハ第二部ノ當該記入番號及施工年度(工事ト植栽ト年度ヲ異ニスル場合)ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第三十二條 前年度ニ於テ購入シタル種子、苗木、雜品等ヲ翌年度ニ於テ播種植栽ニ使用スルモノハ其價格ヲ朱書スヘシ

第三十三條 總括表ハ一小林區毎ニ樹實、樹種、林種別ニ記入シ最尾ニ總計ヲ同欄區別記載スヘシ

第六 章 造林豫定案第二部
第三十四條 造林第二部ヲ類別シテ左ノ項目ニ分ツ

- 第一項 道 路
- 第一目 第一類 木材運搬ニ供スルモノ
- 第二目 第二類 徑路
- 第二項 橋 梁
- 第三項 河川改修
- 第四項 堤 塘
- 第五項 溝 渠
- 第六項 防火線
- 第一目 固 定
- 第二目 臨 時
- 第七項 竹林藩籬
- 第八項 砂防工 砂防工ニ附帶スル堰堤ハ本項ニ包含ス
- 第九項 雜
- 第三十五條 長、幅、高、深ノ單位ハ尺ヲ用ユ
- 第三十六條 人足ノ種類、功程雜品ノ名稱及長間仕樣ヲ摘要欄ニ記載スヘシ
- 第三十七條 第九項ニ屬スルモノハ其種類名ヲ備考欄ニ記載シ又第八項砂防工施行地ノ苗木植栽ヲ後年度ニ讓ル場合ハ其事由及植栽年度ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第三十九條 第一項乃至第五項ハ設計書及設計圖ヲ添付スヘシ

第三十九條 總括表ハ一小林區毎ニ記入シ最尾ニ總計ヲ設ケ更ニ新設修繕ニ區別シタル合計ヲ掲ケヘシ但第九項ニ屬スルモノハ種類毎ニ分記シ其種類名ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第七 章 造林豫定案第三部
第四十條 造林第三部ヲ類別シテ左ノ項目ニ分ツ

- 第一項 普通造林ニ關スル試驗
- 第一目 種子試驗
- 第二目 苗木試驗
- 第三目 更新法試驗
- 第二項 各種ノ試驗及調査
- 第一目 森林植物帶調査
- 第二目 森林氣象ノ觀測
- 第三目 森林保護法ノ試驗及調査
- 第四目 木材利用法ニ關スル試驗及調査
- 第五目 測樹及經理法ニ關スル試驗及調査
- 第六目 雜(各地方ニ於テ待ニ必要ト認ムル事項)
- 第四十一條 種目及摘要欄記載方ハ第一部ニ同シ
- 第八 章 官行間伐豫定案
- 第四十二條 伐採面積及伐採材積ハ主產物處分豫定案ト符合セシムルヲ要ス
- 第四十三條 新植年度不明ナルモノハ林齡ノミヲ掲ケヘシ
- 第四十四條 人足ノ種類功程雜品ノ名稱用途ヲ摘要欄ニ記載スヘシ
- 第四十五條 總括表ハ一小林區毎ニ樹種別ニ記入シ最尾ニ總計ヲ同欄記載スヘシ
- 第九章 官行伐木造林及運材豫定案
- 第四十六條 造材欄ニハ造材種目毎ニ其材積數量價格ヲ記載スヘシ

第四十七條 經費科目ハ備人料ニ在リテハ人足ノ種類功程ヲ摘要欄ニ記載シ其他ノ科目ニ在リテハ林産物處理費ノ節別毎ニ合計記載スヘシ且掛員ノ俸給諸給旅費其他一切ノ附帶經費(林産物處理費外)ヲ目別ニ備考欄ニ記載スヘシ

第四十八條 總括表ハ一小林區毎ニ造林科目毎ニ記入シ最尾ニ總計ヲ同様記載スヘシ但事業創始年度ノ總括表ニハ生木ニ屬スル分ノ將來ニ對スル施業要略ノ調査ヲ添付スヘシ

第十章 官行斫伐豫定案

第四十九條 伐採面積及伐採束數ハ主産物處分豫定案ト一致セシムルヲ要ス

第五十條 人足ノ種類功程雜品ノ名稱用途ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

第五十一條 總括表ハ一小林區毎ニ竹種別ニ記入シ最尾ニ總計ヲ同様記載スヘシ

第十一章 實 行

第五十二條 各種ノ豫定案中豫定ハ總括表ノ左方ニ設ケ右方ニ其實行ヲ記載スヘシ但官行伐木造材及運材豫定案ニ在リテハ其合計ノ下ニ其實行ヲ記載スヘシ

第五十三條 豫定ヲ變更シタルトキハ實行ノ備考欄ニ其事由ヲ記載シ別口ニ變更案ヲ掲記スヘシ追加ノ場合ニ於テモ亦同シ

第五十四條 豫定不實行ノ場合ニ於テハ實行欄ニ朱線ヲ引キ備考欄ニ其事由ヲ朱記スヘシ但造林ニ在リテハ金額ヲ朱書スヘシ

第五十五條 部分官收木並ニ被害木及豫定外處分ニ係ルモノハ樹種別再掲ノ下ニ於テ各別口ヲ設ケ記入スヘシ但シ記入番號林籍個所名ヲ豫定面ニ記入スヘシ

第五十六條 造林實行摘要欄ニハ左ノ要件ヲ記載スヘシ

種子採收年月 官行採收ニ用ユ

苗木ノ播種年月又ハ苗齡但官苗ハ播種年月ヲ用ヒ實苗ハ苗齡ヲ用ユ

第五十七條 一記入番號ニシテ數回ニ實行スヘキ見込ノモノニ在リテハ豫定面ニ記入シタル後實行上必要ナル丈ケノ空欄ヲ設ケ斜線ヲ引キ計ヲナシ次ノ記入番號ニ移ルヘシ

前項ノ空欄ヲ設ケス數回ニ實行セサルヲ得サル場合ニ於テ記入スル能ハサルトキハ別口ニ移記シ其官備考欄ニ記載スヘシ

第五十八條 年度末ニ至リ實行部ト合計シ豫定部ニ準シテ作業別及樹種別再掲ノ類別再掲等ヲナシ又豫定外及追加變更ノ分モ之ニ準シテ再掲ヲナシ最尾ニ於テ全部ヲ總計シテ更ニ之ヲ再掲ヲナスヘシ

第五十九條 實行ハ大林區署及小林區署ニ於テ記入スヘシ但大林區署ニ於テハ年度末ニ至リ各小林區署實行ノ總計ヲ作ルヘシ

第十二章 雜 則

第六十條 施業案既成ノモノハ林班小班ノ記號ヲ記入シ未成ノモノハ小字ノミヲ記入スヘシ

第六十一條 用紙ハ曲尺ニテ縦一尺三寸横二尺ノ厚質膠水引美濃紙若ハ之ニ類似ノ料紙ヲ以テ中央ニ一寸幅ノ線代ヲ明ケ調製スヘシ

第六十二條 國有原野ノ事業豫定案ハ前各條ニ準シ別表ニ調製スヘシ(別表省略ス)

然ルニ爾後特別經營事業並其ノ他事業ノ進捗ニ伴ヒ從來ノ規程ニ不備ノ點アルヲ發見シ加フルニ豫定案ノ確定變更、不實行及豫定案所定以外事業執行ノ場合及其ノ進達期日等ノ取扱ニ付テハ或ハ命令ヲ以テシ或ハ山林局長ノ通知ヲ以テ規定スル等彼是書類參照ヲ要スル不便アリ且豫定案ノ運用ニ關シ大林區署長ノ專決事項狹少ニ失セシニ依リ三十九年十二月訓令第四一號ヲ以テ國有林事業豫定案規定ノ制定ヲ見タリ其ノ從來ノ規程及取扱方ト異ナル主要ノ點ヲ舉クレハ

一、記載例及表ノ様式ヲ改正セラレタルコト

二、貸地豫定案ノ編成ハ不要トナリシコト

三、造林第一部及同第二部類別項目ヲ經常及特別經營共ニ一致セシメタルコト

四、特別經營造林豫定案ノ編成モ亦本規程ニ依ルコトトナリシコト

五、成林撫育ニ付テ新ニ造林第三部豫定案ヲ制定シ從來造林豫定案第三部タリシ造林試驗ハ第四部豫定案トナレルコト

六、作業豫定案ハ第一部第二部第三部ニ分チ第一部ハ伐木造材運材第二部ハ貯材第三部ハ製材事業ニ付テ

豫定スルコトトナリタルコト

七、主産物處分副産物處分及造林各部豫定案ハ各總括表ヲ調製進達シ豫定案ニ代用スルニ至レルコト

八、豫定案ノ追加、變更増減不實行及豫定外斫伐採取又ハ處分等ニ關スル取扱方ヲ定メ且之ニ對スル大小林區署長ノ權限ヲ規定セルコト

九、始メテ豫定案ノ編成及實行ニ關スル大小林區署ノ擔當區分ヲ明確ニ規定セルコト

等ニシテ今本規程ノ示セル豫定案ノ種類ヲ舉クレハ次ノ如シ

- 一、主産物處分豫定案
 - 二、副産物處分豫定案
 - 三、造林第一部豫定案（人工植栽、天然生育、砂防植栽、苗圃、防火線）
 - 四、造林第二部豫定案（林道、河川、貯木場、雜工）
 - 五、造林第三部豫定案（成林撫育）
 - 六、造林第四部豫定案（造林保護其他ノ林業試驗）
 - 七、作業第一部豫定案（伐木、造材、搬出）
 - 八、作業第二部豫定案（貯材）
 - 九、作業第三部豫定案（製材原料ノ受拂加工製品ノ保管、販賣）
- 然ルニ一層事務ノ簡捷ヲ圖ラム爲四十二年訓令第二號ヲ以テ改正ヲ加ヘタリ其ノ主要點ヲ舉クレハ次ノ如シ
- 一、作業第一部及第二部豫定案ニ付テモ總括表ヲ調製進達スルコトナレリ
 - 二、大林區署ニ於テ小林區署間共通ノ經費ヲ豫定シ得ルハ支消品通信運搬費及雜費ニ過キサリシヲ此ノ改正ノ爲必要ナル經費ハ總テ豫定シ得ルニ至レリ
 - 三、豫定案實行ノ衝ニ當ルモノハ主トシテ小林區署長ナリトシ林産物ノ管外輸送、林産物管外販賣及製材所作業ヲ除外セリ
 - 四、前項改正ノ結果大林區署長ハ人夫雇傭事業受負物品購入等ニ關スル事項ハ必要ニ應シ小林區署長ノ行

爲ヲ制限シ得ルコトナレリ

五、豫定外主産物ノ斫伐採取若ハ處分ニ付テハ總テ大林區署長ノ權限内トシ其ノ場合ニ於テハ主伐トシテ取扱フヘキモノ以外ニ認容スルコトナレリ

六、豫定案ノ變更増減ニ付大林區署長ノ權限ヲ擴張セリ

而シテ本定規ニ於テハ天災及動物ノ豫防驅除ハ造林第三部豫定案ニ於テ豫定セシカ國有林被害諸費ヨリ經費ヲ支辨スルモノト事業費ヨリ支辨スルモノトアリテ其ノ取扱區々ニ亘リ統一ヲ缺キシヲ以テ四十三年三月訓令第三號ニ由リ驅除ノ文字ヲ删除シ總テ國有林被害諸費ヨリ支辨スルコトナリシカ其ノ後ニ至リ事務ノ繁ヲ省カム爲四十二年五月訓令第一七號ヲ以テ改正ヲ爲シ從前製材所作業ハ大林區署ノ執行ヲ原則トセシヨ小
林區署長ニ移セリ然ルニ其ノ後官林斫材及製材等各事業ノ發展ニ隨ヒ不備ノ點尠カラサルヲ以テ山林局長ノ通牒ニ依リ一部取扱方ヲ改メテ施行シ來リシカ尙執務上不便多ク且豫定案ノ運用ニ關スル事項及豫定外主産物伐採處分ニ關スル事項等ヲ一層明確ニシ且之ニ關スル林區署長ノ權限ヲ擴張シ並豫定案様式ノ記載ヲ簡明ナラシムル爲ニ在來ノ豫定案規程ヲ廢シ更ニ四十四年十二月訓令第二一號ヲ以テ國有林野事業豫定案規程ヲ制定セラレタリ其ノ豫定案ノ種類左ノ如シ

- 一、主産物斫伐豫定案
- 二、作業第一部豫定案（伐木造材、木炭製造ヲ包含ス）搬出（汽車汽船等ニ依ル輸送ヲ除ク）製品ノ保管、處分及輸送）
- 三、作業第二部豫定案（指定貯木場ニ於ケル製品ノ受入保管處分及輸送）
- 四、作業第三部豫定案（製材所ニ於ケル原料ノ受拂、加工、製品ノ保管、處分及輸送）
- 五、造林第一部豫定案（人工植栽、天然生育、砂防植栽、苗圃、防火線共通）
- 六、造林第二部豫定案（林道、河川、貯木場、雜工）

七、造林第三部豫定案(成林撫育)
八、造林第四部豫定案(造林及保護ノ試験)

今左ニ改正ノ要點ヲ擧クレハ

- 一、豫定案ノ記載方ヲ簡單ニスルコト
 - 二、記載方ハ規程ノ本條ヨリ削除シテ様式ニ移セリ
 - 三、新ニ各豫定案ニ對スル實行簿ヲ設ケタリ
 - 四、副産物豫定案ノ編成ハ不要トナレリ
 - 五、追加主産物豫定編成確定ニ付大林區署長ノ權限ヲ擴張セリ
 - 六、豫定外主産物ノ伐採又ハ處分ニ關スル事項ヲ明瞭ニシ且之ニ關スル小林區署長ノ權限ヲ擴張セリ
 - 七、進達期限ヲ延期シテ實行ニ近カラシメタリ
- 然ルニ各種事業ノ膨張ニ從ヒ林區署長ノ權限ヲ擴大スルノ要アルカ上ニ豫定案ノ記事申往々詳密ニ過クルノ嫌アリ又實行簿ノ記載事項ニシテ他ノ規程ニ基ク處理ト重複スルモノアリテ業務執行上敏捷ヲ缺クノ憾アリシニ由リ又更ニ改正ノ必要ヲ生シタリ且從前ノ豫定案規程ナル名稱ハ事實ニ適應セサル嫌アルニ依リ併セテ其ノ名稱ヲモ改正シテ新規規程ヲ制定セリ是即チ大正三年三月訓令第五號國有林野事業規程ニシテ今日尙實行シツツアルモノナリ

國有林野事業規程 (大正三年三月訓令第五號)

林區署

第一章 總則
第一條 國有林野ノ事業ハ別ニ定メアルモノヲ除クノ外本規程ニ依ルヘシ

第二條 國有林野ノ事業ニ關スル單位ノ稱呼及用法ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一、面積ハ畝ニ止メ畝未滿ハ四捨五入ノコト但シ苗圃、砂防工、防火線及貯木場ニ在リテハ步ニ止メ步未滿ハ四捨五入ノコト
- 二、材積中立木ニ在リテハ石、製品ニ在リテハ用材ハ石、薪材ハ棚、木炭ハ貫又枝條、粗柴及竹ハ束(三尺繩ノ)ヲ以テ單位トシ單位未滿ハ四捨五入ノコト但シ實行ニ付テハ製品ノ材積ハ單位以下二位ニ止メ二位未滿ハ四捨五入ノコト
- 三、價格總額及經費總額ハ單位ニ止メ單位未滿ハ四捨五入ノコト但シ實行ニ付テハ單位ニ止メ一厘ノ計ハ錢位ニ止メ其ノ端數ハ總テ切捨ノコト
- 四、延長ハ間、幅員ハ尺ヲ單位トシ單位未滿ハ切捨ノコト
- 五、苗木ハ本、種子ハ升ヲ單位トシ升未滿ハ切捨ノコト
- 六、副産物ハ山林局長ノ定ムル所ニ依ルコト

第三條 本規程ニ於テ製品ト稱スルハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

- 一、斫伐事業ニ在リテハ資材ニ加工シ之ヲ貯藏シ(貯藏所トハ處分ノ目的ヲ以テ加工品ヲ貯藏スル倉庫、貯木場、土場其ノ他ノ積置場ヲ謂フ)受入レタルモノ
 - 二、製材事業ニ在リテハ製材原料ニ加工シ處分スヘキ狀態ニ仕上リタルモノ
 - 三、貯材事業ニ在リテハ前各號ニ依ル加工品ヲ受入レタルモノ
- 斫伐又ハ製材事業ニ附帶シテ生スル副生品(樹皮、屑木、背板ノ類)ニシテ賣拂處分ノ見込アルモノハ製品ト看做ス

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 林區署ハ毎年度執行スヘキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スヘシ

- 一、收穫豫定案
- 二、斫伐豫定案
- 三、製材豫定案
- 四、貯材豫定案
- 五、造林豫定案
- 六、土木豫定案

第三編 國有林野ノ經營

七、林業試驗豫定案

貯材豫定案ハ山林局長ノ指定シタル貯材場ノ設ケアル林區署ニ限リ林業試驗豫定案ハ農商務大臣ノ指定ニ依リ林業試驗ヲ行フ場合ニ限リ之ヲ編成スヘシ

第五條 收穫及造林ノ豫定案ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外施業案(又ハ主産物處分豫定基案以下同シ)所定ノ計畫ニ基キ之ヲ編成スヘシ

一、第十四條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

二、撫育上必要ナル間伐ヲ行フトキ

三、施業案所定ノ作業級ノ組成ニ支障ナキ程度ニ於テ造林計畫ヲ變更セムトスルトキ

四、造林基案所定以外ノ箇所ニ造林ヲ爲ス場合ニ於テ當該作業級ノ造林方法ニ從ヒ又ハ施業案所定ノ作業級ノ組成ニ支障ナキ程度ニ於テ造林計畫ヲ變更セムトスルトキ

第六條 收穫、斫伐、製材及造林ノ豫定案ハ小林區署長之ヲ編成シ前年度十月三十一日限り大林區署長ニ之ヲ差出スヘシ

貯材、土木及林業試驗ノ豫定案ハ大林區署長之ヲ編成スヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ第一項ノ豫定案ハ大林區署長之ヲ編成シ第二項ノ豫定案ハ小林區署長ヲシテ之ヲ編成セシムルコトヲ得

第七條 大林區署長ハ前條ノ豫定案ニ付總括表ヲ作り前年度十二月三十一日限り農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受ケ各豫定案ヲ確定スヘシ

第八條 前條ノ總括表ニハ左記各號ノ一ニ該當スル事業ノ豫定案、附屬書類及圖面ヲ添附スヘシ

一、第十三條但書ノ制限ヲ超ユル増伐又ハ既定ノ施業計畫ニ依ラサル收穫但シ間伐又ハ第十四條第一項第八號乃至第二十一號ノ一ニ該當スル場合ノ收穫ヲ除ク

二、新規企畫ニ係ル間伐ニ非ラサル斫伐、製材及貯材

三、新規企畫ニ係ル砂防植栽及崩壊防止

四、用地ノ買上ヲ要スル苗圃

五、新設ニ係ル林道(歩道及牛馬道ヲ除ク)河川及貯材場

第九條 豫定案確定後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スルノ必要アル場合ニ於テハ林區署長ハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スヘシ

前項ノ場合ニ於テ各豫定案ヲ通シタル經費ノ不用總額(實行又ハ變更ノ剩餘金並不實行ノ經費ノ和)ヲ超過シ又ハ前條各號ノ一ニ該當スル事業ニ付テハ大林區署長ハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ確定スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外大林區署長ハ追加豫定及變更豫定案ヲ專決確定スルコトヲ得

前項ニ依リ追加豫定案ヲ專決確定シタルトキハ總括表ヲ作り前半年度分十月三十一日限り後半年度分翌年四月三十日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第十條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外變更豫定案ハ小林區署長之ヲ專決確定スルコトヲ得但シ當該小林區署所屬ノ各豫定案ノ經費ノ不用總額(不實行ノ經費ヲ除ク)ヲ超過シ又ハ第八條各號ノ一ニ該當スル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一、收穫豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ價格ノ減少又ハ一割ヲ超ユル面積若ハ材積(用材、薪材別材積)ノ増加

二、斫伐及貯材ノ豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ一割ヲ超ユル面積又ハ材積(用材、薪材別材積)ノ増減

三、造林豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ二割ヲ超ユル面積若ハ砂防工ノ面積ノ減少又ハ他ノ小林區署ノ造林計畫ニ影響ヲ及ボスモノ

四、土木豫定案ニ於テ修繕事業以外ノモノノ變更

前項ニ依リ變更豫定案ヲ確定シタルトキハ遲滞ナク變更豫定案ノ寫ヲ添ヘ大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第十一條 豫定案面積中主伐、間伐、砂防工及成林撫育ニ在リテハ區域面積、新植、天然生育、苗圃及防火線ニ在リテハ施行面積、補植、手入及修繕ニ在リテハ當初施行面積ヲ掲記スヘシ

主伐、間伐、砂防工、成林撫育、新植並新規企畫ノ苗圃、防火線及天然生育ニハ其ノ事業箇所ノ實測圖ヲ豫定案ニ添附スヘシ

第二節 收穫豫定案

第十二條 本豫定案ハ斫伐事業ノ資材ニ供シ又ハ賣拂處分ヲ行フヘキ立木竹(被害木竹及主林木タル小柴ヲ包含ス)ノ收穫ヲ豫定スルモノトス

第十三條 毎年度ノ主伐面積又ハ主伐材積(材積ヲ標準トシテ伐採量ヲ定メタル場合ニ限ル)ハ施業案斫伐照査簿ニ於テ算定シタル當該年度斫伐標準量ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ施業案上已ムテ得サル場合ハ標準量ニ對シ減伐又ハ百分ノ二十以内ノ増伐ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主産物(斫伐事業ノ資材ニ供スルモノヲ除ク)ノ伐採又ハ處分ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ既定ノ施業計畫ヲ案サス且豫見シ難カ

シ場合ニ於テハ追加豫定案ヲ編成スルコトヲ要セス但シ第一號乃至第七號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ一廉見積價額三百圓ヲ超ユルトキハ此ノ限リニ在ラス

一、公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フトキ

二、非常災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ應急ノ小屋掛又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

三、國有材野内ニ開坑セル礦業人ニ礦業用材ヲ賣拂フトキ

第三編 國有林野ノ經營

- 四、國有林野ヲ借受又ハ使用スル者ニ其ノ小屋掛又ハ直接必要ナル器具若ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ
 - 五、國有林野附近ノ住民ニ其ノ家庭工業ノ原料又ハ直接必要ナル器具若ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ
 - 六、國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ直接必要ナル材料ヲ賣拂フトキ
 - 七、林區署ノ行フ斫伐、造林若ハ土木ノ事業又ハ林野ノ調査ニ付キ必要ナル材料ニ供スルトキ
 - 八、損傷木竹ニ係ルトキ
 - 九、不要存置林野ノ立木竹ニ係ルトキ
 - 十、國有林野ヲ他ノ官有地ニ組替ヘタル場合ニ於テ其ノ地上ニ保留シアル立木竹ニ係ルトキ
 - 十一、民地官木竹ニ係ルトキ
 - 十二、部分林ノ產物ヲ賣拂フトキ
 - 十三、國有林野ヲ讓與シ又ハ他ノ官有地ニ組替ユル爲ナルトキ
 - 十四、國有林野ノ貸付又ハ豫約開墾ニシテ其ノ地上ノ立木竹ヲ伐採スルニ非サレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ
 - 十五、新植豫定地又ハ造林地ノ上ニ存スル障害木竹ニ係ルトキ
 - 十六、測量又ハ境界査定ノ支障木竹ニ係ルトキ
 - 十七、檢査、標本ノ製作又ハ林野ニ關スル試驗調査ノ爲必要ナルトキ
 - 十八、道路、鐵道、軌道、河川、溝渠、堤塘、溜池等ノ新設ノ場合ニ於テ其ノ敷地ニ存スル立木竹ニ係ルトキ
 - 十九、道路、鐵道、軌道、電線、家屋、耕地等ニ對スル支障木竹又ハ危險木竹ニ係ルトキ
 - 二十、生存ノ見込ナキ燒木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜伐木竹、誤伐木竹、伐倒木竹、挫折木竹、末木、枝條、根株、棄捐木竹又ハ盜伐若ハ誤伐其ノ他ノ事由ニ因リテ生シタル加工品ニ係ルトキ
 - 二十一、水火災ノ防禦又ハ軍事用ノ爲ナルトキ
- 前項ニ依ル處分ハ編成年度前三年度ノ平均額ヲ參酌シタル見積額ヲ一括シテ豫定外トシテ豫定案ニ計上スヘシ
- 第三節 斫伐豫定案
- 第十五條 本豫定案ハ伐木、造材(木炭及副生品ヲ含ム)搬出(汽車汽船等ニ依ル輸送ヲ除ク)製品ノ保管、處分及輸送ヲ豫定スルモノトス
 - 第十六條 本豫定案ニハ左ノ口座ヲ設クヘシ
 - 一、當年度著手當年度完了事業
 - 二、前年度著手當年度完了事業
 - 三、當年度著手翌年度完了事業
 - 四、前年度ヨリ越(前年度豫定案ノ口座三ニ屬スルモノヲ除ク)
 - 五、他署ヨリ轉換(一)大林區管内生産(二)大林區管外生産ニ區分ス
 - 六、撿材事業
 - 七、輸送事業

- 第十七條 製品ノ細別及經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニテ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添付スヘシ新ニ斫伐事業ノ企畫又ハ簡易製材場ノ設置ヲ豫定シタル場合ハ計畫說明書ヲ添付スヘシ
 - 第四節 製材豫定案
 - 第十八條 本豫定案ハ製材所ニ於ケル製材原料ノ受拂、加工、製品ノ保管、處分及輸送ヲ豫定スルモノトス
 - 第十九條 本豫定案ハ作業及經費ニ區分シ作業ニ付テハ左ノ口座ヲ設クヘシ
 - 一、前年度ヨリ越(製材原料ハ(一)大林區管内生産(二)大林區管外生産ニ區分ス)
 - 二、當年度受入(區分ニ同シ)
 - 第二十條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添付スヘシ
 - 第二十一條 支出中ニハ固定資本償還額(製材所固定資本整理手續ニ依リ調整シタル固定資本原簿面ノ前々年度年度割償還額)ヲ算入シ損益歩合ハ固定資本額(製材所固定資本整理手續ニ依リ調整シタル固定資本原簿面ノ前々年度末ノ償還未済額ト不要償還額トノ和)運轉資本(當年度受入原料總價額ト製材經費總額トノ和ノ三分ノ一)ノ和ニテ除シテ算出スヘシ
 - 第五節 貯材豫定案
 - 第二十二條 本豫定案ハ貯木場ニ於ケル製品ノ受入、保管處分及輸送ヲ豫定スルモノトス
 - 第二十三條 本豫定案ハ作業及經費ニ區分シ作業ニ付テハ左ノ口座ヲ設クヘシ
 - 一、前年度ヨリ越(一)大林區管内生産(二)大林區管外生産ニ區分ス)
 - 二、當年度受入(區分ニ同シ)
 - 第二十四條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添付スヘシ
 - 第六節 造林豫定案
- 第三編 國有林野ノ經營

第二十五條 本豫定案ハ造林ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第二十六條 本豫定案ハ左ノ項目ニ分ツヘシ

第一項 人工植栽

第一目 新植

第二目 補植

第三目 手入

第二項 天然生育

第一目 下種、萌芽

第二目 補植

第三目 手入

第三項 砂防植栽

第一目 砂防工

第二目 修繕

第三目 新植

第四目 補植

第五目 手入

第四項 苗圃

第一目 播種(種子採集又ハ購入ヨリ第一回床替前迄ノ事業ヲ包含ス)

第二目 床替(第一回床替ヨリ林地移植前迄ノ事業ヲ包含ス挿種ハ床替ニ準ス)

第三目 雜(器具機械ノ購入及修繕、藩籬及溝渠ノ築設及修繕、番小屋及肥壺ノ設置、定夫、借地料、開墾、用地買上、保護等)

第五項 保護設備

第一目 固定防火線

第二目 修繕

第三目 臨時防火線

第四目 雜(天災豫防、動物防止、藩籬、造林地巡守、火見臺、番小屋等)

第六項 成林撫育

第一目 間伐(收支相償フ場合ニ於ケルモノハ收穫豫定案ニ入レ本目以外トス)

第二目 枝打

第三目 蔓切

第四目 倒木起

第七項 共通(雇員、支用品、通信、廣告等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第二十七條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明カナラサルモノハ明細表ヲ添附スヘシ

砂防工及其ノ修繕ニ在リテハ豫算明細表ヲ添附スヘシ

苗圃用地ヲ買上ケル場合ニ在リテハ計畫説明書及買上用地圖ヲ添附スヘシ

第七節 土木豫定案

第二十八條 本豫定案ハ運搬設備貯木場及雜工等ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第二十九條 本豫定案ハ左ノ項目ニ分ツヘシ

第一項 林道

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜(移動軌條、借地料等)

第二項 河川

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜(第一項第四目ニ同シ)

第三項 貯木場

第三編 國有林野ノ經營

第一目 設計

第二目 設備

第三目 修繕

第四目 雜 (第一項第四目ニ同シ)

第四項 雜工 (堤塘、溝渠、護岸、崩壞防禦等)

第五項 共通 (雇員、支消品、測量機械、廣告、通信等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第三十條 本豫定案ニハ計畫說明書、豫算明細書及設計圖書ヲ添附スヘシ

第八節 林業試驗豫定案

第三十一條 本豫定案ハ林業試驗ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第三十二條 本豫定案ハ左ノ各項ニ分ツヘシ

第一項 立地ニ關スル事項

第二項 造林ニ關スル事項

第三項 森林保護ニ關スル事項

第四項 林產物利用ニ關スル事項

第五項 森林施業ニ關スル事項

第六項 共通 (雇員、支消品、印刷、通信等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第三十三條 本豫定案ニハ試驗方法、說明書及經費明細表ヲ添附スヘシ

第二章 實行

第三十四條 大林區署長ニ於テ豫定案ヲ確定シタルトキ又ハ第十四條第一項ノ場合ニ於テハ小林區署長ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ但シ大林區署長ニ於テ其ノ全部又ハ一部ニ付自ラ實行スルコトヲ得

土木豫定案及林業試驗豫定案ノ實行並斫伐、製材、貯材事業ニ屬スル製品ヲ管外ニ販賣又ハ輸送スルニ付テハ大林區署長自ラ之ヲ實行スヘシ但シ特ニ小林區署長ヲシテ實行セシムルコトヲ得

第三十五條 小林區署長ニ於テ第十四條第一項ノ伐採又ハ處分ヲ行フ場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ大林區署長ノ認可ヲ受クヘシ

一、第一號、第八號又ハ第九號ニ該當スルトキ

二、第二號乃至第七號、第十號乃至第二十號ニ該當シ一廉見積價額百圓ヲ超ユルトキ

第三十六條 大林區署長ハ副產物ノ採取又ハ處分ニ付テハ小林區署長ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ

第三十七條 林區署長ハ天災其ノ他ノ不可抗力ノ障礙ニ因リ實行シ能ハサル場合又ハ技術上若ハ經濟上實行ヲ不得トスル場合ニ非サレバ豫定案ヲ不實行ニ歸セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小林區署長豫定案ヲ不實行ニ歸セシムタル場合ニ於テハ其ノ都度大林區署長ノ認可ヲ受クヘシ但シ事業執行ノ必要消滅ニ因ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ運滞ナク事由ヲ具シ大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第三十九條 大林區署長ハ第三十七條ニ該當シ毎年度豫定案ノ不實行ニ歸シタルモノノ總括表ヲ調製シ前半年度分十月三十一日限リ後半年度分翌年四月三十日限リ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第四十條 前三條ノ規定ハ事業箇所ヲ異動シ又ハ收穫豫定案ノ同一事業箇所内ニ於ケル立木賣却ヲ官行斫伐ニ官行斫伐ヲ立木賣却ニ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 事業實行上災害其ノ他ノ事故發生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ運滞ナク小林區署長ハ大林區署長ニ大林區署長ハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ但シ事輕微ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一、災害其他事故ノ種類、程度、發生ノ日時、場所、原因等

二、發生當時ノ措置

三、損害額及事業ノ功程ニ及ボス影響

四、善後策

前項ノ場合ニ於テ事重大ナルトキハ其ノ概況ヲ急報スヘシ

第四十二條 斫伐、製材、貯材、造林、土木及林業試驗ノ豫定案ノ當年度實行殘部ヲ翌年度ニ繰越シタルトキハ小林區署長ハ翌年度四月十五日限リ大林區署長ニ大林區署長ハ翌年度四月三十日限リ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第四十三條 繰越事業ハ前年度ノ當該豫定案ニ依リ之ヲ實行スヘシ

第四十四條 斫伐、製材又ハ貯材ノ豫定案ニ於ケル當該年度ノ製品ノ賣拂若ハ引渡又ハ製材原料ノ拂出ヲ終了セス翌年度ニ互ルニ至リタルモノハ前年度ヨリノ越トシテ實行スヘシ

第四十五條 林區署ハ毎年度實行簿ヲ調製シ其ノ事業ノ實行ニ關スル事項ヲ記載整理スヘシ

製品以外ノ物品 (盜伐其他作業以外ノ原因ニ依リ生シタル加工品)ニ付テハ斫伐實行簿ノ乙、製品受拂中ニ別ニ口座ヲ設ケ之ヲ記載整理ス

第三編 國有林野ノ經營

九四一

第四十六條 實行簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ

一、收穫實行簿

二、斫伐實行簿

甲 伐木及造材 乙 製品受拂 丙 經費支出

三、製材實行簿

甲 原料受拂 乙 製品受拂 丙 經費支出

四、貯材實行簿

甲 製品受拂 乙 經費支出

五、造林實行簿

六、土木實行簿

七、林業試驗實行簿

八、副産物處分實行簿

第四十七條 事業箇所別ニ日誌ヲ備ヘ事業ノ經過ヲ明瞭ナラシムヘシ

第四十八條 小林區署長ハ毎年九月苗圃ニ於ケル現在苗木數及其ノ需用關係ヲ調査シ十月十五日限リ大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第四十九條 小林區署長ハ事業ノ實行ヲ終了(分割施行シタルモノハ其ノ各部毎ノ終了)シタルトキハ其ノ都度實行簿寫ヲ添ヘ之ヲ大林區署長ニ報告スヘシ但シ別ニ成規ノ報告ヲ爲スモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 貯材及土木事業ノ實行ニシテ翌月ニ互ルトキハ其ノ前月分ニ付翌月五日限リ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 大林區署長ハ斫伐事業箇所毎ニ伐木、造材、搬出、製品ノ保管、處分及輸送ノ成績ヲ調査シ當初ノ豫定ニ對シ材積、價額又ハ經費ニ於テ三割以上ノ異動ヲ生ジタルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ關係豫定案ヲ添付シ處分完了ノ翌年度七月三十一日限リ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

一、事業ノ經過

二、事業ノ成績

三、豫定ニ對シ異動ヲ生ジタル理由

第五十三條 新植又ハ補植ニ於テ二割以上苗圃ノ播種ニ於テ四割以上床替ニ於テ三割以上ノ枯損(播種ハ發生豫定數、床替ハ床替本數ニ對スル樹數毎ノ枯損)アリタルトキハ左ノ事項ヲ具シ小林區署長ハ大林區署長ニ大林區署長ハ農商務大臣ニ其ノ都度之ヲ報告スヘシ但シ新植又ハ補植ノ枯損三割未滿ニシテ面積狹少ナルモノニ付テハ大林區署長ハ其ノ報告ヲ省略スルコトヲ得

一、面積、樹種、數量、經費、損害額

二、造林地ノ狀況

三、不結果ヲ生ジタル事由

四、改善ノ方法及時期

既往ノ造林事業ニシテ三割以上ノ枯損ヲ生ジ又ハ生育不良ニシテ成林ノ見込ナキモノ(天然生育ニ在リテハ其ノ目的ヲ達シ得ヘキ時期ニ至リ尙豫期ノ林相ヲ形成シ得サルモノ)アルトキハ小林區署長ハ毎年十月三十一日限リ大林區署長ハ毎年十二月三十一日限リ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ既ニ報告セルモノニシテ其ノ後被害ノ著シク増加セルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條 土木事業ニシテ當初ノ計畫ニ對シ運搬量若ハ貯材量ヲ著シク減少セルモノ運搬費ヲ著シク増加セルモノ又ハ改善ヲ要スルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ小林區署長ハ其ノ都度大林區署長ニ大林區署長ハ翌年度五月三十一日限リ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ但シ既ニ報告セルモノニシテ其後著シク不良ヲ加ヘサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一、利用ノ狀況

二、運搬量、運搬費、貯材量

三、計畫ニ對シ差異ヲ生ジタル事由

四、改善ノ方法及時期

第五十四條 林業試驗ヲ完了シタルトキハ其ノ都度其ノ成績ヲ其ノ未タ完了セサルモノニ在リテハ翌年度四月三十日限リ其ノ經過ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ訓令及達ハ之ヲ廢止ス

第三編 國有林野ノ經營

九四三

一、林業試驗規程

一、明治四十一年二月訓令第一號

一、明治四十四年八月林第三千五百七十六號達

一、造林統計規程

一、國有林野事業豫定案規程

一、明治三十九年十二月林發第三百七十號達

明治三十四年十一月訓令第二十七號大林區署統計報告樣式中第五號乃至第七號、第九號及第十號樣式ヲ削ル

(樣式省略ス)

左ニ改正ノ要點ヲ舉クレハ

- 一、豫定案及總括表ノ樣式並記載方ヲ簡單ニセリ
- 二、豫定案ノ追加確定ニ關スル大林區署長ノ權限ヲ擴張シ經費ノ不用總額ヲ超過セル場合及或特殊ノ場合ヲ除外ハ大體大林區署ニテ確定シ得ルコトトナレリ
- 三、豫定案ノ變更ニ付テモ大林區署長ノ權限ハ前項同様ニ擴張セラレタルカ尙其ノ他或種類ノ變更ニ付テハ小林區署長ニ於テモ確定シ得ルコトトナレリ即チ救護、研伐、貯材及土木事業中ノ修繕ニ關スル豫定案ノ如キハ或程度迄小林區署長ニ於テ變更シ得ルノミナラス殊ニ造林豫定案ノ如キハ特別ノ場合ヲ除ク外ハ小林區署長限リ變更シ得ルコトトナレリ
- 四、實行簿中ノ製品受拂簿ヲ以テ林產物品出納簿ニ代用スルヲ得ルコトトナレリ
- 五、實行總括表ヲ以テ從來提出セラレタル統計表又ハ成績表ニ代用スルコトトナレリ
- 六、豫定案ノ變更不實行ニ關スル大林區署長ノ報告ニ付改正ヲ加ヘテ豫定案ノ變更ニ付テハ報告ヲ要セス

且或種類ノ不實行ニ付キ其ノ都度報告ヲ要セシモノヲ豫定案ノ不實行ニ關シテハ全部毎年四月及十月ノ兩度ニ於テ總括表ヲ調製シ報告スルコトトナレリ

七、豫定案實行簿及各總括表ノ記載方其ノ他豫定案編成ニ關スル注意ハ別途ニ山林局長ヨリ通牒スルコトトセリ

今左ニ明治十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル經常森林收入及森林費ノ決算額ヲ掲ケテ森林經濟ノ概況ヲ示サム
經常森林收入及森林費(農商務省所屬)

年度	森林收入	前年度ニ比シ 増(減)歩合	森林費	前年度ニ比シ 増(減)歩合	比較收入超過	收入ニ對スル 經費ノ歩合
一	五九,〇五〇	—	五八,三〇〇	—	七五〇	〇,九八〇
二	九六,〇七〇	—	一九二,一〇〇	—	不足	一九三
三	九五,八二五	—	一七六,五七五	—	不足	一八四
四	一三三,〇九八	—	一八一,九二〇	—	—	〇,八二二
五	一三三,〇九八	—	二四五,八五〇	—	—	〇,七三三
六	三三三,五八〇	—	二六九,一七〇	—	—	〇,八〇九
七	三三三,五八〇	—	二六九,一七〇	—	—	〇,八〇九
八	三三三,五八〇	—	二六九,一七〇	—	—	〇,八〇九
九	三三三,五八〇	—	二六九,一七〇	—	—	〇,八〇九
〇	五四六,六〇〇	—	二八一,四〇〇	—	—	〇,五二四
一	七五五,六一〇	—	三六四,一七〇	—	—	〇,四八三
二	五〇六,〇九三	—	三三六,三三二	—	—	〇,六六三
三	六〇〇,〇八〇	—	四八四,九七六	—	—	〇,八〇九
四	六九〇,五六五	—	四九三,一五八	—	—	〇,七二〇
五	八二二,〇五九	—	四八六,六五六	—	—	〇,六〇二

二六	九九〇、七三三	〇、三三三	五、八〇、六六九	〇、〇五八	四、六三、六六四	〇、五三三
二七	七〇、一六〇	(〇、一三三)	五、四一、八八〇	〇、〇五〇	二、四一、二八〇	〇、六三三
二八	九八、六三〇	〇、三三三	五、〇一、三三四	〇、〇八八	四、一四、八八六	〇、五六一
二九	一一、二六九	〇、一三三	五、七三、八三四	〇、〇三三	五、五九、八八八	〇、五二二
〇	一、三〇、〇〇五	〇、一九六	六、九一、八四四	〇、二〇八	六、三三、五六一	〇、五三三
一	一、四三、六六五	〇、〇九二	八、五九、七〇六	〇、二〇九	五、九四、九五九	〇、五九〇
二	一、七五、五六一	〇、一九八	八、六八、九八五	〇、〇一四	八、六九、五七六	〇、四九九
三	二、〇〇、〇四六	〇、一八五	九、六五、三四	〇、一三三	一、〇九五、九三	〇、四六八
四	二、一六、五三三	〇、〇五六	一、〇九、二六五	〇、〇五六	一、一五七、二五七	〇、四六八
五	二、五八、七〇七	〇、一八九	一、一〇、三六四	〇、〇八一	一、四八六、三四三	〇、四三六
六	二、〇八、九四三	(〇、九六六)	一、二八、四八七	〇、一〇四	八、三三、四五六	〇、五八五
七	二、八四、七六四	〇、五八六	一、一四、八七三	〇、〇七二	一、七四、八八九	〇、三五六
八	三、三八、八七〇	〇、一三三	一、三〇、八四三	〇、一七三	一、八九八、〇二六	〇、四三三
九	五、一四、九三二	〇、五八九	二、一五、〇八七	〇、五二〇	三、二二、八八五	〇、五九〇
〇	七、六四、五八八	〇、四八六	二、九五、五九二	〇、四七七	四、六九、九九六	〇、三八五
一	八、八三、六四九	〇、一五三	四、〇五、九七九	〇、三七五	四、七三、六七一	〇、四六〇
二	八、九四、五一一	〇、〇一三	四、二六、五八〇	〇、〇五二	四、六七、四三二	〇、四七七
三	九、六三、七八〇	〇、〇七七	四、四七、九四三	〇、〇四九	五、一〇、八三七	〇、四六四
四	九、七三、七〇三	〇、〇〇六	四、五三、五七七	〇、〇一一	五、一七、二三	〇、四六七
四	九、七七、七六五	〇、〇〇五	四、九一、四四五	〇、一〇一	四、七六、三三〇	〇、五一一
大正元	九、四三、九三三	(〇、〇〇〇)	四、〇一、〇五七	(〇、〇二八)	四、八六、八八六	〇、四八六
二	九、三三、五三四	(〇、〇一〇)	四、四三、七三三	(〇、〇三〇)	四、九三、九三三	〇、四七三
三	一〇、〇〇、〇四四	五、四〇、〇	五、五二、四八八	〇、〇〇三	五、六八、一九六	〇、四四二

第六節 造林事業

一 特別經營事業開始以前

明治維新後法令中造林ニ關スル文字ノ現ハレタルハ明治四年七月民部省達ヲ以テ制定セル官林規則中「山林樹木疎ナル所ハ種栽シ」云々ト規定セルヲ最初トスヘシ同年六月ニ至リ内務省達乙第七八號(第三編第二章第四節ヲ見ヨ)ヲ以テ「地味適當ノ樹木植付ノ積リヲ以テ苗木仕立方見込相立植付箇所苗木ノ種類員數並四五ヶ年ノ後植付費用トモ取調可伺出旨」ヲ各府縣ニ通達セルハ幾分造林事業ノ進程ニ上リタルモノト謂フヲ得ヘシ然レトモ其ノ實蹟ニ至リテハ殆ト之ヲ徵スルニ足ルモノナキカ如シ十一年地理局官林作業課ニ殖樹掛ヲ置キ官林ノ繁殖ヲ計ラシメ同年六月播種規則ヲ制定シテ出張員ニ達シ造林地及樹種ノ選定方法其ノ他造林技術ニ關スル各般ノ事項ヲ指示セリ

播種規則

第一條

一、樹木ヲ種植スヘキ官有ノ山林ヲ見立地味ノ肥瘠乾濕地勢ノ險易陰陽運搬ノ便否氣候ノ寒温等ヲ精察シ見込立チテ分ヨリ書式ニ照シ差出スヘシ(本局ノ許可ナキ時ハ決シテ著手スヘカラス第二條第三條皆之ニナラヘ)

但民地タリト雖モ地味良好運搬便利ナルニ該所有主資金ニ乏キカ或ハ他ノ事故等アリテ荒廢ニ屬シ購得シテ官有トナスヘキ見込アル者ハ其事由ヲ稟議スヘシ

第二條

一、林地ヲ見立ルノ後種植スヘキ樹類ヲ考案スヘシ本來確窮疑ノ地ニ非ルヨリハ樹木生殖セサルノ地ナシト雖モ壤土墾土墾土墾土岩礫或ハ高卑燥濕平坦傾欲南北寒暖等ニ因テ樹木ノ適否ヲ殊ニスルカ故ニ篤ク注意ヲ爲シ第一條ニ準スヘシ

但樹木ハ概ネ山腹山腹ニシテ水氣充分ナル地ニ善ク生殖ス高嶺海濱等烈風ノ地ハ松樹ヲ植ルチ良トス就中赤松ハ白土薄地ト雖モ生育ス及

樟槿蚊母樹ハ暖地ナ好ミ樺刺楸シホイチハ近寒ナ畏レス樺槿ノ類ハ傾欹ノ地ニモ亦生育ス其適否ヲ精察スヘシ

第三條

一、地勢平坦氣候温暖ナル地方ハ實植苗木モニ宜シ其近寒風雪ノ地或ハ傾斜欹嶺ノ地及ヒ獸害多キ地ハ苗植ニ宜シ實植ニ可ナラス又季候ハ春秋分後ノ二季ヲ適トスト雖モ寒凍ノ地ニ於テハ通常春分後ノ候ニ於テ著手スヘシ其他極寒地味ト樹頭トニ由テ施設ノ見込ヲ立ツヘシ

低シ季候ノ天然方言ヘハ各樹ノ子實成熟シテ自然ニ墜落スルノ時ヲ以テ播種スルヲ適トスヘシト雖モ人爲ヲ以テ施設スルトキハ地方ノ寒暖ヲ問ハス通常春分後ノ候ヲ以テ良トス且樹木ノ活育ハ何等ノ法ヲ用フト雖モ實生ノ善キニ勝レルモノナシ厚ク注意スヘシ

第四條

一、木實ヲ採收スルニ當リ必母樹ノ年度盛ニシテ勢力充全ナルモノニ就テ採ルヘキハ素ヨリ論ヲ竣タス而テ其結實ノ候中期ニシテヨク成熟シタルモノヲ最良トス初期末期及未熟ノ者ハ播種スルモ竟ニ無益ニ屬ス且其子種必シモ該林地近傍ノモノニ限ルヘカラス斷然該地適宜ト認了スルモノハ可成丈各地方著名ノ子種ヲ採收スヘシ

但木實ニ種房ナセルモノ莢室ナセルモノ或ハ瓢殼其輕重窄其賦形各色ニシテ一ナラス然レトモ其良否ヲ辨スルニハ大抵其斤量ヲ以テ知ルヘシ譬ヘハ松子ハ一斤ノ重量ニシテ凡ソ幾片ノ數アルモノナ上品トシ幾片ナルモノナ下品トシ又ハ橘實ハ一升ノ計量ニシテ若干ノ重量アルヲ上等トシ若干ノ重量ニ滿タサルモノヲ中下等トナシ或ハ重窄ナルモノハ水中ニ浸シ其沈ムモノハ完全トナシ其浮ヘルモノハ病害アリトスル類ナリ又之ヲ貯ルニ風寒ノ痛ク冒ササル所ニシテ糞袋匣箱等ニ藏メテ可ナルモノ(扁柏、羅漢柏、松、桐等)アリ又僅ニ濕氣ヲ含メル土中ニ埋藏スルヲ良トスルモノ(栗、櫟、樺、ナラ、蚊母樹、山毛櫸、グヌギ等)アリ而シテ年内ニ下種スヘキモノ歲ヲ踰ユヘキモノ數歲保貯スヘキモノ等各其品類ニ由テ其法ヲ異ニスヘシ

第五條

一、子實ヲ播種スルノ地ハ能ク之ヲ鋤肥シ糞土ヲ施スヘシ又播種ノ法整種種種倒種平種其類ニ隨テ各宜シキアリ而シテ土ヲ覆フノ厚薄ハ其子實樹上ニ在テ熱塵シ若干尺ノ高キニヨリ標落シテ土中ニ没入スルノ深淺ヲ以テ天然ノ適度トス之ヲ計量スルトキハ自ら覆土ノ分量ヲ得ヘシ

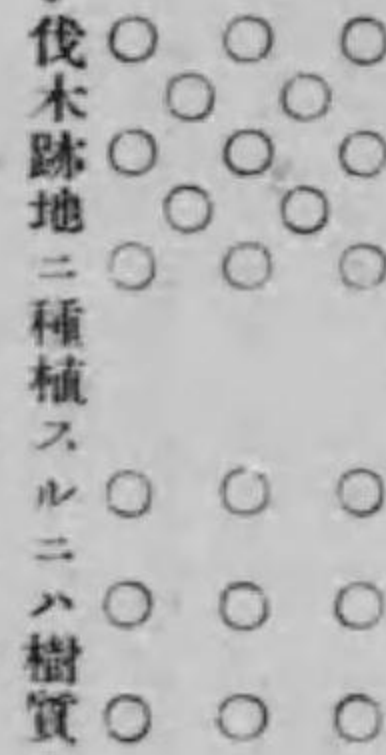
スヘシ

第六條

一、苗木ハ實生ヨリ一期年ヲ經レハ稍移植スヘキモノナレハ其苗床中ニ於テ二三年乃至三四年毎ニ兩三回移植セシモノヲ良トス且コレヲ種植スルニ當リ良善ナルモノト病害アルモノトヲ辨別揀退スヘシ

第七條

一、播種苗木モニ其距離ヲ定ムヘシ然レトモ最初ヨリ致テ間隔ノ疎ナルヲ要セス故ニ播種セルニハ大抵距離ニ尺ヲ法トス或ハ子實ノ大ナルモノハ撒布スルモ可ナリ而シテ其長スルニ隨ニ繁茂ニ過クルトキハ間拔シテ他ノ林區ニ移植スヘシ又苗木ハ其樹種ニヨリ距離ノ差異アリ直立スルモノハ六七尺杖條ノ傍暢スルモノハ一丈乃至一丈二尺許ヲ隔シヘシ而シテ彼此相軋シ空氣ノ流通アシク互ニ長育ヲ妨ルトキハ五年或ハ十年ニシテ間伐スヘシ其距離凡如此ヲ法トスト雖モ傾欹ノ地ニ植ルニハ其距離疎ナルヲ要ス而シテ都テ位置ハ方正ナルヲ良トス其排列左ノ二樣ニ據ルヘシ



第八條

一、肥料ハ人糞馬糞干鰯肉汁米灌雜草海藻朽木腐水油糟壙灰等樹實ノ適地方ノ便ニ由ルヘシ

第九條

一、實生ノ稚樹及新植ノ苗木ヲ保護スルニ夏日ニ炎陽ヲ遮蔽シ冬日ハ寒霜風雪ヲ除避シ草葉葛藟ノ類ヲ芟去シ或ハ蟲害獸害及人害ヲ防閑スヘシ

レハ速ニ之ヲ伐採セサルトキハ必ス他木ニ傳染シ遂ニ滿林ノ大害ヲ惹起スヘシ

第十條

一、本局ノ尤可ナ得實苗ヲ仕付ル場合ニ於テハ受負人ヲ選定シ書式ニ照シタル契約書ヲ領收スヘシ實苗トモニ良好ノ上品ヲ揀擇シ丁寧ニ地拵植樹ヲナサシムルハ勿論三ヶ年間枯損替植ヲ擔當セシメ身元確實ナル保護人ヲ立他日苦情ナキヲ要ス
但苗木ヲ買上ルニハ必ス苗床ニ於テ植替ヲナセシモノヲ選フヘシ

第十一條

一、植樹成功ノ上ハ書式ニ從ヒ種樹標ヲ建ツヘシ
但種樹標・他ノ損害ヲ受ケサル地ヲ選ビ之ヲ建ツヘシ
某年號某年某月内務卿姓名命使某等屬姓名植樹幾何某官林地理局長姓名

第十二條

一、時々植林ヲ巡視シ境界ノ位置保護ノ厚薄樹木ノ疎密雜樹生立及利害得失ニ注意スヘシ

第十三條

一、看守人ヲ置カサレハ人畜ノ患害アルヘシト認ムルトキハ其趣旨ヲ本局ニ上申スヘシ

同十二年五月内務省ニ山林局ヲ置キ局内ニ殖樹、伐木、運材出納ノ五課ヲ置キテ造林並官林斫伐事業ノ擴張ヲ圖リ次テ十四年四月農商務省ノ新設ヲ見ルニ至リ山林局ハ其ノ所屬ニ移リ官私林ノ備蓄、栽培、伐木及官有原野ニ關スル一切ノ事務ヲ掌レリ然レトモ造林事業ハ尙頗ル微々タルモノニシテ十一年度以降ニ於ケル造林ノ實行成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

年 度	面 積	積 栽	本 數	備 考
明治十一年	五九〇	四、九六、九〇〇	本表ノ實行ハ主トシテ山林局年報ニヨル	
十二	一、四〇三	一〇、八八、七七一	十一、十二、十七、十八ノ四ヶ年度面積ハ推定ニヨレルモノナリ	
十三	二、〇七〇	二一、五七、二六四		

十四	三	四三、〇三〇		
十五	二七	一、一六、三三六		
十六	三三	三、〇六、九三三		
十七	四二	三、九三、五七七		
十八	三三	二、九九、三九一		
計	三、六七	二八、九四、九八		

明治二十年六月各大林区署ニ命シテ施業案ヲ調製セシメ之ニ依リテ年々ノ事業豫算ヲ編成セシムルコトナリタルモ當時適當ノ技術者ニ乏シク加フルニ境界測量未済ノ箇所尙頗ル多ク且經費モ亦不十分ナリシカ爲之カ調査ハ遅々トシテ進マヌ故ヲ以テ造林事業 對シテハ別ニ計畫ヲ樹ツルノ必要ヲ生シタリ

抑造林事業ハ效果ヲ永遠ニ期スヘキモノナルヲ以テ之カ創始ニ方リ豫メ計畫ヲ一定シテ著々遂行スルヲ要シ若シ夫レ中途ニ經費ノ削減ヲ見豫定ノ支出ヲ爲シ能ハサルカ如キコトアラハ事業爲ニ蹉跌シ竟ニ有終ノ美ヲ濟スコト能ハサルヲ以テ國有林經營上斯ノ如キ憂ナカラシムルカ爲根本的調査ヲ爲スヘキ必要ヲ認メ明治二十六年五月一般大林区署ヲシテ其ノ施設ハ連年作業ヲ執リ得ルヲ目的トシ二十八年度ヨリ向フ三十ヶ年ヲ期シテ全國有林ニ於ケル無立木地及將來ノ伐採跡地ノ植栽並防火線及道路ノ開鑿ヲ爲シ又苗木ハ從來ノ實行上ニ於ケル利害ヲ攻究シ苗圃ヲ設ケテ之ヲ供給スルノ計畫ヲ爲サシメタリ是所謂造林基案ニシテ該計畫ニ依ル要造林面積ハ左ノ如シ

明治二十六年 造林基案ニ依ル要造林面積表

大林區	植栽面積	新植		補植		手入費	所要苗木合計		合計經費
		苗木數	經費	苗木數	經費		本數	價格	
青森	一七,九三〇	六,一三六	一三〇,三〇〇	五八,七〇〇	一五,三三九	一〇,四〇〇	一〇,九〇〇	八,一五七	六五,八四六
秋田	四,五〇〇	一三,六八〇	五,九〇〇	二,五〇〇	一三,一〇〇	三,一〇〇	一五,五〇〇	一,五七〇	六七,三三〇
宮城	二,七〇〇	一五,一七〇	三,四〇〇	—	—	—	一五,一七〇	—	八八,三五八
東京	三,八八八	一三,一三三	三六,九六〇	—	—	—	三六,九六〇	—	七九,二四九
長野	一〇,六〇〇	五,六九三	一六,五五〇	—	—	—	一六,五五〇	—	二三〇,二八六
大阪	九,八六六	五,六九三	二八,六七〇	—	—	—	二八,六七〇	—	三九,七二七
廣島	八,三五〇	四,一〇〇	一八,一三三	—	—	—	一八,一三三	—	三六,四三〇
高知	一四,〇七〇	四,五八四	二〇,三三二	—	—	—	二〇,三三二	—	三九,二〇八
熊本	一〇,五三〇	一三,九三三	四,九二二	—	—	—	一三,九三三	—	六〇,三三二
鹿児島	五,三九三	三,八八二	六,九二二	—	—	—	六,九二二	—	二二,七五三
計	一五,〇七六	五七,一〇六	一,九〇〇,五〇七	二七,三三二	一,九〇〇,五〇七	一,九〇〇,五〇七	一,九〇〇,五〇七	二九,〇〇二	三,七九七,三三三

本調査ノ結果從來茫乎トシテ根據ナカリシ國有林ニ對シテ造林ノ指針ヲ得ルニ至リシハ寔ニ林業經營ノ秩序ノ進步ヲ爲ス一階段タルヲ失ハサリシモ其ノ要造林面積十二萬五千町歩ニ達シ之カ經費又三百六十七萬餘圓ニ上リ年々所要ノ費額亦頗ル多大ナリシカ爲當時ノ財政ハ直ニ之カ實行ヲ容サス途ニ決定スル所ナクシテ終レハ最遺憾トスル所ナリ然リト雖爾來該案ハ隱然トシテ豫算編成ノ準備トナリ斯業ノ羅針盤タリシハ二十八年以後造林實行面積ノ激増セルニ徴シテ容易ニ首肯シ得ラルヘク殊ニ國有林ニ於ケル無立木地ノ夥多ナルコト及之ヲ等閑ニ附スルニ於テハ國富増進上甚タ憂フヘキモノアルコト等ヲ一般ニ認知セシメタルハ後年特別經營事業ノ成立ヲ容易ナラシメタル一大原因タラスムハアラス

特別經營開始以前ノ造林事業ハ前述ノ如ク其ノ初ニ當リテハ僅ニ立木處分ヲ了シタル斫伐跡地ノ更新ト之ニ加フルニ無立木地ノ一小部分ニ造林スルヲ主眼トシ交通不便ノ箇所ニシテ多少ノ母樹ヲ存シ天然下種ヲ施シ得ヘキ所ハ力メテ之ニ依リテ更新シ運搬交通ノ便アル所ノ無立木地若ハ肥沃ノ地ハ苗植ノ方法ヲ採リテ造林シ年々逐ヒテ漸次進展シ來リタルモノニシテ其ノ植栽樹種ハ一般ニ植物帶ニ基キ立地ノ關係及地方木材需給ノ度竝運搬ノ便否ニ鑑ミテ收益ノ多大ナルモノヲ選定セリ今其ノ一二實行ノ例ヲ擧クレハ或ハ青森ノ羅漢柏長野ノ落葉松ノ如ク一地方ノミニ造林シタルモノアリ或ハ杉ノ如ク普ネク全國ニ造林シタルモノアリ其ノ他松ハ秋田ヲ除キ扁柏ハ青森ヲ除ケル各地ニ植栽セラレ又潤葉樹ハ栗ヲ主トシ大阪以西ニハ殊ニ樟ヲ植栽シ萌芽ニ依レルモノハ檜、樺ヲ主トシ櫛之ニ次キ天然下種法ニ依レルモノハ松、樺、榎、子松、五葉松、山毛櫸及澤胡桃等頗ル多種多様ニ亘レリ又明治十八年ヨリ二十四年迄ハ三椏、漆、楮、桑等ノ如キ寧ろ農業ノ範圍ニ屬スル植物ヲモ栽培(三椏四百四十萬本、漆三十八萬本、楮十萬本、桑一萬七千本、櫛一千本トス)セリ

造林事業實行ノ成績ヲ詳ニスルハ事務整理上緊要ナルノミナス將來ニ於ケル事業計畫上必須ノ資料ニ屬スルヲ以テ其ノ成果ニ關シ二十四年四月森林施業ニ關スル諸案簿表ヲ定メ該様式ニ依リテ毎年度實行ニ係ル造林成績ヲ報告セシメ次テ二十六年二月更ニ苗圃及植栽事業ニ關シ事業著手ノ當初ヨリ成功ニ至ル迄相關聯シテ其ノ實行ノ結果ヲ明瞭ナラシムルノ必要ヲ認メ栽培及林地植栽成績報告様式ヲ定メ之ニ依リテ實行ノ經過ヲ明ニセリ越エテ三十年十二月大林區署統計報告ノ調製手續及其ノ様式ヲ定メラルルニ及ヒ從來實行成績報告ニ關スル總テノ規定ヲ廢シ爾後之レニ依リテ當該年度施行ニ係ル植栽及苗圃事業ノ成績ヲ記載シ尙之カ附屬トシテ苗木栽培及ヒ植栽事業ヲ完了セルモノノ成績苗圃ニアリテハ苗木養成ノ爲メ使用セル苗圃ノ年

度末概況ヲ報告セシメテ實行ノ結果ヲ明瞭ナラシメタリ今明治十九年度(十九年度以前ハ其ノ事業アリト雖記録具備セス)ヨリ三十一年度マテノ造林實行ノ新植累計ヲ擧クレハ左ノ如シ而シテ造林事業ノ詳細ニ涉ル年度別成績ハ本節ノ結末ニ表示セリ

經常部人工植栽新植面積數量經費樹種別累計

樹種	面積	數量	經費
杉	一五〇,〇〇〇	九六,三二五	二五,〇〇〇
扁柏	二七,〇〇〇	一八,七三三	七,〇〇〇
羅漢柏	一八,〇〇〇	一四,〇〇〇	一,七〇〇
松	七,八〇〇,〇〇〇	五〇,〇五八	一〇,〇〇〇
落葉松	八〇〇,〇〇〇	五,三五一	一三,〇〇〇
樟	一,九〇九,〇〇〇	三,五五六	一五,〇〇〇
檫	一,〇五八,〇〇〇	八,一七六	三〇,〇〇〇
其他	一一〇,九〇〇	一六,〇四四	四,〇〇〇
計	三三,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇八五	五八,〇〇〇

二、特別經營事業開始以後

(イ) 特別經營造林ノ計畫

特別經營事業開始以後ニ於テハ毎年ノ伐採ニ伴フテ施行スヘキ造林事業ハ之ヲ經常部ニ屬セシメ從來ヨリノ未立木地ニ於ケル造林搬路開設等ハ之ヲ特別經營部ニ屬セシメ兩々相俟テ國有林野造林事業ノ完成ヲ期スルノ方針ヲ採レリ而シテ特別經營ニ於ケル造林計畫ニ人工植栽天然生育、砂防植栽、苗圃栽培、搬路開通、防

火線築設ノ六事業トシ明治三十二年度ヨリ著手シ同四十四年度迄十三ヶ年間ニ十四萬五千町歩ヲ植栽シ道路延長百里、固定防火線百三萬六千八百坪臨時防火線八十六萬四千坪ヲ築設シ河川ニ於テ三萬二千坪ヲ疏通スルノ計畫ニシテ其ノ經費總額ハ合計七百八十一萬三千萬四千五百十五圓トス

而シテ造林ノ事タル國有林野中無立木地ノ人工植栽ヲ要スルモノ、天然生ヲ撫育シテ成林ノ見込アルモノ及山骨露出土砂流出ノ爲砂防工事ヲ施シ苗木ヲ植栽スルニアラサレハ成林ノ見込ナキモノ等種々アルカ故ニ之ヲ三種ニ區別シ人工植栽ハ明治三十六年度以降四十四年度迄九ヶ年間面積九萬町歩ニ、天然生育ハ三十二年度以降四十一年度迄十ヶ年間面積五萬町歩ニ、砂防植栽ハ三十二年度以降三十九年度迄八ヶ年間面積五千町歩ニ施業シ之ニ要スル苗木ハ三十二年度以降四十二年度迄十一ヶ年間ニ合計面積五百五十町歩ノ苗圃ヲ開設シテ養成供給シ且無立木地ノ造林實行ニ伴ヒ野火延焼ヲ防禦スル爲其ノ周圍ニ三十五年度以降四十四年度迄十ヶ年間ニ防火線ヲ築設スルモノニシテ其ノ計畫ハ第二編第四章第一節ニ掲ケタルカ如シ

爾後之カ實行ニ當リテハ多少更正ヲ必要トスルモノアリ三十二年度以降處分調査及施業案編成ニ於テ一組ノ人員及功程ヲ増シ或ハ組數及經費ヲ減シ從來處分調査費中ニ包含セシメシ本局及支局經費ヲ分割シテ其ノ目途ヲ新設シ或ハ天然生育ノ面積ヲ減少シテ人工植栽ノ面積ヲ増シ或ハ其ノ年度ヲ繰上クルカ爲計畫ノ内容ニ修正ヲ加フル等多少變更ヲ加ヘシモ三十六年度迄ハ大體前記ノ計畫ニ依リ豫算ヲ編製シテ之ヲ議會ニ提出シ來レリ其ノ間或ハ技術者ヲ養成セム爲林業講習ヲ開始スルアリ或ハ試驗苗圃及林業試驗ヲ開設シ又國有林野下戻ニ關スル費用ヲ三十五年度以降特別經營ノ負擔タラシムル等當初ノ計畫ニ豫定セサリシ幾多ノ項目年ト共ニ加ハリシヲ以テ三十六年三月以來屢次山林局ニ於テ凝議スル所アリ且大林區署長ヲ會シテ諮問シ竟ニ計

畫ヲ更訂セリ現行ノ計畫案ハ四十五年一月ノ調製ニ係ルモノニシテ其ノ内容ハ左記新舊對照表中現行計畫トシテ掲クル所ノ如シ

特別經營計畫新舊對照表

種類	期間			當初計畫	現行計畫	差引増(減)	量			當初計畫	現行計畫	差引増(減)
	當初計畫	現行計畫	差引増(減)				當初計畫	現行計畫	差引増(減)			
人工植栽	三、一四四	三、一八八	四四	九〇,〇〇〇	二四三,三三三	一五三,三三三	三、九七四	八、三三三	二、九七四	八、三三三	五、三三三	
天然生育	三、一四四	三、一八八	四四	五〇,〇〇〇	四八,九五六	(一,〇四四)	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	(七三、四二〇)	
砂防植栽	三、一四四	三、一八八	四四	五〇,〇〇〇	四八,九五六	(一,〇四四)	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	(七三、四二〇)	
苗圃	三、一四四	三、一八八	四四	五〇,〇〇〇	四八,九五六	(一,〇四四)	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	(七三、四二〇)	
固定防火線	三、一四四	三、一八八	四四	七、七六九	七、七六九	〇	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	〇	
臨時防火線	三、一四四	三、一八八	四四	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇	七、九〇九	七、九〇九	七、九〇九	七、九〇九	〇	
林道	三、一四四	三、一八八	四四	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	一、〇八二	一、〇八二	一、〇八二	一、〇八二	〇	
河川	三、一四四	三、一八八	四四	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	〇	
貯木場	三、一四四	三、一八八	四四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	〇	
成林撫育	三、一四四	三、一八八	四四	〇	〇	〇	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	〇	
造林監督	三、一四四	三、一八八	四四	〇	〇	〇	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九	〇	
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七、八三三	七、八三三	七、八三三	七、八三三	〇	

(ロ) 豫定案ノ編成

國有林ニ於ケル毎年度ノ事業施行ニ關シテハ前節ニ述ヘタルカ如ク三十二年國有林事業豫定案規程ヲ制定セ

ラレシ以來經常部造林事業ハ本規程ニ依リ實行セラレタルモ特別經營ニ屬スル造林豫定案ハ山林局長ニ於テ毎年其ノ事業項目ヲ定メテ通牒シ林區署ハ之ニ據リテ當該豫定案ヲ編成スルヲ例トセリ明治三十九年本規程ヲ改メラルルヤ新ニ天然生育ヲ第一部ニ加ヘ成林撫育ヲ第三部トシ防火線ノ元第二部ナリシヲ第一部ニ入レ元第三部タリシ造林保護等ヲ第四部ニ繰下ケ且特別經營ノ造林ニモ之ヲ適用スルコトトセリ明治四十四年又更ニ本規定ヲ改正セラレタルモ造林事業ニ關シテハ格段ノ變更ヲ見サリキ

大正三年國有林野事業規程ヲ制定シテ從來ノ規程ヲ廢シ豫定案ノ名稱モ亦事業本來ノ性質ヲ表示スヘキ稱呼ヲ擇フコトニ改メラルル即チ是現行ノ規程ナリ

三十二年豫定案規程ノ制定セラレシ以來經常部ノ豫定案ハ毎年度分ヲ前年度四月十五日特別經營ノ豫定案ハ前年度十二月末日迄ニ本省ニ進達スヘキ規定ナリシモ明治四十四年度以降ハ渾テ前年度十二月末日迄ニ進達スヘキコトニ改メラルル而シテ當初經常、特別經營各豫定案ノ進達期限ニ斯ノ如キ差異ヲ附セシハ前年度五月三十一日限リ大藏省ニ提出スヘキ毎年度歳入歳出概算書ノ調製資料トシテ經常部造林豫定案ハ其ノ期日前ニ進達セシムルノ要アリシモ特別經營ノ分ハ大體既定計畫ヲ標準トシ山林局ニ於テ隨時概算書ヲ調製シ得ルノ便宜アリシカ爲豫定案ヲ急速ニ進達セシムルノ要ナカリシニ依レリ然ルニ經常部造林豫定案ハ叙上ノ如ク其ノ進達期限早キニ失シタル結果實行ニ際シ自然變更若ハ不行等ノ事故ヲ生スルコト甚多ク且財政上ノ關係ハ必スシモ豫定案ニ於ケル要求ヲ充タシ能ハサル場合尠ナシトセス殊ニ漸次事業ノ發展ニ伴ヒ林區署長ノ權限擴張ト事務ノ簡捷トヲ爲スヘキ必要ヲ生シ再三事業規程ヲ改正セシ結果本省へ進達セシムヘキ豫定案ノ如キモ一大林區ヲ通シタル總括表ノミニ止メシムルコトトナリ其ノ進達期限モ遂ニ特別經營ト等シク前年度十

二月末日ニ改メラレタリ而シテ大藏省ニ提出スヘキ經常部概算書ノ調製ニ關シテハ別途林區署提出ノ概算書
 所往實行ノ成績及伐採跡地ノ濟否等ヲ稽査シテ毎年度之ニ適應スヘキモノヲ調製スルノ處置ヲ執リ又豫定案
 ノ編成ニ關シテハ經常特別經營共ニ各事業分量ニ應シ豫算額ノ範圍内ニ於テ各大林區署ノ費額ヲ概査シ豫定
 案進達期限前之ヲ各署ニ通知シテ其ノ費額内ニ於テ豫定案ノ總括表ヲ調製進達セシムルコトトセリ林區署提
 出ノ豫定案ニ對シテハ本省ニ於テ更ニ既往實行ノ成績、事業ノ緩急其ノ他諸般ノ事情ヲ稽査ノ上之ヲ認可シ
 大林區署ハ其ノ認可ニ依リ各小林區署ノ豫定案ヲ確定シテ之カ實行ニ當ラシム而シテ大林區署ハ事業執行上
 統一ヲ期センカ爲細則ヲ設ケテ小林區署ニ對シ多少ノ制限ヲ加ヘタルモノアリシカ事業ノ進歩ト時運ノ趨勢
 トニ促サレ是亦近時其ノ必要ナキニ至リシヲ以テ大林區署ハ專ラ實地ノ指導監督ニ努メ益事業ノ實績ヲ奏ス
 ルノ方針ヲ執リツツアリ

(ハ) 事業實行ニ關スル措置及其ノ推移

明治三十二年特別經營計畫成立シテ伐採跡地ノ造林ハ經常部、無立木地ノ造林ハ特別經營ノ所屬トシテ施行
 セシ以來國有林ノ造林事業ハ著シク増進スルニ至レリ就中特別經營ノ如キ大事業ノ成否ハ國家經濟ニ重大ノ
 關係ヲ有スルノミナラス一般殖林事業ノ消長ニモ影響スル所少カラサルモノアルヲ以テ之カ有終ノ美ヲ收ム
 ルニ遺憾ナカラシメムカ爲三十四年十二月各大林區署ニ對シ實行上ノ注意ヲ促ス所アリ後更ニ世運ノ進歩ニ
 伴ヒ木材工藝ノ發達著シキモノアルヲ以テ將來之カ原料木ノ供給ヲ圓滿ナラシムル爲三十八年ヨリ翌年ニ互
 リ廣ク適地ヲ選ミテ適樹ヲ植栽スヘキコトヲ勸メ殊ニ樟腦ノ如キ我國特種ノ生産ヲ増加シ永續的ニ樟樹ヲ増
 殖シ尙船艦材器具材トシテ貴重ナル樺、軍器用トシテ必要ナル胡桃、樺及將來各種工藝ノ原料タルヘキ樹種

ニアリテモ同時ニ銳意之カ増殖ニ力メタリ

經常部ノ造林事業ハ特別經營開始後專ラ力ヲ伐採跡地ノ一方ニ注クノ便ヲ得タルモ施業案ノ編成漸次進捗セ
 ルト交通機關ノ發達ニ伴ヒ未利用ノ森林一年毎ニ縮小シ伐採箇所ハ益多ク其ノ面積愈大ヲ加フルノ結果經常
 部造林ノ増加ヲ來シ動モスレハ特別經營ノ造林ト交互錯雜ヲ生スルノ虞アルヲ以テ三十九年十二月之ニ關ス
 ル經費支辨ノ區分ヲ定メ次テ既成施業案ノ更新上ニ於ケル樹種選定ニ關シ實際ノ運用ヲ愆ラサラシムルト共
 ニ植伐ノ併行ヲ失スルコトナキヲ期スル爲各大林區署長ニ對シテ注意スル所アリシカ其ノ後國有林附近ニ於
 ケル鑛山事業ノ著シキ進展ニ伴ヒ鐵煙ノ害毒益勢ヲ逞フシ鬱蒼タル森林モ其ノ猛威ノ襲フ所トナリテ逐次枯
 死ノ慘狀ヲ現出スルモノ東京、秋田、青森、大阪、高知ノ各大林區署管內國有林ニ於テ殊ニ多キヲ占メ之カ
 爲止ムヲ得ス伐採セサルヘカラサル箇所亦俄ニ増加スルニ至リ而モ其ノ伐採跡地ノ造林ニ就テハ耐煙樹種ノ
 選定ヲ必要トスルモノアリ之ヲ普通伐採跡地ト均シク經常部造林トシテ措置シ能ハサルニ至リタルト一面造
 林事業ノ進行ニ從ヒ經常、特別經營兩事業ノ施行箇所錯綜セルカ如キ傾向アリ殊ニ東北地方ニ於テ其ノ事實
 少カラサルニ鑑ミ此ノ如キ場合ニ便宜其ノ主タル事業ニ取纏メテ施行スルヲ操業上有利且得策ト認メタルト
 其ノ他事業ノ統一ヲ期スル爲大正三年三月更ニ經費區分ヲ改定シテ通牒スル所アリタリ

明治四十四年苗圃ニ杉赤枯病ナル害菌突發シテ杉苗ノ被害甚シク其ノ傳播劇烈ニシテ各地ニ蔓延スルノ虞ア
 ルヲ以テ山林局ハ之カ被害ノ狀況及驅除防止ノ方法ヲ調査研究シテ山林公報ニ掲載シ一般營業者ノ注意ヲ喚
 起セリ更ニ大正元年十一月各大林區署ニ對シ率先ボルド合劑ヲ用ヒテ杉赤枯病ノ根絶ヲ圖リ以テ一般營業上
 ノ範タラシムヘキ樣督勵ヲ加ヘタリ

造林事業ノ進行ニ伴ヒ之カ業務ノ繁雜亦曩時ノ比ニアラス從テ動モスレハ保護手入ノ周到ヲ缺キ事務ノ澁滯ヲ來スカ如キ嫌ナシトセサルヲ以テ豫テ造林地ヲ巡視セシメ簡易ナル蔓切其ノ他保護手入等ニ從事シ得ヘキ定夫及内業ヲ補助スヘキ雇員ヲ増加スヘキ必要ヲ認メ大正三年七月各小林區署ニ定夫四名雇員一名ノ割ヲ以テ經費ヲ配賦シテ之ヲ増置セシム次テ國有林ニ對スル野火防止方法ノ一トシテ林野ノ入口又ハ道路ニ沿ヒテ制札ヲ或ハ國有林内名木保存ノ爲其ノ周圍ニ木柵ヲ或ハ保護林設置ノ爲必要ナル標札、標杭ヲ建設スル等ノ經費ハ大正三年三月以降同五年ニ互リ前後數回ノ通牒ニ依リテ造林費ヨリ支辨スルコトナリ又國有林内ノ放牧地ニ於ケル防畜設備ハ其ノ幾部分ヲ官ノ負擔トシ是亦造林費ヨリ支辨スルコトナレリ加之往年發生セタル杉赤枯病ハ傳播極メテ迅速ニシテ忽チ全國ニ蔓延シ被害劇烈損害多額ニ達シ其ノ造林上ニ及ホス影響甚大ナルモノアリ其ノ他九州地方ニ於ケル松毛蟲ノ如キ時ニ慘害ヲ及ホスコト尠カラズ而シテ事業ノ進捗ニ從ヒ各種ノ施設ヲ要スルモノ益多キヲ加フルハ自然ノ勢ニシテ造林費ノ昂上止ムヲ得サルコトナリ加フルニ既往造林中往々不結果ノモノアル等現狀ニ甘ンスルコト能ハサルヲ以テ造林ニ關スル技術及操業方法ノ研究ヲ促スト共ニ其ノ實績ハ積極的ナルト消極的ナルトヲ問ハス總テ之ヲ報告スヘキ旨ヲ大正五年一月各大林區署ニ通牒セリ

上來記述セル規程ノ外造林事業ノ豫定及實行ニ關シテ制定セラレタル法令規程尙頗ル多ク其ノ一律一令悉ク當時ノ情勢ヲ窺知スルニ足ルモノアルニ依リ以下年次ヲ逐ヒ主ナル規定並通牒ヲ敍セムトス

明治三十二年十月勅令第四百十三號ヲ以テ政府ニ於テ施行スル造林伐木等ノ事業ニ要スル人夫雇員並種苗供給ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル旨公布セラレ

同三十四年一月山發第七號ヲ以テ同一箇所ノ苗圃ニ於テ經營部ト特別經營部ノ苗木ヲ養成スル場合其ノ共通の性質ヲ有スル經費ノ分配ニ付

テハ重キニ從ヒ處理スヘキ旨山林局長ヨリ各大林區署長ニ通達セラレ

明治三十四年十二月內訓第六六六號ヲ以テ造林事業施行上ニ關シ各大林區署長ニ左ノ注意ヲ發セリ

國有林野特別經營事業ノ成否ハ直チニ森林經濟ノ休戚ニ關スルノミナラス之カ成績ノ如何ハ國民一般ノ環視スル所ナリ就中造林事業ハ短日月ヲ以テ其成績ノ良否ヲ列知シ得ヘキモノナルカ故ニ局ニ並ニ當ルモノハ精緻ナル商量計畫ト熱心ナル監督施行トヲ以テ之ニ處シ良果好績ヲ收ムルニ非サレハ奚ソ能ク當初計畫ノ本旨ニ適ヒ併セテ國民ノ殖林氣風ヲ鼓吹スレトナシ得ナラシムルニ特別經營事業ノ開始後既ニ三年其ノ間經歷シタル事跡ニ徴スルニ往々ニシテ十分ノ效果ヲ收ムルコトナシトセス而シテ是レ當ニ特別經營ニ屬スル造林事業ニ於テノミ然ルニアラス經營部ニ屬スルモノニ於テモ亦同一ノ觀ナクンハアラズ今後其ノ局ニ當ルモノハ慎重鄭重ノ措置ヲ採リ猶左記條項ニ留意シ萬々遺策失籌ナカラントナ期スヘキ旨今般其筋ヨリ內訓有之候條此旨相心得ヘシ

造林事業施行上注意事項

- 一、造林ノ事業ハ其ノ影響スル所甚ダ廣ク其ノ目的又永遠ヲ期スルモノナレハ事業豫定案ノ編成ハ殊ニ慎重ナル調査ヲ遂ケ之カ實行ニ際シ變更若クハ不實行ヲ生セサル様注意スヘク且當初ニ於テ經濟上ヨリ將來ニ於ケル得失ヲ考慮シ結果ニ於テ有益ニ其ノ目的ヲ達セシムトナ期スヘシ
- 二、造林事業十年計畫ハ今後實行上或ハ多少ノ差異ヲ生スルコトアルヲ免レサルヘシト雖其ノ事業ノ功程ハ各年度ニ屬スル計畫以上ニ於テ實行セシムコトヲ努ムヘシ
- 三、造林時期ニ際シテハ小林區署長ハ自ら出張監督シ尙署員ヲシテ實地監督ヲ行ハシメ其ノ用人夫ノ熟否事業請受人ノ善惡並實行施業ノ適否ヲ査閱シ事業上設計計畫ノ實行ヲ完全ナラシメ以テ其ノ成績ヲシテ些ノ遺憾ナカラシメンコトヲ期スヘシ
- 四、更新ノ樹種ハ各地方養成ノ難易ニ依リ相異ナルヘキハ固ヨリ當然ノコトニ屬ス宜シク地方ノ狀況ニ考ヘ地味ノ如何ニ鑑ミ將來國家各般ノ需用ニ供スヘキ主旨ヲ以テ適應ノ樹種ヲ選擇スヘシ
- 五、更新地ニ於ケル補植、手入間伐ハ森林成立ノ上ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ適當ノ時期ニ於テ著々之ヲ實行シ有終ノ美ヲ濟サシムルコトヲ期スヘシ
- 六、更新地ニ於ケル造林成績ノ良否ハ主トシテ植栽種苗ノ健否植栽人夫ノ練否及植栽季節ノ適否ニ職由スヘキヲ以テ之ヲ採擇スルニ當リテハ十分ノ精選シ又種苗ハ可成官ニ於テ之ヲ採取養成シ遠隔地ヨリ其ノ供給ヲ仰カサル様注意スヘシ
- 七、造林事業ハ熟練ノ人夫ヲ使用スルト否トニ由リ其ノ成績ニ於テ甚シキ徑庭ヲ生スルモノナルヲ以テ其ノ將來ニ繼續スルモノノ如キニ在リテハ可成同一地方ノ人夫ヲ使用シ漸次之ヲ練養スルノ方針ヲ以テ懇篤指示スヘク又其ノ使役スル多數人夫ニ對シテハ適當ノ方法ヲ

設ケ努力ノ效果ヲシテ増大ナラシメントナリ

八、深山ニ於ケル國有林ノ利用及之カ改善ノ途ヲ講スルハ刻下經常部ノ事業中肝要ノコトニ屬スルヲ以テ宜シク之ニ對シテ經營ノ方法ヲ講シ將來有用ノ樹種ヲ產出スルノ目的ヲ以テ造林ノ計畫ヲ爲スヘシ

明治三十五年九月林發第一〇九一號ヲ以テ下展申請地ニ於ケル造林事業ハ之ヲ實施シ差支ナキモ其ノ内新植苗圃開墾及砂防工事新設等ノ事業ニ付テハ前以テ本局ノ意見ヲ聽キタル上施行スヘキ旨會議ヲ定メ山林局長ヨリ各大林區署長ニ通牒セリ蓋シ三十二年四月國有森林原野下展法ノ發布セラレルヤ爾來下展ノ申請ヲ爲ス者逐年増加シ三十四年度末ニ於テハ三十五年度以降特別經營造林計畫豫定地中下展申請ニ係ル面積七割九分ノ多キヲ占ムルニ至リ之カ解決ヲ俟テ事業ヲ施行スルカ如キ從來ノ方針ヲ株守スルニ於テハ造林計畫ノ目的ハ遂ニ之ヲ達スルコト能ハサルナキヤ知ルヘカラサルニ因レルモノトス

明治三十七年八月山發第三七五號ヲ以テ臨時防火線ハ新ニ開設スルモノト既設ノ修繕トナ問ハス總テ新設トシテ取扱フヘキ旨ヲ通牒セリ

明治三十八年七月山發第五二八號ヲ以テ將來木材工藝ノ發達ニ隨ヒ之カ原料供給ノ圓滿ヲ期セシムル爲左ノ通牒ヲ各大林區署長ニ發セリ
人工造林ノ増加ト共ニ森林樹種ノ漸次單純ニ傾クハ自然ノ形勢ニシテ之ヲ國有林ノ既往造林成績ニ徴スルモ其ノ樹種僅々十數種ニ止ル次第ニ有之候處世運ノ進歩ニ伴ヒ漸次木材工藝ノ發達ヲ促シ其ノ結果之カ原料タル樹種益多數ニ向ヒ材料彌々多額ニ赴キツツアル今日豫メ將來ニ於ケル之カ供給ノ途ヲ講スルハ造林上目下ノ一急務ト思料候ニ付テハ過般諮問會ノ際協議ヲ途ケ候左記樹種及更新法ハ少クモ今後ノ國有林造林上注意スヘキモノト相認候其ノ適否ハ宜シク費管內ノ林況ニ鑑ミ考慮ヲ費サレタル上力メテ林地ノ利用ヲシテ適應ナラシムルヲ期スルト同時ニ普ク樹種ノ増殖ヲ圖リ將來ニ於ケル木材工藝原料ノ供給ヲシテ遺憾ナカラシムル様御注意相成度爲念此段及通牒候也

記

- 一、主トシテ人工更新ニ依ルチ適當トシ天然生ノモノハ力メテ之ヲ保護スルチ必要ト認ムル樹種左ノ如シ
スギ、ヒノキ、サハラ、カラマツ、ビヤクシン、クス、ケヤキ、グマガリ、ホウ、カツラ、グルミ、ヤマナラシ、ドロ、シナヅ、ウルシ、ツゲ、トネリコ、ハリギリ、サハグルミ、エンジュ、キハダ、アベマキ、チヤンチン
- 二、主トシテ天然更新ニ依ルチ適當ト認ムル場合ニ依リテハ人工更新ヲ必要トスル樹種左ノ如シ
アカマツ、クロマツ、モミ、ツカ、トガサハラ、ヒバ、トウヒ、シラベ、カシ類、カシロ、コナラ
- 三、特ニ更新ヲ爲ササルモ天然生ノモノハ之ヲ保育スルチ適當ナリト認ムル樹種左ノ如シ
カウヤマキ、カヤ、アララギ、ゴヨウマツ(テウセンゴヨウマツ)ヒメコマツ、ネゾコ、イヌマキ、アナ、カヘテ類、トチ、サクラ、

イヌ、オホナラ(ミヅナラ)ニレ、ケンボナシ、ヤマグルマ、モチノキ、イモノキ(ゴンセツ)ヤマゲハ、バクチノキ、ミヅキ、シイ、タブ、シテ類
四、試驗ノ爲造林スヘキ樹種左ノ如シ
コウヨウザン、北米ビヤクシン、北米ゴヨウマツ、歐洲トウヒ、コルクガシ、北米ヤマナラシ、チーク、マハゴニ

明治三十九年五月林發第九八號ヲ以テ今般施業案編成規程改正ノ結果爾後初期造林事業案ノ編成ヲ要セサルコトニ相成タルニ付テハ編成濟施業案ニ屬スル初期造林業務ハ其ノ年度別所定ニ重キヲ置カス只毎年度ニ於ケル事業ノ標準ヲ知ルニ止メ施業案ノ檢訂期迄既成造林案ニ準據實行スヘキ旨各大林區署長ニ通牒スル所アリ同三十九年八月山發第六八〇號ヲ以テ木材工藝原料タルヘキ樟、白楊、樺、胡桃、漆、栗、朴等ノ如キ特種樹種ハ將來施業ノ發達ニ從ヒ民間ニ於テモ益之カ増殖ヲ圖ルニ五ルヘシ然ルニ從來是等樹種ニ對スル造林上ノ經驗少ナク其ノ苗木養成方法周知セラレサル爲之カ研究ヲ希望スルモノアルヘキヲ以テ此際官設苗圃ニ於テモ相當施設ヲ爲シ説明ノ便ヲ與ヘ一面ニハ其ノ成績ノ大要ヲ地方廳、郡衙、市町村役場等ヘモ通知シ普ク公衆ノ參考ニ供シ新業ノ發達上遺憾ナカラシムヘキ旨各大林區署長ニ通牒セリ
同年十二月山發第一〇八二號ヲ以テ殖林地モ特種樹種養成苗圃同様一般希望者ニ觀覽ヲ許スヘキ旨各大林區署長ニ通牒セリ
同年同月訓令第四二號ヲ以テ明治四十一年度以降歲入歳出概算書ハ前項經常部造林確定案ト同シク前年度四月十五日迄ニ農商務省ニ差出スヘキコトニ改メラレタリ

同年同月林發第三七〇號達ヲ以テ造林ニ關スル經費支辨ノ區分ヲ定メラル從來造林事業ノ經常費ヲ以テ支辨スヘキ分ト特別經營費ヲ以テ支辨スヘキ分トハ明治三十二年四月林發第四七號達及同年七月林發第三四五二號依命通牒ニ依リ區分セラレタルモ當時ノ伐採跡地ニシテ爾來造林ヲ爲サザリシ箇所ハ無立木地ト看做シ特別經營費ヲ以テ造林スルコトニ改メラレタルモノニシテ經費區分ノ大要次ノ如シ
一、特別經營費ノ支辨ニ屬スルモノ

- (イ) 無立木地ニ施行スル人工植栽、砂防植栽、天然生育ノ方法ニ依ル補植若ハ手入又ハ雜工
- (ロ) 施業案ノ編成アラサル林野ノ立木地若ハ天然更新地ニ施行スル天然生育ノ方法ニ依ル立木ノ補植若ハ手入又ハ雜工
- (ハ) 貯木場若ハ土場ノ築地設備、木材ノ運搬ヲ目的トスル林道又ハ河川ニ關スル工事
- 二、森林費ノ支辨ニ屬スルモノ
- (イ) 伐採跡地ニ施行スル人工植栽、砂防植栽、天然生育ノ方法ニ依ル主木ノ補植若ハ手入又ハ雜工
- (ロ) 施業案ノ編成アリタル林野ノ立木地若ハ天然更新地ニ施行スル天然生育ノ方法ニ依ル主木ノ補植若ハ手入又ハ雜工
- (ハ) 更新ノ目的ニ依リニアラスシテ立木地ニ施行スル副木ノ補植
- (ニ) 巡視歩道ニ關スル工事

(ホ) 林業試験但し別段ノ定アルモノヲ除ク
 三、施業案ニ依ラズ伐採セル林野ニシテ爾後造林ヲ爲サズ現況無立木地ノ状態ヲ爲シ且其ノ面積廣大ナル箇所ニ限リテハ特別經營費ヲ以テ
 第一項(イ)ノ造林事業ヲ施行スルコト
 四、苗圃、防火線又ハ成林撫育ハ前各項ニ準シテ施行スルコト
 同四十年五月林第九四三號ヲ以テ造林地巡守及國有林巡守ハ國有林ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除ニ付同三十四年訓令第十六號ニ規定セラレタル
 吏員ニ包含スルモノナルニ依リ地方廳ノ承諾ヲ受ケ之カ驅除ニ從事セシメ得ヘキ旨長野大林區署ニ通牒セラレ
 同四十二年九月山受第一四二八號ヲ以テ苗圃定夫モ國有林巡守及造林地巡守ト同一ニ解シ苗圃ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除ニ從事セシメ可然旨
 大阪大林區署ノ照會ニ對シ回答セラレタリ
 同四十三年八月山發第六三五號ヲ以テ現今國有林ニ於ケル斫伐面積ハ著シク増加セルモ其ノ跡地ニ對スル造林事業ハ動モスレハ手遅キ生ス
 ル虞ナシトセサルニ由リ之カ改善ヲ期スルノ趣旨ヲ以テ毎年度ノ初頭ニ於テ造林未済地面積ヲ調査シ之ヲ六月末日迄ニ山林局ニ提出スヘキ
 旨各大林區署ニ通牒セリ
 大正元年十一月山發五七七號ヲ以テ近時各地ニ發生セル杉赤枯病ニ對シテ驅除預防ヲ勵行セサランカ其ノ蔓延劇烈ニシテ損害測リ知ルヘカ
 フサルニ至ルヘキヲ以テ荷モ之カ發生ノ虞アリ若ハ既ニ發シタル箇所ニ對シテ「ボルドー」合劑ヲ以テ預防撲滅ノ方法ヲ講スルト共ニ病蟲
 ノ傳播ヲ防止シテ率先其ノ效果ヲ收メ一般新業ノ模範タルヘキ旨各大林區署ニ通牒セラレ
 杉赤枯病ハ山林局囑託川村清一ノ命名ニ係リ同四十四年七月、八月ノ交關東地方ノ苗圃ニ於テ杉苗木ニ一種ノ病菌發生シ秋季ニ入りテ其ノ
 害激甚トナリ杉苗全部ノ枯死ヲ來セル苗圃少カラサルニ至レルヲ以テ山林局ヨリ同囑託ヲ派遺調査セシメタル結果該病ノ原因ハ不完全菌類
 ニ屬スル「ホルミシユム」屬ノ一種ナルコトヲ認メ本病ヲ杉ノ赤枯病、本病菌ヲ赤枯病原菌ト名ケタルモノニシテ主トシテ杉ノ幼樹ニ發生シ
 一、二年生最劇烈ニ冒サレ三、四年生之二次キ五年生以上ハ被害程度大ナラス初メ下部ノ枝葉ニ赤褐色ノ病斑ヲ生シ漸次上部ニ及ヒ遂ニ枯死
 シテ黒褐色ヲ呈スルモノトス備シ苗圃ノ一部杉苗ニ本病ノ被害ヲ生シトキハ業ニ全苗圃ニ病菌蔓延セルモノナルヲ以テ豫防上特
 效アル「ボルドー」合劑ヲ極メテ初期ニ於テ撒布セサルヘカラス尙本病ニ關スル調査報告ハ明治四十五年三月發行山林公報第五號ニ之ヲ登載
 シテ一般當業者ノ注意ヲ喚起セリ

大正三年三月山發四三七號ヲ以テ國有林野事業規模制定ノ要旨ヲ各大林區署ニ通牒スルト同時ニ從來森林費ヲ以テ施行セル國有林野ノ巡視
 步道、造林試驗、砂防植栽ノ各事業及無立木地ト稱フ所ナキ煙害地ノ造林事業ハ事業ノ統一上之ヲ特別經營費ノ支辨ニ屬セシムルヲ妥當ト
 認メ豫メ決裁ヲ經タル造林事業ニ關スル經費區分ヲ併セテ通牒セラレ其ノ區分要領左ノ如シ

一、特別經營費支辨

(イ) 無立木地、散生地及普通施業地トシテ取扱フコト能ハサル煙害地ニ施行スル人工植栽又ハ天然生育

(ロ) 砂防植栽

(ハ) 前各項ノ事業ニ伴ヒ施行ヲ要スル苗圃、成林撫育又ハ保護設備

(ニ) 森林土木事業及林業試驗

二、森林費支辨

(イ) 伐採跡地ニ施行スル人工植栽又ハ天然生育

(ロ) 前項ノ事業ニ伴ヒ施行ヲ要スル苗圃成林撫育又ハ保護設備

三、前各號ニ依リ經費支辨ヲ爲スヘキ事業相混交セル地域ニ在リテハ其ノ區分ヲ爲スニ困難ナル場合又ハ區分ヲ爲ササルヲ採業上便益ナリ
 ト認メタル場合ニ限リ便宜經費ノ所屬ヲ定メテ處理スルコト

大正三年三月山發三三〇號ヲ以テ國有林野火災防備方法ノ一トシテ林野ノ入口又ハ道路沿ヒ一般ノ注意ヲ惹キ易キ場所ヲ選ビ制札ヲ建設
 スヘキ必要アル場合其ノ施設ハ造林事業中ノ保護設備トシテ施行スヘキ旨各大林區署ニ通牒セラレ

同年七月山發第一〇九五號ヲ於テ造林事業ノ進捗ニ伴ヒ常ニ造林地ヲ巡視セシメ輕易ナル憂切其ノ他ノ保護手入被妨害ノ防止ニ從事セシムヘ
 キ必要アルニ依リ之カ現業ニ堪能ナル定夫ト小林區署ノ内務ヲ補助スヘキ職員トテ各小林區署ニ増設セシムルコトナリタルニ依リ其ノ主
 旨ヲ體シ銳意成績ヲ擧グルルニ努ムヘキ旨各大林區署ニ通牒テ發シ經常特別經營ヲ通シテ一小林區ニ定夫四名職員一名ヲ増設セシメ之ニ要ス
 ル給料旅費ヲ合セ大正三年度造林費中ニ全額六萬八千六百圓ヲ増額セリ

同年十二月山發第一六七五號ヲ以テ名木保存ノ爲其ノ周圍ニ木柵等ヲ建設スルノ必要アル場合ハ造林事業中ノ保護設備トシテ施行スルモ差
 支ナキ旨東京大林區署ノ照會ニ回答セリ

大正四年十月山發一二四九號ヲ以テ林業用種子成熟ノ豐凶ヲ知ルハ造林事業上極メテ必要ナルニ依リ爾今毎年左記ノ樹種ニ付管内主ナル産
 地別ニ結實ノ豐凶、種子ノ品質及單價其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ前年度ト比較調査シテ申報セラルヘキ旨各大林區署ニ通牒セリ

青森大林區署 ヒバ、ケヤキ、クヌギ、ナラ、ブナ、ホホ、ニセアカシヤ

秋田大林區署 スギ、クロマツ、アカマツ、ブナ、ナラ、ニセアカシヤ

東京大林區署 ヒノキ、スギ、カラマツ、クロマツ、アカマツ、ケヤキ、ナラ、クヌギ、ブナ、ニセアカシヤ

大阪大林區署 ヒノキ、スギ、ケヤキ、ブナ、ナラ

高知大林區署 ヒノキ、スギ、トカサハラ、クス
熊本大林區署 スギ、クス、ハセ、クヌギ、カシ類
鹿兒島大林區署 クス、カシ類

大正五年一月山第一一五號ヲ以テ造林其ノ他事業經營上最新ニ適切ノ施設ヲ講究シ若ハ改善方法ヲ案出セル者アリタル場合ニ於テ其ノ事項ヲ一般ニ周知セシムルハ新業ノ進歩發達ヲ促ス有益ノ處置ト認メラルルニ付今後一層ノ研究ヲ志ラサル權部トテ督勵セラレ之カ研究ノ結果ヲ其ノ都度詳細通報セラルヘキ旨各大林區署長ニ通牒セリ
大正五年五月山第六六一號ヲ以テ造林用苗木ニ赤枯病其ノ他ノ害菌發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ害蟲驅除豫防法ニ依リ被害苗木ヲ燒却若ハ消毒セシメ又ハ輸送移入ヲ禁止スル等相當取締ヲ爲シ得ヘキ旨ニ付若シカ必要アル場合ハ豫メ當該地方廳ニ打合テ違ケ驅除豫防上遺算ナキ時期スヘキ旨各大林區署長ニ通牒セラル但シ府縣知事ニ對シテハ大正元年十一月林第一四九九號ヲ以テ造林用苗木ハ害蟲驅除豫防法ノ農作物中ニ包含セラルル旨通牒スル所アリ既ニ同法ヲ適用シテ相當規定ヲ設ケ驅除豫防ヲ勵行セル地方アルモ當時大林區署長ニ通牒セラレサリシヲ以テ曩ニ大林區署長會議ノ際之ニ關スル疑義ヲ生シタル向モアリタルニ依リ特ニ本通牒ヲ發スルニ至レリ
大正五年八月林第三一二七號ヲ以テ保護林ノ設置ニ關シ必要ナル標札、標杭等ノ建設費ハ造林費(森代費)中ヨリ支辨スヘキ旨各大林區署(熊本ヲ除ク)ニ通牒セラレタリ

造林事業實行ノ成績ニ付テハ明治三十二年特別經營事業開始以來著々進捗ノ運ニ至リシヲ以テ翌年四月始メテ林野整理支局統計報告調製手續ヲ定メラレ造林實行第一部總括表及造林實行一覽表ヲ調製シ之ニ依リテ其ノ成績ヲ報告セシムルコトトナレリ然ルニ其ノ記載ハ單ニ當該年度施行ニ係ルモノノミニ止マリ造林事業ノ如キ幾多年月ヲ要シテ成功スヘキモノニ對シテ其ノ終始ヲ通覽スルノ資料トスルニ足ラサルモノナリシニ由リ三十三年八月訓令第三十號ヲ以テ特別經營造林成績表樣式及其ノ記載例ヲ定メ既往ノ實行成績及當年度實行總括表ヲ調製シ且豫算ト實行トノ對照ヲ附シテ報告セシムルコトトセラル其ノ後三十九年五月ニ至リ同記載ノ改正ヲ行ヒ爾來前年度分ヲ翌年六月三十日迄ニ報告セシムルコトトセリ
經常部造林事業ノ實行成績ニ付テハ特別經營事業開始後ニ及フモ尙依然大林區署統計報告調製手續ニ依リ報

告セシメ來リシカ均シク造林ノ成績ニ關スル處理ニシテ特別經營部ト經常部ト各其ノ取扱手續ヲ異ニスルノ必要ナキヲ認メ三十九年五月訓令第二十號ヲ以テ經常部造林統計報告樣式ハ三十三年訓令第三十號特別經營造林成績樣式ヲ準用シ前年度分ヲ毎年六月三十日限り進達スヘキコトトセラレ其ノ樣式記載方ニ付テハ同年四月林發第一三五號ヲ以テ統計課長ヨリ各大林區署長ニ通牒スル所アリタルモ尙特別經營部ノ如ク既往ノ植栽年度別ニ其ノ經過ヲ記入スルコトナク單ニ當該年度ノ實行ヲ掲クルニ止マリ調製上繁簡其ノ度ヲ異ニセリ
四十三年四月大林區署長會議ニ事務簡捷ニ關スル諮問アリ之ニ對スル答申中造林成績表ヲ改正シテ其ノ記載ヲ簡單ナラシメンコトヲ希望スル者一、二ニ止ラス且之ヲ既往ノ實跡ニ徵スルモ記事煩雜ニシテ手數ヲ要スルコト多ク樣式亦適切ヲ缺クモノアリシヲ以テ時運ノ趨響ニ鑑ミ樣式及其ノ記載方ヲ著シク簡略ニシ單ニ當該年度ノ實行成績ヲ徵シテ農商務統計ノ材料タラシムルニ止メ事業ノ成果若ハ監督上ヨリ見ルヘキ造林成績ト全然區別スルノ方針ヲ採リテ四十四年八月訓令第十七號造林統計規程ヲ定メ四十三年度分ヨリ之ニ依リテ報告セシムルコトトナレリ而シテ造林事業ノ全部完了セルモノ例セハ人工植栽事業ニ於テ最後ノ手入迄ヲ終了シタル如キモノノ著手ヨリ成功迄ノ經過ニ付テハ別ニ造林成果表ヲ提出スヘキ旨同年同月林第三三三二號ヲ以テ山林局長ヨリ各大林區署長ニ通牒セリ斯クテ從來多少趣々異ニセル經常特別經營兩部ノ實行成績ニ關スル報告統一セラルルニ至レリト雖其ノ所謂事業統計ト稱スル所ノ毎年度事業實行ノ報告ハ之カ根本タルヘキ事業實行簿ノ整理ヲ離レテ單ニ統計トシテ處理セラレ延テ實行簿ノ整理ヲ閑却スルノ傾向アルヲ以テ大正三年三月訓令第五號國有林野事業規程ノ制定セララルルニ及ヒ造林統計規程ヲ廢シ毎年度實行シタル事業ニ付テハ實行總括表ヲ作り小林區署長ハ翌年六月三十日限り大林區署長ニ大林區署長ハ八月三十一日限り農商務大

臣ニ報告セシムルコトニ改メラレ農商務統計資料ハ之ニ依リテ調製スルコトナリ多年事業統計上ニ存セシ
 缺陷ヲ根本的ニ改善シ且事務ノ簡捷ヲ期待シ得ルニ至レリ
 事業ノ施行ニ從ヒ其ノ經過ヲ記録シ以テ後年ノ參考ニ供スルハ效果ヲ永遠ニ期スル造林事業ニ於テ殊ニ必要
 ノコトナリ是ヲ以テ各林區署トモ適宜ノ様式ニ依リ夙ニ造林臺帳ヲ設ケタリト雖其ノ様式區々一定セサルノ
 ミナラス動モスレハ記載ヲ怠リテ顧ミス時日ヲ經ルニ伴ヒ施業ノ來歴ヲ知ル能ハサルニ至リ臺帳本來ノ效用
 ヲ期待シ得ヘカラサルヲ以テ明治三十三年五月經常部造林事業ニ對シ林發第六十三號達特別經營造林事業ニ
 對シ訓令第二十二號ヲ以テ造林臺帳ノ様式ヲ制定セラレ將來施行ノ分ハ勿論既往ノ造林地ニ付テモ此際之ニ
 依リ調製整理スヘキ旨山林局長並林野整理局長ヨリ夫々通牒セリ爾來造林事業ノ發展著シク之ニ伴フテ當初
 豫期セサリシ施設新ニ加ハリタルト經常部、特別經營部各其ノ様式ヲ異ニシ且後者ノ記載方繁ニ失スルノ嫌
 アル等之カ統一ヲ圖リ併セテ様式ヲ適切ニ改ムルノ必要ヲ認メ四十二年六月訓令第二十三號ヲ以テ造林臺帳
 規程ヲ制定セラル其ノ後四十四年六月大正三年五月及同四年六月ニ於テ毎回其ノ一部ノ改正ヲ行ヒ林區署ハ
 毎年事業ノ成績及現況ヲ調査シテ之カ要旨ヲ臺帳ニ記載シ小林区署長ハ毎年一回造林臺帳ヲ大林區署長ニ提
 出シテ檢閲ヲ受ケシメ尙明治四十四年八月林第三三八二號通牒造林成果表ニ關スル事項ヲ本規程ニ綜合シテ
 大林區署長ハ造林臺帳ニ據リ毎年度ノ造林成果表ヲ調製シ翌年度十一月農商務大臣ニ報告セシムルコトトセ
 リ今特別經營事業開始以後即チ明治三十二年度ヨリ大正五年度ニ至ル十八ヶ年度間ニ於ケル造林實行ノ新植
 累計ヲ擧クレハ左ノ如シ

經常部人工植栽新植面積數量及經費樹種別累計

(自明治三十二年
至大正五年度)

樹種	經常部			特別經營部			計		
	面積	數量	經費	面積	數量	經費	面積	數量	經費
杉	六九,〇〇〇・三〇一	二九,三七七	一五八,二六五	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	七四,五三三	四〇,〇〇〇	五七,三三三	一,〇〇〇
扁柏	四二,六四六・九〇〇	一五,六六九	九六,七〇九	四八,六五〇	一四,五〇九	九一,一五九	三三,〇〇〇	一,二八〇	一,〇〇〇
羅漢柏	四〇,一七二	一,七二二	七,八二九	一四,〇〇〇	五九,六八〇	二二,三三三	二〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
松	三三,三四三・六八八	五〇,五〇〇	一九,九九七	四六,七五七	一〇,一八五	五九,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
落葉松	三三,三三三・八四三	一一,四四四	六六,九九三	三三,九四三	七六,二四三	三三,七五五	八九,六六七	三三,〇〇〇	一,〇〇〇
樟	九,七九三・九〇八	一一,一〇〇	一〇四,五五八	一四,八二〇	三三,〇九四	一四三,六〇二	二四,六七七	九,一〇〇	一,〇〇〇
檫	七,六六九・六二五	一九,三六九	三九,九六五	一三,八三四	九,五六〇	一九二,〇〇〇	二二,五〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇
櫟	一,五二一・四一七	二,二五三	二〇,八七二	—	—	—	—	—	—
栗	一,四一九・三三三	三,一五九	二〇,〇八八	三,三三三	七,三九九	三六,三七六	四,六三三	一〇,五三三	一,〇〇〇
榲	七,〇九三・〇九六	五,九六六	五八,四九七	二,三三三	三,三九九	九四,三三三	九,八八六	八二,〇五二	一,〇〇〇
榿	五,二六三・一〇〇	四三,二二二	五,五九九	二,五五五	五,七〇三	二七,八九三	三,〇五九	六,三三三	一,〇〇〇
其他	五九,九九〇・八五二	一〇〇,〇〇〇	一三六,八三三	四三,八三三	七〇,九九七	一〇七,五三三	二二,七三三	一,一七三	一,〇〇〇
計	二六五,五九八	七四四,〇七〇	四三九,二六六	一七五,〇〇〇	八八八,九六六	一,〇〇〇,〇〇〇	一七九,二二七	一,一七九,二二七	一,〇〇〇

以上ハ閱覽ニ便センカ爲單ニ新植面積ノ成績ヲ掲ケタルモノナリト雖今造林事業ノ全斑ヲ明治十九年度以來

ノ經常部並同三十二年度以後ノ特別經營部ニ屬スル兩者ニ區別シ更ニ之ヲ各年度毎ノ新植樹種別及事業別ニ示セハ左表ノ如シ

經常部新植面積數量及經費樹種別年度別表

(其ノ一)

年 度	面 積		量		經 費	
	面	積	數	量	面	積
十九年度	三,四〇〇,〇〇〇	二五,八七五	四,九〇〇,〇〇〇	三,五〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇
二十年度	三,三〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	八,八〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,一〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇
二十一年度	三,二〇〇,〇〇〇	二四,一七五	三,六〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇
二十二年度	三,一〇〇,〇〇〇	二三,三五〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇
二十三年度	三,〇〇〇,〇〇〇	二二,四二五	二,五〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇
二十四年度	二,九〇〇,〇〇〇	二一,七〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇
二十五年	二,八〇〇,〇〇〇	二〇,九七五	一,五〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇
二十六年	二,七〇〇,〇〇〇	二〇,二五〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,五〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,五〇〇
二十七年	二,六〇〇,〇〇〇	一九,五二五	〇,五〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
二十八年	二,五〇〇,〇〇〇	一八,八〇〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
二十九年	二,四〇〇,〇〇〇	一八,〇七五	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十年	二,三〇〇,〇〇〇	一七,三五〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十一年	二,二〇〇,〇〇〇	一六,六二五	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十二年	二,一〇〇,〇〇〇	一五,九〇〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十三年	二,〇〇〇,〇〇〇	一五,一七五	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十四年	一,九〇〇,〇〇〇	一四,四五〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三十五年	一,八〇〇,〇〇〇	一三,七二五	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇

同 上

(其ノ二)

年 度	面 積		量		經 費	
	面	積	數	量	面	積
三十六年度	二,四〇〇,〇〇〇	一〇,九七五	四,六〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇
三十七年度	二,三〇〇,〇〇〇	一〇,二五〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇
三十八年度	二,二〇〇,〇〇〇	九,五二五	三,四〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇
三十九年度	二,一〇〇,〇〇〇	八,八〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一,五〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇
四十年	二,〇〇〇,〇〇〇	八,〇七五	二,六〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇
四十一年	一,九〇〇,〇〇〇	七,三五〇	二,二〇〇,〇〇〇	〇,五〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	〇,五〇〇
四十二年	一,八〇〇,〇〇〇	七,〇二五	一,八〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
四十三年	一,七〇〇,〇〇〇	六,三〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
四十四年	一,六〇〇,〇〇〇	五,五七五	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
大正元年度	一,五〇〇,〇〇〇	四,八五〇	〇,六〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
二年度	一,四〇〇,〇〇〇	四,一二五	〇,二〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
三年度	一,三〇〇,〇〇〇	三,四〇〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
四年度	一,二〇〇,〇〇〇	二,六七五	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
五年度	一,一〇〇,〇〇〇	一,九五〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
計	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇,〇〇〇

年度	面積	數量	經費	面積	數量	經費
三十一年度	一五,〇〇〇	七,四〇〇	三六,〇〇〇	四六,〇〇〇	三,〇〇〇	四,七〇〇
三十二年度	一八,五〇〇	五九,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一,〇〇〇	九〇,〇〇〇
三十三年度	—	—	—	—	—	—
三十四年度	一四,七三三	九〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	一七,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
三十五年度	〇,七三三	—	—	—	—	—
三十六年度	七,三三三	二,一八一	五,七五〇	八,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
三十七年度	七,三三三	三,五九九	一,九九九	三,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
三十八年度	一三,五〇〇	六,二〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
三十九年度	三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四十年度	一五,〇〇〇	八,四〇〇	四,九三三	四,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四十一年度	一五,〇〇〇	六,〇〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四十二年度	一八,三三三	七,五〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四十三年度	二七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四十四年度	二〇,二五〇	一,二六〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
大正元年度	五,七〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
二年度	四,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
三年度	一六,〇〇〇	一,〇〇〇	四,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
四年度	二八,〇〇〇	一,〇〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
五年度	二五,〇〇〇	一,〇〇〇	四,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
計	四,一〇〇,九〇〇	一,一七〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

同上

(其ノ四)

年度	面積	數量	經費	面積	數量	經費
十九年度	一三,〇〇〇	九,〇〇〇	二七,〇〇〇	—	—	—
二十年度	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	—	—	—
二十一年度	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十二年度	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十三年度	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十四年度	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十五年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十六年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十七年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十八年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
二十九年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十一年度	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十二年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十三年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十四年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十五年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十六年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十七年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十八年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
三十九年	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	—	—	—
計	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

第三編 國有林野ノ經營

明治林業史要

年度	面積	積數	栗量	經費	面積	積數	橡量	經費
四十年	二五、九〇〇	合本	六、六、五三	五、〇、五八七〇	一〇一、〇〇〇	合本	三、四、七、三五	二、一〇、一五三
四十一年	五五、六、九三三	合本	一、二、四、二、六八	一、一、六、四、〇九〇	三五、三四三	合本	一〇、七八	七、六、三〇
四十二年	七四、〇、九九	合本	二、〇、〇、六九	一、四、七、八、六七二	五、九、〇〇	合本	四、四三	一、七、九、二八
四十三年	八六、八、三三〇	合本	二、四、七、七、六五	二、〇、二、九、四二〇	六、八、五〇〇〇	合本	六、九、九、四七	九、八、六、三三
四十四年	一、三、五、〇〇〇	合本	三、七、九、四、七六	二、六、四、二、九七九	二〇、二、六〇〇	合本	五、三、四	三、四、六、五三
大正元年度	九七、三、六四〇	合本	二、八、三、三、五〇	二、五、八、七、〇六〇	二七、〇、〇〇〇	合本	一、五、九、九、二五	三、〇、〇、六、九七
二年度	一、一、八、六、八五〇	合本	二、二、九、四、五〇	一、四、〇、一、五九七	二五、〇、七〇〇	合本	四、五、七、〇	三、〇、四、九、七
三年度	七五、七、九七〇	合本	一、二、三、四、四、八六	七、五、九、一、二四	二二、八、九〇〇	合本	四、六、七、〇	三、〇、四、九、七
四年度	三五、四、三、一〇〇	合本	六、〇、七、九、四	三、六、七、五、二六	六、八、三、〇〇	合本	一、五、一、五、七〇	一、四、四、三、三〇
五年度	三〇、二、一〇〇	合本	六、七、二、九、三	三、〇、〇、一、三、五三	五、七、五〇〇	合本	一、六、七、七〇	一、二、〇、一、四、六
計	九、七、八、七、七五	合本	二、七、五、四、五、四一	一、七、三、九、八、〇八二	一、四、四、〇、〇七	合本	二、二、五、九、四、四九	二、〇、八、七、〇、四三

同上

(其ノ五)

年度	面積	積數	栗量	經費	面積	積數	橡量	經費
十九年度	八、〇〇〇		三、四、〇〇〇	五、八、五、〇〇	六、九、七、四三		一、六、〇、二、八八	六、八、五、七四
二十年度	六、七、三三		三、〇、二、〇〇	六、六、〇、〇〇	三、〇、一、六〇		一、五、五、〇〇	七、八、八、八
二十一年度	一、一、四〇〇		一、三、〇、〇〇	五、四、八、四三	一、一、六、九六		一、四、三、一	一、四、〇、六、七
二十二年度	八、七、九〇〇		一、三、〇、〇〇	五、一、八、一一	一、四、三、〇〇〇		八、三、五、八〇	五、八、〇、〇〇
二十三年度	二、九、六、〇〇		五、七、〇、〇〇	三、八、七、八、八九	一、四、三、〇〇〇		二、八、七、五、七三	一、三、五、五、〇四
二十四年度	四、四、七、〇〇		三、三、〇、〇〇	一、三、四、〇、〇〇	八、八、三、〇〇〇		五、三、七、五、四	七、六、八、九七
二十五年	一〇、八、七、〇〇		二、九、〇、九、〇六	一、六、三、二、四〇〇	三、三、七、八、〇〇		二、九、三、一、五三	二、四、一、二、〇〇
二十六年	一、八、三、三九		三、九、八、五、九九	二、〇、〇、四、九、〇〇	四、三、二、二、〇〇		三、七、七、七、六	三、二、九、二、二九
二十七年	一、一、〇、〇〇〇		四、一〇、〇、三六	一、八、四、〇、六一	三、七、五、四、七		三、七、七、七、三	三、四、四、〇、五五
二十八年	七、一、〇、〇〇〇		一、八、五、〇、八三	一、八、四、〇、六一	八、七、一、〇、〇〇		六、七、九、三、〇五	六、二、〇、一、五五
二十九年	一、〇、〇、〇〇〇		一、八、五、〇、八三	一、七、四、〇、五四	九、九、七、七、〇〇		七、四、三、三、三	八、六、五、〇、七三
三十年	三、三、〇、五〇〇		五、〇、一、七、七六	三、九、六、〇、三九	一、〇、四、七、〇〇〇		一、〇、七、八、九、七	一、〇、三、七、〇、〇六
三十一年	三、一、〇、〇〇〇		四、〇、六、〇、六六	二、七、四、〇、〇六	四、六、〇、四、〇〇〇		七、八、〇、〇、四九	七、八、〇、〇、四九

第三編

國有林野ノ經營

年度	面積	積數	栗量	經費	面積	積數	橡量	經費
二十五年	八、〇〇〇		三、四、〇〇〇	五、八、五、〇〇	六、九、七、四三		一、六、〇、二、八八	六、八、五、七四
二十六年	六、七、三三		三、〇、二、〇〇	六、六、〇、〇〇	三、〇、一、六〇		一、五、五、〇〇	七、八、八、八
二十七年	一、一、四〇〇		一、三、〇、〇〇	五、四、八、四三	一、一、六、九六		一、四、三、一	一、四、〇、六、七
二十八年	八、七、九〇〇		一、三、〇、〇〇	五、一、八、一一	一、四、三、〇〇〇		八、三、五、八〇	五、八、〇、〇〇
二十九年	二、九、六、〇〇		五、七、〇、〇〇	三、八、七、八、八九	一、四、三、〇〇〇		二、八、七、五、七三	一、三、五、五、〇四
三十年	四、四、七、〇〇		三、三、〇、〇〇	一、三、四、〇、〇〇	八、八、三、〇〇〇		五、三、七、五、四	七、六、八、九七
三十一年	一〇、八、七、〇〇		二、九、〇、九、〇六	一、六、三、二、四〇〇	三、三、七、八、〇〇		二、九、三、一、五三	二、四、一、二、〇〇
三十二年	一、八、三、三九		三、九、八、五、九九	二、〇、〇、四、九、〇〇	四、三、二、二、〇〇		三、七、七、七、六	三、二、九、二、二九
三十三年	一、一、〇、〇〇〇		四、一〇、〇、三六	一、八、四、〇、六一	三、七、五、四、七		三、七、七、七、三	三、四、四、〇、五五
三十四年	七、一、〇、〇〇〇		一、八、五、〇、八三	一、八、四、〇、六一	八、七、一、〇、〇〇		六、七、九、三、〇五	六、二、〇、一、五五
三十五年	一、〇、〇、〇〇〇		一、八、五、〇、八三	一、七、四、〇、五四	九、九、七、七、〇〇		七、四、三、三、三	八、六、五、〇、七三
三十六年	三、三、〇、五〇〇		五、〇、一、七、七六	三、九、六、〇、三九	一、〇、四、七、〇〇〇		一、〇、七、八、九、七	一、〇、三、七、〇、〇六
三十七年	三、一、〇、〇〇〇		四、〇、六、〇、六六	二、七、四、〇、〇六	四、六、〇、四、〇〇〇		七、八、〇、〇、四九	七、八、〇、〇、四九